

警察犯處罰令	省令ニテ定メタル	
	廳府縣令ニテ定メタル	
廳府縣令	違	反
其他ノ法令	違	反
總計		

- 一、發生件數欄ノ「前年以前ノ事件」ハ前年以前ノ被害事實ヲ本年ニ至リ届出又ハ檢舉ニ依リ發見シタル件數ヲ記入スベシ
- 二、發生件數ノ本年事件ノ數ヨリ檢舉件數ノ管内事件中本年事件ノ數多キトキハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記入スベシ
- 三、本表ハ司法警察官ニ於テ取扱ヒテ爲シ又ハ警察署長若クハ其ノ代理者ニ於テ違警罪即決例ニ依リ處分シタルモノヲ記入スベシ
- 四、警察犯處罰令ノ項「廳府縣令ニテ定メタル」モノ、内ニハ便宜警察犯處罰令ニ代ルベキ名稱ヲ用フルモノヲ包含スベシ
- 五、時ニ項ヲ設ケザル未遂罪ハ各當該罪名欄ニ包含計上スベシ
- 六、同一事件ニ付警察官及憲兵相互關係シタル事件ハ重複ヲ防クガ爲メ事實ノ引繼ヲ受ケタル方ニ於テ記載シ引繼ヲ爲シタル事實ハ記載ヲ要セズ警察ニ關スル諸表亦之ニ同シ
- 七、外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スベシ

報告期日一月末日

警察署

第六九	自殺者ノ月別及所爲	(年)	總計	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計	
				遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未	遂既	遂未
男																	
女																	

〔山梨警〕

〔山梨警〕

入水シテ	女男																
	計																
刃物ニテ	女男																
銃又ハ火藥類ニテ	女男																
噴火口ニ投シテ	女男																
毒物又ハ劇物ヲ服シテ	女男																
汽車ニ觸レテ	女男																
電車ニ觸レテ	女男																
何々	女男																
何々	女男																
其他	女男																
總計																	

一、外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スベシ

報告期日一月末日

警察署

第七〇 自殺者ノ年齢及因由

(年)

		十六年		二十六年以上		三十年以上		四十年以上		五十年以上		不詳	合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
精神錯亂シテ	既遂												
病苦ニ依リ	既遂												
貧困ニ因リ	既遂												
互ニ情死ヲ謀リ	既遂												
痴情又ハ嫉妬ニ因リ	既遂												
前非ヲ悔ヒ又ハ慚愧ニ因リ	既遂												
家庭又ハ親族ノ不和ニ因リ	既遂												
罪ノ發覺ヲ懼レ又ハ刑ノ免レ難キ爲メ	既遂												
將來ノ事ヲ苦慮シテ	既遂												
商業等ノ爲メ損失シ又ハ負債償却ニ困リテ	既遂												
屋主又ハ父兄ノ懲戒又ハ譴責ニ因リ	既遂												
親又ハ夫妻等ノ不行狀ヲ歎テ	既遂												
離婚ヲ患シミテ	既遂												

〔山梨縣〕

		十六年		二十六年以上		三十年以上		四十年以上		五十年以上		不詳	合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
私通妊娠ヲ憂テ	既遂												
結婚ヲ忌ミテ	既遂												
失戀ニ因リ	既遂												
身體ノ不具ナルヲ歎テ	既遂												
憂鬱ニ因リ	既遂												
親又ハ夫妻等ノ死去ヲ歎キテ	既遂												
親又ハ夫妻等ノ病氣ヲ苦ニシテ	既遂												
憂鬱放蕩ノ末	既遂												
老衰身ノ不自由ヲ苦憂シテ	既遂												
厭世ニ因ル	既遂												
宗教ノ迷信ニ因リ	既遂												
兵役ニ服セラレサルヲ歎テ	既遂												
兵役ヲ忌避シテ	既遂												
其他何々ニ因リ	既遂												
計													

〔山梨縣〕

第一編 警務 第七章 召集及報告

- 一、本表ハ自殺者ノ月別及所爲表ノ員數ト符合スベキモノトス
- 二、外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スベシ

報告期日一月末日

第七一 自殺者ノ住所及縁事上ノ關係	市				町		村		不詳		合計	
	男		女		男	女	男	女	男	女	男	女
	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂
未 婚 者												
有 配 偶 者												
離 婚 者												
喪 配 偶 者												
不 詳												
總 計												

- 一、本表ハ自殺者ノ月別及所爲表ノ員數ト符合スベキモノトス
- 二、外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スベシ

〔山梨警〕

報告期日翌年一月末日限

警察署

第七二 被殺傷者	種 別	死 亡				負 傷		計	
		男		女		男	女	男	女
		既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂	既遂	未遂
盜 賊									
怨 恨									
爭 論									
賭 博									
利 慾									
捕 獲									
暴 行									
瘋 癲									
貧 困									
痴 情									
正 當 防 衛									
入 連									
自 殺									
不 義									

第一編 警務 第七章 召集及報告

家庭ノ不和ニ因リ	計
畸形兒ナルガ爲	
其 他	
不 詳	
合 計	

一、本表ハ故意ニ因ルモノヲ記入スベシ
 二、警察上ニテ死傷セシ者モ本表ニ記入スベシ
 三、棄テアリシ幼兒ニシテ他殺ノ痕跡アルトキハ棄兒表ニ記入セズシテ本表中相當ノ項ヘ記入スベシ
 四、外國人ニ保ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スベシ

報告期日翌年一月末日

第七三 災害其他ノ事故 (年)

警察署

種 別	死 亡		負 傷		計	
	男	女	男	女	男	女
洪水						
海嘯						
船舶						
火災						

〔山梨警〕

〔山梨警〕

種 別	死 亡	負 傷	計			
種 別	男	女	男	女	男	女
震 災						
落 雷						
火山ノ噴火ニ因リ						
火薬類爆發シテ						
瓦斯爆發シテ						
積雪ニ壓セラレ又ハ凍ハテ						
土石崩壊シテ						
樹木顛倒又ハ潰屋等ニテ						
獸害又ハ毒害ニテ						
計 其ノ他						
犬						
馬						
牛						
熊						
蛇						
火薬類爆發シテ						
坑内						
坑外						
瓦斯爆發シテ						
坑内						
坑外						
汽罐爆發シテ						
坑内						
坑外						

工業上		交通上		礦業上	
火薬類爆發シテ	瓦斯爆發シテ	汽罐爆發シテ	藥品類爆發シテ	運搬車等ニテ	機械ニテ
坑内	坑内	坑内	坑内	坑内	坑内
坑外	坑外	坑外	坑外	坑外	坑外
計	計	計	計	計	計

〔山梨警〕

工業上		交通上		其他	
火傷(熱湯ヲ含ム)	墜落シテ	物體ノ倒壊、落下又ハ壓セラレテ	窒息シテ	其他	計
坑内	坑内	坑内	坑内	坑内	坑内
坑外	坑外	坑外	坑外	坑外	坑外
計	計	計	計	計	計

〔山梨警〕

〔山梨警〕

不詳	其	飢	火	乳	飲	中	藥	物	斷	便	河	水	銃	感	機	〔船舶ノ衝突又ハ顛覆シテ〕
				房	食	毒	物	體	崖	池	海	泳				
			傷	又	物	ニ	誤	ノ	上	又	池	中				
			(熱湯ヲ含ム)	ハ	其	テ	用	落	其	ハ	沼	溺				
				衣	ノ		又	下	ノ	肥	井	レ				
				類	他		ハ	敷	高	料	溝	テ				
				等	支		過	ニ	所	瀾	等	テ				
				ニ	ヘ		飲	テ	ヨ	ニ	ニ	テ				
				テ	テ		ニ	テ	リ	落	落	テ				
				鼻	テ		テ	テ	リ	シ	テ	テ				
				口	ノ		テ	テ	テ	テ	テ	テ				
				ヲ	モ		テ	テ	テ	テ	テ	テ				
				壓	ノ		テ	テ	テ	テ	テ	テ				
				シ	ハ		テ	テ	テ	テ	テ	テ				
				テ	本		テ	テ	テ	テ	テ	テ				
				ノ												

〔山梨警〕

- 一、警察上ニテ死傷セシ者モ本表ニ記入スベシ
 二、本表中被害者自己ノ過失ニ因リ生シタルモノハ「X」印ヲ以テ記入スベシ
 三、負傷ハ醫療ヲ要スル程度ノモノニ付記入スベシ
 四、外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ国籍別ニ區別シ別ニ調製スベシ

報告期日翌年一月末日限

警察署

第七四 棄兒年齢別表 (昭和 年)

年齡	別	生存シ在リシ者				死亡シ在リシ者		合計
		男	女	合計	男	女		
一三	月							
六六	月							
三三	月							
三三	年							
三三	年							
三三	年							
不詳	年							
		未以	未以	未以	未以	未以	未以	
		満上	満上	満上	満上	満上	満上	
		詳						

第七七ノ(一) 昭和 年山梨縣警察犯即決事件年表

報告期日一月十五日

警察犯區別	別 女 男		員 人 告 被		刑	留	名	別	料	除 免
	二十日以上	十日以上	五日以上	未五日						
故ナク人ノ居住若ハ看守モサル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏ス										
密賣淫ノ謀合又ハ容止ヲ爲ス										
通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ之ニ牛馬、諸車ヲ牽入ル										
山梨縣令違反										
通貨ニ紛ハシキ物品ヲ所持シタル者										
許可ヲ得ス又ハ許可證ヲ携帶セズ若クハ危險ノ虞アル物ヲ裝填シテ威銃ヲ爲シタル者										
計										

〔山梨警〕

〔山梨警〕

報告期日一月十五日

(用紙美濃)

第七七ノ(二)

昭和

年山梨縣諸規則違反即決事件年表

警察署

諸規則違反ノ種類	別 女 男		員 人 告 被		刑	留	名	別	料
	二十日以上	十日以上	五日以上	未五日					
計									
計									

- 一、警察犯ノ記載方ハ各處罰令列記ノ順序ニ依ルヘシ
- 一、諸規則違反ハ法律、勅令、省令、縣令ノ順序ニ記載スヘシ
- 一、合計ハ男女ノ區別ヲ要セス合算記入スヘシ

第七七ノ(三) 昭和 年山梨縣別號第一表

山梨縣	府縣名	被告人員		執行		留		執行		別
		執行	未執行	執行	未執行	執行	未執行			

報告期日一月十五日

警察署

第七七ノ(四) 昭和 年山梨縣別號第二表

山梨縣	府縣名	人員	執行		留		執行		留		別
			執行	未執行	執行	未執行	執行	未執行			

報告期日二月末日限

警察署

〔山梨警〕

〔山梨警〕

第七八ノ(一)

不良少年調査 (年内移動)

警察署

年齢	移動		新ニ行		合計	改換ノ	感化院	入監	他府縣	行衛	死亡	其他	小計	年末現在
	前年ヨリ越	ヘル者	執行	未執行										
八歳未満														
八歳														
九歳														
十歳														
十一歳														
十二歳														
十三歳														

十五歲	十四歲		十三歲		十二歲		十一歲		十歲		九歲		八歲		八歲未滿	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

〔山梨警〕

年齡 性別	合計		十八歲		十七歲		十六歲		十五歲		十四歲	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
前科者												
執行猶豫トナシタル者												
又ハ犯罪少年法ノ起訴猶豫ト受ケタル者												
又ハ犯罪少年法ノ起訴猶豫ト受ケタル者												
其他												
計												
警察ノ説諭ヲ受ケタル者												
其他												
計												
感化院收容ノ要ナル者												
收容トシテ必要ナル者												
收容トシテ必要ナル者												
計												
合計												

第七八ノ二

不良少年調査 (年内移動)

年末現在

警察署

〔山梨警〕

計	十八歳		十七歳		十六歳		計
	女	男	女	男	女	男	

備考

- 一、本調査ハ年齢十八歳未満ノ不良少年ニシテ警察官署ノ視察ニ係ル者ヲ調査スルコト
 - 二、第一表中其他ノ欄ニハ警察署ニテ取調又ハ拘留中ノ者等ヲ記入ノコト
- 記載例
- 一、本表ハ前一箇年分ヲ調査毎年二月末日迄ニ報告スルコト
 - 一、第一表ノ小計トアルハ改換ノタメ視察解除以下七項目ノ合計數ヲ記入スルコト
 - 一、同表最下ノ合計欄ニハ前項ノ二合計數ヲ差引シタル年末現在數ヲ記入スルコト
 - 一、第二表最下欄ノ合計ハ犯罪行為ヲ爲シタル児童ノ計ト犯罪行為ヲナス虞アル児童ノ計ノ合計數ヲ記入スルコト
 - 一、第二表ハ第一表ノ年末現在欄ニ於ケル合計ノ内譯ナルコトニ注意スルコト
 - 一、第二表ニ於テハ第一表ノ年末現在欄ニ於ケル合計ノ數ヲ先ツ犯罪行為ヲナスタル児童ト犯罪行為ヲナス虞アル児童トニ大別シ更ニ夫レヲノ合計ヲ感化院收容ノ要否欄ニ於テ必要トスルモノト然ラサルモノトニ分ケ最下ノ合計ヘハ犯罪行為ヲナスタル児童ノ計ト犯罪行為ヲナス虞アル児童ノ計ヲ合計記入スルコト

〔山梨警〕

報告期日翌年一月末日限

第七九

違警罪即決處分及正式裁判數

(年中)

警察署

種類 拘留科 拘留料 計	即決 言渡 件數	免除 說諭 件數	合計 本人ヨリ ノ者ヨリ 繰越	正式裁判 請求 件數	同上 ノ 結果

- 一、免除ノ欄ニハ拘留、科料ニ該ル犯罪トシテ即決官署(警察署長又ハ其ノ代理者)ニ報告アリタルモ即決官署ニ於テ之ヲ免除シタルモノヲ記入スベシ若シ人違其他罪トナラザルモノアルトキハ同欄中ニ包含計上シ其ノ數ヲ「X」印ヲ附シ再記スベシ
- 二、說諭ノ欄ニハ即決官署以外ノ警察官吏ニ於テ拘留、科料ニ該ルベキ犯罪ヲ認メタルモ之ヲ即決官署ニ報告セズ其ノ官吏ニ於テ說諭ニ止メタルモノヲ總テ揭ケベシ
- 三、拘留ノ言渡ヲ爲シ正式裁判ノ結果科料トナリタルモノハ拘留ノ項有罪ノ欄ニ記入スベシ、科料ノ言渡ヲ爲シ拘留トナリタルトキモ亦同様ニ取扱フベシ
- 四、拘留、科料ノ選擇刑ヲ科スル犯罪ノ免除說諭ハ免除說諭ノ欄科料ノ項ニ掲記スベシ

報告期日翌年一月二十日限

第八〇

密査淫檢舉人員及健康診断結果

(昭和 年)

警察署

初犯 再犯以上 計	同中健康 診断人員	健康 有	健康 無	健康診断人員ニ對 スル有毒人員千分 比

報告期翌年一月二十日限

第八一 傳染病患者死者 (昭和 年)

病種別	患者		死者		計
	患	死	患	死	
コレラ					
赤痢					
腸チフス					
パラチフス					
痘瘡					
發疹チフス					
猩紅熱					
ガフテリア					
流行性腦膜炎					
ペスト					
計					

一、本表ハ其ノ年内發生ノ眞症患者及其ノ年内ノ死者ヲ記入ス可シ但シ死後發見シタルモノハ之ヲ患者トシテモ計上ス可シ
 二、赤痢中疫痢ノ患者ハ「※」印ヲ附シテ再掲ス可シ

報告期翌年一月末日限

第八二 中毒 (昭和 年)

中毒品種別	患者		死者		計
	患	死	患	死	
河豚					
其他ノ魚介類					
計					

〔山梨警〕

〔山梨警〕

菌 草 類	毒 う つ ぎ	曼 陀 羅 華	と り か ぶ と	や ま こ ぼ う	生 梅	糖	爾 他 ノ 植 物 類	腐 敗 飲 食 物	ア ル コ ホ ル	阿 片 及 モ ル ヒ ン ノ 類	ス ト リ キ ニ ー ン	コ カ イ ン	石 炭 酸	フ オ ル マ リ ン	青 酸 ノ 類	醋 酸

毒	砒	亞砒	水銀	銅	鉛	磷	沃度及其化合物並其製劑	爾他ノ醫藥品工業藥品	揮發油又ハ石油	有害性著色料	酸化炭素	爾他ノ有害瓦斯	賣藥類
硫酸	硝酸	格魯誤酸及其塩類	苛性アルカリ	亞砒酸及其製劑	水銀及汞劑	銅及其製劑	鉛及其製劑						

〔山梨管〕

〔山梨管〕

爾他ノ物質	不詳不明ノ物質	計

一、品種別中〔爾他ノ魚介類〕中ニハ腐敗シタル魚介類ヲ含ム
 二、其ノ年ノ中毒患者ニシテ翌年ニ至リ死亡シタルモノハ患者トシテノミ其ノ年ノ分ニ計上シ死亡者トシテハ翌年分ニ計上ス可シ

報告期翌年一月末日限

警察署

第八三		牛乳 (年)	
其ノ一 牛乳管業者数 (年末現在)		警察署	
牛乳搾取、處理販賣管業者	牛乳搾取	牛乳處理	牛乳販賣
特別牛乳以外ノ牛乳	販賣管業者	販賣管業者	製販賣管業者
	一、牛乳管業者ニシテ特別牛乳ノ搾取、處理ト他ノ業態トヲ兼ヌル者ハ之ヲ他ノ業態ノ欄ニ掲グルノ外特別牛乳ノ欄ニ「※」印ヲ附シテ掲グベシ		
	二、牛乳販賣管業者ノ欄ニハ牛乳ノ販賣ノミヲ爲ス者ヲ掲グベシ		
	其ノ二 牛乳搾取場数、乳牛頭数及牛乳搾取量		
特別牛乳以外ノ牛乳	牛乳搾取場 (年末現在)	乳牛頭数 (年末現在)	牛乳搾取量
			〔リットル〕

採取製造營業者數	採取若ハ製造量	同上	中	不	合格品量
	〔キログラム〕				〔キログラム〕
人	造				
天	然				
雪	水				

一、本表ハ明治三十三年七月内務省令第三十七號氷雪營業取締規則ニ依ルモノノ内飲食用ノ目的ヲ以テ氷雪ヲ採取若ハ製造スル者及其ノ採取若ハ製造量ヲ調査掲載スルモノトス

二、採取製造營業者數ハ年末現在ヲ掲ケ可シ

報告期翌年一月末日限

第八七 屠場及屠畜 (昭和 年)

警察署

市	計	町	村	設	私	設	其	他	計
其一									
屠場數									

一、屠場數ハ年末現在ヲ掲ケ可シ

二、畜産組合設、産業組合設ノ屠場ハ「※」印ヲ附シテ私設其ノ他ノ欄ニ別記ス可シ

〔山梨管〕

牛	頭	重	肉	量
市設屠場ニ係ルモノ				〔キログラム〕
町村設屠場ニ係ルモノ				
私設其他ノ屠場ニ係ルモノ				
計				
緬				
市設屠場ニ係ルモノ				
町村設屠場ニ係ルモノ				
私設其他ノ屠場ニ係ルモノ				
計				
山				
市設屠場ニ係ルモノ				
町村設屠場ニ係ルモノ				
私設其他ノ屠場ニ係ルモノ				
計				
羊				
市設屠場ニ係ルモノ				
町村設屠場ニ係ルモノ				
私設其他ノ屠場ニ係ルモノ				
計				

〔山梨管〕

山	羊	緬	犛	牛	其三 切迫屠殺						
					頭數	肉量	頭數	肉量	頭數	肉量	
					不慮ノ災害ニ因ル負傷		不慮ノ災害ニ因リ救フベカラザル状態	難産	産褥癱痺	急性鼓張症	計
					(キログラム)	(キログラム)	(キログラム)	(キログラム)	(キログラム)	(キログラム)	(キログラム)

〔山梨警〕

〔山梨警〕

馬	豚	山	羊	緬	犛	牛	其四 屠殺ノ禁止及屠殺後全部又ハ一部ノ廢棄ヲ命ジタルモノ					
							屠殺ノ禁止頭數	全部ノ廢棄	一部ノ廢棄	内臓ノミノ廢棄頭數		
							頭數	肉量	頭數	肉量	頭數	肉量
							(キログラム)	(キログラム)	(キログラム)	(キログラム)	(キログラム)	(キログラム)

其五 屠殺ノ禁止及屠殺後全部又ハ一部ノ廢棄ヲ命ジタルモノノ原因別頭數

種	頭	肉	數	量	馬				豚				山羊			
					内臓廢棄	一部廢棄	全部廢棄	禁止	内臓廢棄	一部廢棄	全部廢棄	禁止	内臓廢棄	一部廢棄	全部廢棄	禁止
羊																

一、禁止又ハ廢棄ノ原因二件以上アルトキハ各原因ニ就テ計上スベシ

其六 自家屠殺

(キログラム)

〔山梨管〕

種	頭	肉	數	量	綿羊				犢				牛			
					内臓廢棄	一部廢棄	全部廢棄	禁止	内臓廢棄	一部廢棄	全部廢棄	禁止	内臓廢棄	一部廢棄	全部廢棄	禁止

病原

病染傳畜家定法
 症 毒 膿
 症 血 敗
 症 毒 尿
 症 直 強
 體人) 症諸毒中
 ルア 虞ノ 害有ニ
 (ノモ)

痘 黃
 腫 水
 腫菌線放 腫
 他 其 瘍

核結性放開
 核結性放開非

因

蟲 毛 旋
 蟲 囊
 マ ト ス ゲ
 物産其ハ又症炎
 染汚ルヨニ
 縮萎ハ又性變
 他 其 別

計

〔山梨管〕

煙詰、煙詰類	油	酢	酒	毒	蒸餾酒類	其他ノ飲料	其他ノ酒類	其他ノ飲食物	漂白劑	玩具類	化粧品類	其他ノ他類	合計

一、本表ニハ衛生技術員ノ行ヒタル検査ノ結果ヲ掲グベシ。二、同一人カ同一場所ニ於テ同一時ニ、同一物ト認ムベキモノニ付キテ行ヒタル検査ヲ以テ検査件數一件トス。三、「同上有害件數」ノ欄ニハ有害件數ヲ有害品ノ處分ニ從ヒ左ノ記號ヲ附シテ計上スベシ但シ處分ニ違以上ニ互ルモノハ其ノ主ナルモノニ依ルコト。*「廢棄」(任意廢棄ヲ含ム)。「○」衛生上危害ナキ方法ニ依リ措置シタルモノ。「△」其ノ他ノ處分ヲナシタルモノ。「×」有害ナリト確定シタルトキニ物品ノ現存セサル爲處分シ能ハサルカ又ハ他ノ事故ニ依リテ處分ヲ爲シ得ザリシモノ。四、二以上ノ取締規則ニ抵觸シ有害ト決定シタルモノニ付テハ「有害件數ノ取締規則別」ノ欄ニ於テハ之ヲ各別ニ計上スベシ。

〔山梨管〕

〔山梨管〕

報告期翌年一月末日限

第八九 娼妓健康診断 (昭和 年)

警察署

遊廓數	健康診断所數	娼妓病院又ハ治療所數	娼妓一日平均數	健康診断延人員	同上有病ト認めタル者	其二 有病ト認めタル者ノ病症別								
						梅毒	淋病	軟下疳	疥癬	皮膚病	結核	癩病	トラホーム	其他
其 一 遊廓數其他														

- 一、遊廓數、健康診断所數、娼妓病院又ハ治療所數ハ年末現在ヲ掲グベシ
- 二、遊廓ハ必ズシモ一部ヲ爲サ、ルモ娼妓稼業許可地ハ遊廓トシテ計算スベシ
- 三、遊廓ハ現ニ娼妓稼業ノ事實アルモノヲ掲グ可シ
- 四、娼妓一日平均數ハ一箇年間毎月末現在數ヲ以テ平均ス可シ
- 五、健康診断延人員ニハ一ヶ年間診断シタル總人員ノ延數ヲ掲グベシ
- 六、有病ト認めタル者ノ欄ニハ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘザル者又ハ傳染性疾患アリト診断シタル者ヲ掲グ可シ但シ一回ノ診断ヲ一ト計算スルコト

第二編 警務 第七章 召集及報告

四〇〇 報告期翌年一月末日限

第九〇 藥劑師 (昭和 年十二月三十一日現在)

計	女	男	藥劑師 總數			藥劑師業務ニ從事スル藥劑師數				病院其他ノ 診所ニ於テ 藥劑師ニ 從事スル 藥劑師數	賣藥營業ノ ミニ從事ス ル藥劑師數	
			大學卒業 (指定) 官公立 學校 卒 業	外國學校 卒 業 (試験 含ム)	試驗及第 (舊試驗 ヲ含ム)	計	市	部	町			部

一、官公立醫科大學附屬藥學專門部卒業及官公立醫學專門學校藥學科卒業ノ藥劑師ハ之ヲ「官公立(指定)藥學專門學校卒業」者中ニ算入ス可シ
二、藥劑師ノ業務ニ從事スル者トハ藥局ニ於テ調劑ニ從事スルモノ、藥品ノ販賣ニ從事スルモノ、製藥ニ從事スル者ヲ謂フ
三、藥劑師ノ業務ニ從事スル藥劑師、病院其他ノ診療所(官公立ノモノヲ含ム但シ軍用ノモノヲ除ク)ニ於テ調劑ニ從事スル藥劑師及賣藥營業ノミニ從事スル藥劑師ハ住所ノ如何ニ拘ラズ其ノ管内ニ於テ前記ノ業ニ從事スル者ヲ揭グベシ

第九一 藥局 (昭和 年十二月三十一日現在)

〔山梨管〕

第九二 藥業者 (昭和 年十二月三十一日現在)

報告期翌年一月末日限

藥劑師ノ開設スル藥局數	藥劑師ニ非ザル者ノ開設スル藥局數	藥業者	
		其一 藥品販賣業者數	其二 製藥業者數

第九三 看護婦及看護人 (昭和 年十二月三十一日現在)

報告期翌年一月末日限

看護婦	看護人	計

第一編 警務 第七章 召集及報告

第九四 鍼術、灸術、按摩術業者 (昭和 年十二月三十一日現在)

報告期翌年一月末日限 警察署

鍼術、灸術、按摩術業者	鍼術		灸術		按摩術 (マツサージヲ含ム)		鍼灸術業者		鍼灸術業者		鍼灸術業者		計
	盲者	晴眼者	盲者	晴眼者	盲者	晴眼者	盲者	晴眼者	盲者	晴眼者	盲者	晴眼者	
	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	者	
													男
													女
													計

〔山梨警〕

〔山梨警〕

- 一、柔道整復術業者數 名
- 一、柔道整復術業者ハ按摩術業者ニ計上スル外其ノ人員ヲ欄外ニ掲ケヘシ

報告期翌年一月末日限

第九五 公立病院

(昭和 年)

警察署

病院數	其一 病院數、患者收容定員、患者數		前年ヨリ越	本年入院	退院	在院中死亡	年末現在	入院患者延數
	收容定員	患者數						

部	市					町					村				
	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定	員收 以上 ノ定
計															

- 一、本表ニハ年末ニ現在スル公立病院ニシテ患者收容定員十人以上ノモノヲ掲ケ可シ
- 二、本表公立病院中ニハ結核病院、精神病院、癩療養所、施療病院、娼妓病院及傳染病院ヲ計上ス可カラス
- 三、傳染病患者收容定員及結核患者收容定員ハ他ト區別シ前者ニハ「X」印ヲ、後者ニハ「O」印ヲ附シテ之ヲ掲ケ可シ
- 四、本表ノ「前年ヨリ越」患者數ニシテ前年報告ニ保ル「年末現在」患者數ト相違スルトキハ其ノ理由ヲ附記ス可シ
- 五、入院患者延數ハ「前年ヨリ越」「本年入院」ノ二者ヲ合シタルモノノ延數トス

其二 診療科別病院數

計	其他	齒科	耳鼻咽喉科	皮膚、花柳病、泌尿生殖器病科	産婦人科	眼科	小兒科	外科	内科	市			町			村		
										收容定員	以上十人ノモ	以上三人ノモ	收容定員	以上十人ノモ	以上三人ノモ	收容定員	以上十人ノモ	以上三人ノモ

一、診療科名中「一般」ノ欄ニハ二種以上ノ診療科ヲ有スル病院ヲ計上ス可シ

報告期翌年一月末日限

第九六 私立病院

（昭和 年）

病院數	收容定員	患者數		入院患者延數
		前年ヨリ越	本年入院	

其一 病院數、患者收容定員、患者數

- 一、本表ニハ年末ニ現在スル私立病院ニシテ患者收容定員十人以上ノモノヲ掲グ可シ
- 二、本表私立病院中ニハ結核病院、精神病院、癩病院、施療病院ヲ計上ス可カラズ
- 三、私立病院中公益法人ノ經營ニ保ルモノハ其ノ各項ヲ他ト區別シ「※」印ヲ附シテ掲グ可シ（其二之ニ做フ）
- 四、私立病院ニシテ外國人ノ經營ニ保ルモノアルトキハ其ノ各項ヲ他ト區別シ「△」印ヲ附シテ掲グ可シ（其二之ニ做フ）
- 五、傳染病患者收容定員、結核病患者收容定員ハ他ト區別シ前者ニハ「×」印ヲ、後者ニハ「○」印ヲ附シテ之ヲ掲グ可シ
- 六、本表ノ「前年ヨリ越」患者數ニシテ前年報告ニ保ル「年末現在」患者數ト相違スルトキハ其ノ理由ヲ附記ス可シ

〔山梨警〕

〔山梨警〕

七、入院患者延數ハ「前年ヨリ越」「本年入院」ノ二者ヲ合シタルモノノ延數トス

其二 診療科別病院數

計	其他	齒科	耳鼻咽喉科	皮膚、花柳病、泌尿生殖器病科	産婦人科	眼科	小兒科	外科	内科	市			町			村		
										收容定員	以上十人ノモ	以上三人ノモ	收容定員	以上十人ノモ	以上三人ノモ	收容定員	以上十人ノモ	以上三人ノモ

一、診療科名中「一般」ノ欄ニハ二種以上ノ診療科ヲ有スル病院ヲ計上ス可シ

第九七 施療病院 (昭和 年)

經營者別	名	稱	所在地	患者收容		在院中		入院患者延數
				定員	患者	死亡	數	
					前年ヨリ越	本年入院	退院	
							死亡	
							年末現在	

報告期翌年一月末日限

警察署

- 一、本表ハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ施療ヲ目的トスル施設(結核病院、癩療養所、精神病院ヲ除ク)ニシテ一年中入院患者ノ延數凡ソ三分ノ二以上ニ對シテ施療ヲ行フト認メラル可キモノヲ掲ク可シ假令施療ヲ目的トスル施設ナルモ施療患者數上記割合以下ナルモノハ之ヲ公私立病院表中ニ記載ス可シ
- 二、本表ハ年末ニ現在スル病院ニシテ患者收容定員十人以上ノモノヲ掲ク可シ
- 三、經營者別ノ欄ニハ道、府、縣、市、町、村、私立等ノ別ヲ掲ク可シ
- 四、外國人ノ經營スルモノアルトキハ經營者別ノ欄ニ更ニ其ノ經營者ノ國籍ヲ記スヘシ
- 五、有料患者數ハ之ヲ他ト區別シ「※」印ヲ附シテ掲ク可シ
- 六、本表ノ「前年ヨリ越」患者數ニシテ前年報告ニ保ル「年末現在」患者數ト相違スルトキハ其ノ理由ヲ附記ス可シ
- 七、入院患者延數ハ「前年ヨリ越」「本年入院」ノ二者ヲ合シタルモノノ延數トス

報告期翌年一月末日限

警察署

第九八 娼妓病院 (昭和 年)

病(年)末現在	患者收容定員	入院患者數		同上延人員
		前年ヨリ越	本年入院	

〔山梨警〕

警察署

- 一、傳染病患者收容定員ハ之ヲ他ト區別シ「△」印ヲ附シテ掲ク可シ
- 二、行政執行法第三條ノ入院患者アルトキハ之ヲ他ト區別シ其ノ員數ニ「※」印ヲ附シテ掲ク可シ

〔山梨警〕

報告期翌年一月末日限

警察署

第九九 結核病院(結核療養所ヲ含ム) (昭和 年)

經營者別	名	稱	所在地	患者收容		在院中		入院患者延數
				定員	患者	死亡	數	
					前年ヨリ越	本年入院	退院	
							死亡	
							年末現在	

- 一、本表ハ年末ニ現在スル病院ニシテ患者收容定員十人以上ノモノヲ掲ク可シ
- 二、經營者別ノ欄ニハ道、府、縣、市、町、村、私立等ノ別ヲ掲ク可シ
- 三、外國人ノ經營スルモノアルトキハ經營者別ノ欄ニ更ニ其ノ經營者ノ國籍ヲ記ス可シ
- 四、自費患者數ハ之ヲ他ト區別シ「※」印ヲ附シテ掲ク可シ
- 五、本表ノ「前年ヨリ越」患者數ニシテ前年報告ニ保ル「年末現在」患者數ト相違スルトキハ其ノ理由ヲ附記ス可シ
- 六、入院患者延數ハ「前年ヨリ越」「本年入院」ノ二者ヲ合シタルモノノ延數トス

報告期翌年一月末日限

警察署

第一〇〇 精神病院 (昭和 年)

經營者別	名	稱	所在地	患者收容		在院中		入院患者延數
				定員	患者	死亡	數	
					前年ヨリ越	本年入院	退院	
							死亡	
							年末現在	

- 一、本表ハ年末ニ現在スル精神病院ニシテ患者收容定員十人以上ノモノヲ掲ケ可シ
- 二、經營者別ノ欄ニハ道、府、縣、市、町、村、私立等ノ別ヲ掲ケ可シ
- 三、外國人ノ經營スルモノアルトキハ經營者別ノ欄ニ更ニ其ノ經營者ノ國籍ヲ記ス可シ
- 四、自費患者數ハ之ヲ他ト區別シ「※」印ヲ附シテ掲ケ可シ
- 五、本表ノ「前年ヨリ越」患者數ニシテ前年報告ニ保ル「年末現在」患者數ト相違スルトキハ其ノ理由ヲ附記ス可シ
- 六、入院患者延數ハ「前年ヨリ越」「本年入院」ノ二者ヲ合シタルモノノ延數トス

報告期翌年一月末日限

第一〇一 代用花柳病診療所 (昭和 年)

警察署

其二 診療患者數		微毒淋	病軟性下疳	計	延人員
入院患者					
外來患者					

- 一、本患者ハ代用花柳病診療所トシテ扱ヒタル者ニ付調査ス可シ
- 二、一人ニシテ同時ニ二以上ノ疾病ヲ有スルモノハ之ヲ各項ニ記載シ最上位ノ項ヲ除キ其ノ他ノ項ニ「※」印ヲ附スヘシ但此ノ場合「※」印ヲ附シタル數ハ合計中ニ算入ス可ラス

〔山梨警〕

〔山梨警〕

報告期翌年一月末日限

第一〇二 傳染病豫防法ニ依ル傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所 (昭和 年)

警察署

其二 傳染病院		其二 隔離病舎		其三 隔離所		其四 消毒所數	
市ノ設立ニ係ルモノ	病院數	市ノ設立ニ係ルモノ	病舎數	市ノ設立ニ係ルモノ	病舎數	市ノ設立ニ係ルモノ	消毒所數
患者收容定員	病院數	患者收容定員	病舎數	患者收容定員	病舎數	患者收容定員	消毒所數
町村組合若クハ之ニ準スベキモノ	町村組合若クハ之ニ準スベキモノ	町村組合若クハ之ニ準スベキモノ	町村組合若クハ之ニ準スベキモノ	町村組合若クハ之ニ準スベキモノ	町村組合若クハ之ニ準スベキモノ	町村組合若クハ之ニ準スベキモノ	消毒所數
計	計	計	計	計	計	計	消毒所數

報告期翌年一月末日限

第一〇三 痲療養所(痲病院ヲ含ム)		(昭和 年)		警察署	
經營者別名	所在地	患者收容員	患者		入院患者延數
			前年ヨリ越	本年入院退院	
			死亡	中	年末現在
計			數		

- 一、本表ハ年末ニ現在スル療養所ニシテ患者收容定員十人以上ノモノヲ掲グ可シ
- 二、經營者別ノ欄ニハ道、府、縣、市、町、村、私立等ノ別ヲ掲グ可シ
- 三、外國人ノ經營スルモノアルトキハ經營者別ノ欄ニ更ニ其ノ國籍ヲ記スベシ
- 四、患者中費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔スルモノハ其ノ員數ヲ他ト區別シ「※」印ヲ附シテ掲グ可シ
- 五、本表ノ「前年ヨリ越」患者數ニシテ前年報告ニ係ル「年末現在」患者數ト相違スルトキハ其ノ理由ヲ附記ス可シ
- 六、入院患者延數ハ「前年ヨリ越」「本年入院」ノ二者ヲ合シタルモノノ延數トス

報告期翌年一月末日限

第一〇三(二) 病院ニ非ザル診療所		(昭和 年十二月三十一日現在)		警察署	
市 部	町 部	村 部	合 計	患者收容施設	
				醫師ノ開設スルモノ	醫師ニ非ザル者ノ開設スルモノ
			患者收容施設	患者收容施設	計
計			合		

〔山梨警〕

〔山梨警〕

報告期翌年一月末日限

第一〇三(三) 病院ニ非ザル齒科診療所		(昭和 年十二月三十一日現在)		警察署	
市 部	町 部	村 部	合 計	患者收容施設	
				齒科醫師ノ開設スルモノ	公共團體ノ開設スルモノ
			患者收容施設	患者收容施設	計
計			合		

報告期翌年一月末日限

第一〇四 賣藥 (昭和 年)		警察署	
製 造		輸 移 入	
藥劑師	獸醫師及藥劑師ヲ使スルモノ	賣藥法第二十四條ニ依ル營業者	同上第二十五條ニ依ル營業者
其 一 營業者數		營業者數	
其 二 製造及輸移入免許方數		營業者數	
其 三 製造及輸移入額		營業者數	
方		營業者數	
		賣藥行商者數	

- 一、營業者數及製造輸入免許方數ハ年末現在ヲ掲グベシ
- 二、製造營業者ニシテ輸入營業ヲ兼ムル者ハ之ヲ製造營業者中ニ合算シ輸入販賣ノミヲ爲ス者ハ「輸入營業者數」ノ欄ニ掲グベシ
- 三、製造及輸入額ハ小賣價格ヲ掲グベシ
- 四、輸入免許方數及輸入額ニハ「※」印ヲ附シテ別記スベシ

報告期翌年一月末日限

第一〇五 藥種商其他行政處分 (昭和 年)

業種商	免許取消	停止			計	禁止解除 又ハ再免許
		一箇年以上	六箇月以上 一箇年未滿	三箇月以上 六箇月未滿		
藥種商						
製藥者						
産藥者						
看護婦						
看護夫						
鍼術業者						
灸術業者						
按摩術業者						

〔山梨警〕

第一〇六 恐水病及狂犬病 (昭和 年)

報告期翌年一月末日限

其一 恐水病患者發生數其他		其二 狂犬病發生數	
恐水病患者發生數	狂犬ニ咬傷セラレタル人員	犬	牛
狂犬ニ咬傷セラレタル人員	狂犬ニ咬傷セラレタル人員	馬	豚
狂犬ニ咬傷セラレタル人員	狂犬ニ咬傷セラレタル人員	羊	其他
其他	其他	計	

一、狂犬以外ノ狂犬病獸ニ咬傷セラレタル者アルトキハ其ノ員數ニ「※」印ヲ附シテ「狂犬ニ咬傷セラレタル人員」欄中ニ別ニ記載ス可シ、豫防注射ヲ受ケタル人員ニ就テモ之ニ做フ

二、豫防注射ヲ受ケタル人員中狂犬病獸ニ咬傷セラレタル者ハ豫防注射ヲ終了シタルモノニ限り之ヲ記載ス可シ若シ豫防注射翌年ニ涉ル者アルトキハ其終了ヲ俟テ本表ニ記載ス可シ

三、「豫防注射ヲ受ケタル人員其他」ノ欄ニハ狂犬病獸ニ非ザルモノ又ハ狂犬病獸ニ疑ハシキモノニ咬傷セラレ豫防注射ヲ受ケタル者ヲ記載ス可シ但シ注射ヲ終了シタル者タルコトヲ要セズ

報告期翌年四月末日限

第一〇七 病院 (何年十二月三十一日現在)

官公私立ノ別	名	稱	所	在	診療科名	患者收容定員	專屬醫師數	〔レントゲン〕 設備ノ有無

- 一、本表ニハ患者收容定員十人以上ノ病院(軍用ノモ)ヲ掲グベシ
- 二、二種以上ノ診療科アルモノハ凡テ其ノ科名ヲ列記スベシ
- 三、「レントゲン」設備ノアルモノハ其ノ數ヲ掲グ可シ

警察報告例規取扱内規

明治三十一年六月
示令第五二號

- 第一條 各署ヨリ進達シタル月報ハ其月十日限リ統計スヘシ
- 第二條 各署ヨリ進達シタル年報ハ其年一月三十日限リ統計シ内務省報告例ニ保ルモノハ内務省ニ本縣統計書ノ資料ニ充ツヘキモノハ内務省ニ各進達移送ノ手續ヲ爲シ其他ノモノハ之ヲ保存スヘシ
- 第三條 月報第一第三表ニ依リ毎月十五日限リ各署別比較表ヲ調製シ又毎年二月末日限リ各種ノ報告一覽表ヲ調製スヘシ
- 第四條 各署ヨリ進達スル報告表ノ外警察部ニ於テ調製シ得ヘキ材料アルモノ例ハ傳染病患者統計ノ類ハ前各條ニ依リ整理スヘシ
- 第五條 郡市役所ヨリ進達ニ保ル報告表ハ月報年報ノ區別ニ從ヒ前各條ニ依リ處理スヘシ
- 第六條 各署ヨリ進達スヘキ月報年報ニシテ期限内ニ進達セザルトキハ其理由ヲ取調ヘ申出ツヘシ
- 第七條 各署ヨリ進達シタル諸報告表中記載不明ニシテ照會ヲ要シタルトキハ表中欄外ニ往復ノ度數ヲ朱記スヘシ
- 第八條 會計ニ關スル諸表取扱ハ別ニ定ムル處ノ規程ニ準スヘシ

〔山梨警〕

巡查注意報告心得

明治二十三年二月
内示第一六號

- 第一條 注意報告トハ各巡查其職務上當然爲スヘキ申告ノ外平素注意ヲ要スヘキ事項ノ報告ヲ云フ其概目左ノ如シ
- 一 法律規則ノ制定若クハ改正ニ關スル民心ノ感觸如何ノ事
- 二 官衙ノ處分ニ關スル民心ノ感觸如何ノ事
- 三 徵稅及課費等ニ關スル事
- 四 町村一般若クハ其一部ノ利害ニ關スル事
- 五 農蠶業ノ豐凶及殖産上ノ盛衰ニ關スル事
- 六 商業又ハ工業上ノ盛衰ニ關スル事
- 七 諸營業ノ競争ニ關スル事
- 八 中小學其他教育上ノ利益ニ關スル事
- 九 政黨結社若クハ教育宗教等ニ關スル事
- 十 地主ト小作人トノ間ニ於ケル利害ニ關スル事
- 十一 孝子貞婦義僕其他奇特者ノ行爲ニ關スル事
- 十二 流行諸物ノ種類及各種ノ巷說流言
- 十三 前各項ノ外人民諸般ノ利害ニ關スル事
- 第二條 削除
- 第三條 注意報告ハ其事項見聞ノ都度速ニ所屬署長ニ差出スヘキモノトス但忌憚ニ互ルモノハ封書ヲ以テ直チニ本部長ニ差出ス事ヲ得
- 第四條 各署長ニ於テ注意報告ヲ受領シタルトキハ檢閱ノ上速ニ進達スヘシ

〔山梨警〕

- シ但重要ノモノハ際本ヲ微シ保存スヘシ
- 第五條 注意報告ハ各署長ニ於テ文章ノ增飾訂正等ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 注意報告ハ見聞ノ儘ヲ記載シ苟クモ文飾ニ流レ想像ヲ交ヘ意見ヲ附スルコトナキヲ要ス
- 第七條 注意報告ハ本人ノ自筆ニ限ル其用紙ハ適宜トシ宛名ハ總テ本部長タルヘシ
- 第八條 分署員ノ報告ハ分署長ヨリ直チニ進達スヘシ但重要ノ事件ト認ムルモノハ適宜本署署長ヘ通報スル事

表彰スヘキ者注意報告方ノ件

明治三十五年四月
訓示第四七號

孝子貞婦順孫義僕其他奇特ノ實行アル者ヲ表彰スルハ世道人心ヲ維持スル上ニ於テ至重ノ關係アルヲ以テ特ニ旌表ノ典アリ故ニ警察官タル者宜シク平素注意シテ之レカ報告ヲ忽ニスヘカラサルハ職務上當然ノ任務ナリトス況ンヤ明治二十二年二月内示第二六號巡查注意報告心得ノ存スルニ於テオヤ然ルニ頃者往々是等ノ記事新聞紙上ニ散見スルニ拘ハラズ各署ヨリハ會テ之レカ報告アラサルハ部下巡查ノ不注意ニ因ルモノト思惟スト雖モ監督者ニ於テモ亦決シテ不敏ノ譏ヲ免カルコト能ハサルヘシ故ニ此際深ク一般巡查ニ訓諭シ假ヒ褒章條例ニ依リ表彰スルノ程度ニ至ラサルモノト雖モ苟モ是等ノ篤行者ト認ムヘキ者ハ速ニ報告セシムヘキハ勿論不孝不悌ノ子弟苛嚴慘酷ノ父兄若クハ不慈惡ノ行爲アリテ社會ノ耳目ヲ惹クモノ其他注意報告心得記載ノ各事項ハ不忘報告セラルヘシ

第八章 監督及巡閱

●警察署(分署)監督規程

明治四十四年十一月
山梨縣訓令甲第四十九號

改正 大正一四年九月訓令甲第一二號、昭和三年一月第一號、五年一月第二三號

第一章 總則

第一條 警察署長分署長其他ノ監督者ハ各其ノ階級ニ從ヒ本規程ニ依リ部下職員ヲ監督スルモノトス

第二條 監督者ニ於テ一般ニ監督ヲ爲スヘキ事項概ネ左ノ如シ

- 一、勤務ノ勉否
 - 二、紀律ノ嚴弛及品行ノ正否
 - 三、注意ノ厚薄
 - 四、人民接遇ノ適否及之ニ對スル威信
 - 五、姿勢禮式服裝ノ整否
 - 六、給與品貨與品保存ノ適否
 - 七、生計及交際ノ模樣並家族ノ行狀職業及其ノ交際ノ模樣
- 上級監督者ハ下級監督者ノ部下職員ニ對スル監督ノ適否ヲ監督スヘシ
- 第三條 署僚警部以下ノ監督者(刑事係及通稱係タル部長ヲ除ク)ハ各階級毎ニ監督簿(第一號様式)ヲ備ヘ(巡查部長派出所勤務ノ巡查部長ノ監督簿ハ別冊トス)下級監督者及各巡查毎ニ口座ヲ設ケ巡視又ハ監督ノ都度其ノ狀況ヲ記載シ署長ノ檢閱ニ供スヘシ
- 署長ハ監督簿ヲ檢閱シテ監督其ノ他ニ關シ指示スヘキモノアルトキハ餘白ニ朱記スヘシ
- 第四條 警察署長分署長ハ巡查ノ職務上其ノ他ノ非行ニシテ巡查懲罰例ニ

第一編 警察 第八章 監督及巡閱

〔山梨警〕

依リ懲戒處分ヲ要セスト認ムルモノニ限り訓戒ニ止ムル事ヲ得

前項ニ依リ訓戒ヲ爲シタルトキハ事實ヲ具シ之ヲ報告スヘシ

第五條 警察署長分署長ハ翌年一月二十日迄ニ前年中ニ於ケル左記事項ヲ具シ報告スヘシ

- 一、署内事務ノ整否
- 二、會計經理
- 三、刑事巡查犯罪捜査ノ粗密及其ノ成績
- 四、第二條及第十四條各號ニ掲ケル事項
- 五、其他一般ノ狀況

第六條 削除

第七條 署内ノ監督

署長ノ座席ハ署内監督ニ便ニシテ且ツ人民ニ直接シ易キ場所ニ之ヲ設ケヘシ

第八條 警察署長分署長ハ毎月一回其ノ部下職員主管ノ書類簿冊ヲ檢閱シ其ノ整否ヲ監督スヘシ

第九條 警察署長分署長ハ定時ニ報告スヘキ事項ノ遲怠又ハ錯誤ヲ防ク爲メ各主管者ヲシテ報告期限表ヲ備ヘシムヘシ

第十條 警察署長分署長ハ毎期未完結書類及文書收受簿其ノ他必要ナル書類ヲ檢閱シ處理ノ遲速及其ノ結果ヲ監督スヘシ

第十一條 警察署長分署長不在中代決シタル事件ニシテ處分ニ保ルモノハ「要聞覽」ノ三字ヲ朱書シ署長ノ後閱ニ供スヘシ

第十二條 警察署長分署長ハ時々署ノ内外ヲ巡視シ左ノ事項ヲ監督スヘシ但シ主任者ヲ定メテ其ノ全部又ハ幾分ヲ擔任セシムル事ヲ得

一、倉庫物置鐵籠ノ保管

- 三、書類簿册保存
- 四、官印ノ保管
- 五、火氣取扱
- 六、署ノ内外ニ於ケル洒掃
- 七、留置場ノ清潔並留置人ノ取扱
- 八、出頭セル人民ヲシテ時間ヲ徒費セシムルカ如キコトナキヤ否

第十三條 削除

第十四條 外勤監督

第十四條 外勤監督ノ監督ハ第二條ニ定ムル事項ノ外左ノ事項ニ付親シク其ノ實績ヲ監督スヘシ

一、警邏巡察ノ粗密

二、執行事務ノ適否

三、戸口調査諸臨檢ノ粗密

四、犯罪捜査ノ粗密及其ノ成績

五、諸報告ノ精粗遲速

六、書類簿册ノ整否及其ノ保存ノ適否

七、信用ノ程度

八、功績ノ有無

九、其ノ他必要ナル事項

第十五條 警察署長分署長ハ左ノ程度ニ依リ巡視スヘシ

一、署所在地及署所在地ニ隣接スル町村ニ於ケル巡査派出所ハ毎月二回以上

二、削除

三、警部補派出所、巡査部長派出所、巡査派出所、巡査駐在所、巡査出

〔山梨警〕

第二十四條 警察署長(分署長)ハ翌月五日限リ巡視ノ狀況(第三號様式)ヲ報告スヘシ

(用紙半紙判)

巡視	月日	午前(後)何時發駐在所派出所出張所又ハ何地巡視何時歸署
勤務		午後何時巡視セシニ勤務時間中ナルニモ拘ラス私服在所シタルニ付待罪書ヲ發セリ
警邏監督		何所某方ニ配置セル警邏表ヲ檢スルニ規定ノ警邏ヲ行ヒツ、アルヲ認ムルモ取扱事故至テ少ク機械的ニ警邏ヲ行フニ過キササルノ據アルヲ以テ巡察ヲ周密ニシ警邏ノ效果ヲ完カラシムヘキ旨指示セリ
營業者監督		何所質屋某方ヲ臨檢セシニ店舗見易キ場所ニ利子其ノ他揭示セス何日臨檢シナカラ何等注意シタル跡ナキヲ以テ爾今綿密ニ監督シ取締ノ目的ヲ達スヘキ旨ヲ指示セリ
戸口調査		何處巡査同行何所某外何戸ニ就テ戸口調査ヲ行フニ言語應對等不可ナキモ調査形式ニ流レ最近調査ヲ行ヒタル
監査		

- 一、署所在地ハ毎月三回以上但シ甲府警察署ニ限り警部補ハ七回以上
- 二、署所在地ニ隣接スル町村ニ於ケル巡査派出所ハ毎月二回以上
- 三、巡査部長派出所、巡査派出所、巡査駐在所、巡査出張所ハ隔月一回以上全町村ハ毎年一回以上

第十七條 外勤ノ巡査部長ハ左ノ程度ニ依リ巡視スヘシ

一、署所在地ハ毎月五回以上但シ甲府警察署ニ限り毎月十回以上

二、署所在地ノ隣接町村ニ於ケル巡査派出所ハ毎月三回以上

三、巡査駐在所、巡査出張所ハ毎月一回以上全町村ハ一年三回以上

第十八條 警察署以下監督者二名以上ノ署ニ於テハ豫メ警務長ノ認可ヲ得テ前二條ノ回数ヲ減スルコトヲ得

第十九條 署所在地巡査駐在所、巡査派出所等ノ巡視ノ程度ノ三分ノ一ヲ夜間ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十條 警察署部以下監督者ノ巡視ハ出發毎ニ其ノ方面ヲ指定シ監督ニ厚薄ナカラシムヘシ

第二十一條 全町村ノ巡視ハ巡査派出所、巡査駐在所、巡査出張所ノ巡視ト併行スルコトヲ得

第二十二條 監督者ハ各町村部落ニ配置セル警邏表ニ認印スヘシ

第二十三條 監督者ハ巡査部長派出所、巡査派出所、巡査駐在所、巡査出張所ヲ巡視シタルトキハ其ノ日時ヲ日誌ニ記載シ認印スヘシ

第二十四條 巡視ノ際指示又ハ注意スヘキ事項ハ指示簿(第二號様式)ニ記入認印スヘシ

前項ノ指示又ハ注意ニ對シテハ次回巡視員ニ於テ其ノ實行ノ狀況ヲ監督スヘシ

〔山梨警〕

書類監督	各書類ノ監督ヲ行フニ甲號令達ニ索引ヲ付セス且ツ警察報ノ加除訂正ヲ行ハサル個所アリシヲ以テ速ニ整理ヲ命ス
物品點檢	長靴ハ破損シアリシヲ以テ速ニ修理ヲ命ス
指示事項	(一)何村何々ノ里道ニ架シタル橋梁破損シ交通上危險ニ付修理方村役場ニ督促シ結果報告スヘシ
	(二)古物商某方ニ未ダ新シキ長靴陳列シアリ不審ニ付取調ヘントシタルモ營業者不在ナリシニ付歸宅次第其ノ出所ヲ取調ヘ結果報告スヘシ

指示事項	何月何日何巡査部長指示ニ係ル橋梁修理方交渉ノ件ハ實行古物商物品出所取調方ノ件ハ事故ノ爲實行ニ至ラス速ニ實行方再指示ス
------	--

備																				
考																				

凡例

- 一、本表ハ各監督者毎ニ作製スヘシ
- 一、署長以上交送アリタル時ハ其ノ左側ニ前任者ノ分ヲ朱記スヘシ
- 一、署所在地派出所、出張所、駐在所名ハ巡視ノ有無ニ拘ラス總テ之ヲ掲ケヘシ
- 一、全町村ヲ巡視シタルトキハ其ノ町村ヲ備考欄ニ記載スヘシ但シ數箇月ニ互リ巡視シタルトキハ其ノ最終ノ月ニ於テ其ノ旨報告スヘシ
- 一、指示事項中特異ナルモノ及其成績顯著ナルモノハ備考欄ニ詳記スヘシ

● 日誌監督巡視記録方ノ件

明治四十年四月 梨發第七三號

今回御改正相成候警察署分署處務規程、日誌規程監督巡視規程中文書其他日誌ノ記載等ニ關シ電話御問合ノ向キモ不都合ハ左記ノ通り御承知相成度依命此段及通牒候也

一監督巡視規程中巡視度數ヲ減減セラレタルハ一回ノ巡視モ尙有效ナラシメントノ御趣旨ニ付巡視記事ノ如キモ形式ニ流レシテ詳細ニ監督方ヲ記入

〔山梨警〕

シ右趣旨ニ反セサル様注意ノ事

- 一監督者間ノ連絡ヲ充分ナラシメ且ツ指示事項ハ自身又ハ次回ノ監督者ニ於テ適當ニ執行シアルヤ否ヲ監視スル事
- 一日誌規程第二號様式中巡視月日時及指示事項ハ朱書スル事
- 一監督巡視規程第一號及日誌規程第一號乃至第四號様式ノ記事ハ各其題目ノ下ニ横線ヲ用ヒサル事
- 一記事ハ各様式ニ示セルカ如ク例令ハ服務(此間凡一)午前八時ヨリ警運云々等ト記シ新ニ歸所ノ題目ヲ起サス引續キ記載スル事
- 前記ノ如ク件名ト要領トノ間隔ヲ置キ其記事次野ニ跨ル時ハ一字ヲ下ケ記載ノ事
- 一一人勤務ノ場合モ日誌規程第六條ニ準シ警運其他各記載事項ノ下ニハ其都度認印ノ事
- 一記事ハ總テ冗長ニ涉ラス簡明ナラシムル事ニ注意ノ事
- 一警察署分署處務規程第二十七條中巡查部長巡查ノ派出所駐在所位置變更等ハ其事由ヲ具シ知事宛進達ノ事
- 一同規程第三十一條ニ往復文書式アルニモ拘ラス文字ノ配列錯雜ナルモノアリ別紙ノ如ク作製方注意ノ事
- 一同規程第十五條一號二號様式中記載事項ノ下印ハ取扱者ニ限ル例ハ何

● 警察巡閱規則

大正十年九月二日 内務省訓令第十四號

東京府 府府廳ヲ除ク

警察巡閱規則左ノ通改正ス

警察巡閱規則

- 第一條 警察巡閱ハ警察官吏ノ勤務、教養ノ狀況、紀律ノ張弛、警察及衛生行政運用ノ實況並成績ヲ查閱シ當該事務ノ改善ヲ圖リ其ノ實效ヲ收ムルヲ以テ目的トス
- 第二條 廳府縣長官ハ警察部長 警視廳ニ在リテハラシテ毎年管内全部ノ警察巡閱ヲ行ハシムヘシ但シ土地ノ狀況又ハ已ムラ得サル事由ニ依リ警察部長ヲシテ管内全部ノ警察巡閱ヲ行ハシムル能ハサルトキハ警察部 警視廳ニ在リテハ、勤務ノ警視 監察官ヲ置ク地方ヲシテ其ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第三條 警察巡閱ニ於テ查閱スヘキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 警察官吏ノ勤務、配置、監督、教養訓練、紀律及召集ニ關スル事項
- 二 警察及消防ノ設備ニ關スル事項
- 三 事務ノ處理、會計經理ノ適否
- 四 警察處分ノ適否及警察官吏ノ民衆ニ對スル處遇
- 五 訓示及命令徹底ノ狀況
- 六 行政警察ニ關スル事項

一 文書收發番號ハ四月ヨリ新ニ起ス事

別紙

甲發第 號

明治 年 月 日

何警察署長 官 氏 名

(此處一署ヲ空ケ)

警務長事務官 氏名殿

(此處二署ヲ空ケ)

密實淫檢舉ノ件

本日午前三時部内甲府市何町飲食店何之誰方雇酌婦縣郡村誰長女又ハ妹何ノ某當何年ハ雇主方何處々ニ於テ云々

此段及御報告候也

● 署長監督簿備付ノ件

大正三年八月 梨發第一一四號

爾今警察署長(分署長)警察署(分署)監督規程第三條ニ定ムル様式ニ準シ監督簿ヲ備ヘ監督ノ狀況ヲ記載スヘシ但下級監督者及各巡查毎ニ口座ヲ設クルヲ要セス

- 七 刑事警察並即決處分ニ關スル事項
 - 八 高等警察ニ關スル事項
 - 九 水消防ニ關スル事項
 - 十 保健衛生ニ關スル事項
 - 十一 豫防衛生ニ關スル事項
 - 十二 防疫ニ關スル事項
 - 十三 警務ニ關スル事項
 - 十四 保健衛生調査ニ關スル事項
- 第四條 巡閲官巡閲ヲ終了シタルトキハ其ノ狀況ヲ盡シ意見ヲ附シ所屬廳府縣長官ニ復命スヘシ
- 廳府縣長官前項ノ復命ヲ受ケタルトキハ巡閲官ノ意見書及巡閲日誌ヲ添へ速ニ其ノ概況ヲ內務大臣ニ報告スヘシ
- 第五條 本規則中警視廳警務部長ノ職務ハ消防事務ニ付テハ消防部長ヲシテ之ヲ行ハシムルモノトス
- 第六條 北海道廳長官ハ別ニ規定ヲ設ケテ巡閲ヲ行ハシメ又ハ警察巡閲ニ代ヘ管下ノ警察事務ヲ査閲セシムルコトヲ得
- 北海道廳長官前項ノ規定ヲ設ケタルトキハ內務大臣ニ報告スヘシ

〔山梨警〕

六 巡閲官ノ職務ハ...

一 巡閲官ハ...

二 巡閲官ハ...

三 巡閲官ハ...

四 巡閲官ハ...

五 巡閲官ハ...

●巡閲ノ際附箋指示事項處理方ノ件

大正三年三月 警務第五二號

巡閲ノ際指示又ハ指示シタル事項ハ速ニ相當整理ヲ行ヒ且ツ將來改善ヲ要スヘキ點ハ各巡査ニ副授シテ之ヲ實行ヲ期スヘキハ勿論ナリト雖モ尙爾今符箋ニ對スル分ハ巡閲施行後二十日以内ニ左記ニ依リ其爾末ヲ報告セラルヘシ

左記

符箋指示事項處理爾末報告	簿 冊 名 符	箋 事 項	處 理 爾 末
何			
何			
何			
何			
何			

警察事務概況

注意 巡閲當時ノ狀況ヲ記載スルコト

●巡閲施行調査事項ノ件

大正十一年一月 警訓第五號

自今警察巡閲施行ニ際シテハ別紙事項調査ノ上當日巡閲官ニ提出スヘシ

警察(分)署

調査事項		調査結果	
一	巡閲官ノ職務ハ...
二	巡閲官ハ...
三	巡閲官ハ...
四	巡閲官ハ...
五	巡閲官ハ...
六	巡閲官ハ...
七	巡閲官ハ...
八	巡閲官ハ...
九	巡閲官ハ...
十	巡閲官ハ...
十一	巡閲官ハ...
十二	巡閲官ハ...
十三	巡閲官ハ...
十四	巡閲官ハ...
十五	巡閲官ハ...
十六	巡閲官ハ...
十七	巡閲官ハ...
十八	巡閲官ハ...
十九	巡閲官ハ...
二十	巡閲官ハ...

巡查身分表

拜命年月日	勤続年數	現俸給額	精勤加俸額分	掌氏	名生	年月

警察(分)署 四二六

本表ハ巡閱施行三日前ノ現在ニ依ルコト

警察費現況表

科	目	款	項	節	警察費現況表	
					豫算令連額	豫算増減額
					計	何月迄支拂額
						殘額
						何月ヨリ年度末迄支拂見込額
						差引過不足
						備考

警察(分)署

注意 一、本表ハ巡閱施行前月末ノ現在ニ依ルコト
二、豫算殘額及不足額ハ朱記スルコト

司法警察ニ關スル調

年	別	送致件數	憲役	同	金	拘留	科	料	無罪	起訴	猶豫	不起訴	其他	微罪	解放	未檢	舉件	數
大正																		

警察(分)署

〔山梨警〕

〔山梨警〕

年	別	拘留	言渡	件數	計	執行	未執行	料	免	除

備考 一 憲役欄中朱書ハ受刑者ニシテ刑ノ執行猶豫ヲ言渡サレタルモノ
二 其他ノ欄中何件ハ特別裁判所ノ事件ニシテ憲兵分隊ヘ何件專賣局甲府出張所ヘ事件移牒
三 送致件數ト結果ノ符合セサルハ裁判所ニ於テ審理中ノモノ何件アル爲メナリ

即決處分ニ關スル調

警察(分)署

年	別	犯罪	常習者	不良者	假出獄者	刑執行猶豫者	刑執行停止者	起訴猶豫者	不良少年	計

刑事要觀察人ニ關スル調

警察(分)署

年	別	犯罪	常習者	不良者	假出獄者	刑執行猶豫者	刑執行停止者	起訴猶豫者	不良少年	計

集會調

警察(分)署

集會	種別	集會總度數	取	締	度	數	行政	檢束	數	備考

思想 其他ノモノ	問 同	集 同	會 同	警備問題集會 (農業爭議ヲ含ム)	朝鮮人ノ主宰セル集會	
					同	同
特別要視察人ノ主體 セルモノ	屋外					
人員數						
有料件數						

注意 一「閉會度數」ハ届出ヲ要セサル集會ヲモ合メテ計上スルコト
 二「禁止制限度數」ハ治安警察法第八條第一項ノ屋外集會ニ關スルモノトス
 三「注意度數」トハ集會ニ於ケル講談論議ニ對シ若シ注意ヲ與ヘタルモノアリトセハ其ノ度數ヲ計上スルコト
 四「中止度數」トハ同機集會ニ於ケル講談論議ヲ警察官ニ於テ中止シタル度數、解散度數ハ集會ニ對シ解散ヲ命シタル度數ヲ計上スルコト
 五「行政檢束度數」ハ上記集會ニ關スルモノ、ミテ計上スルコト

備考欄ニハ集會ニシテ入場料其他名義ヲ以テ料金ヲ徴收シタル集會ノ度數ヲ掲記スルコト

警察(分)署

犯 罪 種 別	犯 罪 件 數	件 同	上 ノ 數	内 人 檢 舉 數 員	合 計

注意 本犯罪ニシテ歐洲戰亂前ニ比シ著シク増加ノ傾向アラハ其狀況ハ別紙ニ記載スルコト

〔山梨警〕

〔山梨警〕

警察(分)署

各 病 別	種 別	各種傳染病患者百對傳染經路別調 (大正 年)			飲食物傳染	接觸傳染			不明 合計
		河 水 井	水 其 他	計		看 護 從 事 其 他	不 明	合 計	
計									

警察(分)署

日 數	種 別	傳染病發病届出轉歸ニ關スル調 (大正 年)					
		市		郡		合	
		發病ヨリ決定迄	發病ヨリ轉歸	發病ヨリ決定迄	發病ヨリ轉歸	發病ヨリ決定迄	發病ヨリ轉歸
		治癒	死亡	治癒	死亡	治癒	死亡
計							

本表ハ各種傳染病別ニ調査スルコト

患者發見方法別

計	市	郡	部	郡市別		醫師届出	患者申告	檢病的 戸口調査	健康診断	死體檢案	投書密告其他	計
				實數	發見方法							
患者百ニ付	患者百ニ付	患者百ニ付	患者百ニ付	實數	發見方法							

警察(分)署

療養別患者死者別

年別	市	郡	部	療養別患者死者別		患者百ニ對	患者百ニ對	患者百ニ對	患者百ニ對	患者百ニ對	患者百ニ對
				患者	死者						
計	計	計	計	患者	死者	患者百ニ對	患者百ニ對	患者百ニ對	患者百ニ對	患者百ニ對	患者百ニ對

警察(分)署

工場檢査數調

工場名	署	長	一警	部	一警	部	補	一巡	査	部	長	一巡	査	一	別

〔山梨警〕

〔山梨警〕

備考 工場名ハ年末現在工場法適用工場ヲ計上スルコト

計

工場法違反者發見調

警察(分)署

備考 一ヶ年分調査ノコト

業名	違反事項	發見	見	者	區	別	計

自警組合表

名	稱	組合員數	設置區域	備考

備考 ハ設置年月日其他ヲ記載スルコト

私設消防組表

町村名	組員數	設置區域	設置年月	唧筒數

末尾ニ公設消防組設置町村名ヲ列記スルコト

營業禁止處分表

業 態	禁停止取消ノ種別期間	營業者住所氏名	處分ノ理由

工場従業者表

工場所在地	工事ノ種別	勞働者従業者數	其他従業者數	事業者名

朝鮮人ヲ區別スルコト

〔山梨警〕

●警察事務監察委員規程

大正十三年二月十四日
山梨縣訓令甲第一號

〔山梨警〕

- 第一條 警察事務監査ノ爲警察部ニ監察委員ヲ置ク
- 第二條 監察委員ハ警察部所屬ノ警視、警部及技師中ヨリ之ヲ命シ警視又ハ警部ノ一名ヲ以テ其ノ主任トス
- 第三條 監察委員ノ擔任事務左ノ如シ
 - 一 警察巡閱規則第三條ノ事項ノ視察調査
 - 一 一般警察事務ノ研究調査
 - 一 特命ニ保ル事項ノ視察調査
- 第四條 監察委員ハ警察官署ニ臨ミ監察上必要ナル書類若ハ物件ノ提出ヲ求メ又ハ當該者ノ意見ヲ徵スルコトヲ得
- 第五條 監察主任ハ警察部長ノ指揮ヲ承ケ監察事務ヲ整理スヘシ
- 第六條 監察委員ハ直接警察部長ノ指揮ヲ承ケ其ノ視察調査シタル事項ニ關シテハ直ニ書面又ハ口頭ヲ以テ復命スヘシ

第九章 文書統計

●統計材料簿調製例規

明治三十一年六月
訓第六三號

一 本簿ハ月報年報調製ノ材料ニ供シ併セテ事故ノ繁閑ヲ見ルモノトス

〔山梨警〕

- 二 本簿用紙ハ總テ半紙判ヲ用ヒ毎年其始メニ於テ調製シ一年間通用スルモノトス
- 三 本簿ハ發生セシ事故ヲ各類別ニ依リ其都度記入スルモノトス
- 四 本簿ノ書式ハ増減變更スルコトヲ許サス但増減變更ノ必要アルトキハ事由ヲ具シテ警部長ノ指揮ヲ受ケヘシ

(△印朱書)

被難及 發見ノ 月日	被難及發 見ノ種別	家船 別ノ 貨幣	數 量	類 別	衣 類	雜 品	家 畜	貨幣 計	被難者 住所氏名	備 考
何何月日	窃盜	家	三	三、二〇〇				三、二〇〇	何村	
何何月日	拘摸	人	三	一、一〇〇				六、三〇〇	何村	△何月何日被 告ト共ニ檢事ヘ 送ル
△何何月日	△被告逮捕 ニ付發見							△六、一〇〇	何某	
何何月日	田野盜	家	八	三、〇〇〇				三、〇〇〇	何村	
何何月日	詐欺取財	人	一	六、〇〇〇				六、〇〇〇	何村	
△何何月日	△某所ニ於テ							△六、〇〇〇	何某	△何月何日書類 檢事ヘ送ル

盜難事件ニシテ家ノ場合ハ屋内屋外ヲ區別記入スヘシ

月日	原由	所為	縁事上ノ關係	住	所職	業	男女別	氏	名	年	齡
一 原由、所為、縁事上ノ關係ノ記載例ハ年報第一、第二、第三ヲ参照スヘシ											
災害其他ノ事故ニテ死セシ人											
月日	原由	住	所職	業	男女別	氏	名	年	齡		
被殺害者											
月日	原由	住	所職	員	男女別	氏	名	年	齡		
一 原由欄ノ記載例ハ年報第五ヲ参照スヘシ											

〔山梨警〕

一 原由欄記載例ハ年報第四ヲ参照スヘシ

〔山梨警〕

月日	場	所	年	齡	男	女	男	女	死	棄	兒
一 年齢不明ノ場合ハ推定年齢ヲ記入スヘシ其ノ他年報第六ヲ参照スヘシ											

月日	種別	家船人ノ別	住	所	姓	名	官吏人民	住	所	姓	名
三月二日	盜難ニ罹ラントセシ	家	川口郡漁村百番戸	柳下	鯉作	巡査	川口警察署詰	與田	種作		
同	自殺セントセシ	人	同郡同村二番戸	水上	小太郎	人	川口郡漁村三番戸	水上	大二郎		
五月七日	失火ヲ消止メシ		何々								
七月十三日	迷兒		何々								
	過失ニテ死セントセシ										
	盜賊ニ殺サレントセシ										

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

本表ハ病名毎ニ區別調製スルヲ要ス
報告番號ハ各病名ニ依リ起號シ其病名毎ニ一年內追番號ヲ付スルモノトス

月 日	集 會	屋内外別	政談非政談別	日數	停止禁止人員並 解散中止及失效	演說者氏名	住 發	
							所 起	人 名
		屋内外	政談	一	中止一人	某某 某某		
		同	宗 教	一				
		同	學 術	二				
		屋 内	政 談	一				
		屋 外	政 談	一				
		屋 内	政 談	一				

〔山梨警〕

〔山梨警〕

月 別	銃砲彈藥	銃砲及ヒ火藥ノ種別		内外國品ノ別		賣買ノ別	數	量	住 管	
		軍 銃	火 藥	外 國 品	内 國 品				所 業	者 名
		軍 銃	火 藥	外 國 品	内 國 品	賣	二	二百二十匁		
		獵 銃	獵 銃	同	同	買	二	二十匁		
		ダイナマイト	ダイナマイト	同	同	買	八	十匁		
		雷 管	雷 管	同	同	買	三	百匁		
		ピストル彈藥	ピストル彈藥	外 國 品	同	賣	五	十發		
		導 火 繩	導 火 繩	同	同	賣	一	尺二寸		

種別	月別	警 署											時間警署
		運											
		計	外地	五等地	四等地	三等地	二等地	一等地	計	視察人	諸營業及諸工場	諸	
一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計	

〔山梨警〕

種別	月別	檢 査											行政雜件
		檢											
		計	殺人	傷害	強盜	放火	竊盜	其他	計	自殺	誤死	其他	
一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計	

〔山梨警〕

就學勸誘	略本層類似品發賣頒布禁止品廢棄シム	盜難警防注意	古物商行商鑑札檢査	狩獵免狀攜帶檢査	食肉行商鑑札攜帶檢査	車掌取者鑑札及馬匹檢査	人力車乘馬駕籠鑑札及賃錢表檢査	寄託除糞防施行勸誘	苗代ヲ短冊形ニセシム	亂醉者保護	精神病者保護	水火震災其他避難者保護	舟車馬遭難者保護	負傷者保護	外國人保護

〔山梨警〕

無宿者保護	途上發病者保護	白痴者保護	聾者啞者盲目者其他不具者保護	老者幼者保護	棄子迷子保護	乞丐無賴者追放制止	暴行セントセシ者制止	未成年者喫煙禁止	舉動不審者誰何	家内不和合説諭	放蕩者説諭	苛酷ノ父兄説諭	不孝者不悌者説諭	不良少年説諭	博徒不良者説諭	争鬭口論制止

〔山梨警〕

喧 噪 制 止	危 險 行 爲 制 止	小 兒 惡 戲 制 止	猥 褻 行 爲 制 止	公 安 風 俗 ヲ 害 ス ル 文 書 圖 畫 等 ノ 掲 示 制 止	落 書 其 他 張 紙 ヲ 取 除 カ シ ム	看 板 門 標 及 各 種 賃 錢 表 掲 示 方 注 意	戸 締 遣 亡 告 知	戸 外 遣 亡 品 告 知	携 帶 又 ハ 輸 送 品 油 斷 告 知	崩 壞 又 ハ 人 ヲ 陷 落 セ シ ム ル 虞 アル 場 所 ノ 豫 防 装 置 ヲ ナ サ シ ム	井 戸 洗 場 溜 池 其 他 危 險 豫 防 ノ 設 備 ヲ ナ サ シ ム	道 路 ニ 於 ケ ル 障 害 物 ヲ 取 除 カ シ ム	道 路 ニ 於 ケ ル 溢 水 ヲ 防 カ シ ム	道 路 橋 梁 破 損 ノ 個 所 ヲ 修 繕 セ シ ム	道 路 其 他 不 潔 ノ 個 所 ヲ 掃 除 セ シ ム

〔山梨警〕

道 路 ノ 積 雪 ノ 排 除 セ シ ム	通 行 人 ニ 危 険 ヲ 及 ス 虞 アル 物 件 注 意	煙 突 ノ 掃 除 ヲ ナ サ シ ム	爐 炬 煙 風 呂 湯 等 ノ 裝 置 ヲ 改 メ シ ム	焚 火 ヲ 注 意 ス	薪 材 其 他 燃 料 置 場 ヲ 改 メ シ ム	火 氣 移 リ 易 キ 物 品 始 末 注 意	取 扱 取 扱 方 ニ 付 注 意	暖 爐 火 鉢 及 ラ ン プ 其 他 燈 火 取 扱 注 意	消 防 器 具 檢 査	過 度 ノ 人 員 物 品 積 載 制 止	過 度 ノ 速 力 ヲ 以 テ 通 行 車 馬 制 止	車 馬 其 他 ニ 燈 火 セ シ ム	狂 犬 及 野 犬 撲 殺	逸 走 獸 取 押	家 畜 虐 使 制 止	煮 沸 水 使 用 ヲ 注 意 ス

〔山梨警〕

日別	日一		日二		日三		日四		日五	
	發	收	發	收	發	收	發	收	發	收
別發收										
省 關										
團 師										
所判裁										
縣府廳										
局電郵便										
廳 縣										
署獄監										
部察警										
官署 警察										
役所 郡市										
他 其										
會院學 社銀校 社行病										
願 人										
屆 民										
指令										
雜										
合 計										

文書員數

〔山梨警〕

月別	旅 宿 人 員		客 人		合 計	遊 客	遣 拂 金 高
	男	女	男	女			
內 國 人							
外 國 人							
合 計							
下 宿 人 員							
遊 客							
合 計							
其他制止雜件							
其他說諭雜件							
其他注意雜件							
其他保護雜件							
販賣飲用水ニ付注意							
氷雪ヲ廢棄セシム							
清涼飲料水ヲ廢棄セシム							

〔山梨警〕

月	日	種	別	開	廢	業	ノ	別	住	所	姓	名
五月	八月	富士	川通	船	廢	業		業				
二月	二日	賀	屋	廢	業			業				
興行												
月	日	興	行	場	所	種	別	營業	非	興	行	日
營業	別	數	出	所	姓	名	人	名	人	名	人	名

〔山梨警〕

〔山梨警〕

月	別	販	賣	人	員	需	用	人	員	牛	羊	別	頭	數	押	乳	高	販	賣	高	賣	場	金	高
屠獸																								
月	日	牛	馬	羊	豚	ノ	別	牝	牡	ノ	別	斤	數	代	價	住	居	獸	届	出	人	姓	名	

獸類傳染病

月日	發病月日	病名	獸名	種類	牝牡ノ別	年齢	全治月日	斃死月日	撲殺月日	畜住	所氏	主名

●文書編纂種目保存期限ニ關スル

昭和七年八月 山梨縣訓令乙第一五五號

警務課

番號	名	稱	索引	保存	期間	摘要
一	官報	要	要	永年	月別ニ裝訂スルコト	要
二	縣報	要	要	永年	年別ニ裝訂スルコト	要
三	警務	要	要	永年	同	要
四	警務	要	要	永年	同	要

訓令通牒等ニシテ例規トナルヘキモノヲ庶務、警備、會計、共済組合ニ分册ス

〔山梨警〕

二九	警務諸表	要	永年	年報月報其ノ他諸表ヲ編綴ス
三〇	各省照會書類	要	五年	
三一	各所照會書類	不要	五年	庶務警察共済ニ分册ス
三二	各所通報書類	不要	五年	
三三	豫算關係書類	不要	永年	
三四	追加豫算關係書類	要	永年	
三五	支拂關係書類	不要	十年	
三六	給與品、貸與品關係書類	不要	三年	
三七	警察廳合署關係書類	不要	永年	
三八	經費支拂報告書類	不要	一年	
三九	電話稟請關係書類	要	永年	
四〇	電話關係書類	不要	十年	
四一	電話工事關係書類	要	十年	
四二	電話寄附關係書類	要	永年	
四三	電話交換手勤務表	不要	一年	
四四	電話工夫勤務旬報	不要	一年	
四五	電話故障修理報告	不要	一年	

甲ハ後日參照ノ要アルモノ、乙ハ一時限リノモノ

〔山梨警〕

一三	監督巡視報告綴	不要	五年	
一四	調授報告綴	不要	五年	
一五	判任官身分關係書類	不要	十年	
一六	巡查進退書類	不要	十年	
一七	巡查採用書類	要	永年	
一八	巡查不採用書類	要	五年	
一九	昇給審査書類	不要	十年	
二〇	警察賞與關係書類	不要	十年	官吏ノ職務上ニ關スルモノト然ラサルモノトニ分册ス
二一	巡查給助書類	要	永年	
二二	巡查解職書類	要	永年	
二三	請願巡查關係書類	不要	五年	
二四	拘留係免除關係書類	不要	十年	
二五	職員進退書類	不要	十年	
二六	吏員願屆關係書類	不要	五年	
二七	武道關係書類	不要	五年	
二八	警察署々限規程	要	永年	各警察署ニ分册ス

二九	警務諸表	要	永年	年報月報其ノ他諸表ヲ編綴ス
三〇	各省照會書類	要	五年	
三一	各所照會書類	不要	五年	庶務警察共済ニ分册ス
三二	各所通報書類	不要	五年	
三三	豫算關係書類	不要	永年	
三四	追加豫算關係書類	要	永年	
三五	支拂關係書類	不要	十年	
三六	給與品、貸與品關係書類	不要	三年	
三七	警察廳合署關係書類	不要	永年	
三八	經費支拂報告書類	不要	一年	
三九	電話稟請關係書類	要	永年	
四〇	電話關係書類	不要	十年	
四一	電話工事關係書類	要	十年	
四二	電話寄附關係書類	要	永年	
四三	電話交換手勤務表	不要	一年	
四四	電話工夫勤務旬報	不要	一年	
四五	電話故障修理報告	不要	一年	

甲ハ後日參照ノ要アルモノ、乙ハ一時限リノモノ

番號	名	稱	索引	要否	期限	保存	摘要
四六	警察共濟組合掛金拂込書類		要	要	五年		
四七	同收支報告書類		要	要	五年		
四八	同給與金領收證副本		要	要	五年		
四九	同組合員異動報告類		要	要	十年		
五〇	同脱退者關係書類		要	要	五年		
五一	警務雜書		要	要	五年		他ニ入ルヘキ簿冊ナキ モノヲ庶務會計ニ分册ス
一	教習巡查試驗成績表		要	要	五年		臨時試驗卒業試驗ヲ合 編ス
二	職員願屆書類		要	要	五年		
三	教習巡查願屆書類		要	要	五年		
四	教習巡查懲罰書類		要	要	五年		
五	各所照會書類		要	要	五年		
六	教習雜書		要	要	五年		他ニ入ルヘキ簿冊ナキ モノ

〔山梨管〕

番號	名	稱	索引	要否	期限	保存	摘要
一	保安例規		要	要	五年		保安、電氣、瓦斯、火 藥、工場、建築、索道、 渡航ニ分册ス
二	親展保安例規		要	要	五年		保安、工場ニ分册ス
三	親展圖書類		要	要	十年		右 同
四	外國旅券及移民關係書類		要	要	十年		
五	外國旅券ニ關スル書類		要	要	十年		
六	各所通報乙甲		要	要	五年		保安、工場ニ分册ス
七	各所照會		要	要	五年		右 同
八	銃砲火藥關係書類		要	要	五年		
九	電氣關係書類		要	要	五年		
一〇	瓦斯關係書類		要	要	五年		
一一	索道關係書類		要	要	五年		
一二	消防關係書類		要	要	五年		
一三	建築認可書類		要	要	十年		
一四	建築線指定認可書類		要	要	五年		
一五	假設建築物建築許可書類		要	要	五年		
一六	各署申報		要	要	五年		保安、工場ニ分册ス

番號	名	稱	索引	要否	期限	保存	摘要
一七	狩獵關係書類		要	要	五年		
一八	廣告物碑表關係書類		要	要	十年		
一九	精神病者關係書類		要	要	五年		
二〇	災害書類		要	要	十年		
二一	興行關係書類		要	要	十年		
二二	諸營業者關係書類		要	要	十年		自動車關係ヲ除ク
二三	林野關係書類		要	要	五年		
二四	自動車運轉手免許願書類		要	要	五年		
二五	自動車運轉手免許證再下付願書類		要	要	五年		
二六	自動車運輸營業免許書類		要	要	五年		
二七	自動車運轉手免許證遺失他府縣通報書類		要	要	五年		
二八	自動車運轉手雇人關係書類		要	要	五年		
二九	自動車運轉手行政官廳分府縣通報書類		要	要	五年		
三〇	保安雜書		要	要	三年		保安、工場、自動車關 係ニ分册ス
三一	保安諸表		要	要	五年		保安、工場ニ分册シ年 報、月報、其他諸表ヲ 含ム

〔山梨管〕

番號	名	稱	索引	要否	期限	保存	摘要
三二	就業時間延長認可書類		要	要	五年		
三三	負傷疾病表關係書類		要	要	五年		甲乙ニ分册ス
三四	工場臨檢其他復命關係書類		要	要	五年		
三五	工場法違反關係書類		要	要	五年		
三六	扶助規則制定屆		要	要	十年		
三七	貸金率及計算方法綴		要	要	十年		
三八	就業規則制定屆		要	要	十年		
三九	就業時間休養休日變更書類		要	要	五年		
四〇	工場建設書類		要	要	五年		
四一	輪番休業書類		要	要	五年		
四二	扶助月報關係書類		要	要	五年		
四三	職工異動表關係書類		要	要	五年		
四四	工場管理人認可關係書類		要	要	十年		
四五	工場醫設置關係書類		要	要	五年		
四六	労働者募集許可證返納關係書類		要	要	五年		
四七	工場増減書類		要	要	五年		
四八	工場休業開業書類		要	要	五年		

四九	勞働者募集關係書類	不要	十年		
五〇	就業案内又ハ雇傭契約書類	不要	十年		
五一	汽罐汽機關係書類	不要	永年		
五二	勞働者募集許可願	要	十年		
五三	勞働者募集許可證再下附願	要	十年		
五四	諸承認關係書類	不要	五年		
五五	扶助代理人關係書類	不要	十年		
五六	勞働者死傷報告書類	不要	十年		
五七	扶助報告關係書類	不要	十年		
五八	勞働者募集許可證再下附願	不要	十年		
一	刑事警察例規	要	永年	調令通牒等ニシテ例規トスルノ要アルモノ	刑事課
二	刑事警察親展例規	要	永年	右同	
三	移動警察關係例規	要	永年		
四	廣幣關係例規	要	永年	調令通牒等ニシテ例規トスルノ要アルモノ	

〔山梨警〕

四五	司法捜査(強盜關係)	不要	十年	強盜事件捜査ニ關スル書類
四六	同(強盜關係)	不要	十年	強盜事件捜査ニ關スル書類
四七	同(殺人關係)	不要	永年	殺人事件捜査ニ關スル書類
四八	同(詐欺關係)	不要	十年	詐欺事件捜査ニ關スル書類
四九	同(横領關係)	不要	十年	横領事件捜査ニ關スル書類
一〇	同(様式手配關係)	不要	十年	各種犯罪ニ關スル他府縣照會ニ對シ各署ニ指示文書
一一	同(其他各種關係)	不要	十年	各種捜査書類
一二	同(手配解除)	不要	一年	
一三	同(通報)	不要	五年	
一四	同(照會)	不要	五年	
一五	刑事雜書	不要	五年	他ニ編綴スヘキ簿冊ナキモノ
一六	行政捜査書類	不要	五年	司法捜査ニ屬セサル捜索人等ノ手配關係
一七	管内變死人關係書類	要	十年	變死變傷報告
一八	各省照會書類	要	十年	
一九	各省照會書類	要	十年	
二〇	受刑釋放者歸住狀況	要	十年	

四五八

二一	逮捕狀	要	永年		
二二	同取消書類	不要	五年		
二三	廣幣關係書類	不要	十年		
二四	移動警察關係書類	不要	五年		
二五	鐵道關係被害報告書類	不要	十年		
二六	親展書類	不要	十年		
二七	犯罪常習者異動報告書類	不要	五年	各署ヨリ報告ニ係ルモノ	
二八	被害報告書類	不要	十年	右同	
二九	犯罪檢舉報告	不要	五年	右同	
三〇	犯罪檢舉成績表	不要	五年		
三一	刑事諸表	要	永年		
三二	犯罪事件移送報告	不要	五年		
三三	被疑者引渡報告書類	不要	五年		
三四	重要異例犯罪檢舉報告	要	十年	各署ヨリ報告ニ係ルモノ	
三五	重要異例犯罪被害報告	要	十年	右同	
三六	起訴中止事件報告	要	十年		
三七	同上手配解除書類	不要	一年		

〔山梨警〕

一	傳染病發生報告	不要	五年		
二	傳染病轉歸	不要	五年		
三	各省照會	不要	五年		
四	各省通報	不要	五年		
五	各所照會	不要	五年		
六	各署申報	不要	五年		
七	賣藥免許書類	要	永年		
八	製藥商免許書類	要	永年		
九	看護婦免許書類	要	永年		
一〇	產婆登錄書類	要	永年		
一一	鍼灸按摩術免許書類	要	永年		
一二	賣藥規則外藥劑書類	要	永年		
一三	傳染病週報旬報月報	不要	五年		
一四	藥劑師會書類	不要	五年		
一五	諸表	要	永年		

衛生課

四五九

番號	名稱	索引	保存期限	摘要
一六	衛生令規	要	永年	
一七	屠場關係書類	要	永年	
一八	牛乳搾取所書類	不要	永年	
一九	家畜傳染病書類	不要	永年	
二〇	牛乳検査書類	不要	十年	
二一	獸醫師踏鑑工書類	不要	十年	
二二	獸醫師會書類	不要	十年	
二三	屠畜検査書類	不要	十年	
二四	醫師齒科醫師書類	要	永年	
二五	醫師會齒科醫師會書類	不要	十年	
二六	公私立病院ニ關スル書類	要	永年	
二七	市町村醫ニ關スル書類	不要	十年	
二八	模範衛生町村ニ關スル書類	不要	十年	
二九	衛生思想宣傳ニ關スル書類	不要	十年	
三〇	墓地火葬場産汚物埋納物書類	不要	永年	

〔山梨警〕

一	保險例規	要	永年	庶務、徴收、給付ノ三冊ニ區分ス
二	保險秘例規	要	永年	
三	會議書類	不要	永年	
四	事務引繼書類	不要	永年	
五	健康保險統計	不要	永年	
六	審査請求關係	不要	永年	
七	親展書類	不要	十年	
八	訴訟書類	不要	十年	健康保險法ニヨルモノ
九	健康保險組合事務監査	不要	十年	
一〇	損害賠償關係	不要	十年	
一一	保險經濟維持對策關係	不要	十年	
一二	保險給付費用負擔金算定	不要	十年	
一三	經費關係	不要	十年	
一四	歳入徴收關係	不要	十年	
一五	收入現金出納保管	不要	十年	
一六	差押調書	不要	十年	
一七	滯納處分事務書類	不要	十年	

一八	滯納處分票		十年	
一九	疾病負傷療養給付書類	不要	十年	診療報告書ヲ除キ療養ノ種別毎ニ區分ス
二〇	傷病手當金支給書類	不要	十年	
二一	死亡給付書類	不要	十年	
二二	分娩給付書類	不要	十年	分娩費、出産手當、助産手當ニ區分ス
二三	保險醫保險業師關係	不要	十年	
二四	保險助産婦關係	不要	十年	
二五	保健施設書類	不要	十年	
二六	事業主代理人選任關係	不要	十年	
二七	診療報告關係書類	不要	五年	
二八	臨檢證交付關係	不要	三年	
二九	保險給付停止書類	不要	三年	
三〇	被保險者資格關係	不要	三年	
三一	被保險者證明關係	不要	三年	
三二	標準報酬關係	不要	三年	
三三	健康保險復命	不要	三年	

三四	保健統計材料	不要	三年	
三五	健康保險庶務雜件	不要	一年	
三六	健康保險資格雜件	不要	一年	
三七	健康保險徴收雜件	不要	一年	
三八	健康保險給付雜件	不要	一年	

警察署文書編纂保存規程

昭和九年三月 山梨縣訓令乙第四十五號

第一條 警察署ニ於テハ別表ノ簿冊ヲ備付整理保存スヘシ但シ高等警察、特別高等警察並ニ召集徴發事務ニ關スル文書簿冊ハ本規程ニ定ムルモノ、外別ニ定ムルトコロニ依ル

第二條 簿冊ノ保存期限ハ文書完結ノ翌年ヨリ起算ス

第三條 完結ノ文書ハ可成一事件ヲ一括シ特ニ定ムルモノ、外完結月日順ニ編纂スヘシ

第四條 簿冊ニシテ索引ヲ要スルモノハ一事件毎ニ追番號ヲ附シ每葉ニ之ヲ記入スヘシ

第五條 索引ハ特ニ定ムルモノ、外様式第二號ニ依リテ作製シ之ヲ編首ニ附スヘシ

第六條 簿冊ハ臺帳其ノ他永年使用スヘキモノ又ハ次年ニ襲用スルモ妨ケナキモノヲ除クノ外一曆年(會計ニ關スルモノハ一會計年度)一冊トス但シ厚サ十五種以上ニ及フモノハ適宜分冊シ卷番號ヲ附スヘシ

第一編 警務 第九章 文書統計

簿冊ニシテ紙數少ク特ニ別冊トスルノ要ナキモノハ其ノ種類ニ最モ近キ
他ノ簿冊ニ編纂スルコトヲ得
第五條 數種ノ編纂種目ニ關係スル文書ハ其ノ關係ノ主タル種目ニ編纂ス
ヘシ
第六條 編纂シタル簿冊ハ様式第一號ニ依リ其表紙ニ種目年次保存期限及
卷數ヲ標記シ尙機密ニ係ル簿冊ハ「秘」ノ一字ヲ朱記スヘシ
第七條 令達及署規程等例規トナルモノニシテ變更アリタル場合ハ其ノ
都度加除訂正スヘシ
第八條 保存期限ヲ經過シタル簿冊ヲ廢棄セムトスルトキハ豫メ警察部長
ノ承認ヲ受クヘシ但シ機密ニ係ルモノハ燒却シ印章等他ニ利用セラル
虞アルモノハ廢棄前塗抹又ハ裁斷スヘシ
第九條 簿冊ハ様式第三號ノ表帳ヲ備置キ増減ニ從ヒ之ヲ整理スヘシ
附則
明治三十一年七月訓第七一號文書編纂保存例規ハ之ヲ廢止ス

編纂種目	索引	保存期限	備考	要
一 官報	要	永年	月別ニ編纂スルコト	
二 山梨縣報	要	永年	年別ニ編纂スルコト	
三 山梨縣警察報	要	永年	同	
四 警察署沿革誌	不要	永年		
五 警察令達	要	永年	庶務、會計、司法ニ分	

〔山梨警〕

六	警察署長會議書類	不要	永年	
七	上達書類編	要	永年	
八	諸表	不要	永年	甲ハ後日参照ノ要アルモノ、乙ハ一時限リノモノ、以下甲乙ノ區別アルモノ亦同
九	各種日誌	不要	永年	署内日誌、其他日誌
一〇	各所通報編	不要	永年	甲ハ他部署官衙ノ通報中事務取扱上例規トナルモノ、乙ハ一時限リトナルモノ
一一	署規程	不要	永年	乙甲
一二	監督簿	不要	永年	
一三	監督巡視報告綴	不要	十年	
一四	親展書類編	不要	十年	
一五	出勤簿	不要	十年	
一六	訓授綴	要	十年	
一七	現任巡査教養關係書類	不要	五年	
一八	新任巡査教養關係書類	不要	五年	
一九	注意報告書類編	不要	五年	
二〇	引繼書類編	不要	永年	

二一	巡查身分明細表	不要	永年	
二二	巡查考査表	不要	永年	
二三	署員進退賞罰書類編	不要	永年	
二四	吏員願屆書類	不要	五年	
二五	警邏表綴	不要	五年	
二六	各所照會書類編	不要	十年	
二七	聯合警務書類編	不要	五年	
二八	豫算關係書類編	不要	十年	
二九	縣收入關係書類編	不要	十年	
三〇	用度關係書類編	不要	五年	
三一	得遺失物關係書類編	不要	十年	
三二	保管金品關係書類編	不要	十年	
三三	支出計算書類編	不要	五年	
三四	縣出納吏ニ關スル書類編	不要	十年	
三五	縣稅外諸收入計算書類編	不要	五年	
三六	租稅外諸收入書類編	不要	五年	
三七	警察共濟組合關係書類編	不要	五年	

第一編 警務 第九章 文書統計

三八	諸營業願屆書類編	不要	永年	保安、衛生ニ分冊スルコトヲ得
三九	不許可禁止停止關係書類編	要	永年	
四〇	災害書類編	要	永年	
四一	海外渡航關係書類編	要	永年	
四二	林野關係書類編	不要	五年	林野火災ヲ除ク
四三	索道關係書類編	要	十年	
四四	自動車運轉事業免許願書類編	要	永年	書類少數ノ場合ハ諸營業願屆書類編ヘ編纂スルコトヲ得
四五	自動車運轉免許關係書類編	不要	十年	同
四六	自動車々輛關係書類編	不要	十年	同
四七	自動車運轉指し願書類編	不要	十年	
四八	建築認可申請書類編	要	永年	
四九	建築線指定申請書類編	要	永年	
五〇	建築願屆書類編	不要	永年	
五一	原動機關係書類編	要	永年	汽罐、汽機ヲ分冊スルコトヲ得
五二	労働者災害扶助法關係書類編	不要	十年	

五三	工場關係書類編	不要	十年	工場建設ハ諸營業願 書類編ヘ工場調査表 職工負傷疾病扶助日 關係等ハ夫々分冊ス コトヲ得
五四	労働者募集關係書類編	不要	十年	
五五	銃砲火藥類關係書類編	不要	永年	
五六	威銃關係書類編	不要	三年	
五七	狩獵關係書類編	不要	十年	
五八	興行關係書類編	不要	三年	興行場ノ許可認可書類 ハ諸營業願屆書類甲ヘ 編纂ノコト
五九	消防關係書類編	不要	永年	
六〇	人事相談關係書類編	不要	十年	
六一	檢事令達	要	永年	
六二	檢事局關係書類編	不要	十年	
六三	捜査書類編	不要	十五年	縣内ト他府縣トニ分 冊ノコト トモニシテ モノ總テヲ 編纂スルコ ト
六四	行政捜査書類編	不要	十年	縣内ト他府縣トニ分 冊ノコト
六五	犯罪被害通報書類編	不要	十年	縣内ト他府縣トニ分 冊ノコト

〔山梨警〕

六六	指名犯人手配書類編	要	十五年	指名犯人トシテ手配ア リタル書類一切ヲ編纂 スルコト
六七	贖罪關係書類編	不要	十五年	縣内ト他府縣トニ分 冊ノコト
六八	品觸關係書類編	不要	十五年	
六九	起訴中止事件關係書類編	要	十五年	
七〇	重罪不詳事件關係書類編	要	永年	
七一	輕罪不詳事件關係書類編	要	十年	
七二	重要異例犯罪事件關係書類編	要	永年	被害ト檢舉トニ分冊ス ルコト
七三	微罪處分關係書類編	要	十年	
七四	變傷事件關係書類編	要	十五年	
七五	逮捕捕狀	要	永年	
七六	逮捕狀關係書類編	不要	永年	
七七	刑事要視察人關係書類編	要	五年	
七八	受刑釋放者關係書類編	不要	五年	
七九	姪婦視察關係書類編	不要	三年	書類少數ノ場合ハ司法 得
八〇	拘留科料處分編	要	十年	
八一	拘留科料免除處分編	要	五年	

〔山梨警〕

八二	拘留科料執行ニ關スル書類編	不要	十年	
八三	拘留科料受託書類編	要	十年	
八四	刑事警察參考資料編	要	永年	
八五	傳染病關係書類編	不要	五年	
八六	結核トラホーム關係書類編	不要	五年	
八七	賣藥關係書類編	不要	十年	
八八	中毒關係書類編	不要	五年	
八九	日本住血吸蟲病關係書類編	不要	五年	書類少數ノ場合ハ衛生 得
九〇	經濟生合關係書類編	不要	五年	
九一	雜種願屆書類編	不要	十年	庶務、會計、司法、衛 生等ニ分冊スルコトヲ 得
九二	一齊取締關係書類編	要	五年	
九三	雜書類編	不要	五年	庶務、會計、司法、衛 生等ニ分冊スルコトヲ 得

警察沿革誌調査規程

明治三十五年六月 訓示第七五號

第一編 警務 第九章 文書統計

第一編 警務 第九章 文書統計

- 第一條 警察沿革誌ハ警察部ニ在テハ警務課警察署(分署)ニ在ツテハ署長又ハ代理者ニ於テ管理シ各其部署ノ沿革ヲ記録スヘシ
- 第二條 警察沿革誌ニ記載スヘキ事項左ノ如シ
 - 一 警察廳舎ノ開始年月日及廳舎ノ假用新築改築移轉火災其他敷地坪數及其異動
 - 二 警部長課長課僚署長署僚ノ交迭職階在官中死亡年月日及官氏名在任期間轉任先
 - 三 警察署分署ノ廢置分合及管轄區域ノ變更
 - 四 巡查定員ノ増減及駐在所配置ノ變更移轉並ニ其事由年月日
 - 五 警察費ノ増減及其理由但増減ナキ項目ハ再ヒ記載スルニ及ハス
 - 六 管轄内ニ於ケル著大ナル發生事項(水火災地震旋風傳染病流行選舉騷擾巡査職務上死亡其他重要事故)
- 第三條 警察沿革誌ニ於テ第四條第六條ノ事項ヲ沿革誌ニ記載シタル時ハ同文ヲ以テ警務課ヘ報告スヘシ
- 第四條 沿革誌ハ左ノ様式ニ依リ記載スヘシ

(用紙美濃紙)

何々	何年何月何日
同 假 用	、、、、、

新	、、、、、、、、、、、、
築	、、、、、、、、、、、、

警察署(分署)事務引繼規程

明治三十三年六月 訓第八二號

- 第一條 警察署(分署)ノ廢合又ハ署長ノ轉任休職免職等ノトキハ左ノ手續ニ依リ事務ノ受渡ヲ爲スヘシ
- 一 前任者ハ處分未済ノ事件及將來改良或ハ新規施設等ノ見込アル事件ニ付其意見ヲ詳細シタル演述書ヲ作ルヘシ
 - 一 經費出納ノ現況及現在金位簿冊圖書備品消耗品保管品等ハ臺帳又ハ目錄等ニ對照調査シ其現在表ヲ作ルヘシ
 - 一 前項調査シ了シタルトキハ經費出納帳簿ノ外臺帳又ハ目錄ニ受渡ノ年月日ヲ記入シ署名捺印スヘシ
 - 第二條 定規例格ニ乖戻シ後任者ニ於テ受繼難シト認ムルモノアルトキハ狀ヲ具シ署部長ノ指揮ヲ請フヘシ
 - 第三條 前任者要急ノ事由アルカ又ハ赴任期限經過セントスルニ當リ後任者未タ著任セザルトキハ署部長ノ指揮ヲ受ケ第一條ノ手續ニ依リ次席代理者ハ假ニ事務ヲ引渡スコトヲ得代理者ハ後任者著任ノトキ更ニ引渡ヲ爲スヘシ
 - 第四條 事務受渡ヲ完了シタルトキハ受渡書ヲ作り其贈本ヲ添ヘ直ニ警部長ヘ報告スヘシ
 - 第五條 此規程ニ據リ作成スル書類ハ別紙書式ニ據ルヘシ

〔山梨警〕

(第一) 事務受渡書

何警察署(分署)事務受渡ヲ完了ス其現況別紙書類ノ如シ依テ茲ニ署名捺印ス

年月日

前任何警察署(分署)長 官 氏 名 印

後任何警察署(分署)長 官 氏 名 印

(第二) 演述書

何警察署(分署)事務中處分未済又ハ云々ノ事件前掲ノ通ニ有之候也

前任何警察署(分署)長 官 氏 名 印

(第三) 警察費現況表

(年月日調)

科	目	豫算額	仕拂額	殘額
警	察			
俸	給			
及	諸			
給	費			
應	費			
計				

廳舎建築修繕費

〔山梨警〕

(第四) 警察費現金調表

(年月日調)

種	目	金額	說	明
豫	備	金		
何	計			

(第五)

簿冊現在表

(年月日調)

名	稱	無期限	保存期限内	保存期限經過
記	録			
簿	簿			
計				

備考

(第六) 圖書備品消耗品現在表

(年月日調)

品	名	數	量	品	名	數	量
圖	書			備	品		
紙	品			炭	品		
紙	品			マ	ツ		
燭	燭			炭	品		

備考 受繼ノ數ヨリ圖書何冊備品何個増加減少シタルハ何書何冊何品何個購入破損シタルニ依ル

(第七)

保管物品現在表

(年月日調)

種	目	保管期限内	保管期限經過	計
拾	得			
價	品			
計				

備考	合 計	被告人所持品	囚人所持品	古物商質屋取 押品 古物商質屋取 徴収品 轉法ニ依ル	古物商質屋取 差押品 轉法ニ依ル

事務受渡報告書
何警察署(分署)事務本日受渡完了致候ニ付別紙受渡書際本相添此段及報告候也

明治 年 月 日
前任何警察署(分署)長 官 氏 名 氏
後任何警察署(分署)長 官 氏 名 氏
宛 名 氏 名 氏

●他府縣ト直接往復スル文書ノ件

明治三十七年十月
山梨縣訓令甲第五十六號
左ノ事項ニ關シ他府縣所轄ノ支廳郡市役所町村役場警察署等ニ對シ照會囑托等ヲ爲スノ必要アルトキハ所轄府縣ヲ經由セス直接往復スヘシ他府

〔山梨警〕

府縣所轄ノ官公署ヨリ直接照會囑托等ヲ受ケ應答スルトキ亦同シ但警察署ニ於テ其所轄ニ屬セサル件ニ付照會囑托等ヲ受ケタルトキハ便宜當該署ヘ轉送方取計フヘシ

一 賞狀木杯下附ノ件
右ハ受領者所在市區町村長ニ依頼ノ事
一 外國渡航者ノ身元調
右ハ所轄警察署同分署ヘ照會ノ事但福岡縣ニ限り同縣ヘ照會スヘシ

一 寄附金募集者ノ身元調
右ハ所轄警察署同分署ヘ照會ノ事但福岡縣兵庫縣ニ限り重要ノモノニ就キテハ同縣ヘ照會スヘシ
一 諸會社諸組合ノ定款書送付事業報告書又ハ現況調
右ハ成ルヘク直接會社組合ニ照會又ハ所在地市區町村長ヘ照會スル事但秘密調査ヲ要スルモノハ此限リニアラス

一 巡查退職料交付ノ件
右ハ受領者所在市區町村長(郡役所)所在地ニアリテハ郡長ニ囑託スルヲ得)ニ支給ヲ停廢スヘキ事由ノ有無調査交付ヲ囑託ノ事
一 巡查志願者身元素行等調
右ハ所轄警察署同分署ヘ照會ノ事但前職アリシ者ニ關シテハ前在職府縣ヘ照會スルコトヲ妨ケス

一 郡市區町村長ニ照會ヲ要シ又ハ郡市區町村内ノ公私法人私人ニ金錢物件若クハ文書ノ受授又ハ説諭ヲ爲ス等ノ場合ニ於テ事ノ輕易ニ屬スルモノ其他所轄府縣經由ノ必要ナキ件
右ハ直接郡市區町村長ニ宛テ發付シ又ハ依頼スル事

●部署長市(郡)長ト往復事項

明治二十五年一月
廳中第二號
部署長其名ヲ以テ(郡)市長等ト往復(知事ノ決裁ヲ)スルハ自今左ノ各項ニ限ルモノトス但從來規定アルモノハ此限ニアラス
一 提出シタル文書又ハ經由シタル文書中不分明ナルモノ、調査又ハ書式ニ違ヒタルモノ、訂正ニ關スル事
一 報告調査等ノ延滞催促ニ關スル事
一 保管ノ簿冊等ニ就キ調査シ得ヘキ時輕易ノ事項問合ニ關スル事項

〔山梨警〕

●他署ニ關聯スル申報事件ニ關係署名附記ノ件

明治二十六年十一月
示令第五五號
自今各所轄警察署管内ニ差起リタル犯罪其他ノ事件中申報スヘキ者ニシテ他ノ警察署ト連鎖ノ關係ヲ有スルカ若クハ他ノ警察署ニ注意ヲ要スヘキ者ト認メ警察署間互ニ文書ノ交通ヲ爲シタルトキハ申報署ノ末尾ニ其關係警察署名ヲ附記セラルヘシ

●他府縣巡查歸省旅行中ノ事故證

明治二十三年一月
示令第一號
他府縣ノ巡查並警察員ニシテ看護歸省出願ノ際若クハ歸省旅行中自身ノ疾病又ハ變災ニヨリ其證明ヲ出願候節ハ事實取調付與セラルヘシ

●檢事局令達文書ハ他文書ト區別ノ件

明治四十年二月
梨警發第一四號
檢事局ヨリノ令達書類ハ他文書ト區別編綴相成度又其他ノ文書編綴モ區々ニ出テ居ルノ據アルノミナラス其文書搜索上ニ於テモ自然不便ヲ免カレサル様被察候ニ就テハ四部ヨリ發スル文書ニハ渾テ左例ノ如ク編綴簿冊ノ頭字ヲ附記爲致候編綴上殊ニ注意相成度候依命此段及通牒候也
追テ巡查駐在所等ニ發セラル、文書ニモ本文ノ如ク御處置相成候ハ、編綴上便利ト被存候條爲念申添候也

●口頭願届取扱手續

明治四十二年九月
山梨縣訓令甲第四十九號
一 警察官署ニ於テ口頭願届ヲ受ケタルトキハ左記第一號様式ノ口頭收受簿ニ必要事項ヲ記入シ相當處理スヘシ
二 警察官署ニ於テ受理シタル願届事項中一時限ノ處分ニシテ指令書ノ交付ヲ要セスト認ムルモノハ口頭ヲ以テ許可スルコトヲ得但シ書面ニ依リ受理シタル事項ニ付テモ本項ノ例ニ據ルコトヲ得
三 巡查部長派出所、巡查派出所、巡查駐在所ニ於テ口頭願届ヲ受ケタルトキハ勤務日誌ニ處理ノ願末ヲ記シ尙其ノ要領ハ左記第二號様式ニ依リ相當記入シ之ヲ進達スヘシ

第一號様式

(用紙半裁)

第 月 日 號	香 收 受 月 日 號	第 月 日 號	香 收 受 月 日 號	第 月 日 號	香 收 受 月 日 號	
要 摘	件 名	要 摘	件 名	要 摘	件 名	
即日東京浅草署へ身元照會ス。同日三省樓主ヲ呼出シ雪江ノ身元ヲ内示シ速ニ解雇方ヲ注意ス。日三省樓ヨリ電話ニテ旅費貳圓ヲ與ヘ東京ニ歸ラシメタル旨申出タリ。	酌 婦 富 士 雪 江 履 入 届 届	願人ノ長女ナキニ十九年ハ同村製糸場ニ通勤シ居タルニ客月三十日工賃拾五圓ヲ受取リタル儘行衛不明トナレリ同人ハ職テ同工場男工某ト私通シ居リ男工某モ同日行衛不明トナリシ事實アリ多分墮落セシモノト認メラル然ルニ願人ハ六十一歳ノ老年ニテ日稼ヲナスモ一日僅カニ貳拾錢ヲ得ルノミ妻某ハ三四年前ヨリ病床ニ臥シ居リ從來ヤエノ工賃ニ依リ漸ク糊口シ居タリト云フ多分長野縣地方ヘ赴キ何處カノ製糸場ヘ履ハル、モノト認メラルト云フ。即日長野縣ハ、署ヘ手當方照會ス。日三省樓ヨリ本人取押ノ旨電報アリ直ニ願人ヘ示達ス願人ノ親戚某引取りノ爲メ出張シタリ。	願 人	願人ノ長男金平二十一年ハ自家ノ金品ヲ持出シ酒色ニ耽リ父兄ニ於テ説諭スルモ一向改心ノ情ナク然ルニ去ル六月廿五日願人カ銀行ヨリ引出シ來リ算筒ニ仕舞置キシ金百圓ヲ何時ノ間ニカ物取家出シ若松町何家藝妓某ヲ伴ヒ東京見物ニ赴キ今朝歸宅シタリト云フ。即日呼出狀ヲ發ス。四日實父同道出頭ス署長ハ懇ニ其心得ヲ諭シ戊申詔書ノ御趣旨ヲ説キ聞カセタルニ本人ハ大ニ後悔シ將來斷シテ放蕩セサル旨ヲ誓ヒタルニ付受書ヲ徴シタリ。	願 人	願 人
日 月	日 月	日 月	日 月	日 月	日 月	
終 日	終 日	終 日	終 日	終 日	終 日	

〔山梨警〕

〔山梨警〕

記載例

- 一 願人欄ニハ願届ヲ差出シタル者ノ住所職業氏名(屋號アルモノハ肩書スルコト)等ヲ記載スヘシ
- 一 摘要欄ニハ願届ノ事實及處分ノ要領ヲ摘記シ取扱者認印スルモノトス
- 一 事件複雑ニシテ摘要欄ニ詳記シ難キモノハ符號ヲナシ記録補足スルモノトス

第二號様式

(用紙半紙二ツ切)

要 摘	認 署 印 長	認 主 印 任	認 取 印 投 者	件 名	名 職 業 氏 名	願 届 人 住 所
	口頭願届受付用紙	(月 日)				

記載例

- 一 摘要欄ニハ願届ノ要領並ニ處理ノ手續ヲ簡明ニ記シ其事項ノ下ニハ取扱者認印スルモノトス

第十章 任用及定員採用

● 判任文官特別任用令

大正九年九月一日
勅令第三百五十七號

改正 大正九年一〇月勅令第四六六號、第五〇八號、一〇年一二月第四七四號、一一年三月第一一九號、一二年七月第三三七號、一三年一二月第四六〇號、一五年八月第二七六號、昭和四年七月第二四九號、六年六月第一五七號、九年一二月第三三七號

判任文官特別任用令

- 第一條 各處ノ警部及警部補ハ二年以上各處巡査ノ職ニ在リ學術試験及實務考査ニ合格シタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
- 外務省ノ警部及警部補ハ前項ノ規定ニ依ルノ外外務書記生タル資格ヲ有スル者又ハ二年以上外國在勤巡査ノ職ニ在リ普通試験委員ノ銜ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
- 警務ニ従事スル臺灣總督府内ノ警部及警部補ハ第一項ノ規定ニ依ルノ外二年以上蕃地ニ於テ蕃務ニ従事スル臺灣總督府内ノ巡査、雇員又ハ勸託員ノ職ニ在リ普通試験委員ノ銜ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
- 第二條 各處看守長ハ二年以上各處看守ノ職ニ在リ學術試験及實務考査ニ合格シタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
- 第三條 各處消防士ハ各處消防機關士ノ職ニ在リ若ハ二年以上判任官待遇ノ各處消防手ノ職ニ在リ學術試験及實務考査ニ合格シタル者又ハ各處ノ警部若ハ警部補ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
- 第四條 前三條ノ學術試験及實務考査ニ關スル規程ハ當該試験及考査ヲ行フ處ニ主管大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、

第一編 警務 第十章 任用及定員採用

〔山梨書〕

第一條	各處ノ警部及警部補ハ二年以上各處巡査ノ職ニ在リ學術試験及實務考査ニ合格シタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
第二條	各處看守長ハ二年以上各處看守ノ職ニ在リ學術試験及實務考査ニ合格シタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
第三條	各處消防士ハ各處消防機關士ノ職ニ在リ若ハ二年以上判任官待遇ノ各處消防手ノ職ニ在リ學術試験及實務考査ニ合格シタル者又ハ各處ノ警部若ハ警部補ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
第四條	前三條ノ學術試験及實務考査ニ關スル規程ハ當該試験及考査ヲ行フ處ニ主管大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、

關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ定ム

第四條ノ二 神宮衛士副長ハ三年以上神宮衛士ノ職ニ在リ普通試験委員ノ銜ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第五條 貴族院又ハ衆議院ノ守衛副長ハ三年以上貴族院又ハ衆議院ノ守衛ノ職ニ在リ普通試験委員ノ銜ヲ經タル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第六條 左ニ掲クル判任文官ハ其ノ所屬處ノ主管大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ定ムル規定ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

- 各處稅關監吏
 - 各處森林主事
 - 貯金局書記補
 - 簡易保險局書記補
 - 通信局書記補
 - 各處通信書記補
 - 各處通信書記補
 - 朝鮮總督府專賣局販賣所長
 - 臺灣總督府交通主事
 - 各處稅務吏
 - 北海道釧路川監守
- 附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス
明治二十四年勅令第九十二號

第一編 警務 第十章 任用及定員採用

明治二十六年勅令第二百九號 海關及朝鮮國在勤警部特別任用
明治二十九年勅令第三百七十四號 海軍通譯官特別任用令
明治三十年勅令第三百八十一號 稅關事務官補監視及監吏特別任用令
明治三十一年勅令第九十三號 稅關事務官補監視及監吏特別任用令
明治三十三年勅令第三百三十四號 臺灣總督府稅關屬特別任用令
明治三十六年勅令第二百八十七號 臺灣總督府通信屬及通信手特別任用令
臺灣總督府警部、警部補特別任用令
警部補特別任用令
關東都督府警部警部補特別任用令
明治四十三年勅令第三百九十八號 朝鮮總督府及所屬官署判任官特別任用令
朝鮮總督府稅關書記及監視特別任用令
警部消防士特別任用令
大正七年勅令第二百八十二號 奏任文官特別任用令附則二項但書及大正九年勅令第六十一號第五條第二項ヲ削ル
外國在勤警部及巡查任用及支給規則第二條第一項ヲ削ル
陸軍監獄官特別任用令第四條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ
海軍監獄官特別任用令第二條中「第五、第六ニ該ル者」ヲ「第五ニ該ル者」ニ、「三年以上上海軍監獄看守又ハ」ヲ「二年以上」ニ改メ同條第六號ヲ削ル

〔山梨警〕

附七四

明治二十九年勅令第三百六號第三條ヲ削ル
從前ノ規定ニ依ル考査及試験ニ合格シタル者ハ本令中之ニ相當スル學術試験及實務考査ニ合格シタル者ト看做ス但シ關東廳監吏ノ考査及試験ニ合格シタル者ハ關東廳看守長ノ學術試験及實務考査ニ合格シタル者ト看做ス本令施行ノ際現ニ臺灣總督府地方廳ノ林務手ノ職ニ在ル者ハ之ヲ臺灣總督府地方廳ノ森林主事ニ任用スルコトヲ得

●警部及警部補又ハ消防士特別任用學術試験及實務考査規程

昭和十一年四月十六日 內務省令第十三號

警部、警部補又ハ消防士特別任用學術試験及實務考査規程左ノ通改正ス
第一條 判任文官特別任用令ニ依ル警部及警部補又ハ消防士ノ特別任用ニ付テハ學術試験及實務考査ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル
第二條 學術試験及實務考査ヲ行フ爲メ廳府縣ニ考試委員ヲ置ク
考試委員ハ委員長及委員四名以上ヲ以テ組織ス
委員長ハ警務部長タル警視廳部長又ハ警察部長タル北海道廳部長若ハ府縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ但シ警視廳ニ於ケル消防士特別任用學術試験及實務考査ニ付テハ消防部長タル警視廳部長ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ警視廳ニ在リテハ官房主事、部長、警務部警務課長若ハ監察官タル警視又ハ消防部課長タル消防司令、消防士若ハ消防機關士ノ中ヨリ其ノ他ノ廳府縣ニ在リテハ警察部課長、監察官、巡查教習所長又ハ消防練習所長タル警視、警部又ハ消防士ノ中ヨリ廳府縣長官之ヲ命ズ
廳府縣長官ハ前項ニ掲ケル者ノ外本廳勤務ノ高等官中ヨリ委員ヲ命ズル

〔山梨警〕

コトヲ得

第三條 學術試験ハ筆記及口述ニ依リ法令例規ニ關スル知識、實務處理ノ技能其ノ他警察又ハ消防ニ必要ナル能力ヲ考試シ以テ警察又ハ消防ノ幹部タル資格ヲ有スルヲ判定ス
第四條 警部及警部補特別任用學術試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ但シ廳府縣長官ハ口述試験ニ付テハ科目ノ一部ヲ省略スルコトヲ得
一 憲法及行政法ノ大意
二 警察行政通則及警務
三 行政警察
四 治安警察
五 刑事警察
六 衛生警察
七 社會常識
八 其ノ他廳府縣長官ニ於テ必要ト認ムル科目
第五條 消防士特別任用學術試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ但シ廳府縣長官ハ口述試験ニ付テハ科目ノ一部ヲ省略スルコトヲ得
一 憲法、行政法及警察法ノ大意
二 消防行政通則及消防警察
三 消防技術及消防化學
四 消防機械ノ構成及其ノ使用法
五 社會常識
六 其ノ他廳府縣長官ニ於テ必要ト認ムル科目
第六條 實務考査ハ監督ノ任ニ在ル上官ノ意見ヲ徵シ警察考査規程ニ依ル考査表ニ照シ且本人ニ就キテ人物、能力其ノ他ヲ考査シ更ニ必要アリト認ムルトキハ武道、點檢、操練其ノ他ノ實務又ハ演習ヲ課シテ其ノ成

第一編 警務 第十章 任用及定員採用

續テ考査シ以テ警察又ハ消防ノ幹部タル資格ヲ有スルヲ判定ス
第七條 十年以上勤務シタル巡查又ハ判任官ノ待遇ヲ受ケル消防手ニシテ巡查部長又ハ消防部長ノ職ニ在リ實務考査ニ於テ其ノ成績特ニ優秀ナリト判定セラレタル者ニ對シテハ廳府縣長官ハ科目ノ一部ヲ省略シテ學術試験ヲ受ケシムルコトヲ得
第八條 學術試験及實務考査ニ合格シタル者ニハ別記様式ニ依ル合格證書ヲ付與ス
第九條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム
附則 本規程ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ警部、警部補又ハ消防士特別任用學術試験及實務考査ニ合格シタル者ハ之ヲ本規程ニ依リ合格シタルモノト看做ス
別記 (様式)

合格證書
廳府縣巡查 氏 名
年月日生
判任文官特別任用令ニ依ル警部及警部補特別任用ノ學術試験及實務考査ニ合格シタルコトヲ證ス
年月日
考試委員長
官位階勳等 氏 名
名 印

合格證書

名	府縣 消防機關士 又ハ消防手 氏
年月日生	
判任文官特別任用令ニ依ル消防士特別任用ノ學術試験及實務考査ニ合格シタルコトヲ證ス	
年月日	
考試委員長	
官位階勳等 氏	
名印	

警察考課表規程

昭和十一年四月十六日
內務省訓令第七號

府縣(東京府)

警察考課表規程左ノ通定ム

- 第一條 警察考課表ハ、考課ヲ受ケル警察官吏(以下被考課者ト稱ス)ノ人物、能力其ノ他一身上ニ關スル諸般ノ事項ヲ詳録シ進退、賞罰其ノ他身分ノ取扱ニ關スル資料ヲシムルト共ニ併セテ指導及監督上ノ參考ニ供スルモノトス
- 第二條 被考課者ハ、警部、警部補及巡查トス

〔山梨警〕

第三條 考課表ニ記載スベキ事項左ノ如シ

- 一 履歷ノ大要
 - 二 性格
 - 三 操行
 - 四 態度
 - 五 體格及健康
 - 六 修養及信仰
 - 七 服務ノ態度
 - 八 事務ノ能力
 - 九 執行務ノ狀況
 - 十 武道、點檢、操練及禮式
 - 十一 職務上ノ長所、短所及特技
 - 十二 上司、同僚及部下トノ關係
 - 十三 其ノ年度ニ於ケル功過
 - 十四 私生活ノ狀況
 - 十五 其ノ他
- 第四條 考課表ノ調製者(以下考課者ト稱ス)ハ左ノ各號ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 課、所又ハ署ニ所屬スル者ノ考課表ニ付テハ當該課、所又ハ署ノ長
 - 二 課、所又ハ署ニ所屬セザル者ノ考課表ニ付テハ廳府縣長官ノ指定シタル者
 - 三 初任教習中ノ巡查ノ考課表ニ付テハ教習所長
 - 四 前各號ニ掲グル考課者タル警部又ハ警部補ノ考課表ニ付テハ警察部長(警視廳ニ在リテハ警視總監ノ指定シタル官房主事又ハ部長)
- 警察部長(警視廳ニ在リテハ警務部長以下之ニ做フ)巡查教習所長タルト

〔山梨警〕

巡查部長登用及試験規程

大正十年六月
山梨縣訓令甲第二十七號

- 改正 昭和五年二月訓令甲第二十五號
- 第一條 巡查部長ハ品行方正事務ニ熟達シ武術ノ心得アリ且部下統御ノ才能アル者ニ就キ學術試験ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ノ内ヨリ任命ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得
 - 一 曾テ警部警部補又ハ巡查部長タリシ者
 - 二 文官任用令第六條一號乃至五號ノ資格ヲ有スル者
 - 三 判任文官特別任用令ニ依ル警部及警部補特別任用試験ノ合格證書ヲ有スル者
 - 四 巡查精勵證書ヲ有シ且巡查教習所講習科ヲ優等ノ成績ヲ以テ卒業シタル者
 - 第二條 試驗ハ必要ニ應シ左ノ科目ニ就キ警察部長之ヲ行フ
 - 一 憲法、行政法大意
 - 二 刑法、刑事訴訟法、裁判所構成法
 - 三 警察ニ關スル諸法規
 - 四 算術(珠算及筆算)
 - 五 國語(讀方及作文)
 - 六 社會問題ノ概要
 - 第三條 試驗ハ筆記及口述トス筆記試驗ニ及第シタル者ニアラザレハ口述試驗ヲ行ハス但シ口述試驗ハ前條第一號乃至第三號記載ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

キハ上席ノ教官ヲ以テ所長ニ代フ

- 第五條 考課者ハ毎年一回警部及警部補ニ付テハ考課表一通ヲ巡查ニ付テハ同二通ヲ自ラ調製スベシ但シ初任教習中ノ巡查ニ付テハ教習終了ノ際之ヲ調製スベシ
 - 警察部長以外ノ考課者ハ警部及警部補ノ考課表並ニ巡查ノ考課表一通ヲ調製後速ニ警察部長ニ進達スベシ
 - 第六條 巡查所屬ヲ轉シタルトキハ其ノ考課表ハ舊考課者ヨリ新考課者ニ對シ之ヲ送付スベシ
 - 被考課者其ノ所屬廳府縣ヲ轉シタルトキハ其ノ考課表ハ舊所屬廳府縣長官ヨリ新所屬廳府縣長官ニ對シ之ヲ送付スベシ
 - 第七條 調製後五年ヲ經過シタル考課表ハ警察部長ニ於テ之ヲ廢棄スルコトヲ得被考課者ノ死亡、免官、免職其ノ他ノ事由ニ因リ考課ノ必要ナキニ至リタルトキ亦同シ
 - 第八條 本規程ニ定ムルモノノ外考課表ニ關シ必要ナル事項ハ廳府縣長官之ヲ定ム
 - 第九條 本規程ハ消防士、消防機關士及判任官ノ待遇ヲ受ケル消防手ニ之ヲ準用ス
 - 第十條 本規程ハ廳府縣長官必要アリト認ムルトキハ警視又ハ消防司令ニ之ヲ準用スルコトヲ得
- 附則
- 本規程ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 本規程施行前廳府縣長官ノ定ムル規定ニ依リ調製シタル考査表ハ之ヲ本規程ニ依リ調製シタル考課表ト看做ス

第一編 警務 第十章 任用及定員採用

第四條 試験ノ評點ハ一科目百點ヲ以テ滿點トシ平均點六十點以上ヲ合格トス但シ四十點未滿ノ科目アルトキハ合格ト爲スコトヲ得ス
第五條 試験ニ合格シタル者ニハ左記様式ノ合格證書ヲ附與ス
合格證書様式

第 號	山梨縣巡査 氏名
合格證書	生年月
巡査部長試験ニ合格	シタルコトヲ證ス
年月日	
山梨縣警察部長位勳 氏名印	

第六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第七條 明治三十八年十二月山梨縣訓令甲第六十一號巡査部長試験規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

● 巡査採用規則

明治二十四年九月三日
内務省訓令第二十一號

改正 明治二十四年一〇月内務省訓令第二三號、二十五年八月第一三號、二十六年一〇月第一九號、二十七年四月第一〇號、二十八年五月第八號、三〇年九月第一七號、三二年一〇月

〔山梨警〕

第三條 巡査資格ノ検査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

- 一 體質善良ナル者即チ左ニ記載スル等ノ缺所ナキ者
- 二 四肢完具セサル者但執筆把握ニ差支サル指ノ萎小彎屈強直等ノ類ハ此限リニアラス
- 三 胸腔機關及腹内臟器若クハ皮膚病較著ノ疾病アル者但較著ノ疾病ニアラサルモ全身諸機關ノ機能減衰ノ者亦同シ
- 四 服装又ハ運動ニ不便ナル者
- 五 贅生物畸形等容貌醜惡ナル者
- 六 二身幹一・五八米以上ニシテ胸圍約身長ノ半ニ等シキ者
- 七 三兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者
- 八 四聽力二米ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者
- 九 五言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者
- 十 六精神完全ナル者即チ精神病及神經病(鬱憂癡狂癡狀及舞踏病癲癇等ノ病)ナキ者

第四條 巡査技藝ノ試験ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

- 一 一割除
- 二 本邦歴史及地理ノ大略ニ通スル者
- 三 假名交リノ論文及普通往復文ヲ作り得ル者
- 四 算術加減乗除ヲ爲シ得ル者
- 五 普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者
- 六 第五條 巡査ノ試験ハ警部二名以上立合ノ上警察消防練習所長又ハ巡査教習所長之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ニ於テハ特ニ試験官ヲ指定シ立合官ナクシテ施行スルコトヲ得
- 七 第六條 試験ノ上巡査ニ採用スヘシト定リタル者ハ警視廳ニ於テハ(巡査本部長)、北海道廳及府縣ニ於テハ(警部長)親ク左ノ諸件ヲ宣告シ警書ヲ

第一編 警務 第十章 任用及定員採用

四七八

第三五號、三三年九月第二七號、三七年四月第六號、大正元年一二月第二九號、一二年一月第二號、昭和五年四月第七號

〔山梨警〕

巡査採用規則左之通り相定ム

第一條 巡査ハ試験ノ上採用スヘキモノトス但シ左ニ記載シタル者ハ此限リニアラス

- 一 曾テ判任官以上ノ職ヲ奉シタル者及文官任用令(第三條)ニ依リ判任文官タルノ資格ヲ有スル者
- 二 巡査精勤證書ヲ有スル者
- 三 曾テ巡査ノ職ヲ奉シ退職後滿五年ヲ經過セサル者
- 四 陸軍兵卒ニシテ現役滿期トナリ又ハ戰時召集ヲ解除セラレ下士適任證書ヲ有スル者

第二條 巡査志願者ハ品行方正年齡二十年以上三十年未滿ニシテ徵兵ニ相當セス且ツ左ノ諸項ニ概觸セサル者タルヘシ但シ特別ノ技能ヲ有シ又ハ曾テ巡査ノ職ヲ奉シタル者ニシテ年齡四十年未滿ナルトキハ巡査志願者タルコトヲ得

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ所犯情狀ノ酌量スヘキ者ニシテ滿期後三年ヲ經過シ改役ノ狀著シト認メラルトキハ此限ニ在ラス
- 二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
- 三 巡査懲罰例又ハ(官吏懲戒例)ニ依リ免職セラレ若クハ故ナク巡査ヲ辭職シ二年ヲ經過セサル者

四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ從前身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
五 酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者

〔山梨警〕

徵シタル上採用ス可シ

- 一 巡査タル者ハ官吏服務紀律ヲ恪守スヘキハ言ヲ俟タス常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖モ猥ニ政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコト決シテアルマシキ事
- 二 巡査タル者ハ常ニ人民ノ保護者タルコトヲ記憶シ之ニ對シテ寧親切ヲ旨トシ而モ之ト相狎昵スルカ如キコトナク職務上ニ於テ負擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキ事
- 三 巡査タル者ハ一端奉職ノ上ハ他念ナク職務ニ從事シ五箇年未滿ニシテ一身ノ故ヲ以テ辭職スルカ如キコト決シテアルマシキ事
- 四 一巡査タル者ハ自身ハ勿論家族ニ至ル迄専ラ品行ヲ正シクシ警察官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損スルカ如キ所業決シテアルマシキ事
- 五 第七條 巡査タルヘキ者ヨリ呈セシムヘキ誓文ハ左ノ如シ但前條各官ノ面前ニ於テ本人ヲシテ自書捺印セシム可シ

誓文

某儀

今般何(廳府縣)巡査志願仕候ニ付御採用ヲ被ルニ於テハ官吏服務紀律ヲ恪守仕ルヘキハ勿論人民ニ對シテハ丁寧親切ニ職務ヲ執行シ且ツ總テノ法律命令ヲ遵守シ職任上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又奉職五箇年ニ滿タスシテ一身ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候様ノ儀決シテ無之且ツ自身ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ警察官吏タリ又其ノ家族タル體面ヲ汚損致シ候様ノ所業決シテ仕マシク依テ誓文如件

〔明治〕年 月 日

府縣國郡市町村番地身分

何

某實印

第八條 (新ニ採用スル巡査ハ先ツ三級俸ヲ給スヘシ其陸軍現役滿期ノ下

士及巡查精勤證書ヲ有スル者ニ保ルトキハ直ニ二級俸ヲ給スルコトヲ得
但陸軍現役滿期ノ下士ニシテ士官適任證書ヲ有スル者ハ特ニ一級俸ヲ給
スルコトヲ得

● 巡查試驗願書式

明治二十四年十月
山梨縣告示第三十七號

巡查志願者ハ本年九月内務省訓令第二十一號巡查採用規則ヲ心得左記ノ書
式ニ從ヒ自ラ願書ヲ認メ警察部ニ差出スヘシ但試驗ノ期日ハ其都度警察部
ヨリ告知ス

(書式) 用紙美濃堂通
巡查試驗願

現住所

氏名

右ハ巡查志願ニ付採用試驗相受ケ度別紙履歷書相添ヘ此段奉願上候也
明治 年 月 日

右氏 名印

山梨縣知事氏名殿

履歷書

何府華士族平民

戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍

氏名

生年月

住所

〔山梨警〕

一 國都市區町村番地ヲ詳説シ寄留ノ者ハ寄留地ノ住所ヲモ詳記スヘシ
學 事
一 何年月ヨリ何地ノ何某ニ就キ又ハ何學校ニ入り何年月迄何學ヲ修メ若
クハ何學ヲ卒業シタルノ類

職 業

一 何年月ヨリ何年月迄何地何學校教員トナリ又ハ何年月何官廳ニ於テ何
官拜命何年月辭職又ハ免官何年月ヨリ何業ニ從事シタルノ類

兵 役

一 何年月何兵ニ編入何年月滿期除隊若クハ何年月徴兵検査不合格若ク
ハ抽籤ニ依リ免除

賞 罰

一 何年月何々ノ事由ニ依リ何職ヨリ賞ヲ受ケ何年月何々ノ事由ニ因リ
何地ニ於テ罰又ハ刑ヲ受ケタルノ類

身代限ノ有無

一 身代限ノ處分(家責分散者タルノ宣告ヲ)受ケタルコトナシ又ハ何年月
何地ニ於テ身代限ノ處分(家責分散者タルノ宣告)ヲ受ケ何年月負債辨
償ノ義務ヲ了シ(復權)ヲ得タリ

● 巡查志願者身元調査ノ件

明治三十四年七月
訓示第七四號

巡查志願者ニ對スル身元調査ノ輕忽ニ付スヘカラサルハ敢テ多言ヲ要セス
シテ明ナリ而ルニ近來其ノ調査粗漏ニ失シ往々輕々視スルノ傾向アリ深否
詮考上支障不尠候條自今該調査ハ巡查部長ヲシテ之ニ當ラシメ別紙各項詳
密調査報告シ遺憾ナキ様セラル可シ

〔山梨警〕

● 調査事項

- 一 本人族籍氏名生年月日身分並ニ戶主トノ關係但シ本人氏名ノ字體並ニ
生年月日ハ戶籍役場ニ就キ最モ精確ノ調査ヲ要ス
- 二 本人ノ現今執リツ、アル職業
- 三 採用規則第二條第一項
- 四 同 第二項
- 五 同 第三項
- 六 同 第四項
- 七 同 第五項
- 八 兵役ノ關係
- 九 父母ノ年齡他ニ扶養スルモノ、有無
- 十 本人ノ性質品行ノ良否
- 十一 妻子ノ有無
- 十二 父兄承諾有無
- 十三 本人平素身體ノ強弱
- 十四 本人ノ風采並ニ氣概
- 十五 資産ノ有無
- 十六 交際スル人物
- 十七 五ヶ年奉職ノ見込
- 十八 政黨ノ關係
- 十九 右各項ノ外巡查ノ職ニ適否ノ意見ヲ付スル事

● 廳府縣巡查定員令

大正十五年六月三日
勅令第四百四十一號

第一編 警務 第十章 任用及定員採用

朕大正五年勅令第三十號廳府縣巡查定員ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

● 廳府縣巡查定員令

- 第一條 廳府縣巡查ノ定員ハ警部補ヲ通シ左ノ定限内ニ於テ土地ノ狀況ヲ
斟酌シ内務大臣之ヲ定ム
 - 市ニ於テハ人口三百乃至八百ニ付 一人
 - 市以外ノ地域ニ於テハ人口六百乃至二千ニ付 一人
 - 第二條 東京府ノ市以外ノ地域ニ付テハ當分ノ内前條市ニ於ケル定員ノ例
ニ依ル
 - 沖繩縣ノ市ニ付テハ當分ノ内前條市以外ノ地域ニ於ケル定員ノ例ニ依ル
コトヲ得
 - 第三條 教習中ノ巡查及請願ニ依リ配置スル巡查ハ之ヲ定員外トス
 - 第四條 本令ハ當分ノ内東京府小笠原島及伊豆七島ニ配置スル巡查ニ付テ
ハ之ヲ適用セス
- 附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十二年勅令第四百四十五號ハ之ヲ廢止ス

● 警部補巡查定員表

昭和十一年九月一日
山梨縣訓令甲第二十號

警部補巡查定員表左ノ通改正ス
警察部 巡查教習所 警察署

合	上	猿
計	野	橋
原	原	橋
三〇	一	一
三〇	二	二
一五	一	一
八	一	一
八	一	一
七	一	一
五七	三	三
三九	三	二
六二	一	四
一六六	七	九
三一	二	二
一	一	一
二二	一	一
二九	一	二
一三	一	一
二〇	一	一
五三八	二二	二八

〔山梨警〕

吉	谷	日	石	市	南	鐵	日	韭	小	龍	甲	教	警	部	
														署	分
田	村	下	和	川	部	澤	野	崎	笠	王	府	習	察	名	掌
二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	四	一	一	補	部
二	一	三	二	二	二	二	二	二	二	二	四	一	一	勤	外
一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	四	一	八	勤	内
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	五	司	刑
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	二	法	部
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	高	長
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	特	事
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	六	一	一	查	巡
二	四	二	二	四	二	二	二	三	三	二	六	一	一	在	署
四	一	一	一	一	一	三	一	一	二	一	四	一	一	所	外
一〇	八	二五	一九	一〇	一〇	一〇	二	一五	一一	一三	七	一	一	所	勤
三	二	三	二	二	二	三	三	四	一	一	一	一	一	在	巡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	野	查
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	林	查
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	通	交
二	二	二	一	一	一	二	一	一	一	一	五	一	一	務	特
一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	二	六	一	六	法	刑
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	司	事
三	一	二	二	一	一	一	一	一	二	二	三	一	二	等	巡
三	一	二	二	一	一	一	一	一	二	二	三	一	二	高	查
三	二	五〇	三六	二六	二三	二九	二八	三三	二九	二九	九九	二	四八	計	

〔山梨警〕

第十一章 教養及訓練

〔山梨警〕

● 巡查訓授例

明治十九年四月
内務省訓第一二五號

新ニ召募スル巡查訓練ノ儀今回及訓令候處右ハ業ヨリ警察ノ大要ヲ領得セシムルニ止ルモノニ付其教習ヲ經テ現職ニ服シタル者ヲシテ乃チ實務ニ熟練セシムル爲メ別紙標準ニ據リ訓授ヲ爲スヘシ

(別紙)

巡查訓授例

第一條 警察署長(警察分署長)若クハ其代理官ハ巡查ヲシテ其實務ヲ習熟セシムル爲メ警察ニ關スル法律命令及ヒ該縣ノ取締規則其他ノ執務方法中緊要ナル條件ヲ訓授スヘキモノトス

第二條 訓授ハ毎朝點檢交代ノ際之ヲ爲スヘシ其時間ハ三十分間ヨリ少ナカルヘカラス

第三條 訓授ノ材料ハ別表記載ノ條件ヲ標準トシ之ヲ定ムヘキモノトス

(別表)

一	日	警察事務ノ要旨	(地名)警察署巡查訓授表 明治何年何月 何々縣警部 氏名印
二	日	巡邏巡察ノ際最注意スヘキ條件	
三	日	行狀及心得ノ事	

四	日	注意申報ノ心得	
五	日	帶劍心得ノ要領	
六	日	該地方長官ノ告達ニ係ル取締規則中緊要ナル條項	自何條至何條
七	日	警察ニ關スル前一週日ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中緊要ノ條項	應問
八	日	集會條例及ヒ之ニ關スル告達中緊要ノ條項	自何條至何條或ハ何年 第何號ノ布告若クハ連
九	日	嘯聚暴動及群集喧噪ノ警防方心得ノ事	
十	日	傳染病豫防規則中ノ要項及檢疫心得	自何條至何條
十一	日	藥品取締規則及之ニ關スル告達中緊要ノ條項	自何條至何條
十二	日	爆發物取締規則中ノ要項	自何條至何條
十三	日	火藥取締規則中主要ノ事項	自何條至何條
十四	日	銃砲取締規則中ノ要項	自何條至何條
十五	日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令及該地方長官ノ告達類中主要ノ條項	應問
十六	日	賭博犯處分規則及細則中緊要ノ條項	自何條至何條
十七	日	古物商及質屋條例並其細則中緊要ノ條項	自何條至何條
十八	日	出版條例寫眞條例新聞條例中緊要ノ條項	自何條至何條
十九	日	度量衡取締規則及米商會社條例中ノ要項	自何條至何條
二十	日	諸印紙稅規則中緊要ノ條項	自何條至何條

三十一日	鳥獸獵規則中ノ要項	自何條至何條
三十日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中ノ要件	應問
二十三日	墓地及埋葬取締規則中ノ要項	
二十四日	火水風震等ノ變災ニ關スル心得方ノ要旨	
二十五日	人命急變救授方心得ノ事	
二十六日	難破船及漂流物取扱規則中ノ要項	自何條至何條
二十七日	遺失物取扱規則中ノ要項	自何條至何條
二十八日	警察ニ關スル前一週日間ノ閣令省令及該地方長官ノ告達類中ノ重要ナル條件	應問
二十九日	治罪法中巡査ニ必要ナル條項	應問
三十日	刑法中最注意ヲ要スヘキ條項	
三十一日	教會講社祭典葬儀等取締方ノ要件	

●巡査訓授規則

明治三十一年三月 山梨縣訓令第一四號

第一條 訓授ハ巡査ヲシテ實務ヲ習熟セシメ實務執行ノ周到正確ヲ保タシメンカ爲メ行フモノトス

第二條 訓授ハ警察署長(分署長)之レヲ行フ署長事故アルトキハ署僚警部警部補又ハ巡査部長ニ於テ代理スヘシ

〔山梨警〕

第三條 訓授ハ警察署(分署)所在地ニアル巡査ニ對シ毎朝點檢ノ後其他ノ巡査ニ對シテハ召集ノ際之レヲ行フヘシ

第四條 訓授ヲ分テ召集訓授出張訓授ノ二種トス

召集訓授ハ(警察署分署)ニ於テ出張訓授ハ駐在所巡視ノ際之ヲ行フモノトス

第五條 警察部長ハ臨時訓授事項ヲ指示スル事アルヘシ

第六條 訓授ハ口頭ヲ以テシ巡査ヲシテ暗記セシムルヲ要ス但時宜ニ依リ筆記セシムルコトヲ得

第七條 訓授シタル要件ハ其熟否ヲ監査スル爲メ時々試問ヲ爲シ又ハ疑問ヲ起シ之レカ答辯ヲ爲サシムル事アルヘシ

第八條 訓授ハ實務執行上緊要ノモノナルカ故ニ猥リニ高尚ノ理論ニ涉リ又ハ儀式的ニ流レズ執行ノ目的順序緩急又ハ實例ヲ舉示スル等勉メテ解シ易カラシムルヲ要ス

第九條 訓授ハ左ノ種目ニ依リ適宜選定スヘシ

- 一 服務ニ關スル心得
- 二 警察ニ關スル法律命令及本縣取締規則
- 三 前項ノ外執務上緊要ナル事項若クハ當時特ニ注意スヘキ要件

●訓授報告方ノ件

明治四十年一月 訓示第五號

部下巡査ニ對スル署長ノ定規訓授ハ爾今其要領ヲ複寫シ豫メ之ヲ受訓巡査ニ配布シタル上之ニ付キ懇切叮嚀ニ詳説シ其訓授事項ハ即日別紙様式ニ依リ報告セラルヘシ

〔山梨警〕

(別紙様式)

巡査訓授報告

訓授者 官氏名

- 訓授召集月日
- 一 紀律ニ關スル件
 - 一 戸口調査ニ關スル件
 - 一 賭博業臨檢ニ關スル件
 - 一 盜難警防ニ關スル件
 - 一 傳染病豫防ニ關スル件
 - 一 行政執行法説明
 - 備考 被訓授者ハ巡査總員何名ニシテ訓授ヲ了リタル後左ノ科題ヲ發シ應問ヲ試タル處其成績良好ナリ
 - 一 何々 犯罪捜査ハ如何ナル原因ニ依リテ之ヲ爲スヘキヤ

●巡査派出所駐在所ノ受訓簿廢止ノ件

明治四十年一月 梨警發第六號

明治三十七年警發第一八八號ヲ以テ巡査派出所駐在所及署所在地受持巡査ニ受訓簿ヲ備ヘシメ訓授ノ要領ヲ筆記セシメ來リ候處今回訓示第五號ヲ以テ訓授ノ方法ヲ指示セラレ候ニ就テハ自然受訓簿ノ必要ヲ認メサルニ至リ候間爾今該簿冊ハ之ヲ廢シ配布ヲ受ケタル訓授事項ハ令達編ニ編綴セシメ置ク様御措置相成依命此段及通知候也

追而訓授報告ハ別ニ認メス複寫シテ巡査ニ配付シタル其一部ニ報告シタルコトヲ示ス文字並ニ訓授者ノ氏名等御記入進達相成可然候尙訓授要領記載方ハ冗長ニ涉ラサル様注意ヲ加ヘ且ツ法令説明及應問ハ日常職務ニ必要ナルモノヲ御撰擇相成候様致度此段申添候也

●林野巡査召集訓授ニ關スル件

明治四十四年八月 梨警發第一五九號

巡査ノ召集訓授ハ警察署分署處務規程第三十二條ニ依リ毎月二回以上之ヲ行フノ規定ナルモ林野警察巡査ニ限リ當分ノ内一回ニ止ムルコトヲ得ル義ト心得ヘシ

警察宣言服膺ニ關スル件

明治四十四年九月
梨警發第一七七號

今回警察宣言ヲ卷軸トナシ又摺物トシテ各署ニ配付セリ抑モ警察宣言ハ其ノ意味深遠ニシテ警察官ノ服膺スヘキ事項ハ殆ント網羅シテ餘ス所ナシ之ヲ日常職務ノ内外ニ應用スルニ於テハ不知不識精神修養ノ資料ト爲リ警察官タル品性ハ自然陶冶セラル、ニ至ルヘシ各位此意ヲ體シ左記方法ニ依リ上記ノ目的ニ副ハンコトヲ期スヘシ

左記

- 一 警察宣言ハ之ヲ精神修養ノ基本トスルコト
- 一 朗讀スヘキ場合左ノ如シ
- 一 定期又ハ臨時召集日
- 一 三大節
- 一 精勵證書授與式
- 一 巡閱ヲ受クルトキ
- 一 朗讀ハ署長自ラ之ヲ爲シ署員ヲ起立セシメ敬意ヲ表セシムル事
- 一 召集日其ノ他ノ場合ニ於テ精神修養又ハ紀律ニ關スル訓授ヲ爲ストキハ警察宣言ノ一節ヲ授用スヘキコト時々應問ヲ爲スコト
- 一 巡査ニハ毎朝摺物ヲ一讀セシメ深ク腦裡ニ印セシムルコト
- 一 卷軸ハ各署ノ備品トナシ叮嚀ニ保管スルコト
- 一 摺物ハ各巡査ニ貸與シ手帳ノ初葉ニ挿入セシメ置クコト

〔山梨警〕

巡査教習概則

明治三十年七月七日
内務省訓令第十五號

改正 大正二年一月内務省訓令第三號、昭和五年四月第八號

陸府廳東京府
警務課ヲ除ク

- 一 巡査教習概則左ノ通相定ム
- 一 巡査教習概則
- 一 第一條 初テ採用シタル巡査ニハ四月以上必要ナル學科及實務ヲ教習スヘシ
- 一 前項ノ教習期間ハ特別ノ事由アルトキハ之ヲ三月迄ニ短縮スルコトヲ得
- 一 警察官タリシ經歷ヲ有スル者及學術ノ素養アル者ニ對シテハ前二項ノ規定ニ拘ラス教習ノ期間ヲ短縮シ又ハ教習ノ全部若ハ一部ヲ省略スルコトヲ得
- 一 第二條 教習ハ巡査教習所ニ於テ之ヲ行フヘシ但實務教習ハ警察署ニ於テ先任巡査ノ部伍ニ加ヘテ之ヲ行フコトヲ得
- 一 第三條 〔警部〕長ハ時々巡査教習所ニ臨ミ教習ノ方法ヲ監督シ且教習中ノ巡査ニ對シテ訓授スヘシ
- 一 第四條 教習ノ成績ハ教習期限ノ終末ニ於テ試験スヘシ
- 一 第五條 教習ヲ受クル巡査教習期間中缺席三十日以上ニ及ヒタルトキ又ハ教習成績ノ試験ニ合格セザルトキハ更ニ相當教習ヲ經ルニ非サレハ實務ニ服セシムルコトヲ得但臨時警戒ヲ要スルニ當リ巡査ノ人員ニ不足ヲ告グルトキハ實務ヲ補助セシムルコトヲ得
- 一 第六條 教習ヲ終リタル巡査ハ六月以上警察署詰勤務ニ服セシメ專ラ實務

〔山梨警〕

巡査教習規則

大正十年七月
山梨縣訓令甲第三十三號

改正 昭和五年五月訓令甲第五號

- 一 第一章 組織及權限
- 一 第一條 巡査教習所ハ警察部ニ屬シ巡査採用試験ヲ施行シ及新任巡査並現任巡査ニ職務上必要ナル學科及實務ヲ教授スル所トス
- 一 第二條 巡査教習所ニ左ノ職員ヲ置ク
- 一 一 所長 一名
- 一 一 教官 若干名
- 一 一 助教 若干名
- 一 前項ノ外特ニ囑託講師ヲ置クコトアルヘシ
- 一 第三條 所長ハ警視又ハ警部、教官ハ警部、警部補、助教ハ巡査部長、巡査、職員ヲ以テ之ニ充ツ
- 一 第四條 所長ハ警察部長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所員ヲ指揮監督シ兼テ教授ヲ掌ル
- 一 第五條 所長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

- 一 一 教官及助教ノ分擔ヲ定ムルコト
- 一 二 教授時間割及生徒日課ヲ定ムルコト
- 一 三 助教以下教習巡査ノ看護歸省、休暇轉地療養、結婚縁組其ノ他願届ヲ許否承認シ及除服出仕ヲ命スルコト
- 一 四 教習巡査ニ對シテ泊ヲ許否シ又ハ命スルコト
- 一 五 教習巡査ノ實務練習方法ヲ定ムルコト
- 一 六 教習巡査ニ對スル試験問題及其ノ成績ヲ決定スルコト
- 一 七 卒業證書ヲ授與スルコト
- 一 八 教習巡査ノ違則ニ對シテ教習巡査心得第四十二條ノ一禁外出以下ノ處分ヲ行フコト
- 一 九 教習巡査ニ舎長、副舎長ヲ命免スルコト
- 一 第六條 所長事故アルトキハ專務教官其ノ職務ヲ代理ス
- 一 第七條 教官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌リ部下ヲ監督ス
- 一 第八條 助教ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教官ノ事務ヲ補助ス
- 一 第九條 成業ノ見込ナキ普通教習巡査ニ在リテハ退職ヲ命シ練習科及特科生ニアリテハ退所ヲ命スルコトアルヘシ
- 一 第二章 教習及期間
- 一 第十條 教習巡査ヲ別テ普通科生、練習科生及特科生トス
- 一 普通科生ハ新ニ任命シタル巡査、練習科及特科生ハ現任巡査ヨリ之ヲ選抜ス
- 一 第十一條 左ニ掲グルモノハ普通科教習ノ全部又ハ一部ヲ省略シ若ハ其ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得
- 一 一 曩ニ警部補ノ職ニ在リシ者
- 一 二 判任文官タル資格ヲ有スル者
- 一 三 曾テ巡査ヲ奉職シ退職後滿三年ヲ經過セザル者

- 四 巡査精勤證書ヲ有スル者
- 五 前各號ノ外特ニ教習ノ必要ナシト認メタル者
- 第十二條 教習巡査ハ總テ寄宿舎ニ入ラシム但シ特別ノ事情アル者ハ所長ニ於テ外泊ヲ許スコトヲ得
- 第十三條 教習期間ハ普通科生ニ在リテハ四月練習科生ニ在リテハ三月トアルヘシ

前項ノ教習期間ハ特別ノ事由アルトキハ適宜之ヲ短縮スルコトヲ得

第十四條 教習巡査ノ授業時間ヲ左ノ如ク定ム但シ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

自三月三十一日 自午前八時至午後四時

自十一月一日 自午前九時至午後四時

至二月末日 自午前九時至午後四時

休暇ハ一般官署ノ例ニ依ル

第三章 教習科目及試験

第十五條 教習科目左ノ如シ但必要ニ應シ之ヲ増減スル事アルヘシ

- 普通科
- 一 服務心得ノ大意
- 二 憲法行政法ノ大意
- 三 刑法刑事訴訟法ノ大意
- 四 警察法規
- 五 傳染病豫防及消毒法
- 六 書類作成法
- 七 工場法
- 八 國語
- 九 捜査法

〔山梨警〕

- 十 點檢、禮式、操練並啣筒ノ操縱
- 十一 劍道、柔道及施繩法
- 十二 實務演習

實務演習ハ學期試験後ニアラサレハ開始セス

練習科

- 一 憲法
- 二 行政法
- 三 刑法
- 四 刑事訴訟法
- 五 警察法規
- 六 經濟學大意
- 七 民法大意
- 八 衛生學及傳染病學
- 九 點檢禮式操練
- 十 劍道柔道並施繩法

特科ノ教授科目ハ警察部長之ヲ定ム

第十六條 試験ハ獎勵、卒業ノ二種トシ獎勵試験ハ教習期間ノ中途ニ於テ、卒業試験ハ教習期間ノ終ニ於テ之ヲ行フ但シ時宜ニ依リ獎勵試験ヲ省略スルコトアルヘシ

第十七條 試験ハ筆答トス但シ武術、施繩法點檢、禮式ハ實地ニ就キ之ヲ行ヒ實務練習ハ試験ヲ施行セス

第十八條 試験ハ一科目百點ヲ以テ滿點トシ卒業試験ハ一科目四十點以上平均六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トシ各科目六十點以上平均九十點以上ナルトキハ優等トス但シ卒業試験ノ成績ハ卒業試験ノ得點ヲ二乗シタルモノニ獎勵試験ノ得點ヲ加算シテ三分スルモノトス前條但書ノ科目ニ於

〔山梨警〕

● 教習巡査心得

大正十年七月 警訓第七八號

第一章 通則

- 第一條 教習巡査勤務及身上ニ關スル願届ハ所長宛ノ書面ヲ差出スヘシ
- 第二條 教習巡査ハ火災其ノ他非常事變アルトキハ直ニ制服ヲ着用出場準備ヲ爲シ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ
- 第三條 教習巡査疾病負傷其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲メ缺勤セムトスルトキハ當日出勤時間十分前迄ニ届出認可ヲ受クヘシ尙七日以上ニ互ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第四條 受業三科以上ヲ缺クトキハ缺勤ト看做ス
- 第五條 教習巡査ハ特別ノ命令アル場合ノ外職務執行ニ關與スヘカラス但シ外出中左ノ事故ニ遭遇シタルトキハ隨機ノ處置ヲ執リ速ニ受持巡査ニ引渡シ其旨所長ニ報告スヘシ
- 一 棄兒、迷兒、要監置精神病者、自殺ヲ企ツル者其他救護ヲ必要ト認ムル者
- 二 死傷者
- 三 禁錮以上ノ刑ニ該ル現行犯及準現行犯人
- 第六條 教習巡査ニ對シ毎日二名ノ當番員ヲ置ク當番員ハ午前八時ヨリ翌午前八時迄服務セシム
- 第七條 當番員ハ左ノ勤務ニ服スヘシ
- 一 日誌ノ記載
- 二 教室ノ整理
- 三 寄宿舎内外ノ洒掃
- 四 寮生就床二十分後教場及寄宿舎ノ内外ヲ巡視シ盜火難ノ警防ヲナス

テハ缺科点数ヲ斟酌シ採點スルコトアルヘシ

第十九條 卒業試験ニ合格シタル者ニハ第一號様式ノ卒業證書ヲ其ノ成績優等ナル者ニハ第二號様式ノ優等證書ヲ附與ス

第二十條 試験終了シタルトキハ所長ハ其ノ成績試験問答案ヲ警察部長ノ檢閱ニ供スヘシ

附則

明治三十七年六月訓令乙第一一七號巡査教習規則ハ之ヲ廢止ス

(第一號様式)

卒業證書

普通(練習)(特)科

山梨縣巡査 氏 名

當所規定ノ普通(練習)(特)科課程ヲ卒業シタルコトヲ證ス

所印 年 月 日

山梨縣巡査教習所長 位 動官 氏 名印

(第二號様式)

優等證書

普通(練習)(特)科

山梨縣巡査 氏 名

試験ノ成績優等ナルコトヲ證ス

所印 年 月 日

山梨縣巡査教習所長 位 動官 氏 名印

第一編 警務 第十一章 教養及訓練

- 五 時間外無許可外出者及反則者ナキカラ監視スルコト
- 六 其他特ニ命セラレタル事項
- 第八條 廊下階段等ハ徐歩スヘシ
- 第九條 當番員ハ其日外出スルコトヲ許サス
- 第二章 教室
- 第十條 教習巡查ノ席次ハ所長之ヲ定ム
- 第十一條 教習巡查ハ始業十分前ニ著席シ所長、教官、講師、助教ノ臨場ヲ待ツヘシ其臨場アリタルトキハ最初之ヲ認メタル者「氣ヲ付ケ」ト發聲シ各員之ニ應ジテ起立行禮スヘシ退場ノトキ亦同シ
- 第十二條 教習巡查ハ授業及自習時間内ハ必ス制服ヲ着用スヘシ但已ムヲ得サル事情アルトキハ豫メ許可ヲ受ケ私服ヲ着用スルコトヲ得
- 第十三條 教室ニ在リテハ靜肅ヲ旨トシ荷モ姿勢ヲ紊シ喧嘩ニ涉ルカ如キ言行アルヘカラス
- 第十四條 教場ニ於テハ喫煙スルコトヲ得ス
- 第十五條 質問應答其ノ他上官ニ對シ發言セムトスルトキハ起立シ姿勢ヲ正スヘシ
- 第十六條 教官ノ許可ナクシテ席ヲ離ル、コトヲ得ス

月	日	起	床	朝	喫	晝	食	夕	就	床
自三月	自三月	午前五時三十分	午前七時	正	午	午後六時	午後十時	午後九時	午後九時	
至三月	至三月	午前六時三十分	午前八時	正	午	午後五時	午後九時	午後九時		

〔山梨警〕

- 第二十八條 就床ノ際ハ炭火ヲ消シ其ノ他火氣ニ注意スヘシ
- 第二十九條 舍内ニ於テ左ノ所爲ヲ禁ス
 - 一 神史小説類ヲ看讀シ若クハ圍碁其他遊技ヲ爲スコト
 - 二 盥ヲニ各室ヲ來往シ若クハ喧嘩狂暴ニ涉ル官行ヲナスコト
 - 三 臥床時間外ニ寢具ヲ使用シ若クハ脱衣、横臥其他不體裁ノ所業ヲ爲スコト
 - 四 臥床後喫煙スルコト
 - 五 壁其ノ他ノ場所ヲ汚損スルコト
 - 六 間食スルコト
 - 七 酒性飲料ヲ採ルコト
- 第三十條 上官來舍シタル時ハ室内ニ在ル時ハ著座シ禮意ヲ表スヘシ
- 第三十一條 來訪人ニハ上官ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ面談スヘカラス
- 第三十二條 所長ハ賄料ヲ毎月俸給中ヨリ控除支拂ス
- 第三十三條 賄方ニ不都合アルトキハ直接問責セス其旨上官ニ上申スヘシ
- 第五章 外出
- 第三十四條 外出ノ際ハ私服トシ袴ヲ着用スヘシ
- 第三十五條 市外々出セムトスルトキハ豫メ所長ノ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十六條 負傷疾病ノ爲メ學科ヲ缺クトキハ當日外出スル事ヲ得ス但シ診斷治療入浴等他人ノ代リ得サル理由ノ爲メ外出ヲ必要トスルトキハ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十七條 寄宿教習巡查市内外出ヲ爲シ得ル時間左ノ如シ但隨時寄宿舍内ニ揭示ス
 - 平日 二時間
 - 休日 十二時間
- 第三十八條 外出ノ際ハ自ら外出簿ニ外出時間、行先地、用向及姓名ヲ記

第一編 警務 第十一章 教養及訓練

- 第十七條 受業用ニアラサル物品ハ教室ニ持テ入ルコトヲ得ス
- 第三章 自習
- 第十八條 教習巡查ハ左ノ通り教場ニ於テ自習スヘシ
 - 自三月三十一日 自午後八時至同十時
 - 自十一月一日 自午後七時至同九時
- 當番員一名ハ諸般取締ノ爲メ寄宿舍ニ殘留スヘシ
- 第十九條 自習中ハ音讀、私語、談笑スヘカラス
- 第二十條 所長ハ時宜ニ依リ自習時間中休憩ヲ命シ又ハ自習ヲ免スルコトアルヘシ
- 第四章 寄宿舍
- 第二十一條 各室ノ定員及配置ハ指揮ニ從フヘシ
- 第二十二條 教習巡查中ニ舍長副舍長各一名ヲ置ク
- 第二十三條 舍長ハ舍内取締ノ補助ニ任シ副舍長ハ舍長ヲ補佐スルモノトス
- 第二十四條 舍長ハ就床及起床ノ際點呼ヲ行ヒ其結果ヲ宿直教官ニ報告スヘシ
- 第二十五條 常ニ其室内ヲ清潔ニ洒掃スヘシ
- 第二十六條 室内ニハ科業用其他必需品ノ外持テ入ルヘカラス
- 第二十七條 起床、就床、喫食時間左ノ如シ

- 入シ當番員ニ差出スヘシ
- 歸舍ノ際ハ同様歸舍時間ヲ記入スヘシ
- 第三十九條 外出ノ際ハ室外ニ掲ケアル名札ヲ外ヅシ歸舍ノ際ハ元ノ位置ニ掲ケヘシ
- 第四十條 外出中ハ料理店、飲食店、貸座敷、興行場其他警察官タル品位ヲ失墜スヘキ場所ニ立寄ルヘカラス
- 第四十一條 外出先ニ於テ疾病ニ罹リ又ハ重大ナル事故ノ爲メ時限内歸舍シ難キトキハ醫師ノ診斷書又ハ所轄警察署長ノ證明書ヲ添ヘ届出スヘシ
- 第六章 罰則
- 第四十二條 本心得ニ違反シタル者ニ對シテハ巡查懲罰令ニ依ルノ外左ノ處分ヲ行フ
 - 一 禁外出(二週間以内)紀律點六十點ヲ減ス
 - 二 譴責 紀律點五十點ヲ減ス
 - 三 戒告 紀律點四十點ヲ減ス
 - 四 訓告 紀律點三十點ヲ減ス
 - 五 諭告 紀律點二十點ヲ減ス
- 第四十三條 明治三十年十二月示令第七二號教習巡查心得ハ之ヲ廢止ス

● 巡查採用及教習成績通知方ノ件

明治三十七年九月 警發第二二二號
 巡查採用試驗講習巡查及教習巡查ノ成績ハ自今別表ニ據リ其在勤署へ通知スヘキニ付キ巡查身上取扱規程第十條ニ依リ巡查身分明細表ニ準シ御取扱相成度依命此段及通牒候也

表績成驗試用探查巡

明治 年 月 日	體 身 格 幹	以 上 合 計	筆 算 術 文	作 文	歷 史 及 地 理	法 律 及 警 察 法 規	族 籍 氏 名 年 齡
明治 年 月 日							
試驗官 立會者 同 同							
官 同 同							
氏 同 同							
名 上 上							

試驗官 官 氏 名
立會者 同 同
同 同 同
同 同 同
同 同 同
同 同 同
同 同 同
同 同 同
同 同 同

身 族 分 籍	
名 氏 官	

〔山梨警〕

〔山梨警〕

表績成査巡(習教)習講

明治 年 月 日	憲 法	行 政 法	刑 法	刑 訴 法 事 務	法 警 令 察	事 衛 生	武 術	合 計 平 均 點	性 質	行 品	情 動
明治 年 月 日											
山梨縣巡查教習所長											
官											
氏											
名											

山梨縣巡查教習所長 官 氏 名

●新任巡查訓練規程

大正十年六月 山梨縣訓令甲第二十四號
 第一條 昭和五年五月訓令甲第六號
 本規程ハ巡查教習所ヲ卒業シ新ニ警察官署ニ配置シタル巡查ニ對シ職務ヲ習熟セシメ且警察精神ヲ涵養セシムルヲ以テ目的トス
 第二條 警察官署長ハ巡查教習所ヲ卒業ヘ新ニ配置セラレタル所屬巡查ニ對シ職務上必要ナル教養訓練ヲナスヘシ
 第三條 警察官署ニ訓練係一名甲府警察署ニ在リテハ二名ヲ置ク

訓練係ハ署長ノ命ヲ承ケ新任巡查ノ教養訓練ニ當ルモノトス
 第四條 警察官署長ハ署僚警部、警部補又ハ巡查部長中適任ト認ムル者ニ對シ訓練係ヲ命シ新任巡查教養訓練ニ關スル事務ヲ分掌セシムヘシ
 第五條 訓練期間ハ新任巡查著任ノ日ヨリ起算シ六月トス
 前項ノ期間ハ特別ノ事由アルトキ又ハ成績優良ナル者ニ付テハ適宜之ヲ短縮スルコトヲ得
 第六條 訓練ハ著任後十日間ハ毎日一時間以上其ノ他ハ三日毎ニ一時間以

- 上トス
前項ニ依リ難キ事情アルトキハ其ノ事由ヲ具シ警察部長ノ承認ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得
- 第七條 訓練ヲ爲スヘキ事項概テ左ノ如シ
- 一 人民處遇
 - 二 警邏巡察
 - 三 戸口調査執行及關係簿冊ノ整理
 - 四 營業臨檢
 - 五 諸要視察人ノ視察
 - 六 興行臨監取締
 - 七 犯罪搜查並令狀執行
 - 八 諸願屆其ノ他ニ對スル實地調査
 - 九 雜踏及交通取締
 - 十 檢視檢證實況見分及其ノ書類作成
 - 十一 諸報告方法書類作成
 - 十二 傳染病ニ關シ消毒其ノ他豫防方法
- 前各號ノ外必要ト認ムル事項
- 第八條 訓練係ハ規程ノ期間内ニ教養訓練ヲ爲スヘキ項目全數ニ互リ終了スヘキ豫定計劃ヲ作り豫メ署長ノ檢閱ヲ受クヘシ
- 第九條 訓練係ハ訓練日誌ヲ備ヘ教養訓練シタル事項其ノ他訓練ニ關スル實況ヲ記シ署長ノ査閱ヲ受クヘシ
- 第十條 訓練ニ關スル書類ハ之ヲ一括シ別ニ編綴シ置クヘシ
- 附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔山梨警〕

● 武道審査規程

大正十年九月 警訓第九二號

- 第一條 警察官吏ノ武道(柔劍道)ハ本規程ニ依リ之ヲ審査ス
- 第二條 武道ノ階級ハ初段ニ始マリ十段ニ及フ段下ヲ更ニ一級ヨリ五級ニ分ツ
- 第三條 武道ノ審査ハ警察部長其ノ成績ヲ考査シ審査員ノ意見ヲ聽キ之ヲ決ス
- 第四條 審査ハ毎年一回之ヲ行フ但シ必要アルトキハ隨時行フコトアルヘシ
- 審査ノ時期ハ警察部長之ヲ指定ス
課署所長ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ武道ノ成績ヲ詳具シ審査ヲ申請スヘシ
- 第五條 審査員ハ武道ニ熟達セル者ノ中ニ就キ警察部長之ヲ命シ又ハ囑托ス
- 第六條 武道ノ階級及官氏名ハ所屬警察官署武道場ニ之ヲ揭示スヘシ
前項ノ階級札ハ第三號様式ノ木札ヲ用フヘシ
- 第七條 初段以上ノ武道審査證ヲ有スル者ハ警察官署ニ於ケル柔(劍)道教師タル資格ヲ有ス但一級以下ノ者ト雖モ柔(劍)道係ヲ命セラレタル者ハ教師ニ準スルコトヲ得
- 第八條 階級ノ標識左ノ如シ

階級	段	一級	二、三級	四、五級	級	外
面帶紐	黒	茶	綠	柔(黃) 劍(白黒)	白	

〔山梨警〕

- 第九條 警察ノ職ニ従事スル者ニシテ武道ノ審査ヲ望ムモノアルトキハ總テ本則ヲ準用ス
- 第十條 審査ノ結果合格シタル有段者ニハ第一號様式ノ證書ヲ有級者ニハ第二號様式ノ證書ヲ授與ス
- 附則
第十一條 大正二年九月梨警發第一五七號武術審査規程ハ之ヲ廢止ス

(式様第一號)

官氏名	武道審査規定ニ依リ柔(劍)道
段	ヲ允許ス
年月日	

山梨縣警察部長位勳氏名印

(式様第二號)

官氏名	柔(劍)道
級	ニ列ス
年月日	

山梨縣警察部長位勳氏名印

(第三號様式)

寸一	〇	寸六
氏名		

● 武道獎勵規程

大正十四年七月 警訓第四號

- 第一條 警察官吏ノ士氣ヲ振作シ武道ヲ練磨セシメル爲メ毎年一回劍道及柔道ノ優勝試合ヲ行フ
- 第二條 警察部及各警察(分)署ヲ左ノ五方面ニ分ツ

第一編 警務 第十一章 教養及訓練

- 第一方面 警察部、甲府警察署
- 第二方面 龍王、小笠原、韭崎、日野春、各警察(分)署
- 第三方面 飯澤、南部、市川、各警察署
- 第四方面 石和、日下部、各警察署
- 第五方面 谷村、吉田、猿橋、上野原、各警察(分)署
- 第三條 試合ニ參加スヘキ人員ハ各部署各階級(段及一級及五級)一名宛トス
- 第四條 試合ヲ分チテ豫選試合決勝試合ノ二種トス
- 第五條 豫選試合ハ決勝試合ニ參加スヘキ部署ヲ決定スル爲メ行フモノニシテ方面内各部署間ノ對抗試合トシ警察部長ノ定ムル日時場所ニ於テ各部署長(警察部ハ警務課長)ノ選抜シタル各階級ノ選手ヲ以テ之ヲ行フ
- 第六條 豫選試合ニ於テ最高點ヲ得タル部署ニアラサレハ決勝試合ニ參加スルコトヲ得ス
- 第七條 決勝試合ハ警察部長ノ定メタル日時場所ニ於テ之ヲ行ヒ參加シタル各部署間ノ對抗試合トス
- 第八條 試合及採點ハ左ノ方法ニ依ル
- 一、選手ハ勝敗ニ拘ハラズ他部署ノ同級選手全部ニ對抗スルモノトス
 - 二、勝負ハ劍道ハ三本、柔道一本ヲ以テ決ス
 - 三、引分ノ場合ハ雙方零點トス
 - 四、病氣其ノ他ノ爲メ中途試合ヲ爲サ、ルニ至リタルモノハ負トシ相手方ニ一點ヲ與フ
 - 五、最後ニ得點ヲ計算シ最高點ヲ得タル部署ヲ以テ優勝トス若シ同點ノ場合ハ更ニ其ノ部署間ノ試合ヲ行ヒ優勝ヲ決ス
- 第九條 決勝試合ニ於テ優勝シタル部署ニ對シテハ優勝旗及賞狀(左記様式)ヲ授與ス

第十條 優勝旗ヲ授與セラレタル部署ハ丁寧ニ之ヲ保管シ次回試合ノ際警務部長ニ返納スヘシ

賞狀
某警察署
劍道部參加選手
柔道部參加選手

何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何

第何回山梨縣警察官武道大會ニ於テ優勝シタルコトヲ證シ茲ニ優勝旗一旒ヲ授與ス

年月日
山梨縣警察部長 官位階勳等 氏 名 圖

警察官文武兩道ニ心掛クヘキ件

明治十四年二月 第一二號

人民各其業ニ安シ生ヲ樂ムモノハ蓋シ巡查ノ能ク其職ヲ盡シ保護ノ任ヲ全クシ人民ニ信任ヲ得ルニ依ル若シ夫レ怠惰其職ヲ忘却シ或ハ意氣柔弱事ニ臨ンテ難ヲ避ル等鄙劣ノ所爲アルニ於テハ獨其任ヲ辱カシムルノミナラス終ニ人民ノ輕侮ヲ受ケ信任ヲ失ヒ其害々又地方施政ノ妨障タル少ニアラ

〔山梨警〕

第十二章 服裝禮式及信號徽章

〔山梨警〕

警察官及消防官服制

昭和十年六月二十一日 勅令第六十七號

朕警察官及消防官服制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警察官及消防官服制別表ノ通定ム
附則
本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
従前ノ規定ニ依ル制服ハ當分ノ内仍之ヲ用フルコトヲ得
従前ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル短刀ノ佩用及拳銃ノ帶用並ニ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ定メタル防禦具、特種ノ製帽及防火具ニ付テハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

警察官及消防官服制表

上		地 質	警 視 總 監	警務部長、 警視廳官房主事各 部長及廳府縣警察 部長
製 式	地 質			
立襟一行五箇ボタン、長ジャケット、前面ノ左ニ二箇右ニ一箇ノ物ヲ附シ下部ノ左右ノ物ヲ入ニハ蓋ヲ附スボタンハ略部ヲ附シタル徑二〇耗ノ金色金屬製トス	黒又ハ濃紺ノ絨(サージヲ含ム)但シ夏ハ白布ヲ用フルコトヲ得	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同

帽				袴		短袴	
略		正		製		製	
製式	地質	徽章	製式	製式	地質	製式	地質
布一圓紐ノ兩端ハ徑一〇耗ノ金色略日章各	正帽ニ同シ	形ニ國耗ヲ徑二五耗ノ金色日章ヲモ一〇耗ノ横徑金五	形ト各一箇ヲ以テ留ム天井喰出ハ幅三耗	圓形、黒革製前底及幅一ノ二耗ノ黒革製	黒又ハ濃紺ノ絨	長サ一上ニ止ム裾口ヲ裂クコト一五〇	普通長袴、兩股ニ各一箇ノ物入ヲ附ス
同	同	餘耗平織金線ハ幅一五	同	同	同	同	同
同	同	ト一耗平織金線ハ幅一五	同	同	同	同	同
同	同	餘耗平織金線ハ幅一五	同	同	同	同	同
同	同	上一一平織金線ハ幅一五	同	同	同	同	同

〔山梨警〕

〔山梨警〕

衣			
領		肩	
地質	徽章	略肩章	正肩章
上衣ニ同シ	左右ニ徑一〇耗ノ金色略日章各一箇ヲ	形三平線紺長 狀箇ホ織細ノノ 圖ヲ金線日サ ノ附ン線緋二 如ス一ヲヲ絨 シ箇條施及耗	形サ〇箇櫻シ耗長 狀八徑ヲ花肩トサ 圖五徑附章ハ當シ一 ノ耗一ス三ハ幅二〇 如徑四總箇ハ及徑六五 シ耗ノ金籠一ノ耗金 ノモ目二ト銀ノ製 ノ十線耗ノシ色略 十七前金ノ徑日座 六條總色ハホ耗一 ヲ裏ハサノノ一箇 附總長タノノ銀一 スハサ一色附五
同	同	同モ織ノスハ警勅 上ノ金餘略務任 三條ハ在日章長タル ト幅リ上ハニ在警 餘耗九テ其二視 ハノ平他トテ	同二五條耗ハ花ノスハ警勅 上十耗ノ長章者餘櫻務任 二徑裏モサハニハ花部官 條五總ノ六二在同章長タル ト耗ハ二〇箇リ上ハニ在警 スノ長十耗前テハノ二筒視 ハノ五三九總櫻他トテ
同	同	同章ノ平織金線ハ幅九耗	同二〇條九總櫻 上十耗ハ花章ハ一箇 二徑裏ノモサハ四筒 條五總ハノ四二五耗前 スノ長サ十耗 ハノ四三徑
同	同	ス平織金線ハ幅一五	餘總ハ銀籠目線トス
同	同	同章ノ平織金線ハ幅六耗	ト裏總ハ花章ヲ附セズ ス餘ハ長サ三〇耗前 同上五サ二四耗

外		結	刀	短	刀
甲		常	正	刀	帶
製	地	結	結	帶	帶
式	質				
襟後ヲ同シ シキ左ノ ヲ留置キ 頭巾ニ色 ニ本及一 紐留置及 黒色ホス	黒又ハ濃紺ノ絨	同 シ ○ 結 徑 二 五 耗 莖 ヲ 附 セ ズ 餘 ハ 正 緒 ニ サ	形線折ハ○ 狀製返金耗 圖丸シ線ノ ノ組兩製壺 如紐端九ノ 幅ヲ打長線 一合紐サ製 ○シ徑四精 耗テ五五圓 圖總耗耗查 徑ヲ長徑形 一附サ三、 五ス九○莖 耗緒七托ノ ト締○トスサ スハ耗トス金ヲ緒三	○釣革ノ長サハ二帶四 =同シ	子鑽ノ附輪ハ幅一五 右ニ各一筒ノ其前具ハ 中央各ヲ附シ其具ハ ク鉤鎖ハニ付ケルニ ○鉤鎖ハニ付ケルニ 二鉤鎖ハニ付ケルニ 銀○鉤鎖ハニ付ケルニ 形狀圖ノ如シハ金色トス
同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上
同	同	同	上莖ヲ附セズ餘ハ同	同	同裏ハ莖革トス餘ハ
上	上	上	同	上	同
同	同	同	ス四線總、緒及緒締ハ銀 餘○製トシ總締ハ銀 耗トシ總締ハ銀 ハ同徑二五耗トサ	同	同
上	上	上	同	上	上
同	同	同	同	同	同
上	上	上	同	上	上

〔山梨警〕

短		刀	帽
刀			徽章
表ハ黒ゴム革裏ハ緋絨、長サ適宜幅三 ○ハ六〇耗ニシテ幅二〇耗トス ハ六〇耗ニシテ幅二〇耗トス ハ六〇耗ニシテ幅二〇耗トス	柄ハ金、地、石、唐、目、草、背、面、覆、ヒ、タル 金、地、石、唐、目、草、背、面、覆、ヒ、タル 金、地、石、唐、目、草、背、面、覆、ヒ、タル 金、地、石、唐、目、草、背、面、覆、ヒ、タル	形日ケ置金柄 狀本ル具ハ 圖刀鉤ハ ノ又鐵ハ 如ハトシ シ鉤二、 ト箇樓石、 スノ唐目、 釣草、背、 鐵ヲ置日、 ヲ置日、 附ク及覆、 ス中ハ草、 身ニ草、 ハツ	徑二五耗ノ金、 ○以テ、 樓臺ノ、 三圓ノ、 周ニハ、 組金ノ、 狀金ノ、 形狀ノ、 如條ノ、 シヲ斜ノ、 子ノ、 一ノ、 條ノ、 及斜ノ、 幅ノ、 六ノ、 耗ノ、 ノ條ノ、 蛇腹ノ、 腹ノ、 六ノ、 色ノ、 略ノ、 日ノ、 四ノ、 〇ノ、 製ノ、 金ノ、 色ノ
同	柄ハ白、背、面、覆、ヒ、タル 金、地、石、唐、目、草、背、面、覆、ヒ、タル 金、地、石、唐、目、草、背、面、覆、ヒ、タル 金、地、石、唐、目、草、背、面、覆、ヒ、タル	柄ハ莖、絞トス餘ハ	蛇腹組金線ハ幅六 三ノモ、 ノ一條、 スハ、 同ノ、 上ノ、 一條、 ト幅
同	同	同	蛇腹組金線ハ幅三 二ノモ、 ノ一條、 スハ、 同ノ、 上ノ、 一條、 ト幅
同	同	同	蛇腹組金線ハ幅三 餘ハ、 同ノ、 上ノ、 一條、 トス
同	同	中身ハ日本刀トス 餘ハ同上	金線ヲ纏ハズ餘ハ 同上

〔山梨警〕

衣 上
式 製



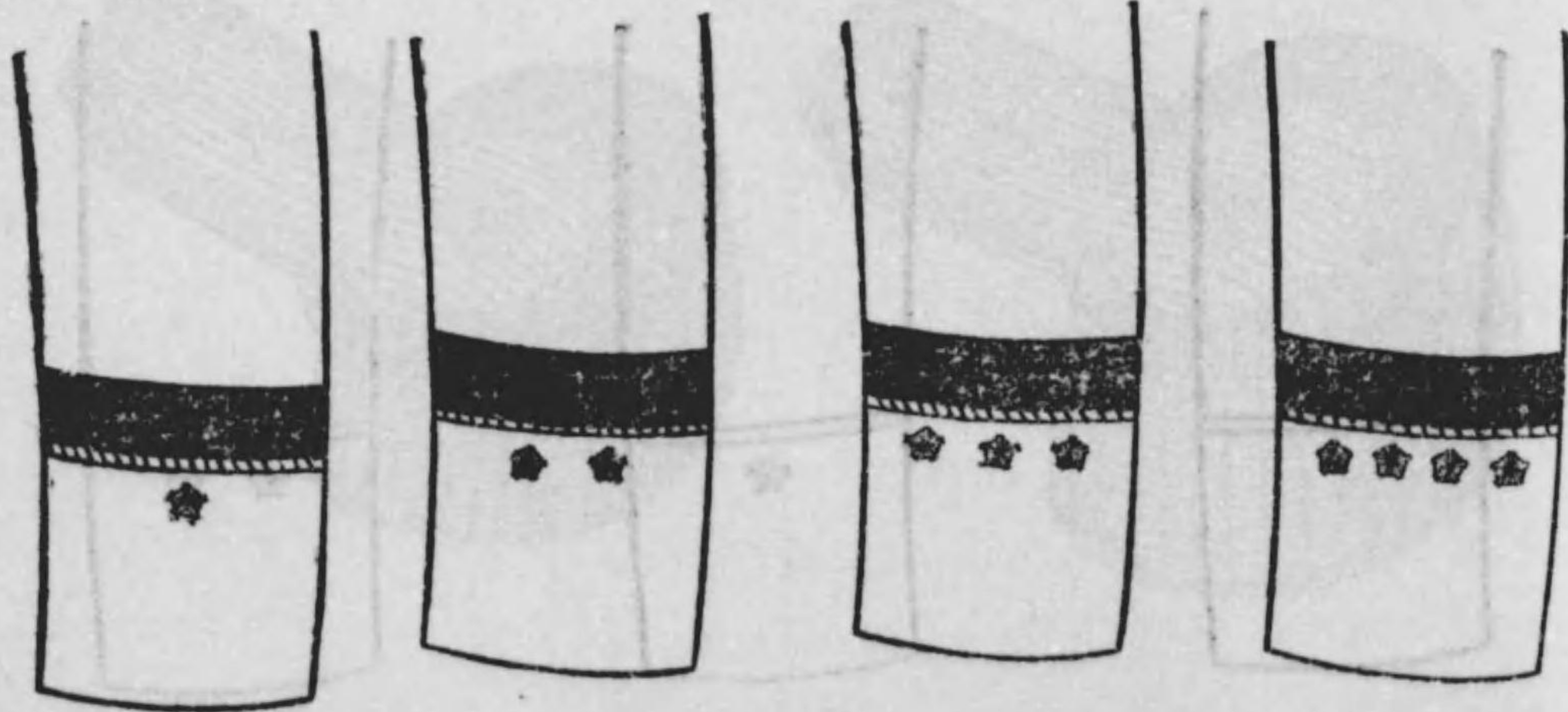
章 袖

消防機關士部

消防司令

樺太廳警察部長
警視廳官房主事各部長
廳府縣警察部長

警視總監



備考

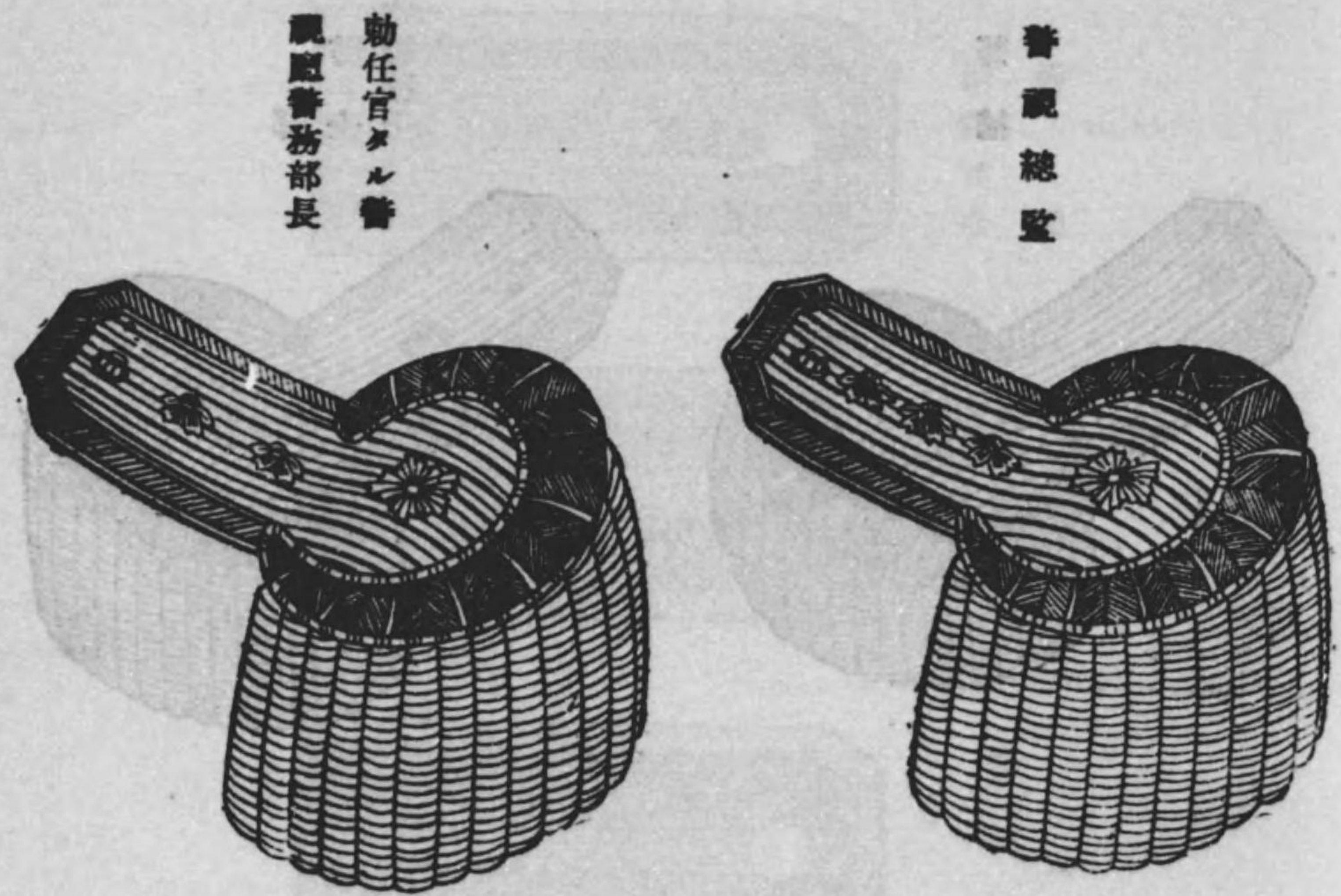
- 一 短袴ハ長靴、脚絆又ハゲートルヲ用フルトキ之ヲ著用スルモノトス
- 一 短刀ハ消防、水上又ハ交通取締ノ勤務ノ者及土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官又ハ廳府縣長官ノ指定スル者主務大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ佩用スルモノトス
- 一 乘馬ノ際刀帶ノ後釣革ハ之ヲ用ヒザルコトヲ得鈎鎖ハ後釣革ヲ用ヒザル場合ニ限り前釣革ニ代ヘ之ヲ用フルコトヲ得
- 一 土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ必要アルトキハ樺太廳長官又ハ廳府縣長官ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ拳銃ヲ帶用セシムルコトヲ得
- 一 土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ特殊ノ帽、防寒具、防火具又ハ防彈具ノ必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官又ハ廳府縣長官之ヲ定ム

〔山梨警〕

種		乙		種	
製式	地質	袖章	形状圖ノ如シ	形状圖ノ如シ	形状圖ノ如シ
長マント形、長サ適宜、襟幅六〇耗折襟、胸部ニ徑一七耗ノ隠黒色ホタン三箇ヲ附ス頭巾及襟部ノ頭巾留ハ甲種ニ同シ形状圖ノ如シ	黒若ハ濃紺ノ絨又ハ黒防水布	徑一五耗ノ金色略日章四箇ヲ附シ幅三耗ノ蛇腹組金線一條ヲ表半面ニ纏フ形状圖ノ如シ	ホタン三箇ヲ附ス形状圖ノ如シ	略日章ハ三箇トス 餘ハ同上	略日章ハ三箇トス 餘ハ同上
同	同	略日章ハ二箇トス 餘ハ同上	同	略日章ハ二箇トス 餘ハ同上	略日章ハ二箇トス 餘ハ同上
同	同	略日章ハ一箇トス 餘ハ同上	同	略日章ハ一箇トス 餘ハ同上	略日章ハ一箇トス 餘ハ同上
同	同	略日章ヲ附セズ餘ハ同上	同	略日章ヲ附セズ餘ハ同上	略日章ヲ附セズ餘ハ同上

肩章

正肩章



勅任官タル警
視廳警務部長

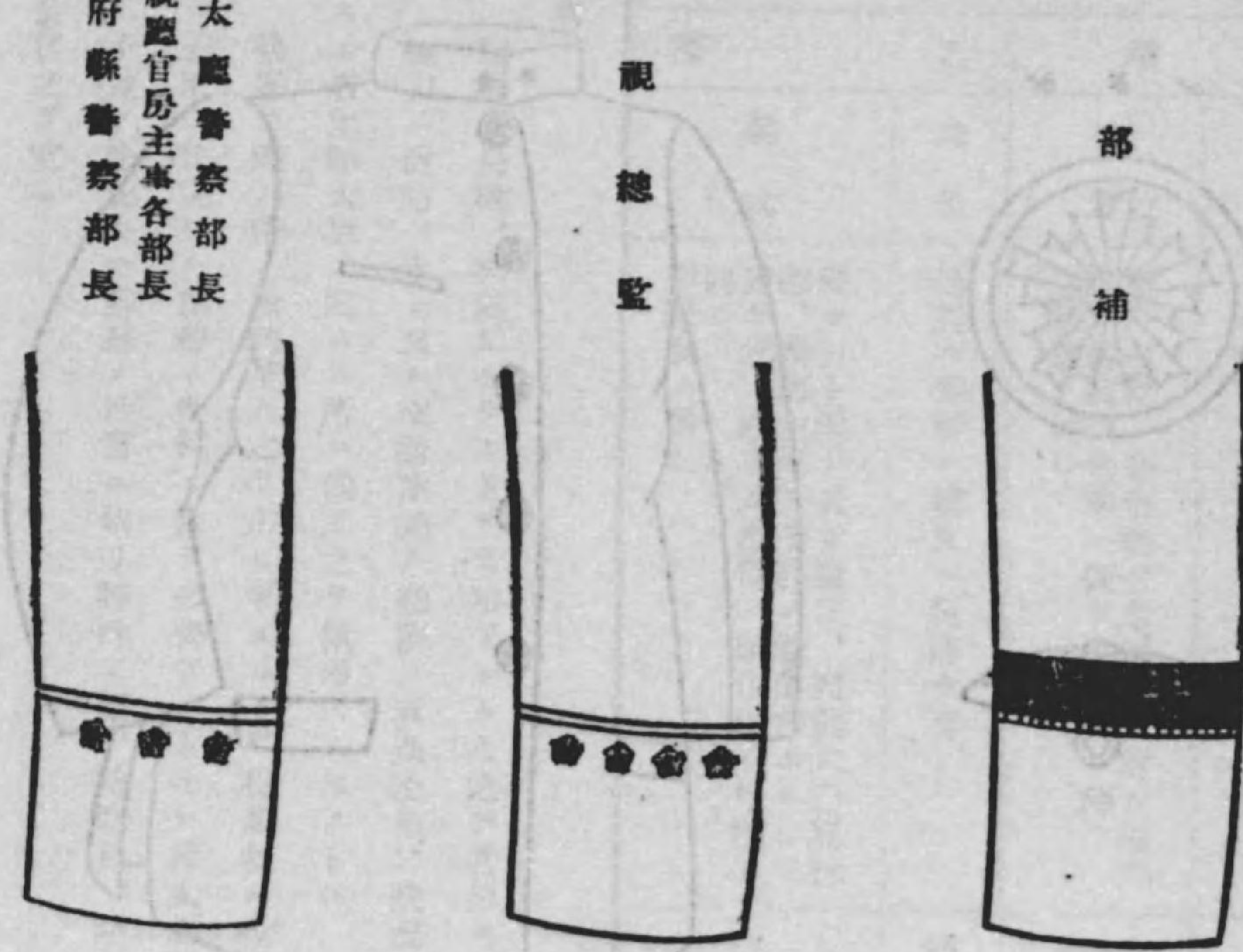
警視總監

夏衣

樺太廳警察部長
警視廳官房主事各部長
廳府縣警察部長

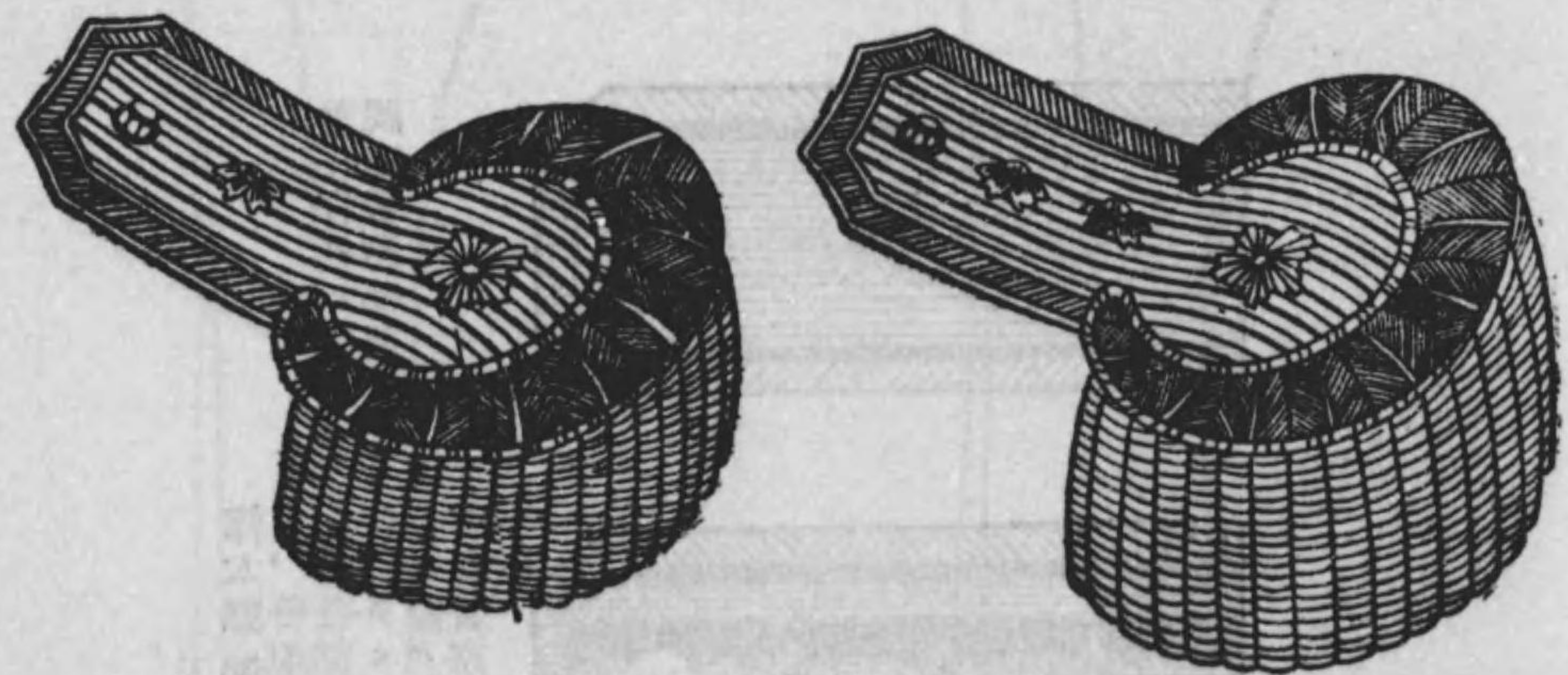
警視總監

警部補



警視
消防
司令

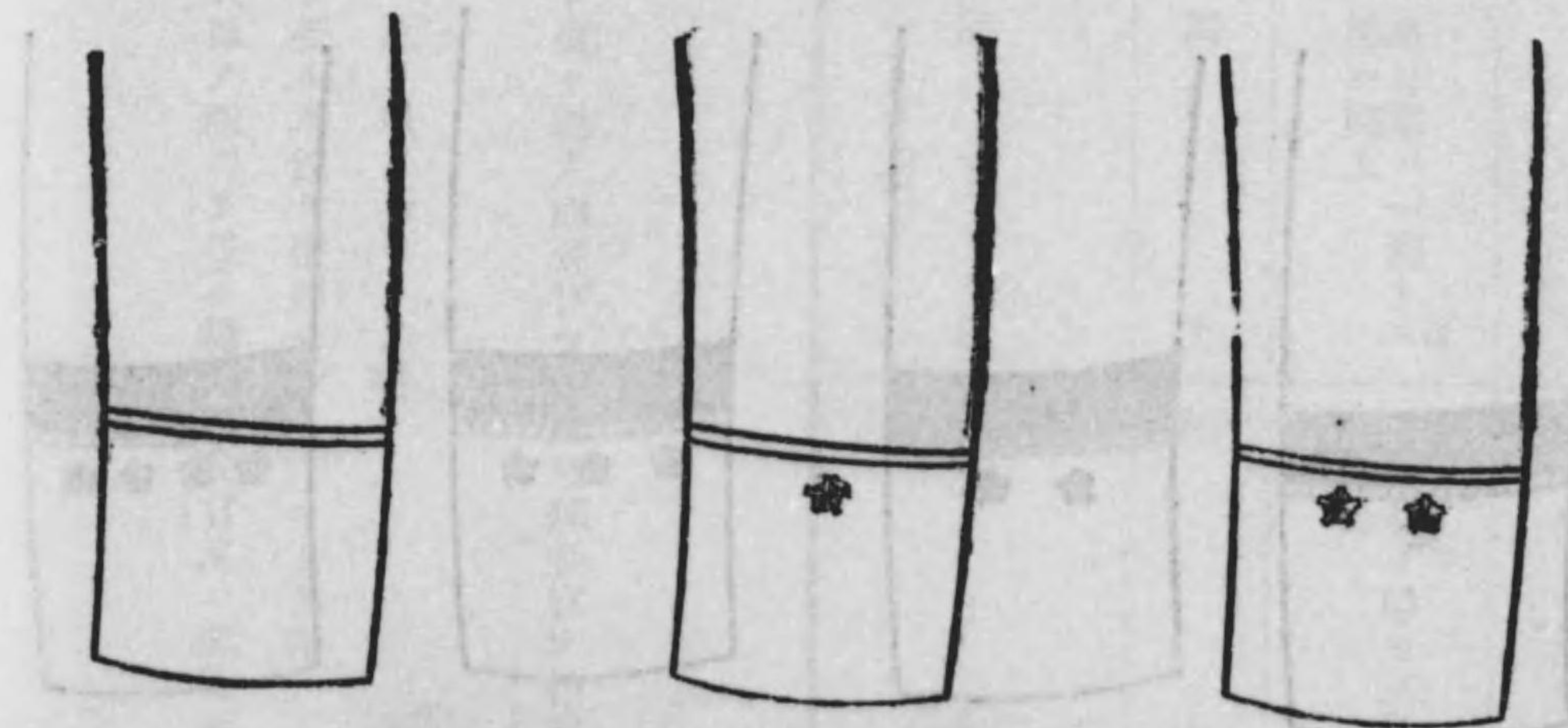
樺太廳警察部長
警視廳官房主事
各部長(勅任官
タル)警務部長
廳府縣警察部長



警部補

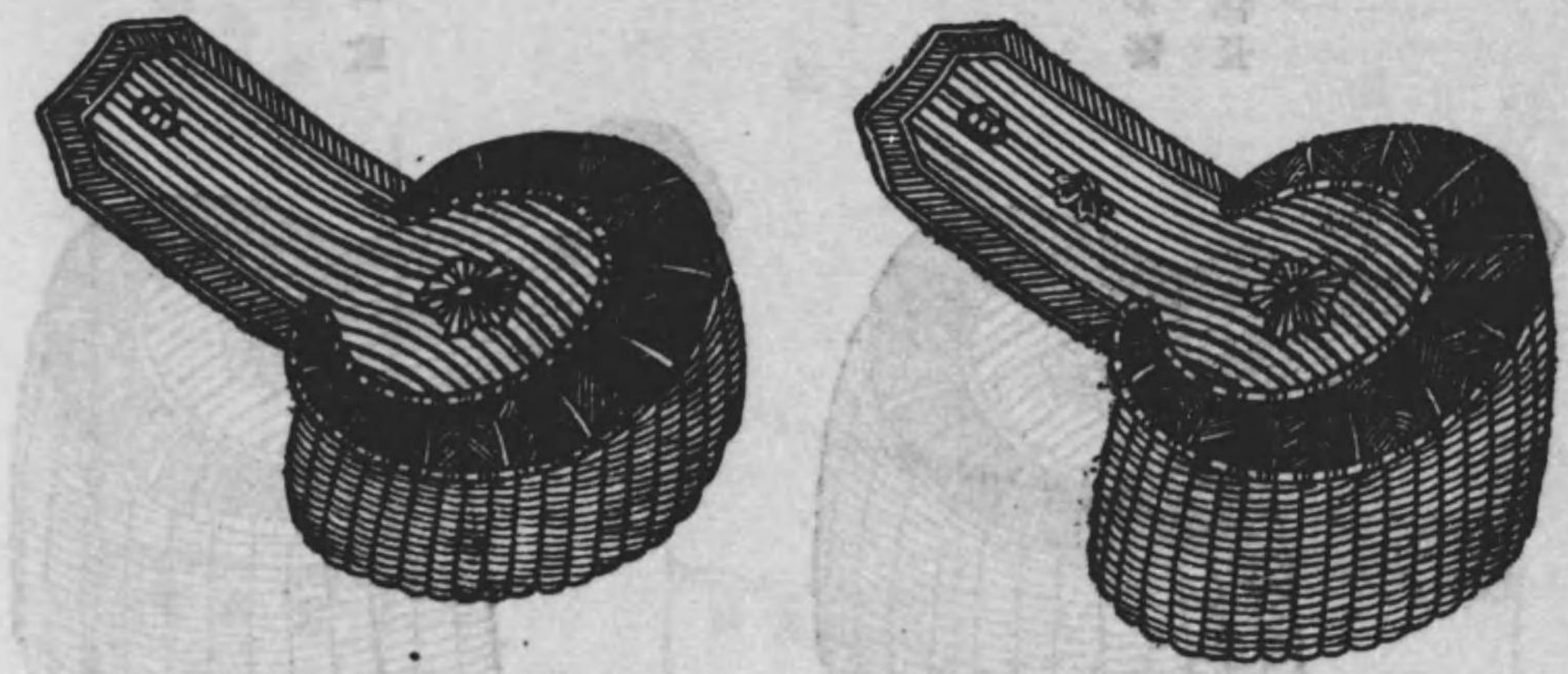
警消防機關士
警消防機關士

警視
消防司令



警 部
消 防
消 防 機 關 士

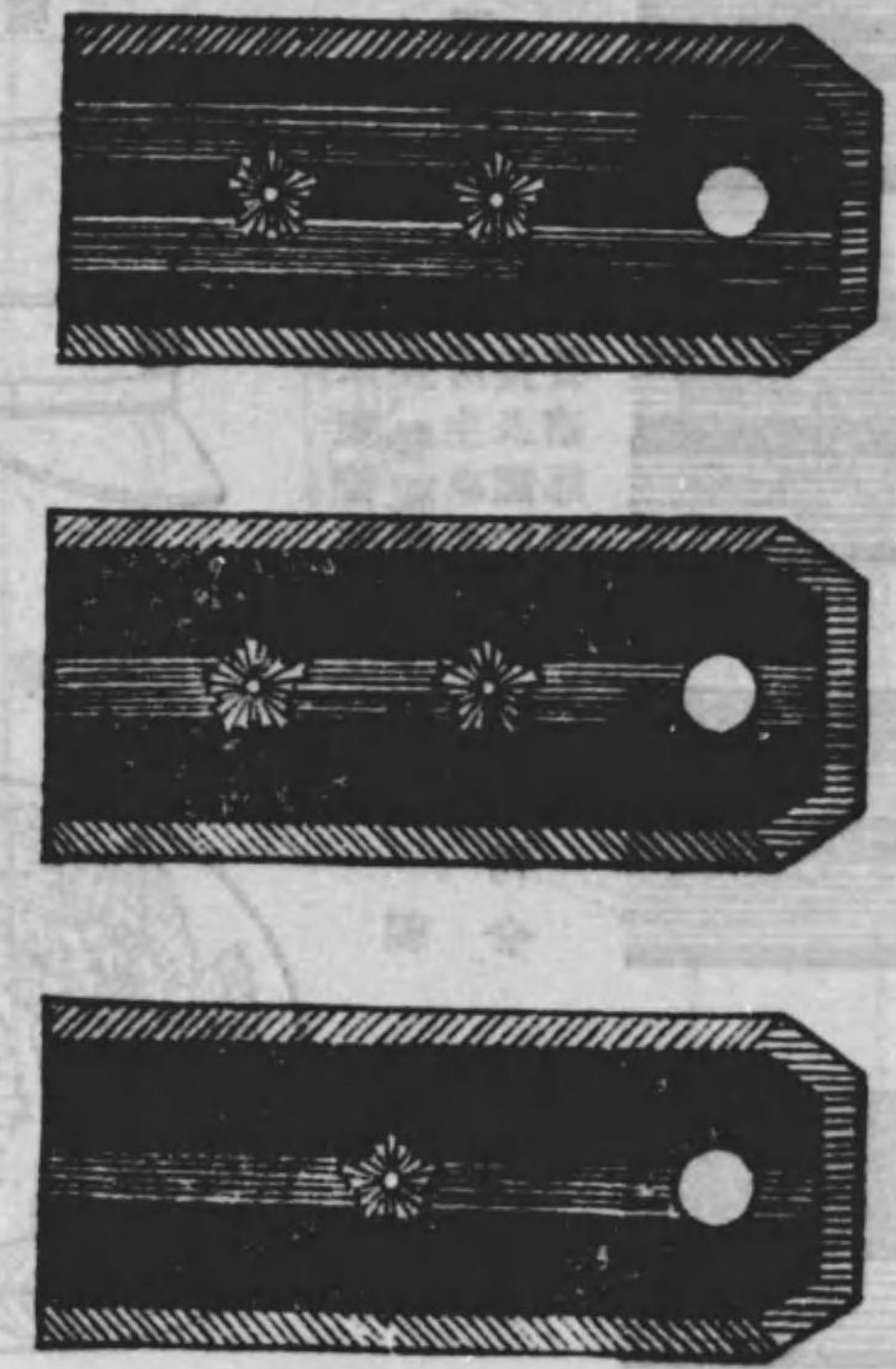
警 部 補



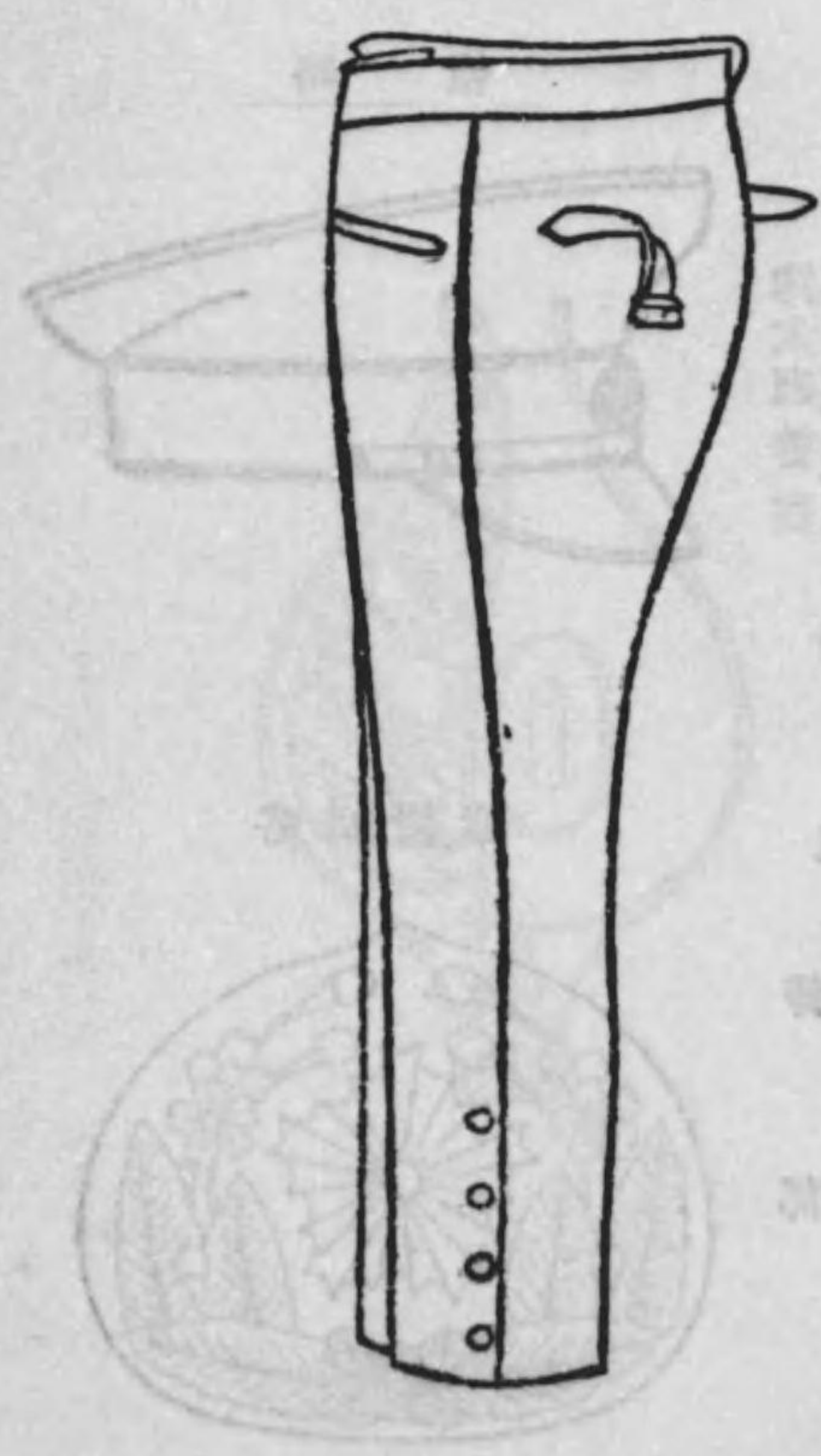
警 視
消 防 司 令

警 部
消 防 機 關 士

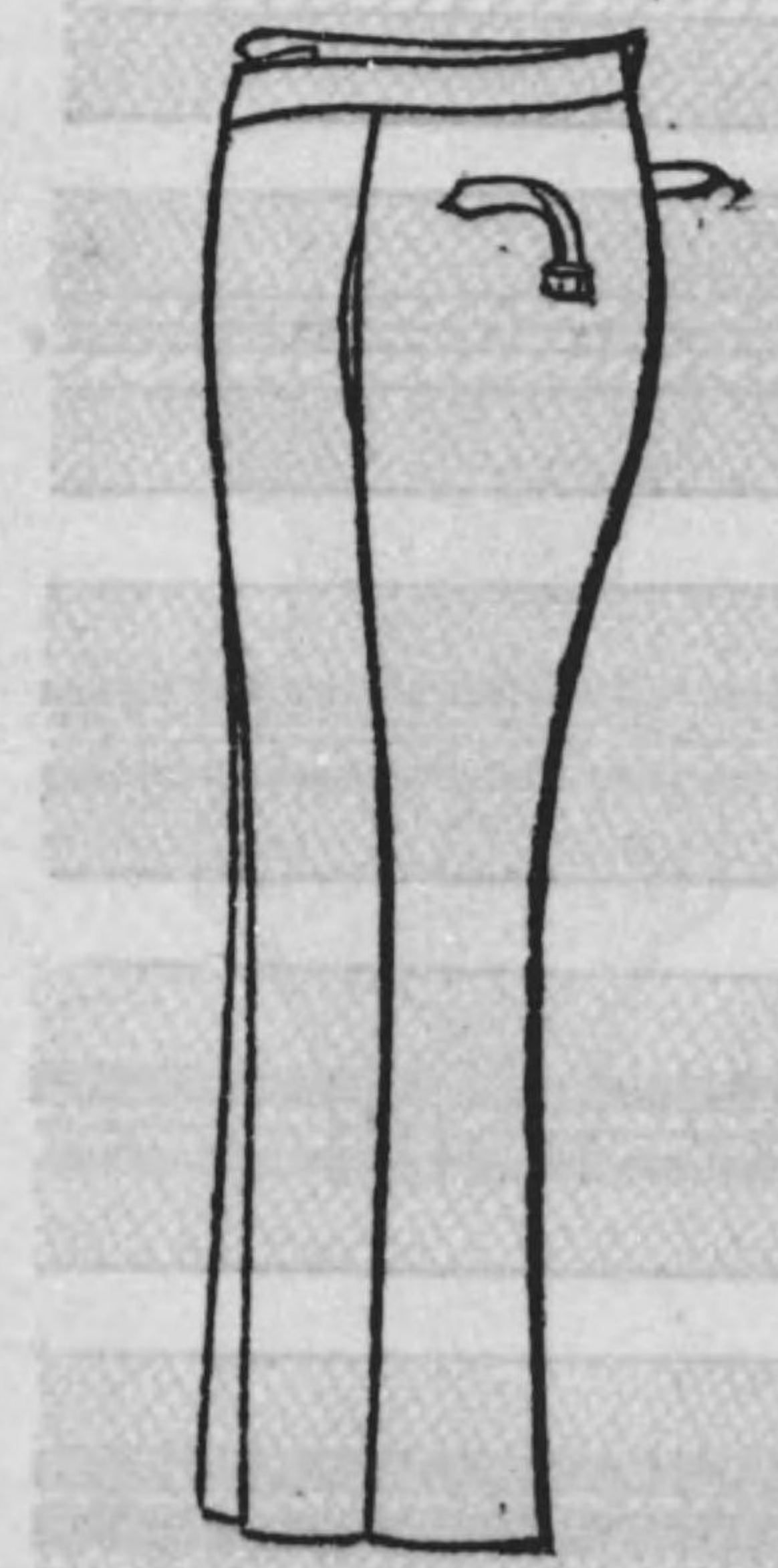
警 部 補



短 袴



袴

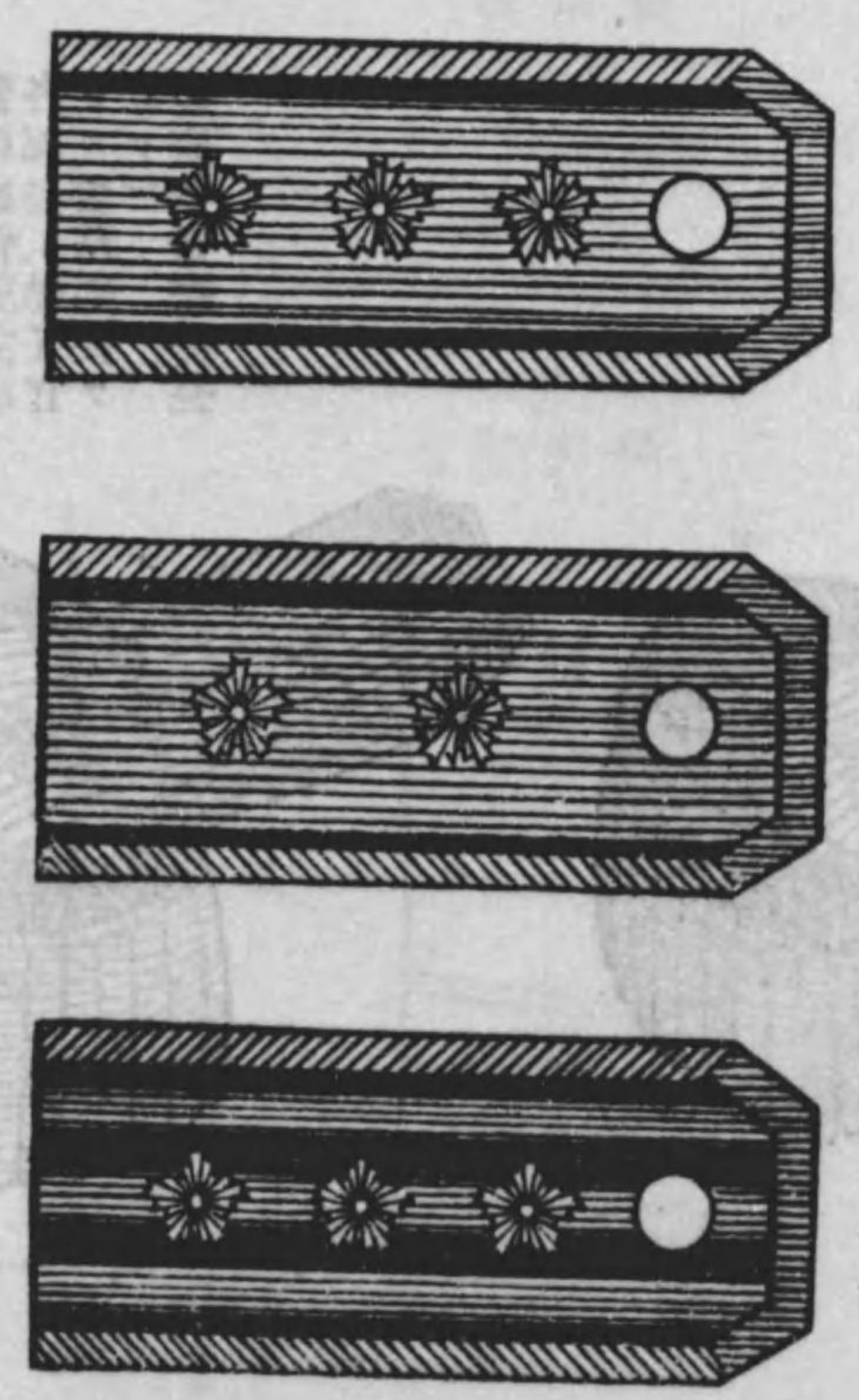


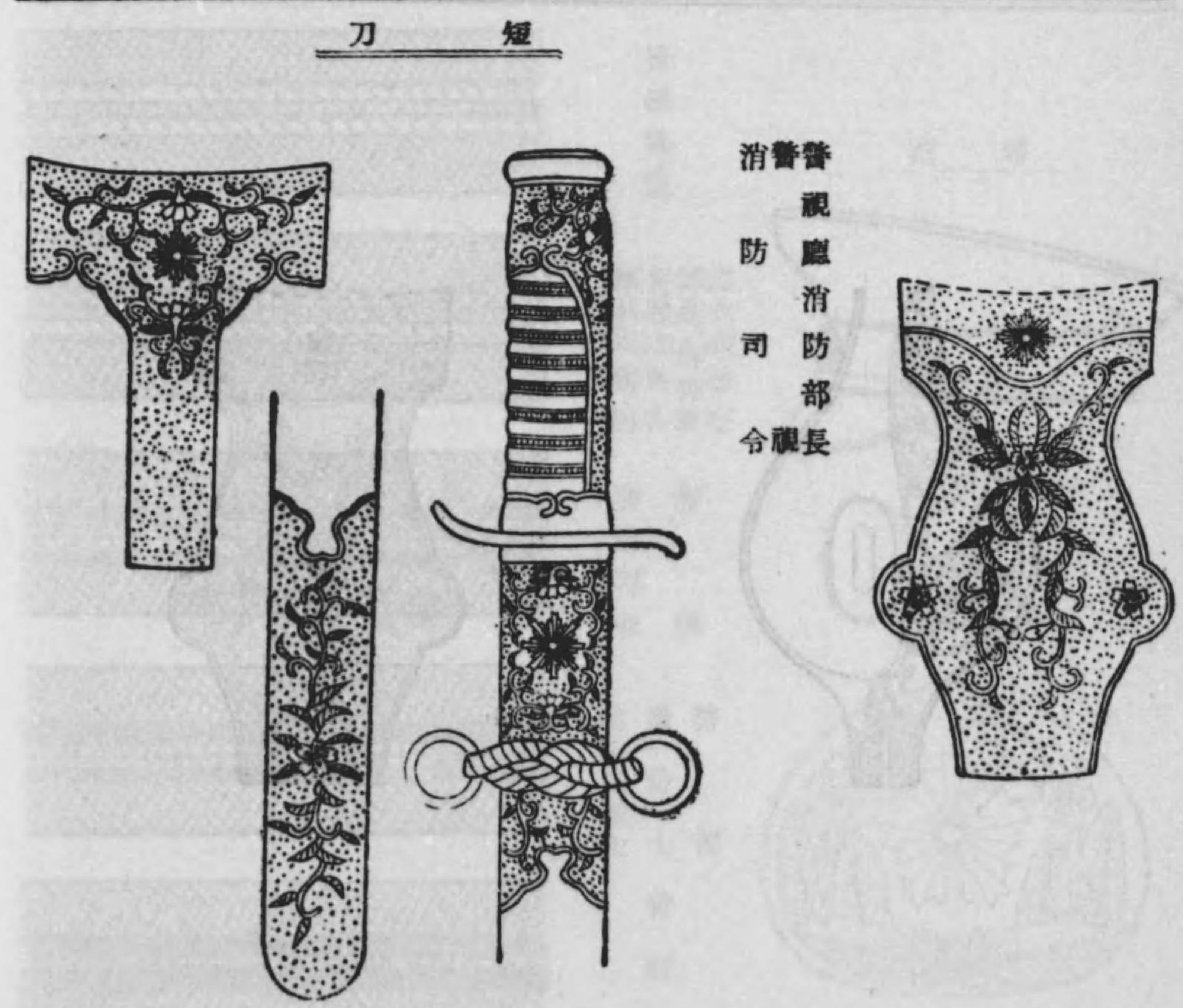
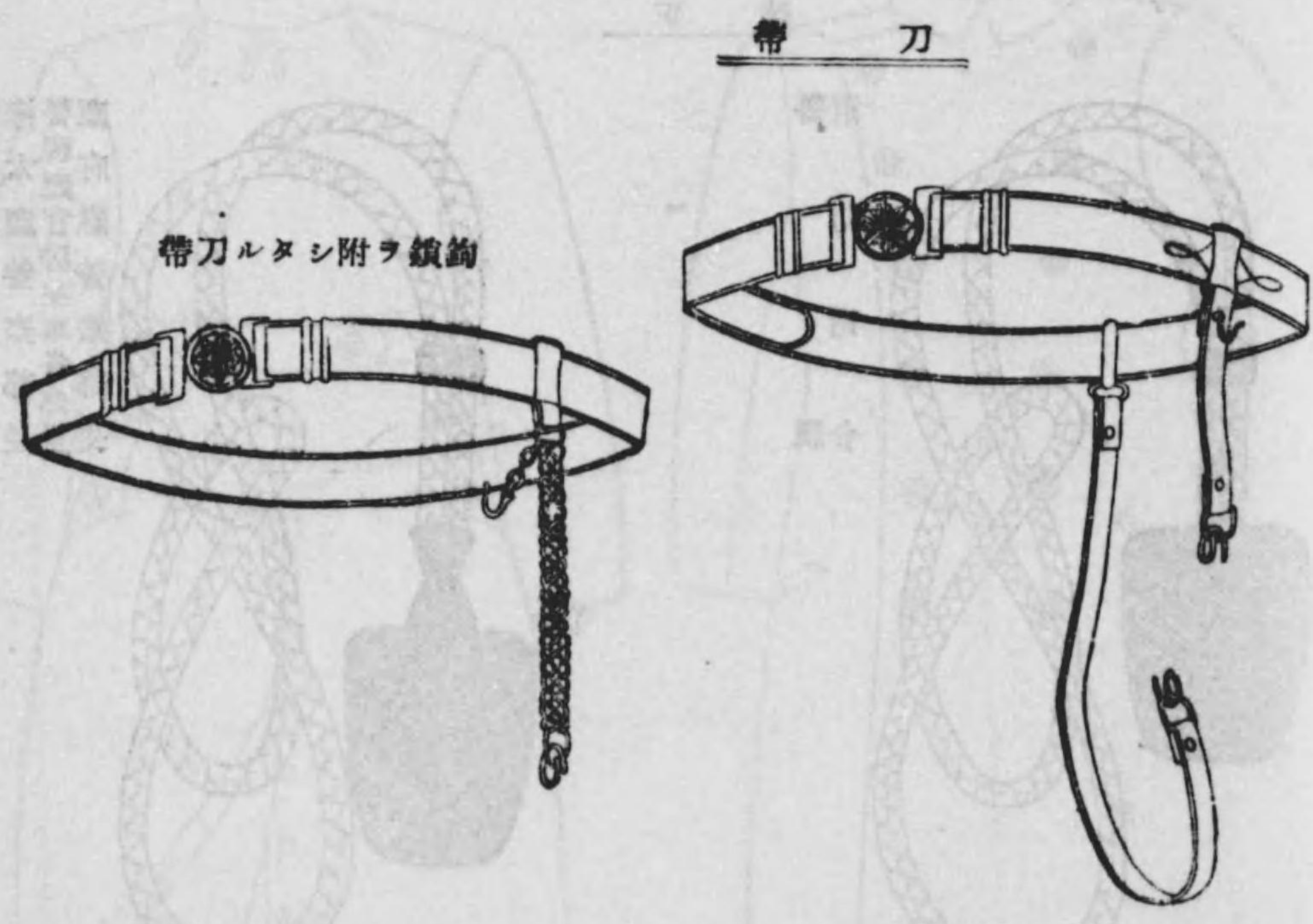
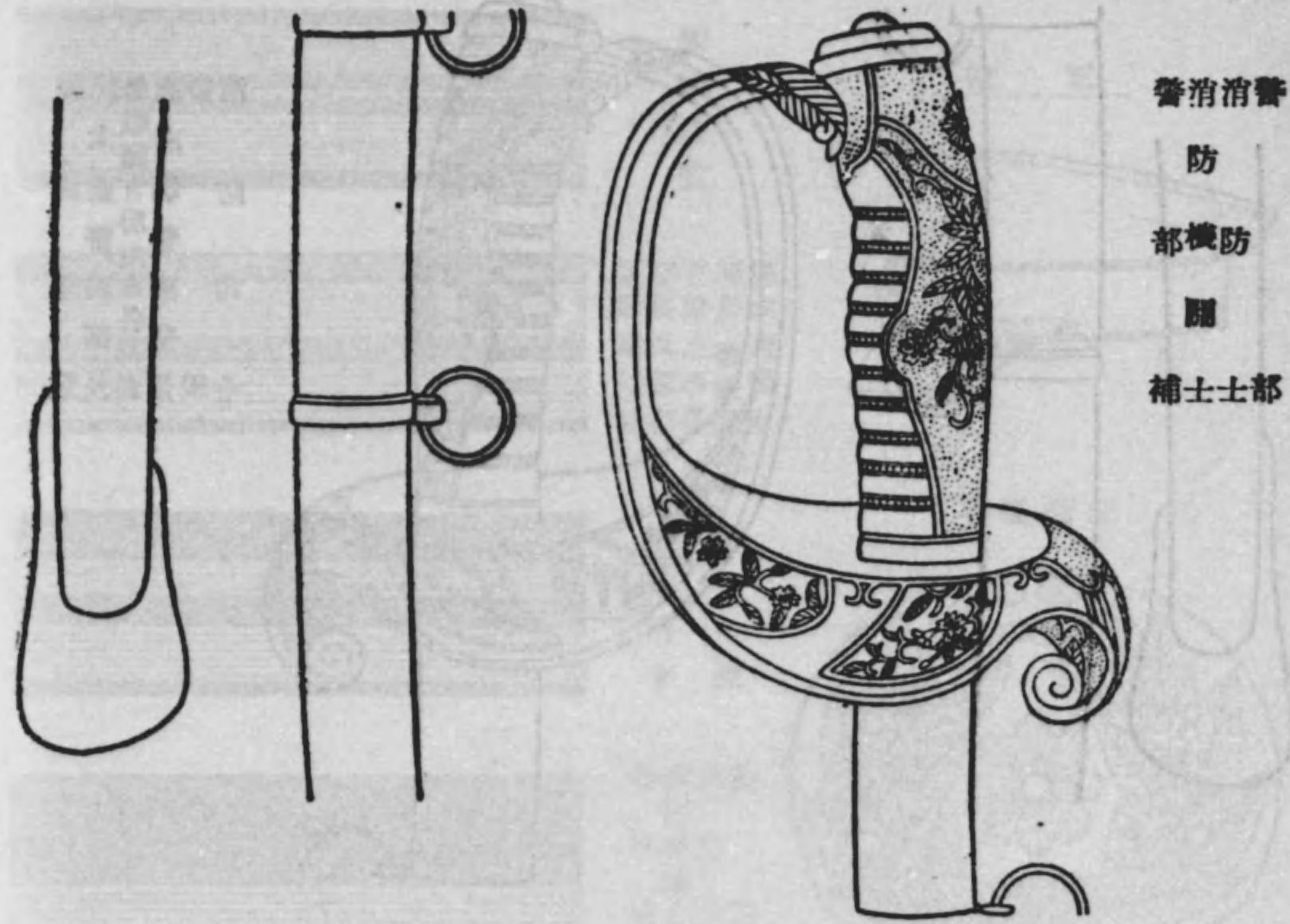
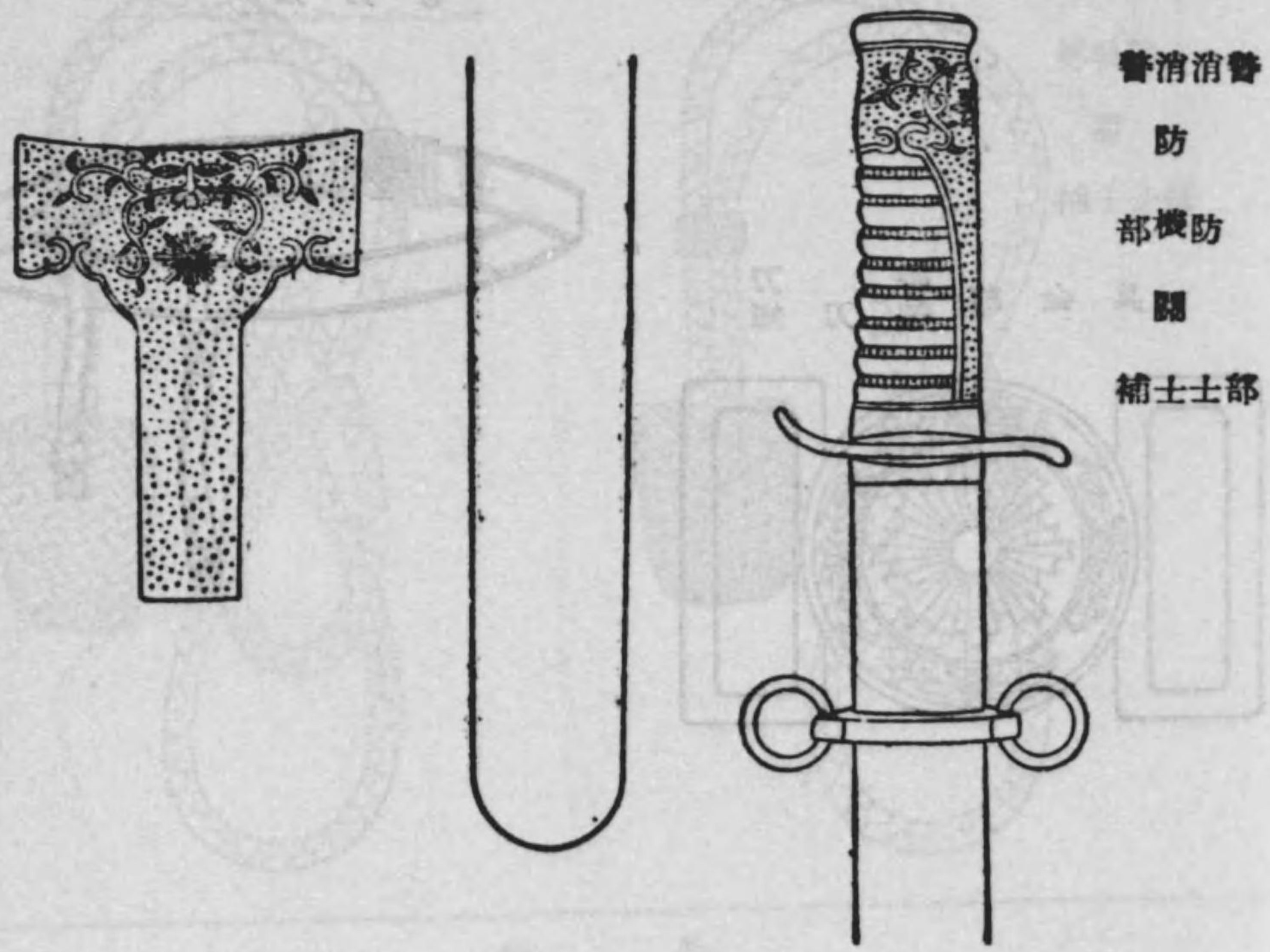
略 肩 章

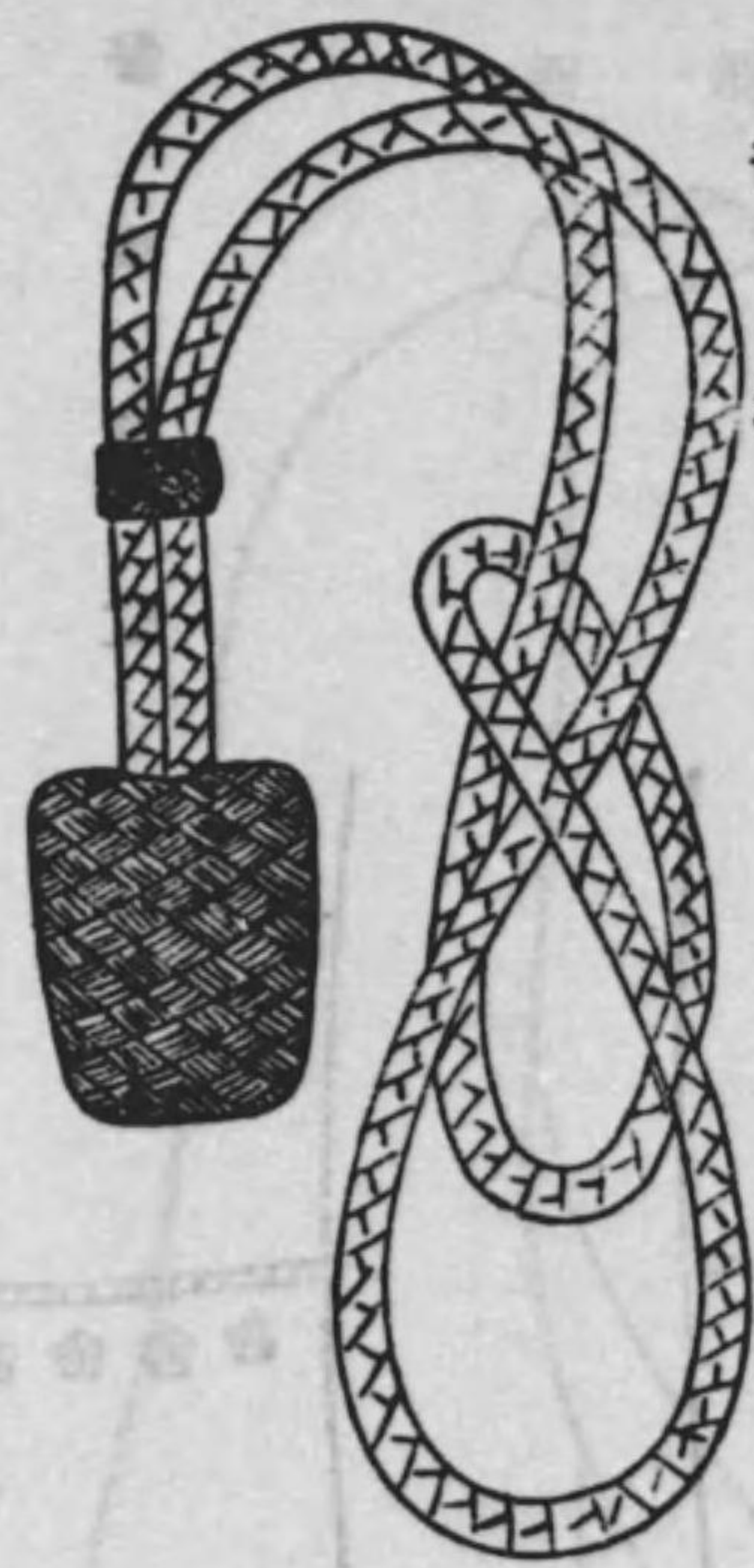
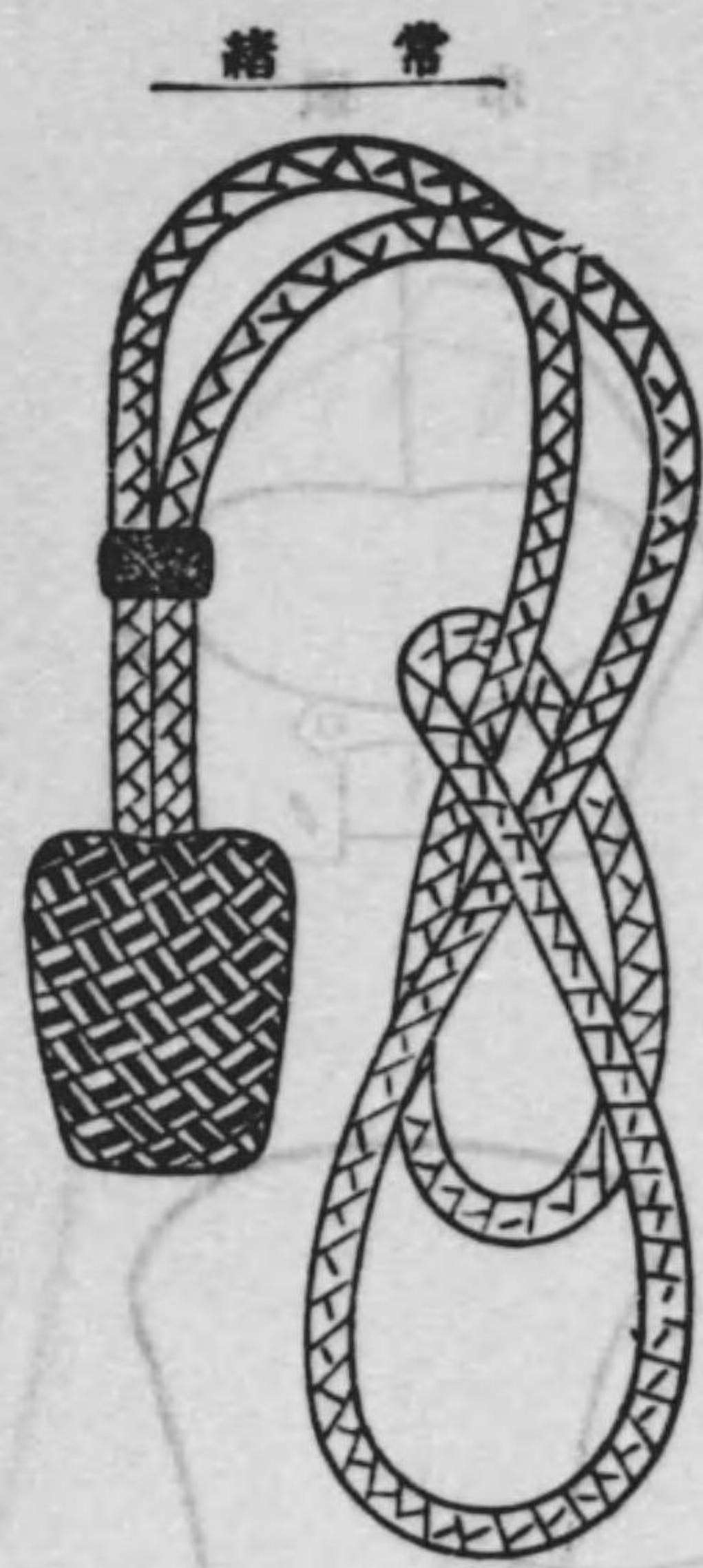
警 視 總 監

警 視 官 長
警 務 部 長

樺 太 廳 警 察 部 長
警 視 官 房 長
警 務 部 長
主 事 各 部 長
任 官 各 部 長
長 官 各 部 長
府 縣 警 察 部 長
及 廳 長

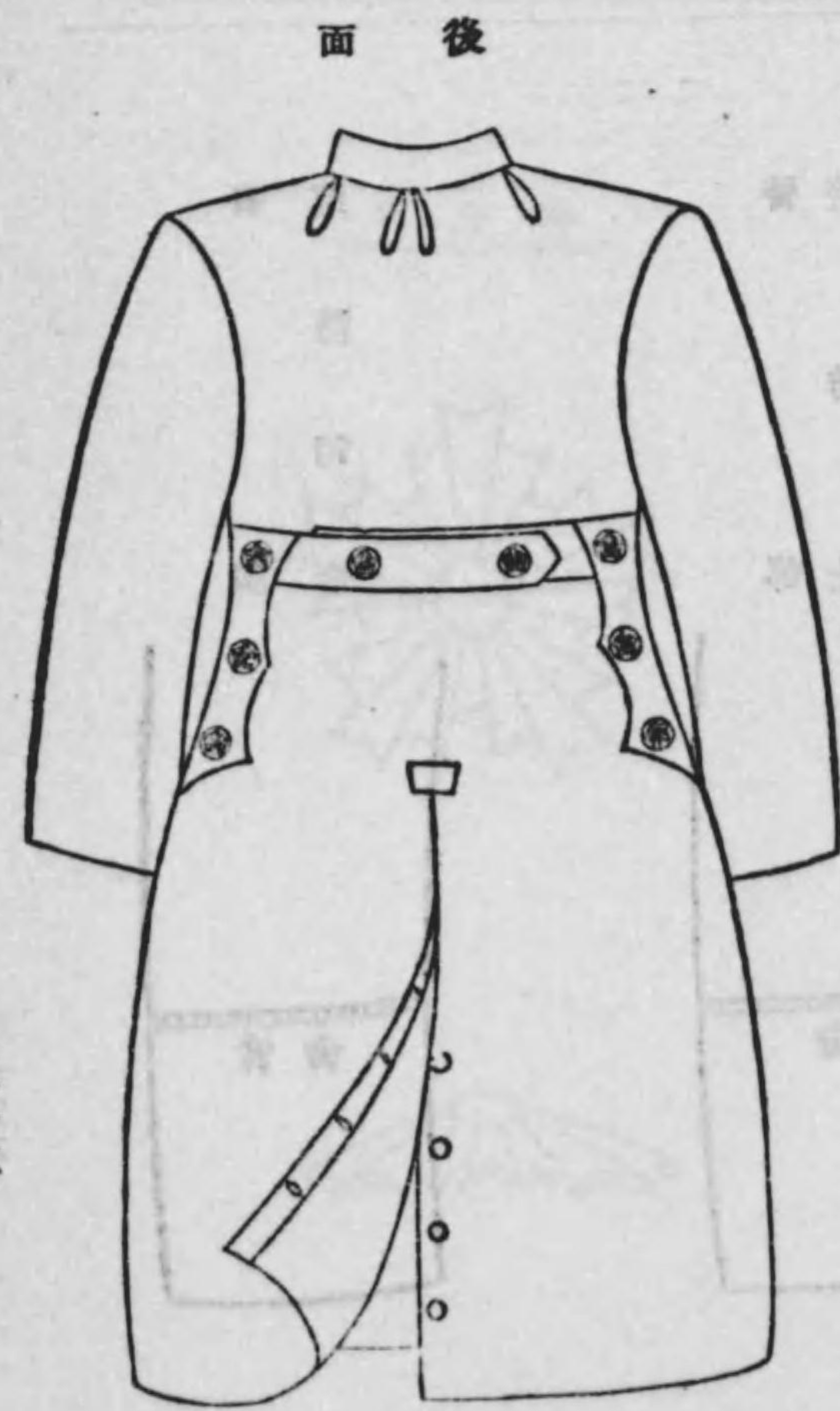






警消消警
防
部機防
關
補士士部

套 外
種 甲

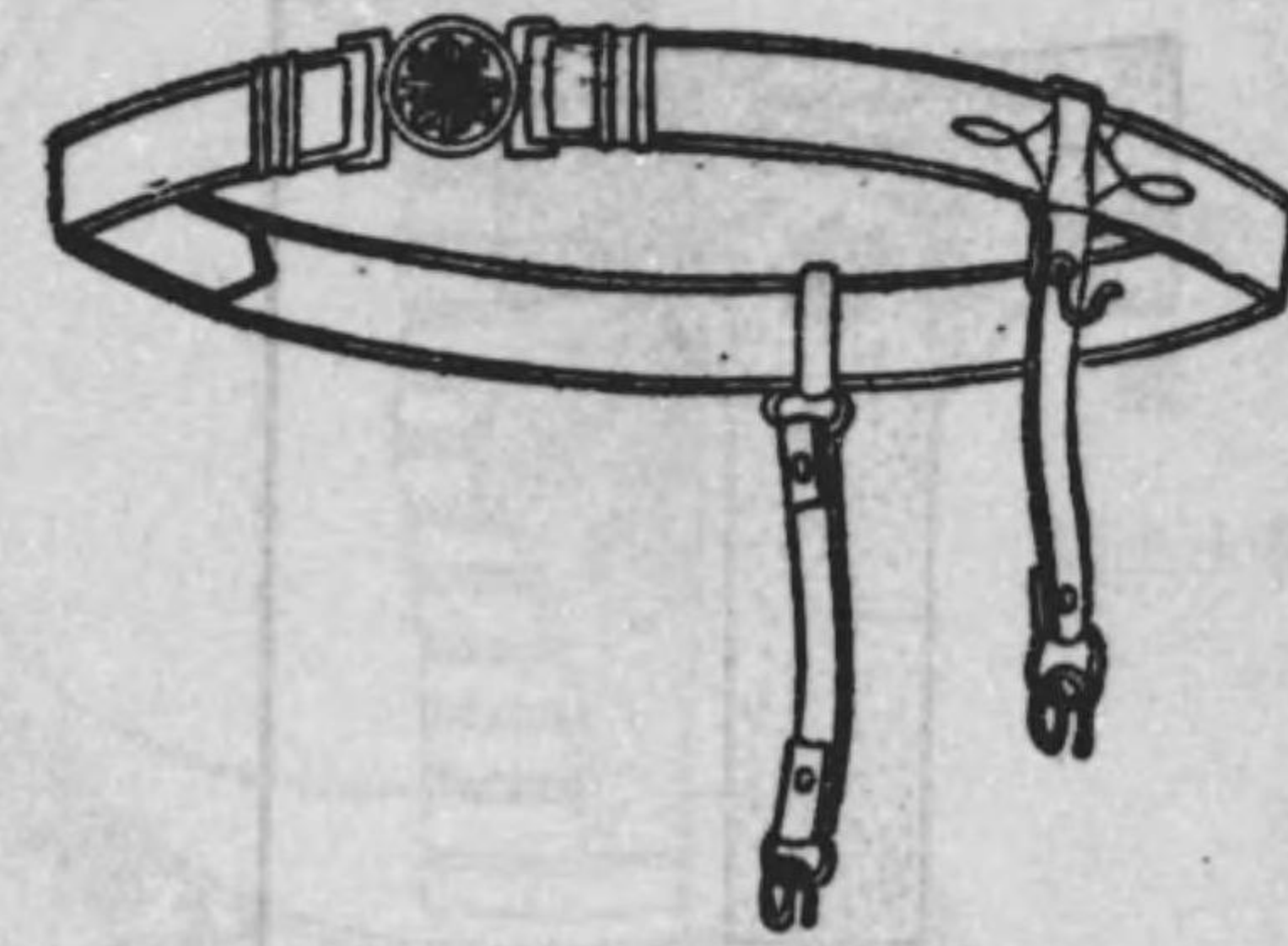


面 後



面 前

帶 刀 短

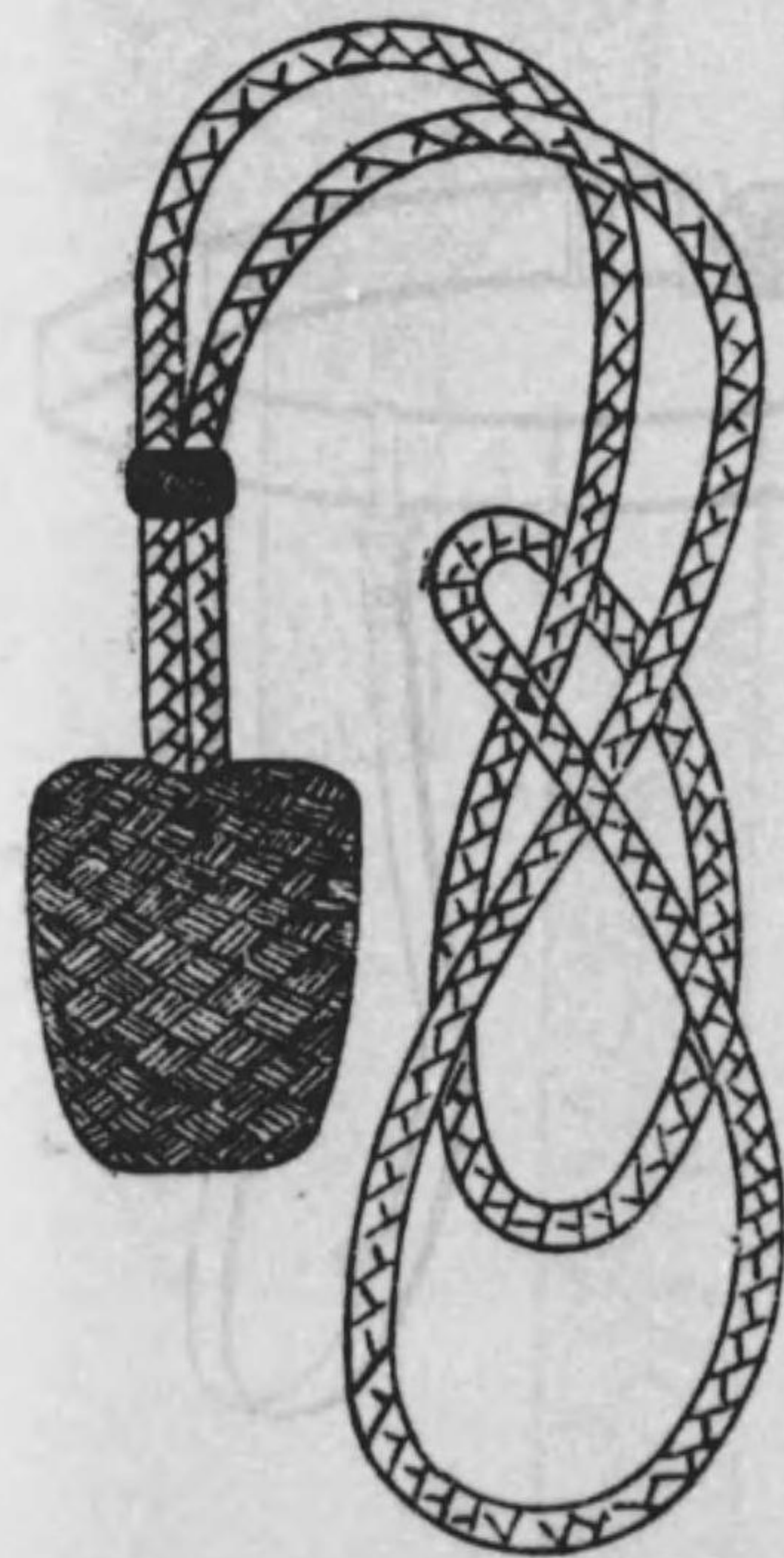


具 金 前 帶 刀 短

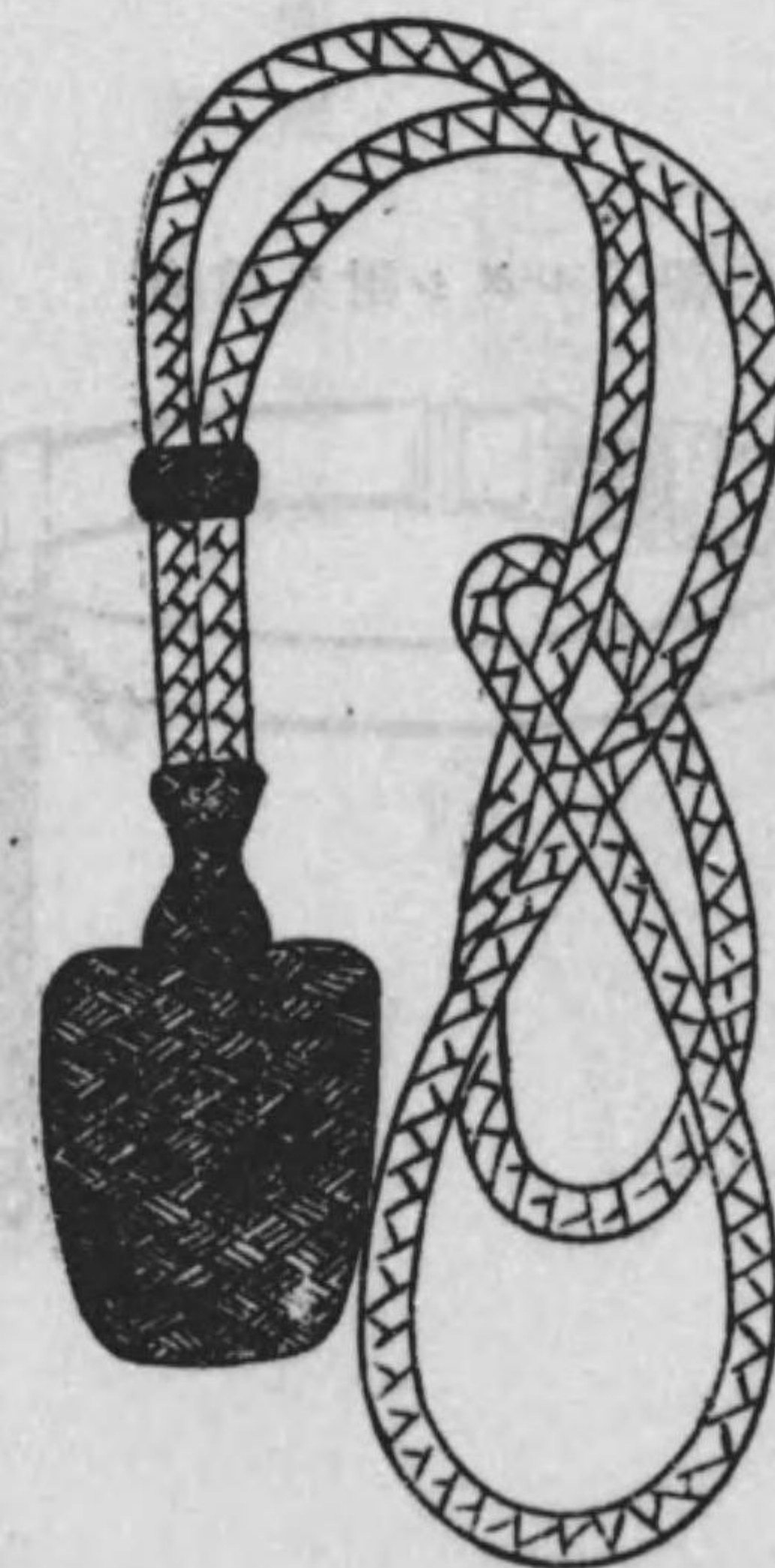


結 刀

結 正

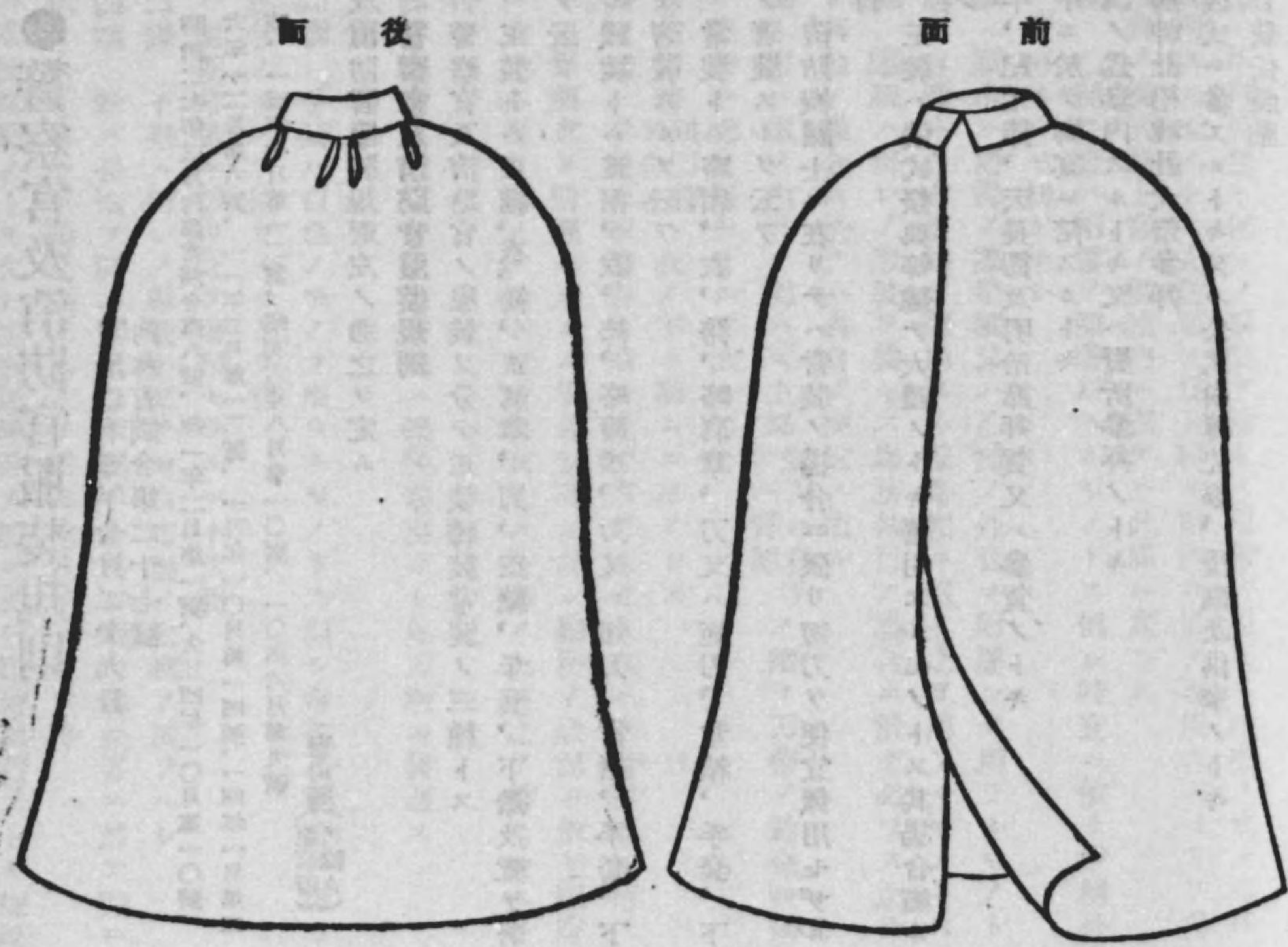


消警
防
司
令視



警總
視察
府官房主事各部
廳視廳官房主事各部
長長

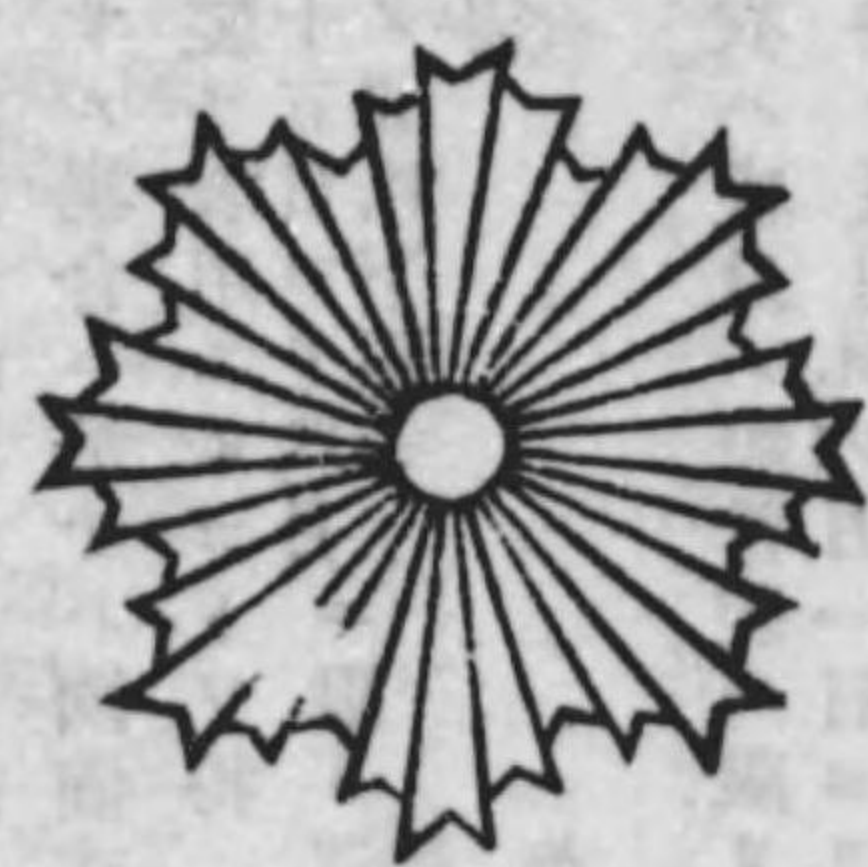
種 乙



章 日 略



章 日



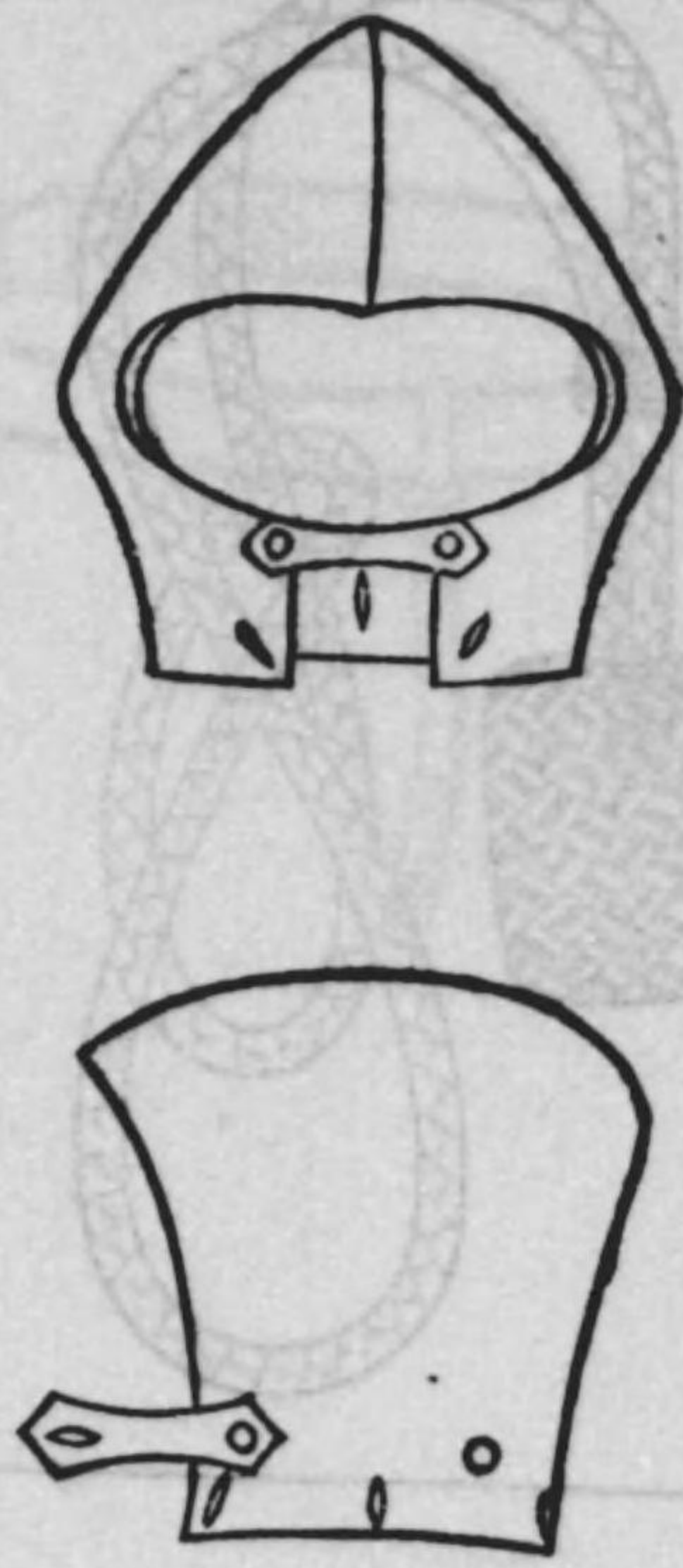
章 袖

警視廳官房主事各部長
廳府縣警察部長

警視廳總監



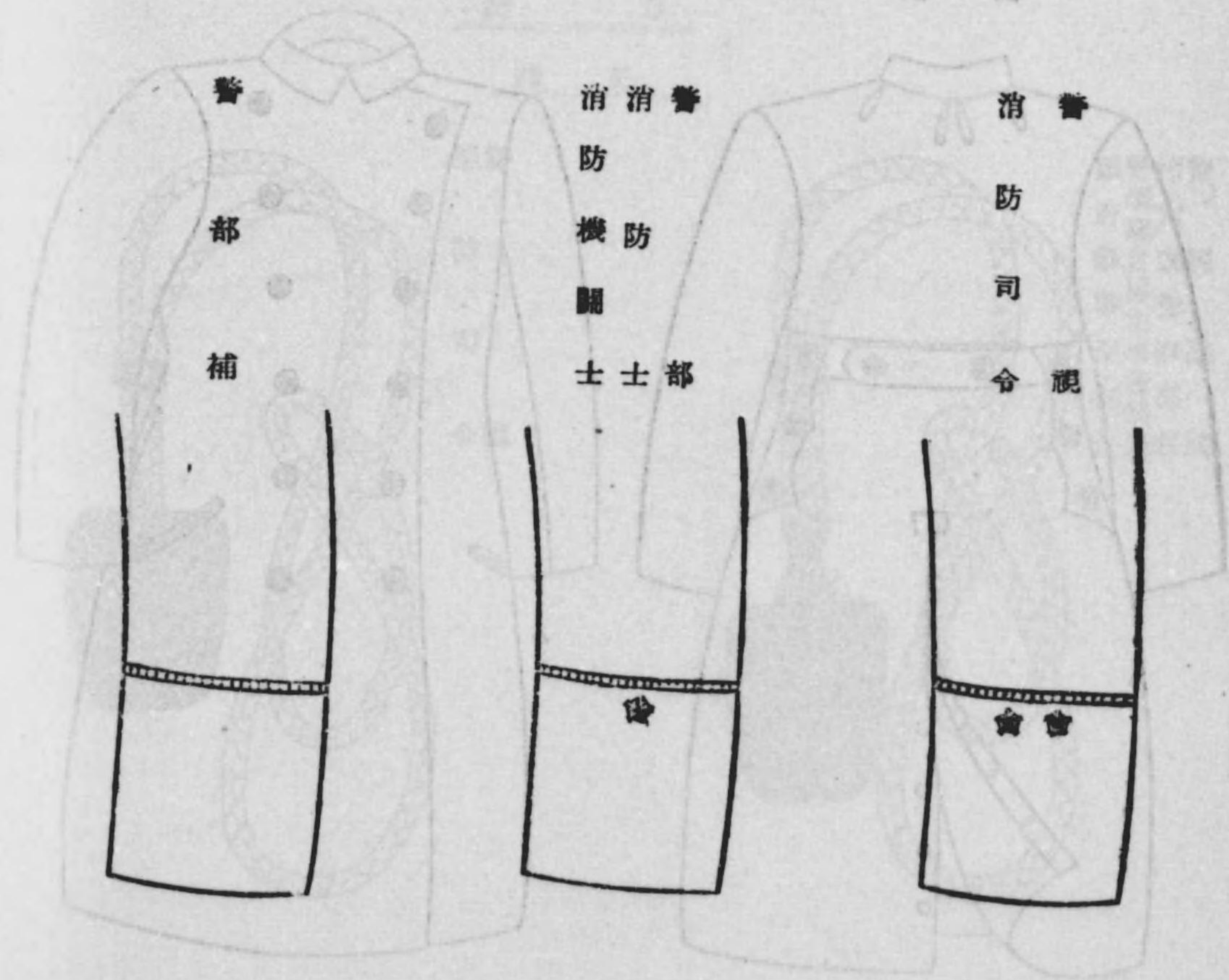
巾 頭



警部補

消防機關士部

消防司令視



警察官及消防官服裝規則

明治二十三年七月二十九日 內務省訓令第二十七號

警察官及消防官服裝規則左ノ通之ヲ定ム

警察官及消防官服裝規則

- 第一條 警察官及消防官ノ服裝ヲ分テ正裝禮裝常裝ノ三種トス
第二條 正裝トハ正帽、衣、袴、正肩章、刀、正緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
第三條 禮裝トハ正帽、衣、袴、略肩章、刀又ハ短刀、常緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
第四條 常裝トハ略帽、衣、袴、略肩章、刀又ハ短刀、常緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
第五條 消防機關士ニ在リテハ常裝ノ場合ニ限リ短刀ヲ便宜佩用セザルコトヲ得
第六條 正裝ハ儀式祭典等總テ大禮ノトキ著用スルモノトス其場合概ネ左ノ如シ
一新年、紀元節、天長節及明治節拜賀又ハ參賀ノトキ
一官中ニ於テ御宴ニ陪スルトキ
一拜謁ノ爲參内スルトキ又ハ賈所參拜ノトキ
一靖國神社招魂社大祭參拜
一國儀式ニ參ズルトキ又ハ公式由簿先驅、後驅及供奉ノトキ
一任官敘任敘勳

〔山梨警〕

- 一一般大禮服用ノ場合
一成規上明文アル場合
第七條 禮裝ハ概ネ左ニ列記スル場合ニ於テ著用スルモノトス
一官中ノ午餐又ハ觀櫻、觀菊ノ御會ニ陪スルトキ
一略式由簿先驅、後驅及供奉ノトキ
一天覽ノ場所ニ臨ミ陪覽スルトキ
一行幸行啓ノ場所ヘ參集シ若ハ奉送奉迎スルトキ
一勅使警備
一政始出廳
一歲暮參賀
一天機伺又ハ任官敘任敘勳其ノ他御禮ノ爲參内スルトキ
一巡閱ヲ行ヒ及巡閱ヲ受クルトキ
一夜會其他廉アル宴會ニ臨ムトキ
一通常禮服及フロツクコート著用ノ場合
一自家親屬其他ノ賀儀葬祭
第八條 常裝ハ平常勤務ノ際著用スル所ノ服裝トス
第九條 已ムヲ得サル場合ニ於テハ國儀式ニ參ズルトキ又ハ任官敘任敘勳ノトキニ限リ禮裝ヲ著用スルコトヲ得
盛夏ノ際凡七月十五日ヨリ八月ニ限リ巡閱ヲ行ヒ又ハ受クルトキ常裝ヲ著用スルコトヲ得
第十條 削除
第十一條 白布夏衣ハ盛夏ノ際常裝ニ限リ著用スルコトヲ得
第十二條 白布夏袴ハ夏期凡六月一日ヨリ九月何レノ服裝ニ在リテモ著用スルコトヲ得但シ白布夏衣ヲ著用スルトキニハ必ズ白布夏袴ヲ著用スルモノトス

〔山梨警〕

- 第十三條 甲種外套ハ何レノ服裝ヲ論セス雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲メ室外ニ於テ著用スルモノトス尤防寒ノ爲メ特ニ室内ニ於テ著用スルコトヲ得但儀式祭典ノ場所及上官ノ居室內ニ在テハ此限ニ在ラス
第十四條 乙種外套ハ雨雪ノ際著用スルモノトス但シ時宜ニ依リ甲種外套ノ上ニ著用スルモ妨ゲナシ
第十五條 頭巾ハ雨雪ノ際甲種又ハ乙種ノ外套ニ附屬シテ用フルモノトス
第十六條 日覆ハ白布夏袴ヲ著用スル際略帽ニ限リ之ヲ用フルモノトス
第十七條 頭紐ハ何レノ服裝ヲ論セス職務執行ノ場合ニ於テ必ラス之ヲ用フヘシ其他ノ場合ニ於テハ各自ノ便宜ニ依ル
第十八條 刀ハ室內ノ内外ヲ問ハス上部短刀ニ在リノ鐵ヲ刀帶ノ鈎金ニ掛ケ乘馬ニ在テハ之ヲ掛ケサルヲ法トス
第十九條 刀帶短刀帶ハ衣ノ下ニ結ムルモノトス
第十九條ノ二 拳銃ハ革製袋ニ納メ携帶革ヲ以テ上衣ノ下右腰部ニ帶フルモノトス彈藥盒ヲ附屬セシムル場合亦同シ但シ勤務ノ狀況ニ依リ廳府縣長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ上衣又ハ外套ノ上ニ之ヲ帶ヒシムルコトヲ得
第二十條 正緒ハ正裝ノトキ常緒ハ禮裝常裝ノトキ刀柄ニ裝著ス
第二十一條 削除
第二十二條 手套ハ白色ノモノヲ用ウルモノトス但シ常裝ノ場合ニ限リ茶又ハ鼠色ノモノヲ用ウルコトヲ得
手袋ハ夏期常裝ニ限リ之ヲ著用セサルコトヲ得
第二十三條 下襟ハ何レノ服裝ニ在テモ白布製ノ立襟ヲ用フヘシ
第二十四條 靴ハ長短ヲ問ハス黒色革製トス但シ廳府縣長官ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ護膜製ノモノヲ用キシムルコトヲ得
長靴ハ乘馬勤務ノトキ又ハ雨雪泥濘等ノ際ニ於テ職務執行ノトキ短靴ハ

警察官及消防官服裝規則ニ關スル件

大正十四年一月 警收第一二六號

本月十六日內務省訓令第二號ヲ以テ警察官消防官服裝規則中一部改正相成候處右ノ内「ゲートル」ノ品質ニ就キテハ何等制限ノ設無之ニ付本則前巡查

- 其ノ他ノ場合ニ於テ用ユルモノトス但シ長途ノ旅行又ハ職務執行上特ニ必要ナル場合ニ於テハ短靴「ゲートル」(黒又)又ハ鞋脚袴(黒又)ヲ用ユルコトヲ得
乘馬者ニ在テハ短靴長靴共ニ必ス拍車ヲ附著シ其短靴ヲ穿ツトキハ袴ニ留革「スーヒ」ヲ附著スヘシ
第二十五條 勳章其ノ他ノ記章ハ何レノ服裝ニ在リテモ之ヲ佩用スルコトヲ得
第二十六條 儀式上隊伍ヲ爲ス場合ニ於テハ各員齊一ノ服裝ヲ爲スヘシ
第二十七條 外套ヲ携帶スルニハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲收シ乘馬者ニ在テハ後袂ニ締結シ徒歩者ニ在テハ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛ケルモノトス
附 則 (昭和十年內務省訓令第九號)
本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十年勅令第六十七號附則第二項及明治四十三年勅令第二十一號ノ規定ニ依リ當分ノ内サージ夏衣ヲ給與セザル場合ニ於テハ警部補ハ第十一條ノ規定ニ拘ラズ夏期白布夏衣ヲ著用スルコトヲ得
明治四十二年內務省訓令第七號ハ之ヲ廢止ス

刀	短	帽			
		地	製	徽	
帶	刀	質	式	章	
釣革ハ長サ六〇耗ノモノ一本トス餘ハ刀帶ニ同シ	柄ハ黒革、絲金線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地石目、略日章一	黒又ハ濃紺ノ絨	圓形、黒革製前庇及幅一二耗ノ黒革製願紐ヲ附シ願紐ノ兩端ハ帽ノ兩	徑二五耗ノ金色略日章ヲモール製金色標ヲ以テ抱擁ス其ノ縱徑四〇耗	同
茶色革製	柄ハ黒革、絲金線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地石目、略日章一	同	側形、黒革製前庇及幅一二耗ノ黒革製願紐ヲ附シ願紐ノ兩端ハ帽ノ兩	子徑四五耗ノ臺地ハ黒又ハ濃紺ノ絨トス帽ノ周圍ニ幅三〇耗ノ黒色斜	同
黒象皮、長サ適宜幅三五耗、釣革ノ長サ前革ハ六〇耗後革ハ三七〇耗	柄ハ黒革、絲金線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地石目、略日章一	同	側形、黒革製前庇及幅一二耗ノ黒革製願紐ヲ附シ願紐ノ兩端ハ帽ノ兩	形狀圖ノ如シ	同
以內ニテ勤務ノ者ニ在リテハ四〇耗ノ金具ハ金色、地石目、略日章一	柄ハ黒革、絲金線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地石目、略日章一	同	側形、黒革製前庇及幅一二耗ノ黒革製願紐ヲ附シ願紐ノ兩端ハ帽ノ兩	形狀圖ノ如シ	同
但シ之ニ勤務ノ者ニ在リテハ四〇耗ノ金具ハ金色、地石目、略日章一	柄ハ黒革、絲金線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地石目、略日章一	同	側形、黒革製前庇及幅一二耗ノ黒革製願紐ヲ附シ願紐ノ兩端ハ帽ノ兩	形狀圖ノ如シ	同
トシテ之ニ勤務ノ者ニ在リテハ四〇耗ノ金具ハ金色、地石目、略日章一	柄ハ黒革、絲金線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地石目、略日章一	同	側形、黒革製前庇及幅一二耗ノ黒革製願紐ヲ附シ願紐ノ兩端ハ帽ノ兩	形狀圖ノ如シ	同
形狀圖ノ如シ	柄ハ黒革、絲金線卷、背面ヲ覆ヒタル金具ハ金色、地石目、略日章一	同	側形、黒革製前庇及幅一二耗ノ黒革製願紐ヲ附シ願紐ノ兩端ハ帽ノ兩	形狀圖ノ如シ	同

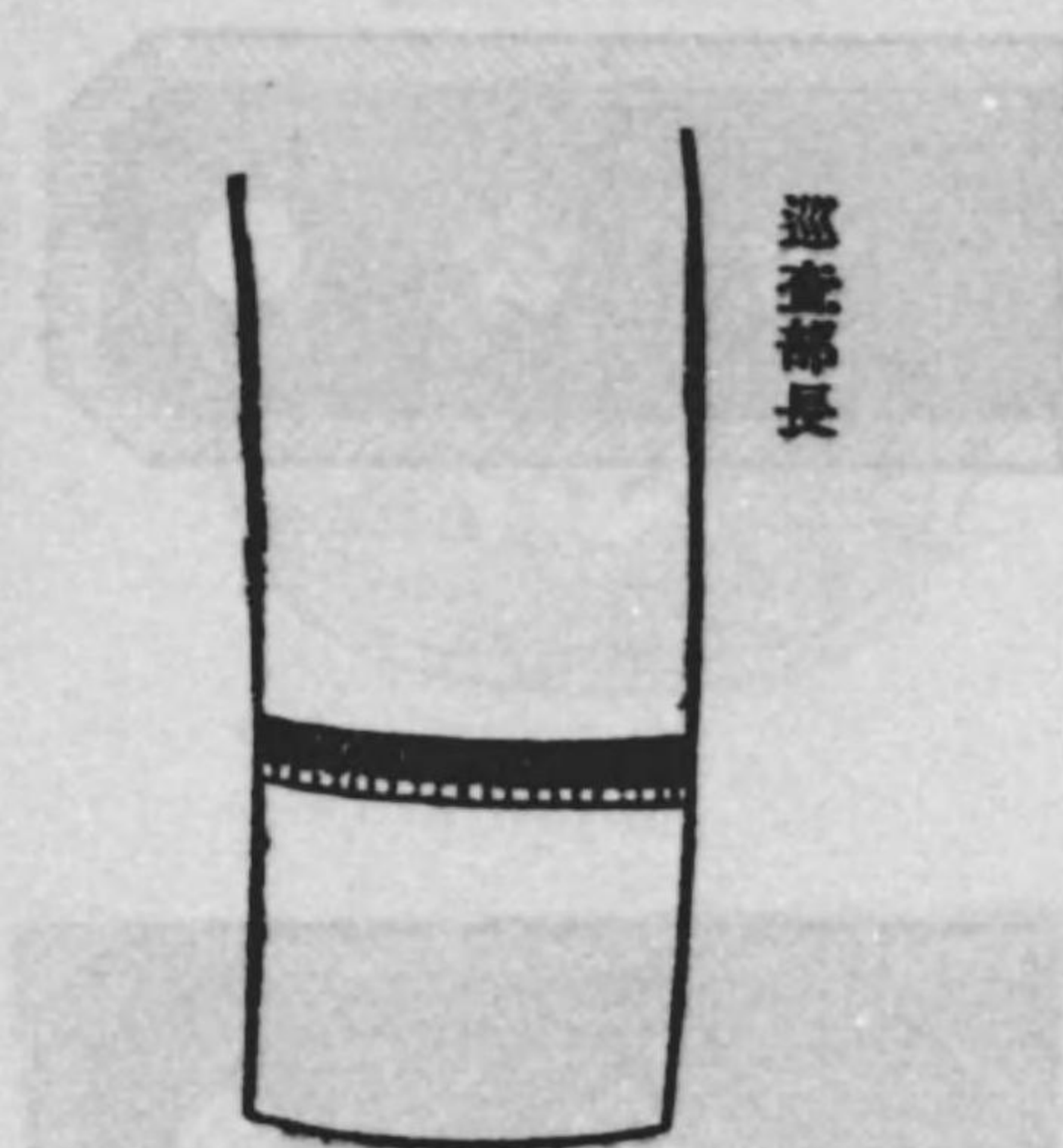
〔山梨警〕

外		短	
種	乙	種	甲
製	地	製	地
式	質	式	質
長サ三筒ト形、長サ適宜、襟幅六〇耗折襟、胸部ニ徑一七耗ノ隱黒色ホ	黒防水布	長サ靴ノ上際ヲ距ルコト約二四〇耗、袖ノ長サ腕ノ關節ヨリ延	黒又ハ濃紺ノ絨
同	同	同	同
同	同	略日章ハ一箇トス餘ハ同上	同
上	上	上	上

備考

- 一 短袴ハ長靴、脚絆又ハゲートルヲ用フルトキ之ヲ著用スルモノトス
- 一 短刀ハ水上又ハ交通取締ノ勤務ノ者及土地ノ状況又ハ勤務ノ性質ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官又ハ廳府縣長官ノ指定スル者之ヲ佩用スルモノトス
- 一 土地ノ状況又ハ勤務ノ性質ニ依リ必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官ハ銃ヲ、廳府縣長官ハ拳銃ヲ帶用セシムルコトヲ得
- 一 土地ノ状況又ハ勤務ノ性質ニ依リ特殊ノ帽若ハ外套、防寒具、防火具又ハ防彈具ノ必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官又ハ廳府縣長官之ヲ定ム
- 一 勤務ノ性質ニ依リ常時附著スル必要アル腕章ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ樺太廳長官又ハ廳府縣長官之ヲ定ム

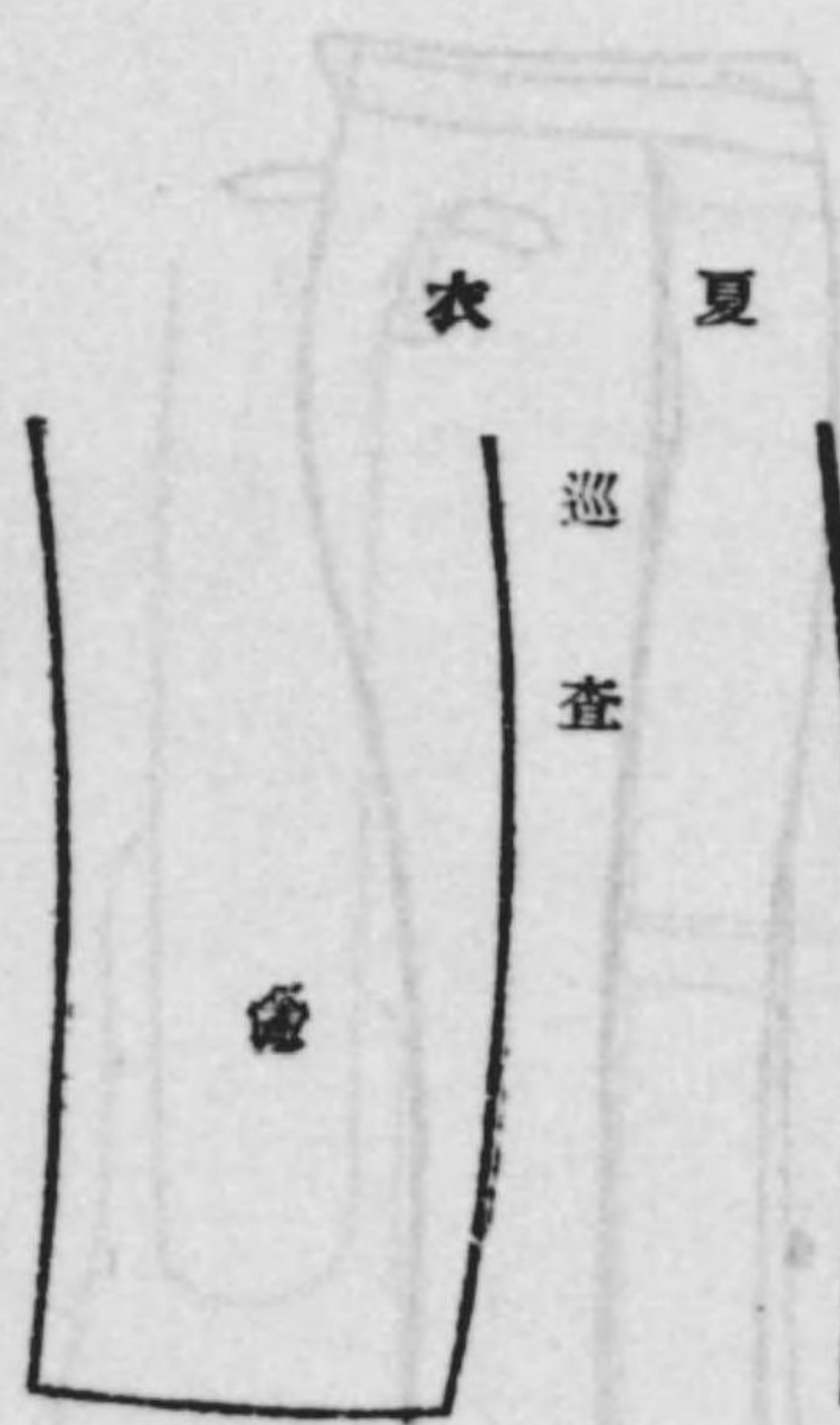
袖章



巡查部長

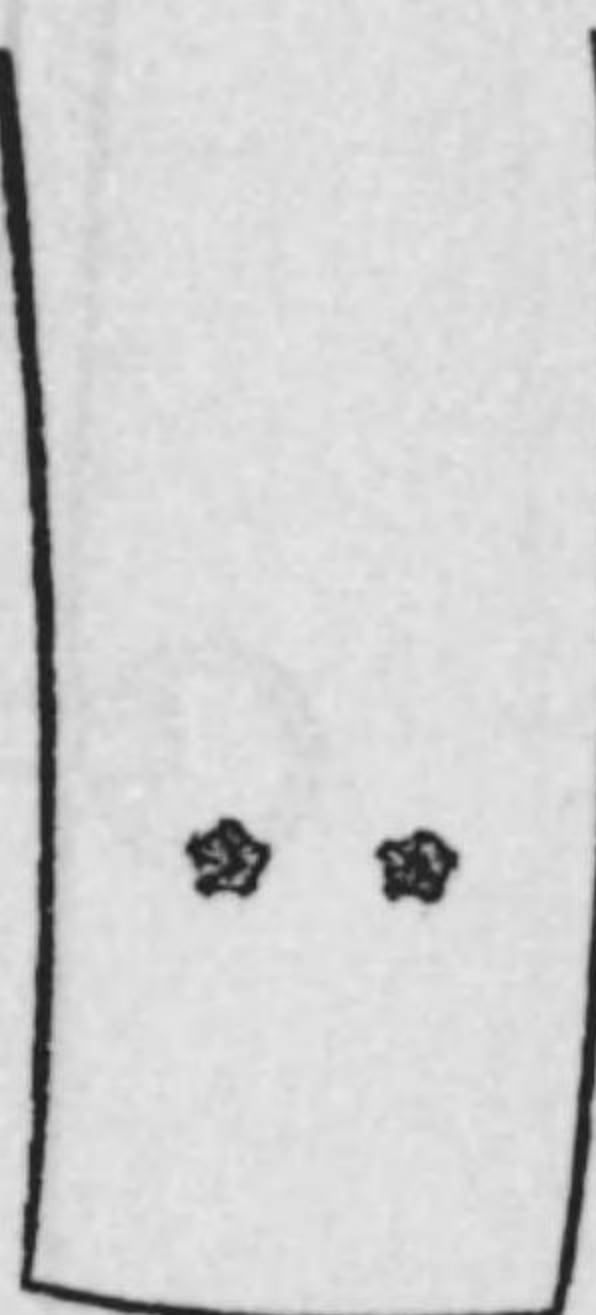


水



夏衣

巡查



巡查部長



巡查

上衣

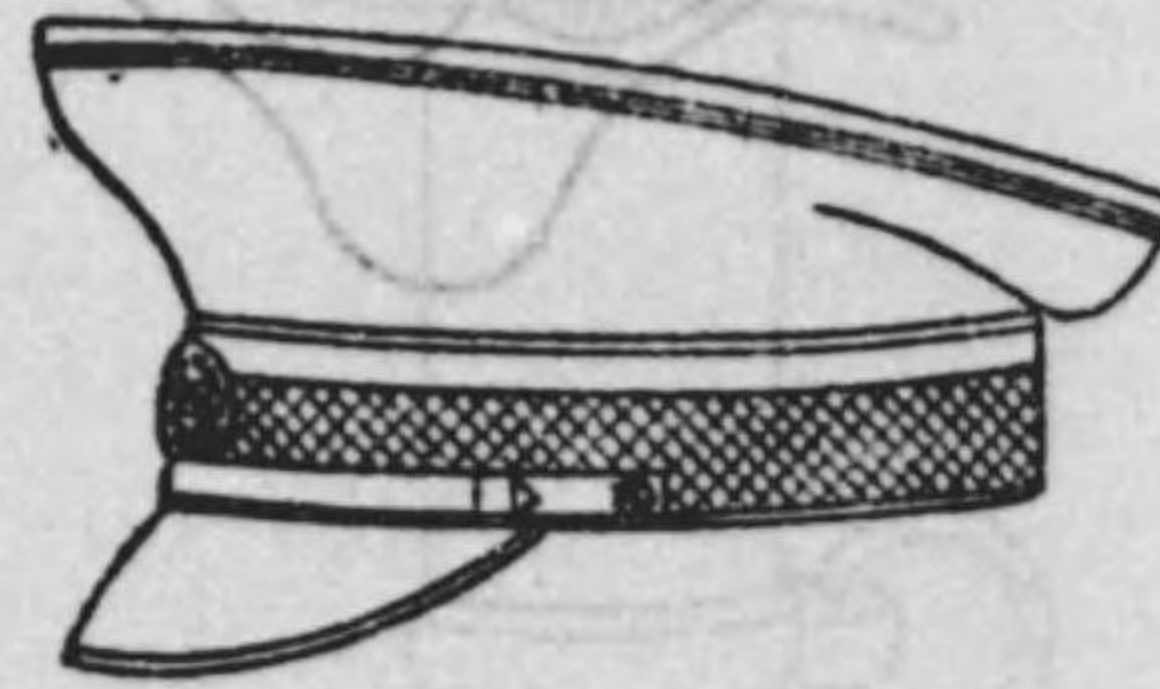
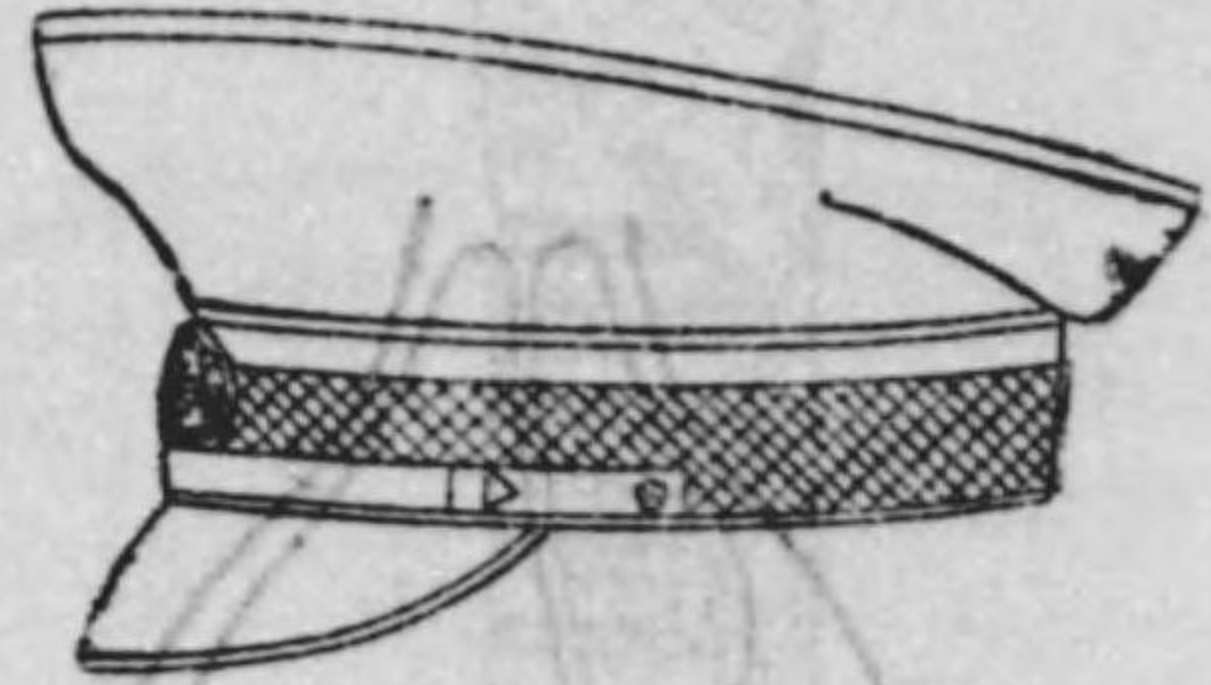
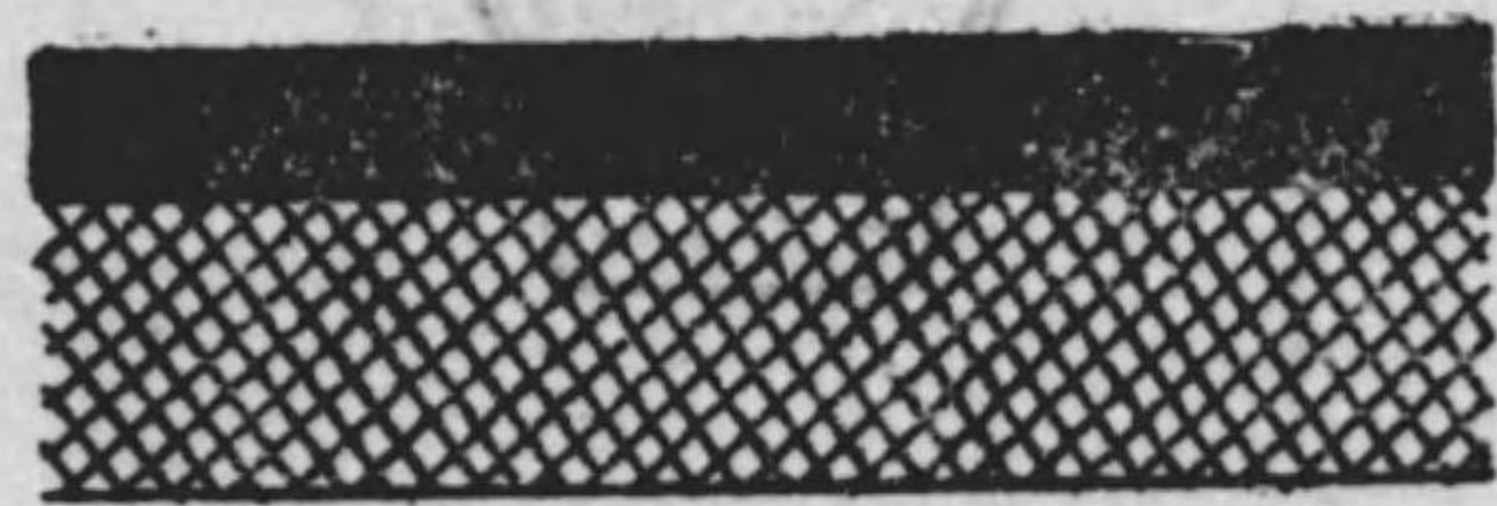
製式



乘馬勤務ノ者

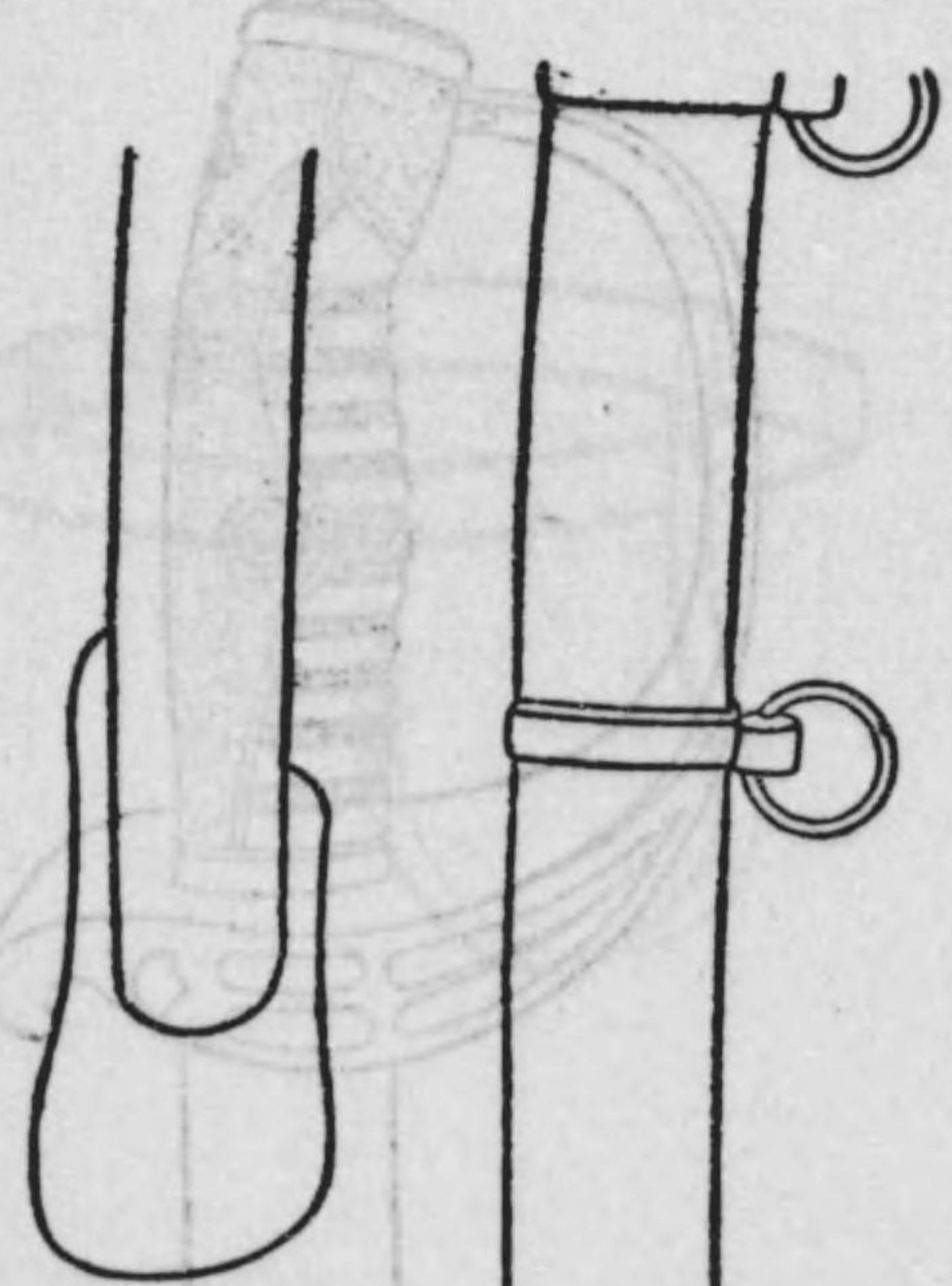
帽

章 徽



乘馬勤務ノ者

刀



章 肩

章 肩 略



巡查部長

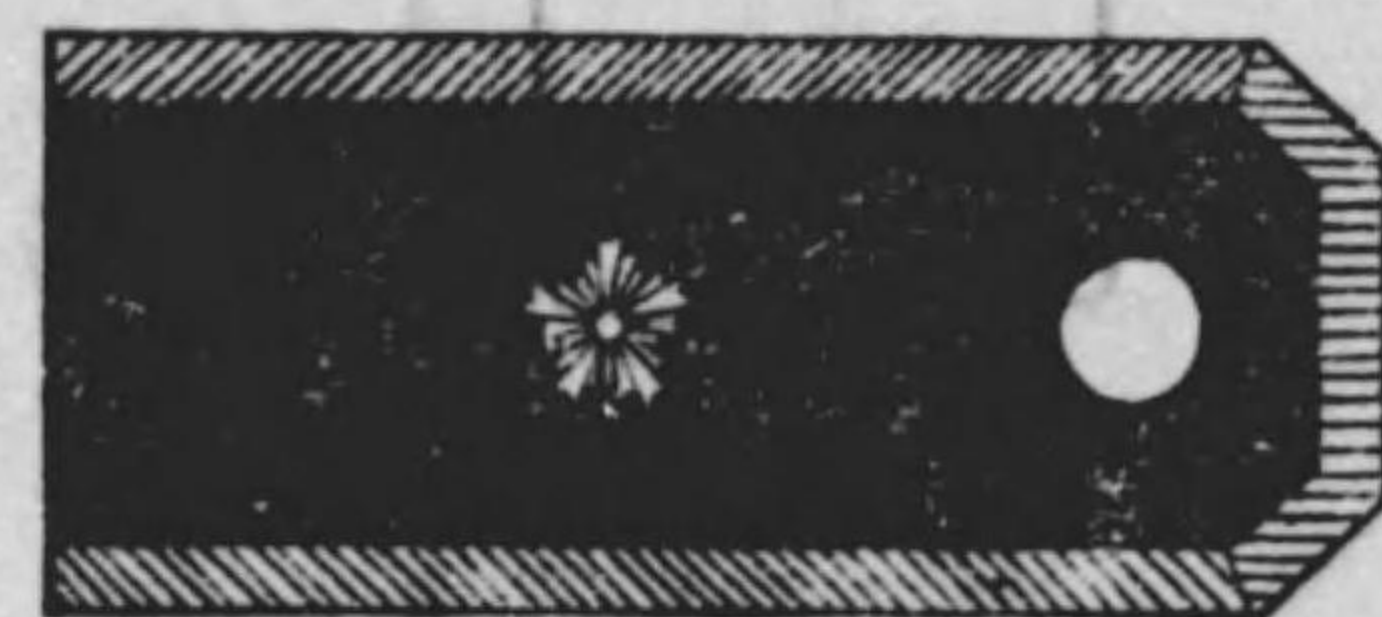


巡查

章 肩 正



巡查部長



巡查

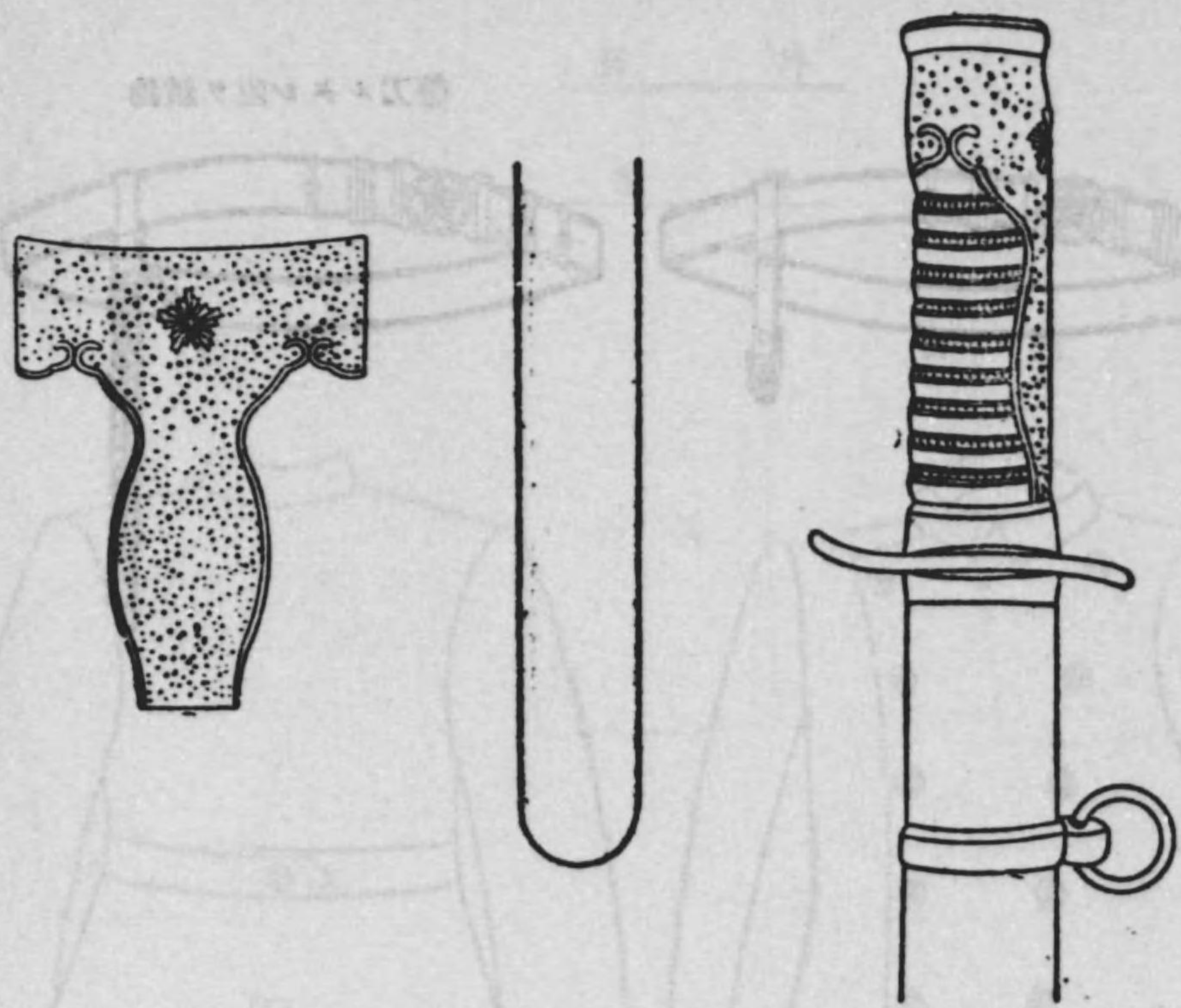
袴 短



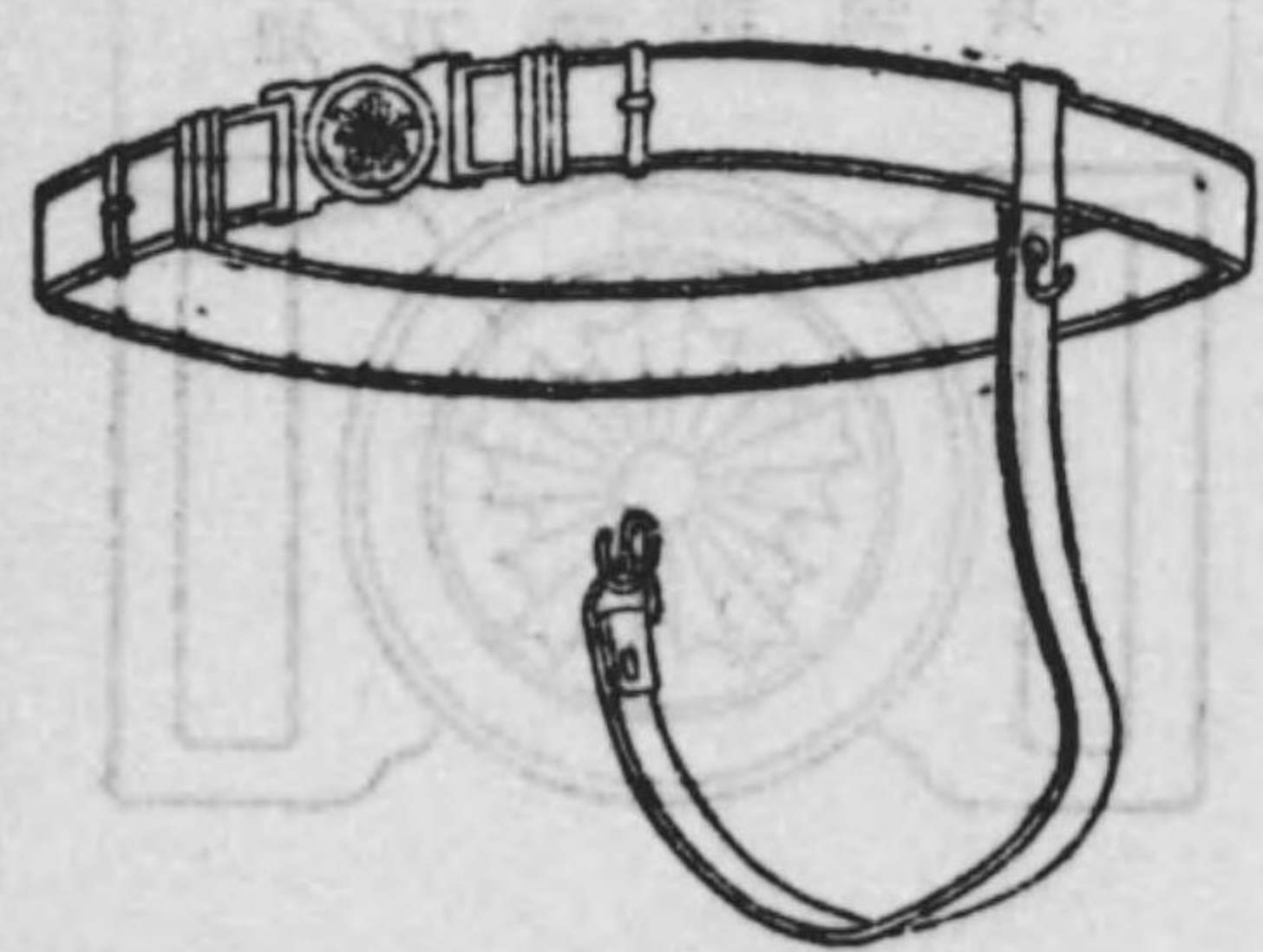
袴



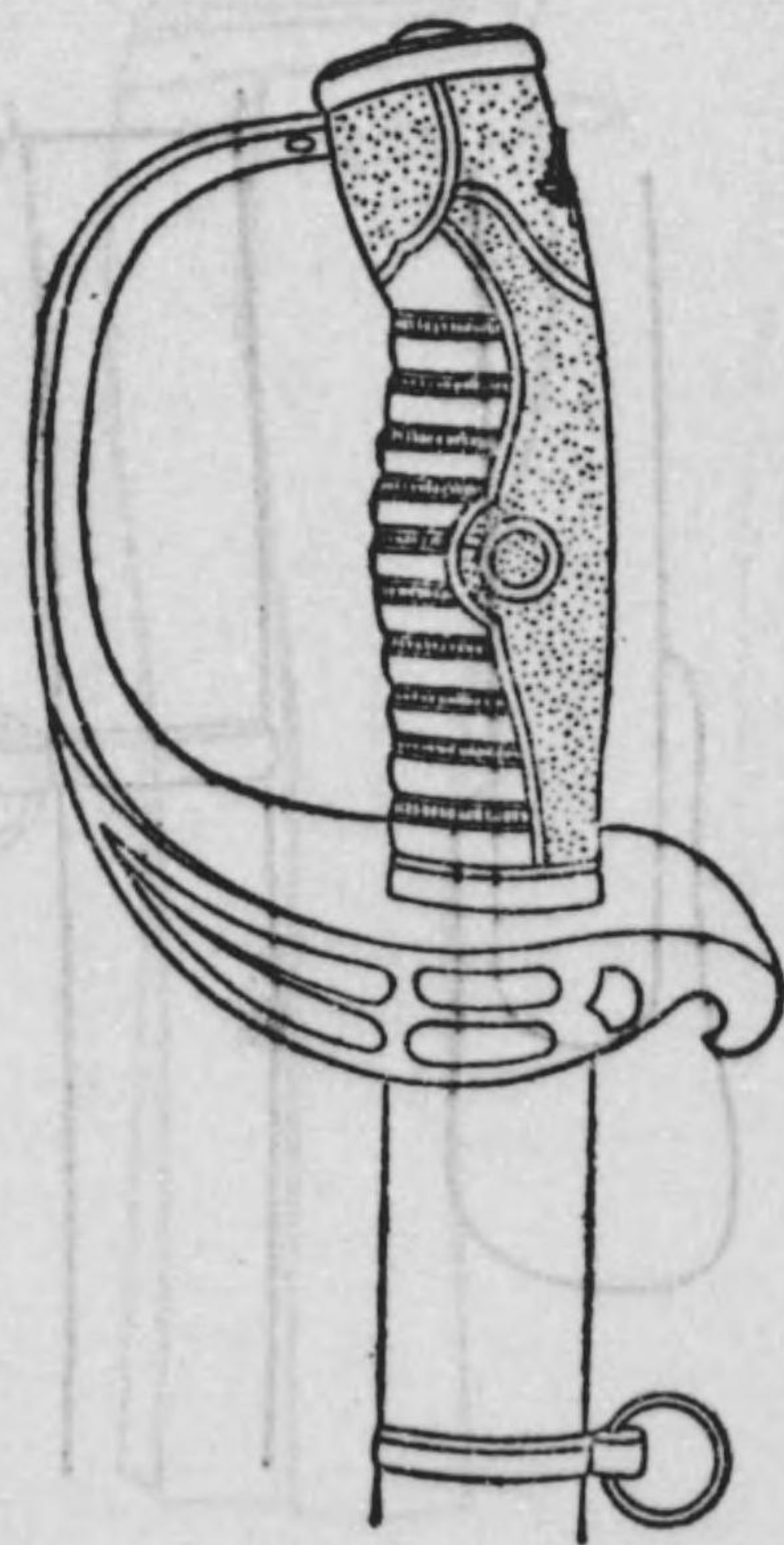
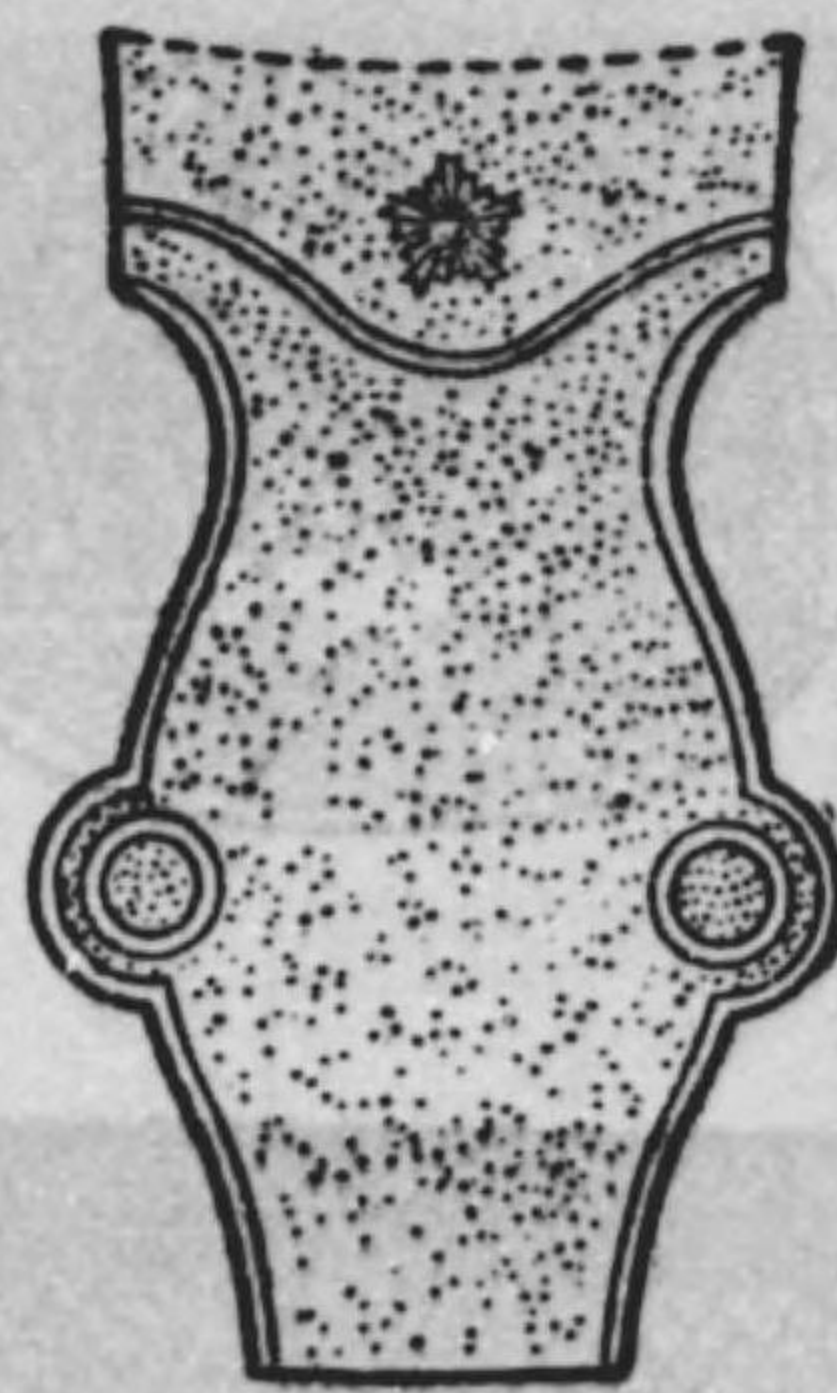
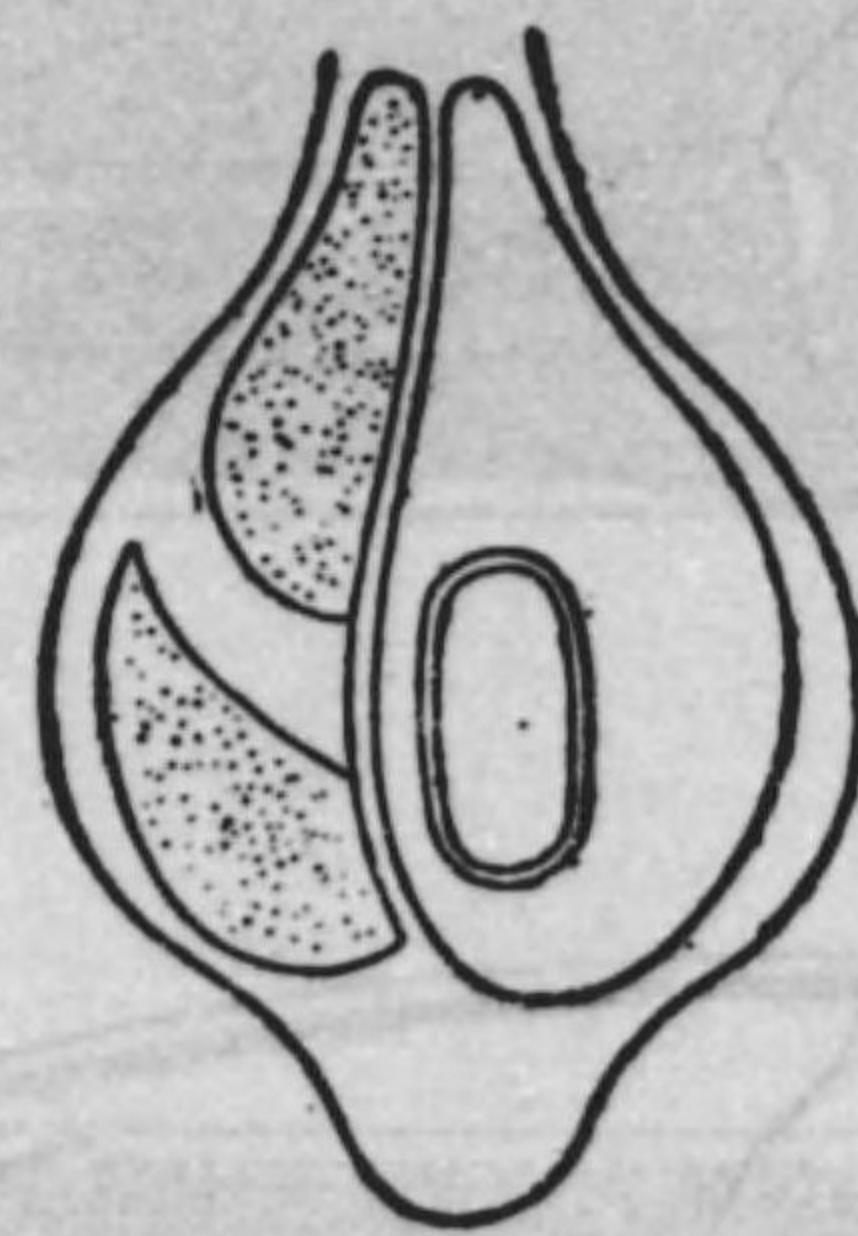
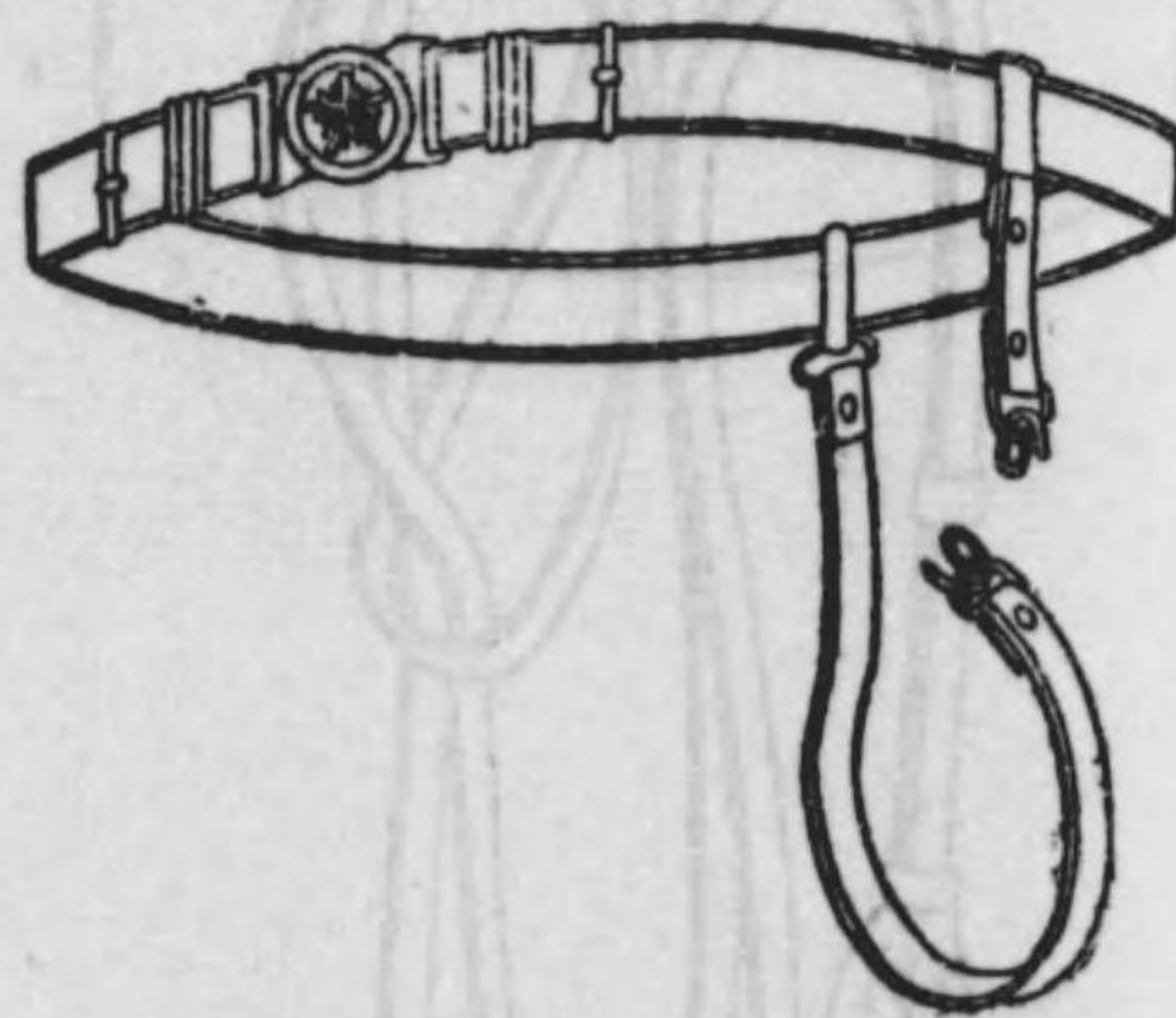
短 刀



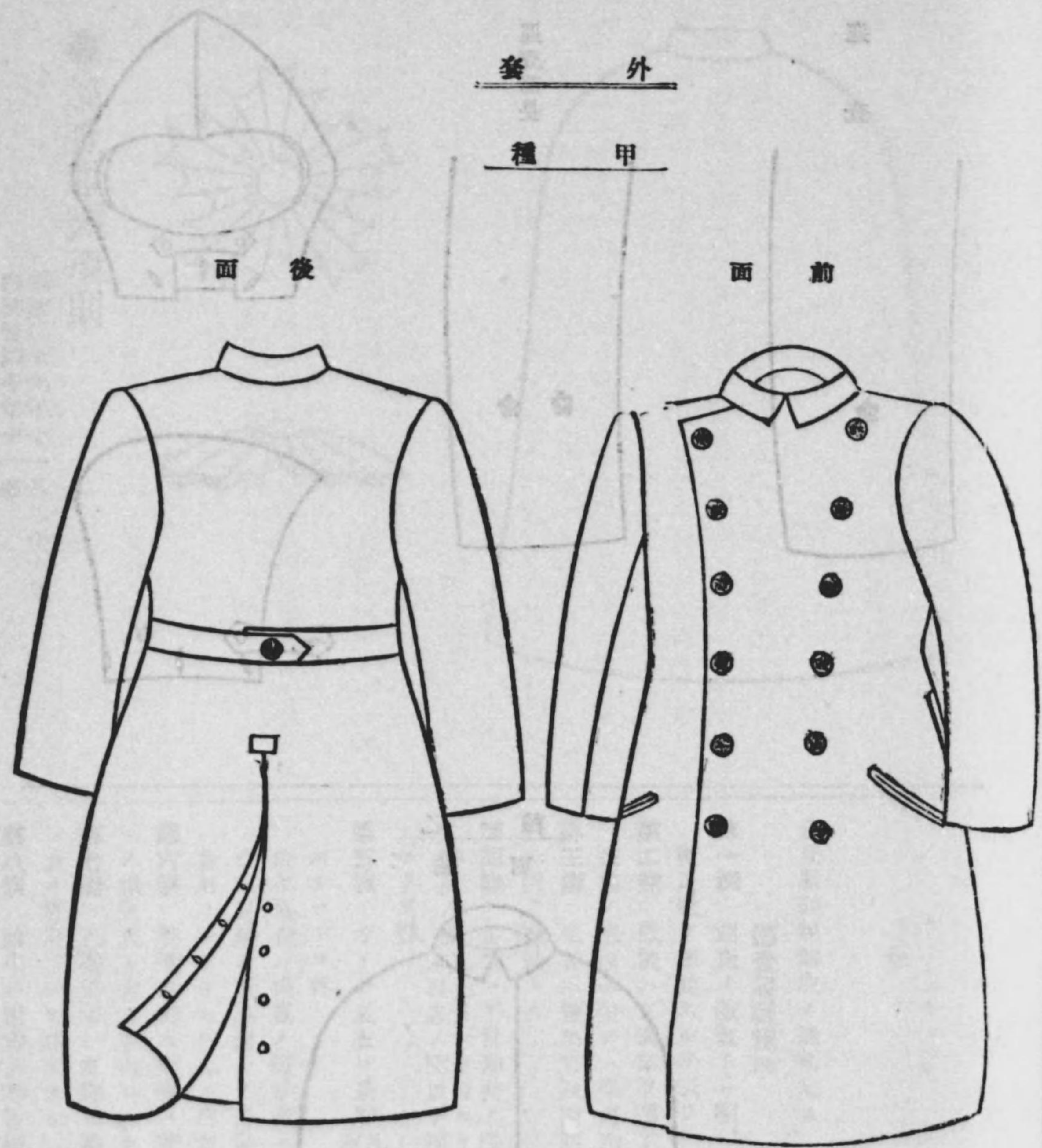
帶 刀



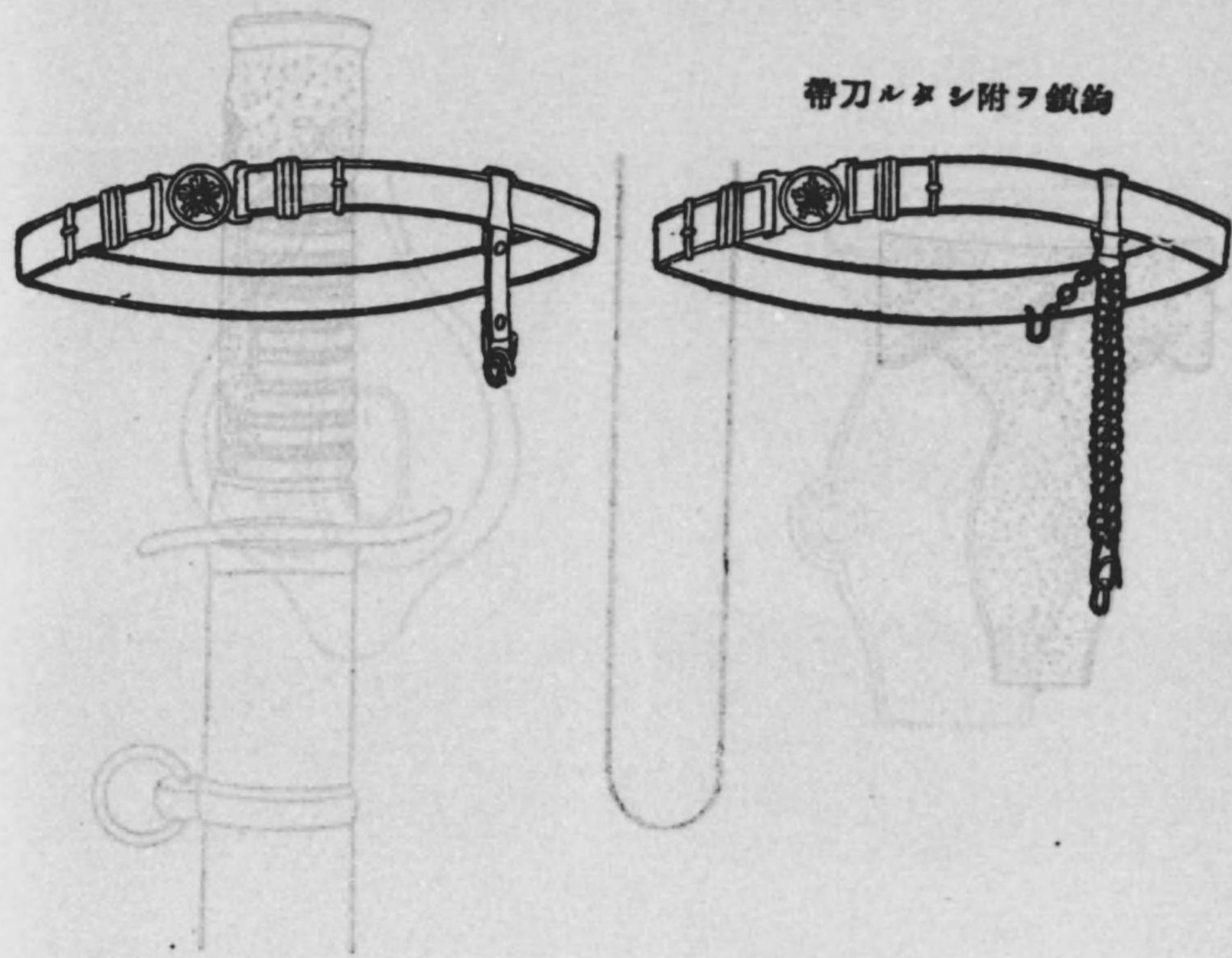
乘馬勤務ノ者



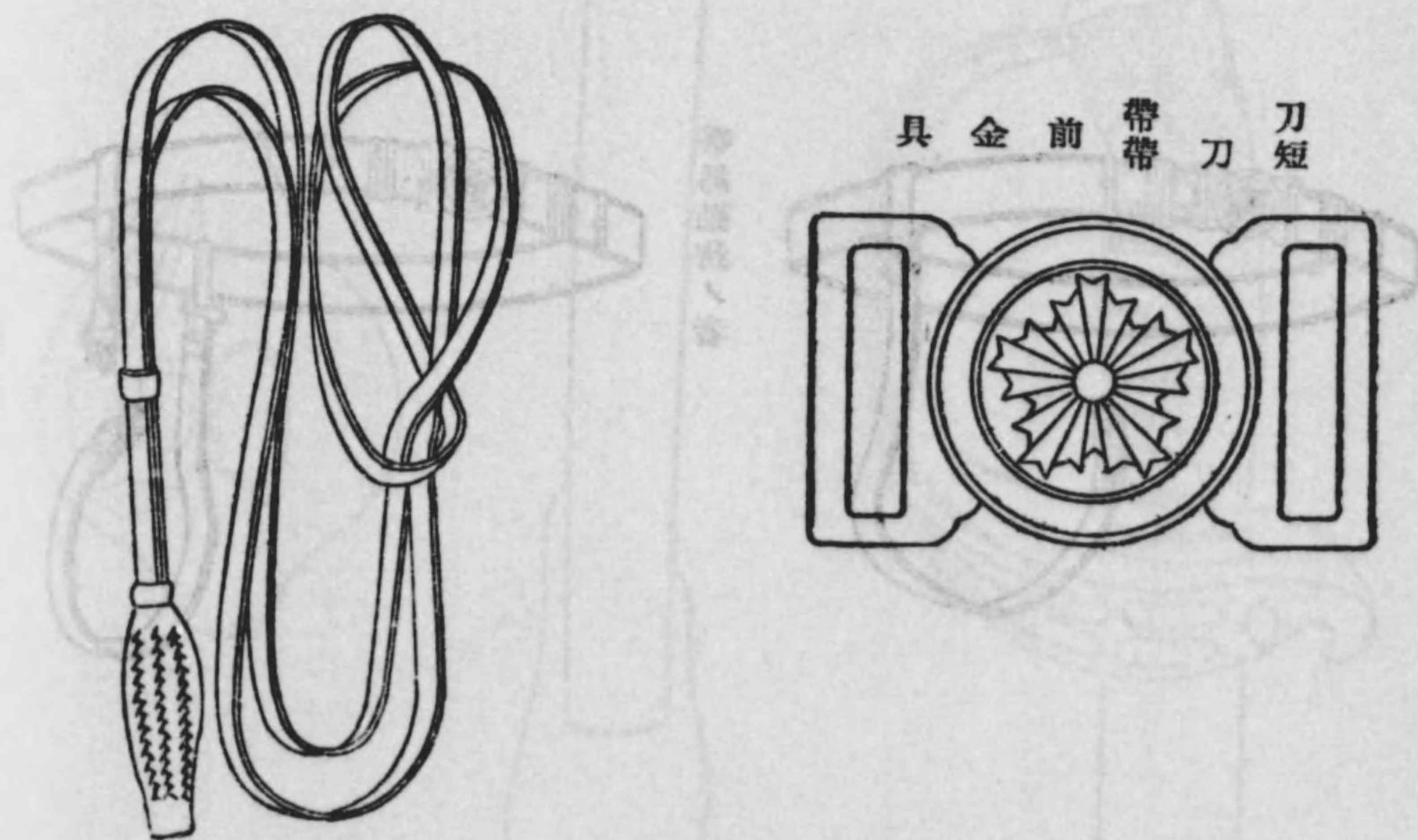
乘馬勤務ノ者



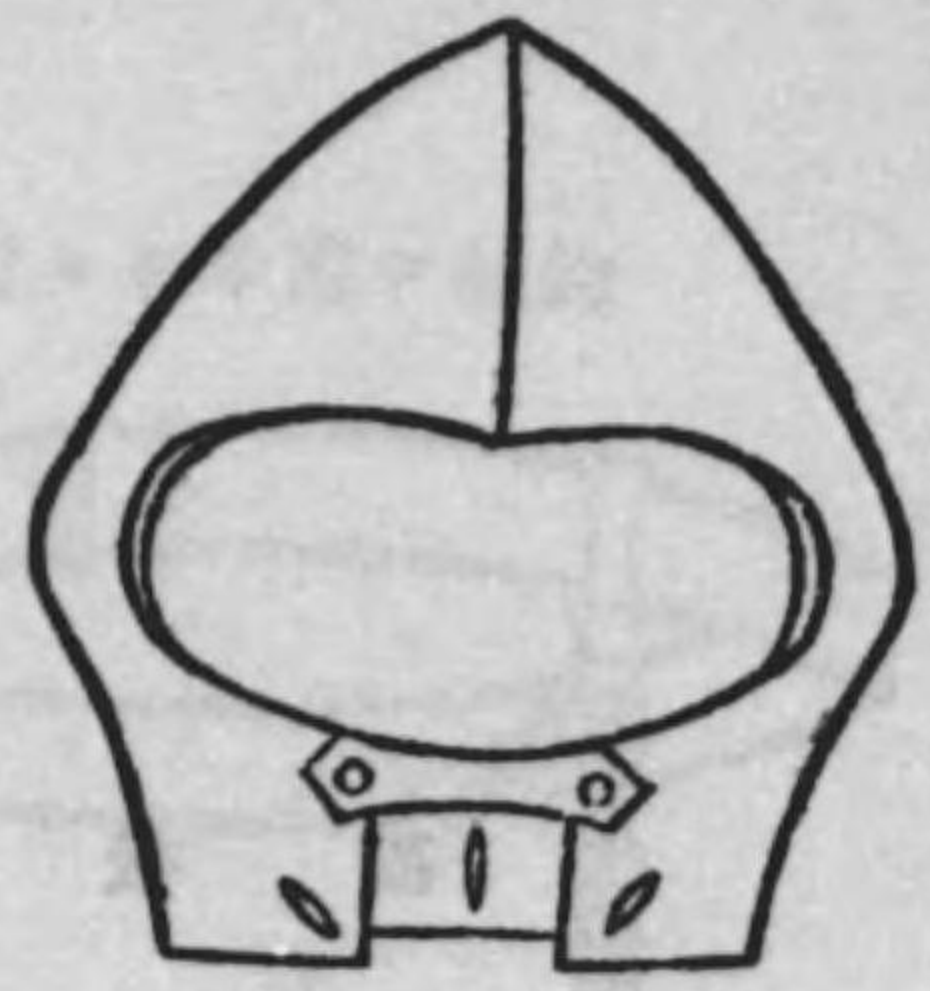
帶 刀 短



緒 刀



巾 頭



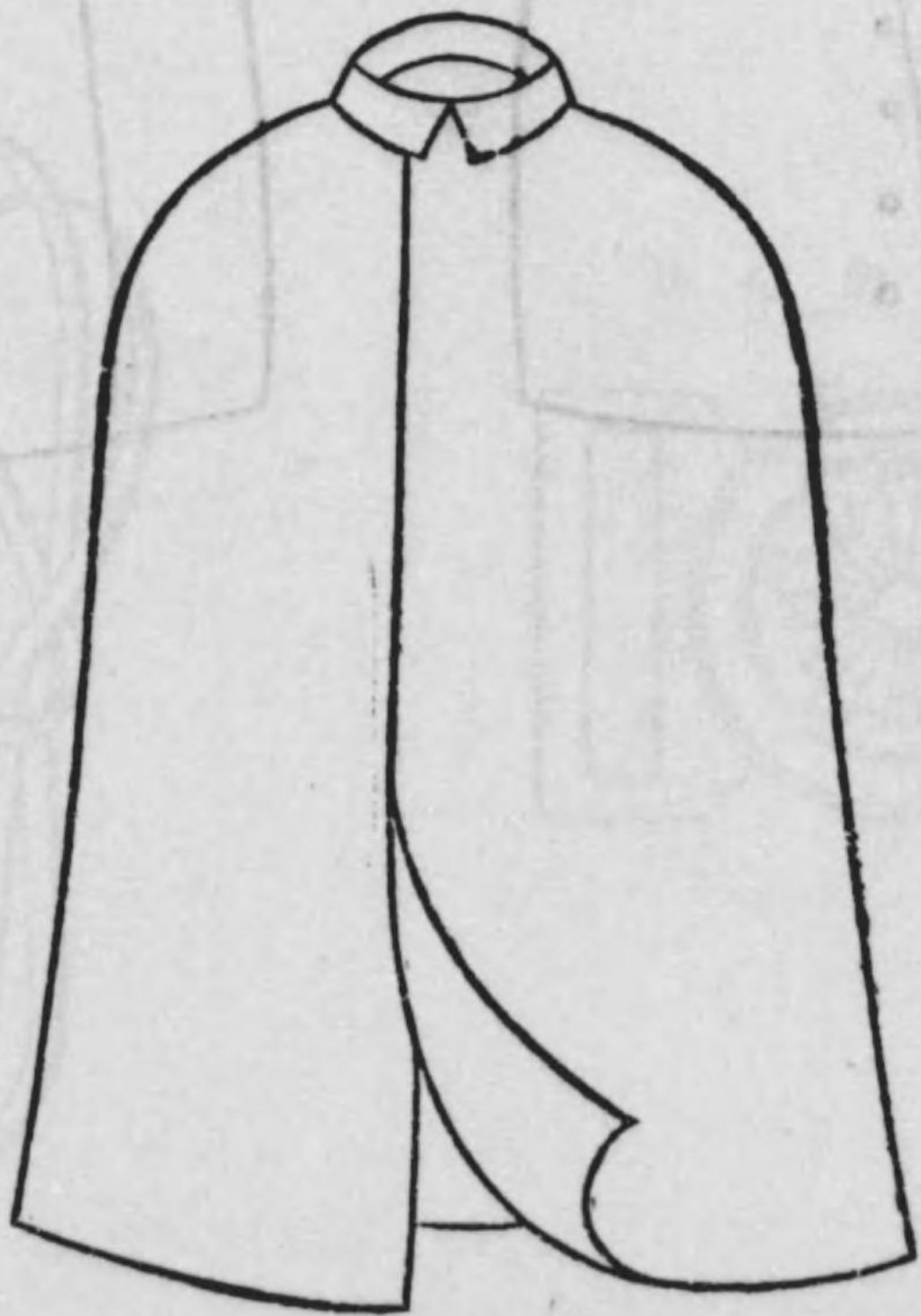
巡查部長



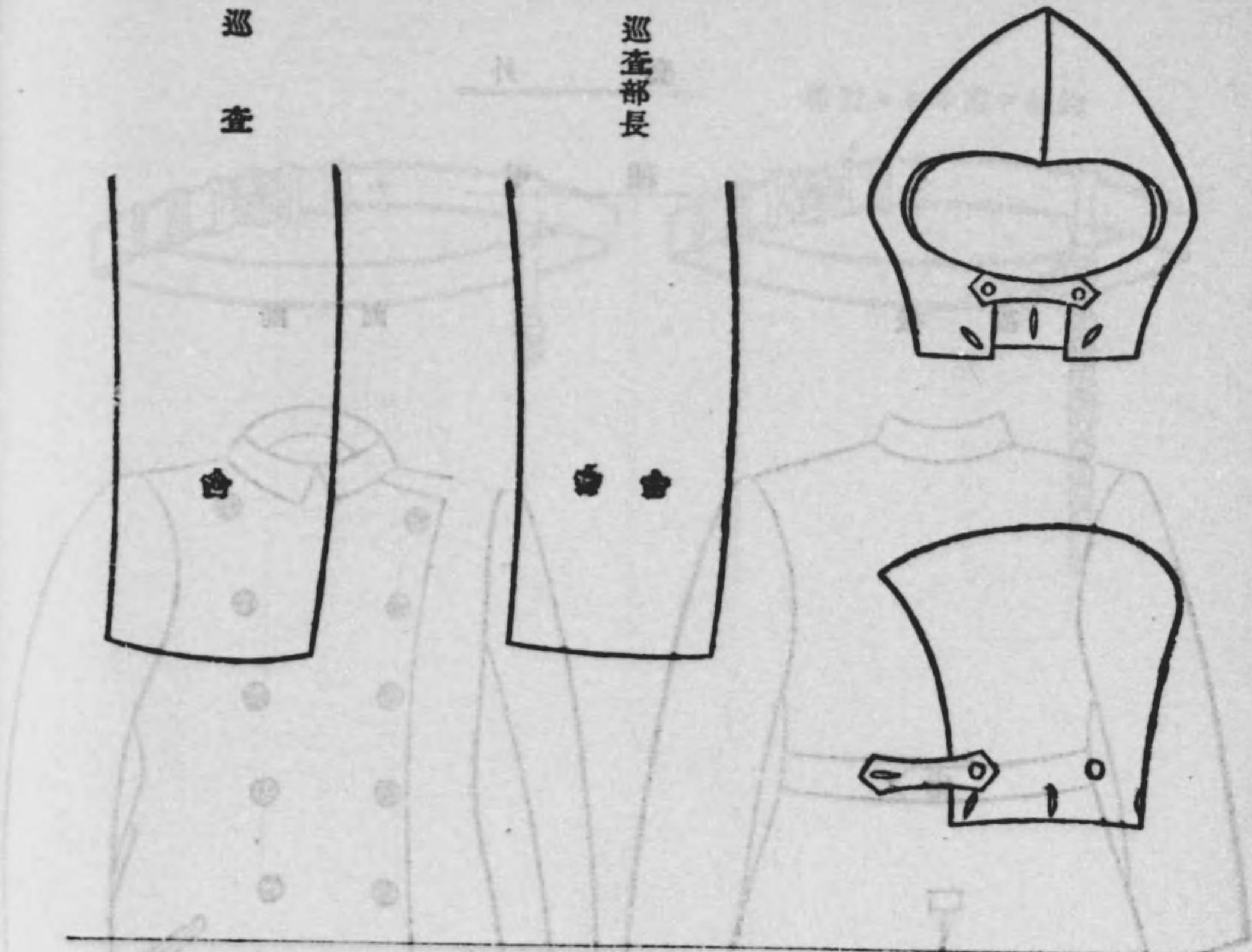
巡 査



種 乙
面 前



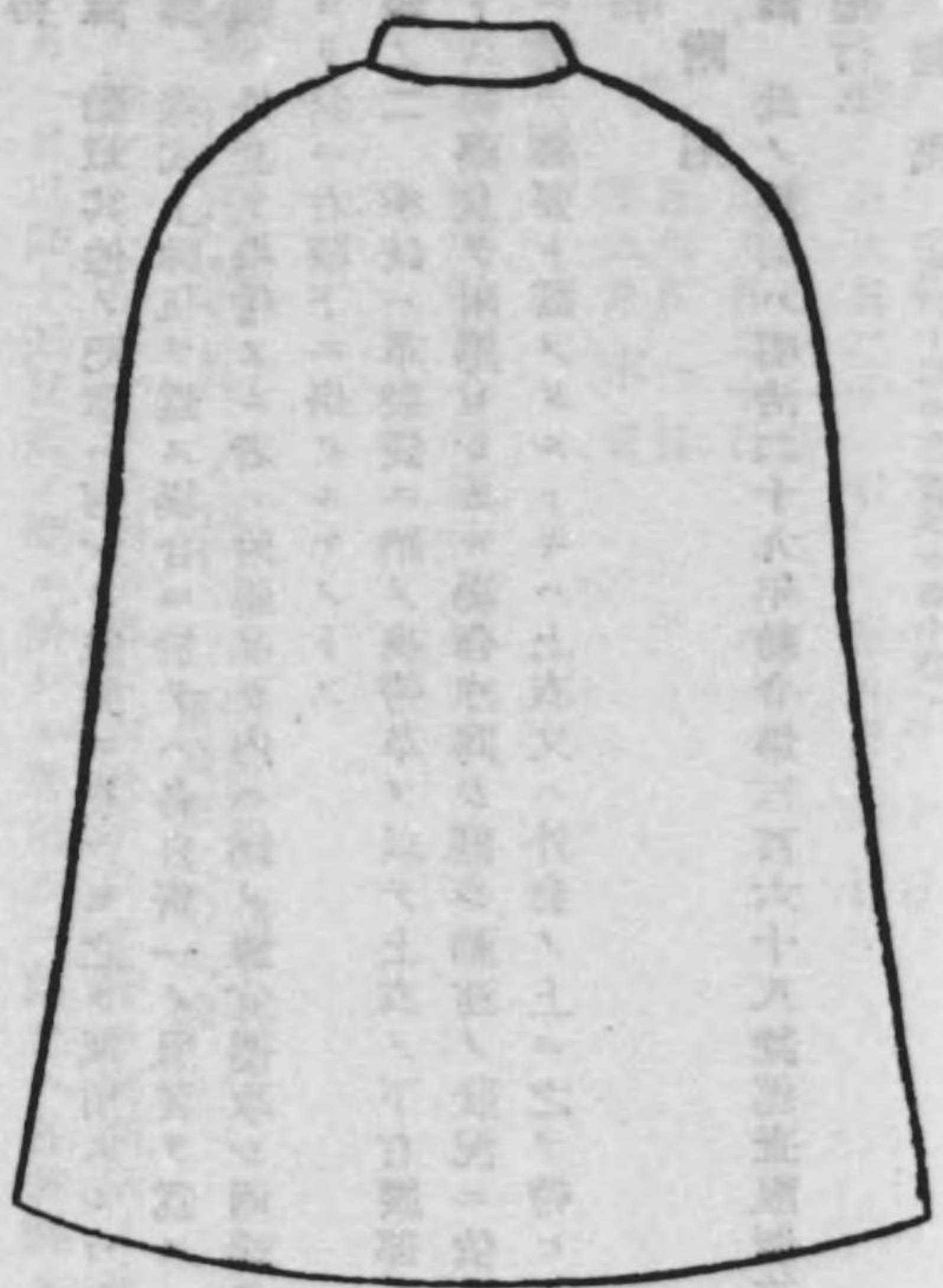
章 袖



改正 明治三四年内務省訓令第一九號、四一年第二號、大正四年第一一號、一二年第一四號、一三年第一五號、一五年第一三號、昭和三年第一號、六年第一一號、一〇年第一〇號

監 府 縣 東 京 府 除 夕

面 後



章 日 略



● 巡查服裝規則

明治二十九年十一月二十六日
内務省訓令第十一號

第一編 警務 第十二章 服裝禮式及信號徽章

巡查服裝規則左ノ通相定ム

巡查服裝規則

- 第一條 巡查ノ服裝トハ帽、衣、袴、肩章、刀又ハ短刀、刀緒、手套、下襟及靴ヲ著裝スルヲ云フ
- 第二條 服裝ハ正肩章ヲ著クルヲ正裝トシ略肩章ヲ著クルヲ常裝トス但シ正裝ノ場合ニ於テハ乘馬勤務ノ者ノ外短袴ヲ用ササルモノトス
- 第三條 正裝ハ警察官及消防官服裝規則第六條、第七條ノ場合ニ於テ用ユル所ノ服裝トス
- 第四條 常裝ハ平常勤務ノ際用ユル所ノ服裝トス
盛夏ノ際凡七月十五日ヨリ八月ニ限リ巡閱ヲ受クルトキ常裝ヲ著用スルコトヲ得
- 第五條 サージ夏衣ハ夏期凡六月一日ヨリ九月何レノ服裝ニ在リテモ著用スルコトヲ得
白布夏衣ハ盛夏ノ際常裝ニ限リ著用スルコトヲ得
白布夏袴ハ夏期何レノ服裝ニ在リテモ著用スルコトヲ得但シ白布夏衣ヲ著用スルトキニハ必ず白布夏袴ヲ著用スルモノトス
- 第六條 甲種外套ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲ニ用ユルモノトス但シ儀式祭典ノ場所及上官ノ室内ニ在テハ用ユルコトヲ得ス
- 第七條 乙種外套ハ雨雪ノ際著用スルモノトス但シ時宜ニ依リ甲種外套ノ上ニ著用スルモ妨ゲナシ
- 第八條 頭巾ハ雨雪ノ際甲種外套又ハ乙種外套ニ附著シテ用ユルモノトス

第九條 日覆ハ白布夏袴ヲ著用スル場合常装ニ限リ用フルモノトス

第十條 履紐ハ何レノ服裝ニ在テモ職務執行ノ場合ニ於テハ之ヲ用ユルモノトス

第十一條 手袋ハ白色ノモノヲ用ウルモノトス但シ常装ノ場合ニ限リ茶又ハ鼠色ノモノヲ用ウルコトヲ得

手袋ハ夏期常装ニ限リ之ヲ著用セサルコトヲ得

第十二條 靴ハ長短ノ二種トシ黒色革製トス但シ廳府縣長官ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ護謨製ノモノヲ用キシムルコトヲ得

長靴ハ乘馬勤務ノトキ又ハ雨雪泥濘等ノ際ニ於テ職務執行ノトキ短靴ハ

其他ノ場合ニ於テ用ユルモノトス但シ長途ノ旅行又ハ職務執行上特ニ必要ナル場合ニ於テハ短靴「ゲートル」(黒又)又ハ鞋脚絆(黒又)ヲ用ユルコトヲ得

第十三條 勳章其他ノ記章ハ何レノ服裝ニ在テモ之ヲ佩用スルコトヲ得

第十四條 様式上隊伍ヲ爲ス場合ニ於テハ各自齊一ノ服裝ヲ爲スヘシ

第十五條 外套ヲ携帶スル者ハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲取シ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛ケルモノトス

第十六條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第十七條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第十八條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第十九條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十一條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十三條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十四條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十五條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十六條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十七條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十八條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第二十九條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第三十條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第三十一條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

附則 (昭和十年内務省訓令第十號)

第三十二條 此ノ規則ハ明治二十九年勅令第三百六十八號巡査服制施行ノ日ヨリ施行ス

〔山梨警〕

〔山梨警〕

本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十年勅令第六十八號附則第二項ノ規定ニ依リ當分ノ内サージ夏衣ヲ給與セザル場合ニ於テハ第五條ノ規定ニ拘ラズ夏期常装ニ限リ白布夏衣ヲ著用スルコトヲ得

明治三十二年内務省訓令第十八號ハ之ヲ廢止ス

警察官吏護謨製長靴使用ノ件

昭和六年九月
警訓第二三號

爾今雨雪泥濘ノ場合ニ限リ黒色護謨製長靴ヲ用フルコトヲ得

警察官吏服裝中手套著用ニ關スル件

大正十二年五月
山梨縣訓令第十九號

警察官及消防官服裝規則第二十二條但書及巡査服裝規則第十一條但書ニ據ル場合ニ於テハ鼠色ノモノヲ用フベシ

巡査冬衣夏袴著用ノ件

大正十三年五月
山梨縣訓令第十一號

巡査ノ被服並日覆使用期間左ノ通り改ム

一 冬衣 自十月一日
至五月末日

冬衣	自六月一日	至六月十日
夏袴	自九月二十一日	至九月末日
夏衣	自六月十一日	至九月二十日
一日覆	自六月一日	至九月末日

大正十一年五月山梨縣訓令第十八號ハ之ヲ廢止ス

日覆著用ノ件

明治三十六年十月
警發第二〇八號

日覆著用ニ關シテハ昨三十五年訓令第六六號ヲ以テ特ニ御訓示ノ次第モ有之候處十月一日以降十五日迄ノ間ニ於ケル著用方ニ就テハ各署區々ニ涉リテ一定セズ想フニ夏服著用期間ノ解釋上ヨリ生シタル結果ト思料セラレ候得共該期間ハ六月一日ヨリ九月三十日迄ヲ指シタルモノニシテ從テ十月一日以降ハ無論著用セシメザルノ御趣旨ニ候條右ニ御承知相成度依命此段及通候也

巡査帶劍

明治十五年十二月
太政官達第六三號

自今巡査ニ帶劍セシムルコトヲ得ベシ此旨相達候事

巡査帶劍心得

明治十九年一月
本縣第二號達

第一條 帶劍ハ護身ノ要具ナルヲ以テ常ニ戒慎ヲ加ヘ濫リニ之ヲ弄シ苟モ

- 一 兇器ヲ持シ人ノ身體財產ニ對シ暴行ヲ爲ス者アルニ當リ他ニ保護ノ術ナキ時
- 二 兇器ヲ持シ暴行ヲ受ケルニ當リ防禦ノ術ナキ時
- 三 犯人逮捕又ハ逃囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シ抗拒スルニ當リ他ニ防禦ノ術ナキ時
- 四 前條ノ場合ニ於テハ過テ他人ニ負傷セシメザルハ勿論兇徒苟モ威服ノ狀アルトキハ穩ニ取押負傷セシム可カラズ
- 五 如何ナル場合ト雖モ苟モ拔劍シタルトキハ速ニ其事故情況ヲ詳ニシ早速署長ニ具申スベシ
- 六 劍並ニ屬具ハ其受持人ノ外同僚交互換用スベカラズ
- 七 劍並ニ屬具ハ常ニ修拭ヲ加ヘ錆蝕毀損ヲ生セシムベカラズ若シ職務上毀損ヲ爲シタルトキハ速ニ署長ニ届出ヅベシ
- 八 劍 削除
- 九 劍 檢査ノ際錆蝕汚損アルトキハ何等ノ故ヲ問ハズ巡査懲罰例ニ依リ處分スベシ但職務上損所ヲ生シ届出ヲナシタルモノハ此限りニアラズ

刀劍ノ手入及取扱方ノ件

明治四十年二月
梨警發第三一號

巡査ノ帶劍中其取扱ヒ及ヒ手入方法粗略ニ流レ毀損錆蝕ヲ表シタルモノ多

シ又刀身ノ研磨等ニ當リテハ磨研紙ヲ用ヒ毫毛順ミサルモノ有之甚ダ不都合ニ候條爾後左記方法ニ依リ取扱ヒ及ヒ手入レヲナサシメ怠慢ヨリ錆蝕又ハ毀損セシメタルトキハ之ヲ賠償セシムル等嚴重ナル監督ヲ加ヘ缺點ヲ生セシメサル様御取計相成リ度依命此段及通牒候也
追テ丁子油打粉ハ當課ヨリ送付スルヲ以テ經費セサル様注意相成リ度申添候

刀劍ノ手入れ

- 一 刀劍ノ手入ニ當リテハ能ク揉ミタル奉書紙ノ外使用スヘカラス
- 一 奉書紙ハ新シキモノヲ用ヒ手ヲ清潔ニシテ之レヲ揉ムヘシ
- 一 刀劍ノ手入ハ左ノ順序方法ニ據ルヘシ
 - (一) 最初ニ刀身ヲ能ク拭ヒ錆蝕其ノ汚損ヲ取ルヘシ
 - (二) 次ニ少量ノ丁子油ヲ刀身ニ塗布シ暫時ニシテ奉書紙ヲ以テ能ク拭ヒ取ルヘシ
 - (三) 次ニ打粉(砥粉玉ノ事)ヲ以テ刀身ヲ打チ其全面ニ砥粉ヲ振リ掛ケ奉書紙ヲ以テ數回刀身ヲ磨クヘシ
 - (四) 少量ノ錆ヲ有スル刀身ハ最後ニ少量ノ丁子油ヲ塗布シ其儘錆ニ納メ置クヘシ
- 一 右ノ順序ハ之レヲ變更スルコトヲ得ス而シテ之等ノ手入ヲナス間ハ他人ト談話シ且ツ息ヲ刀身ニ掛ケル等渾テ刀身ヲ汚損スルノ行爲ヲナスヘカラス
- 一 刀身ノ手入ヲナス時ハ同時ニ鞘ノ内部ヲ清潔ニスヘシ
- 一 刀劍ノ取扱法
 - 一 刀劍ハ常に注意シ錆ヲ生シ又ハ汚損セサル様取扱フヘシ
 - 一 刀身ハ刀劍手入法ニ依ル外他ノ方法ヲ以テ拭掃又ハ手入ヲ爲スコトヲ得ス

〔山梨警〕

- 一 刀劍ハ一ヶ月二回以上必ス手入ヲナスヘシ
- 一 雨雪其他刀身ニ汚損ヲ生セシムヘキ虞ニ接シタル時ハ必ス刀身ヲ檢メ手入ヲナスヘシ
- 一 抜劍及ヒ納劍ハ刀身ノ背ヲ鞘ニ當テ刃ヲ鞘ニ摩擦セサル様注意ヲ拂フヘシ
- 一 鞘ハ錆ノ生セサル様注意シ時々之レヲ拭淨シ清潔ヲ保持スヘシ
- 一 著シク鞘ヲ汚損シ又ハ鞘ヲ毀損シタルトキハ速ニ理由ヲ具シ修繕方ヲ請求スヘシ
- 一 鞘ノ損傷ヲ認メスト雖モ水ノ侵入スルモノハ直チニ引換ヲ請求スヘシ
- 一 鞘ト刀身ト能ク符合セサルモノ又ハ歩行ノ際鞘ノ内部ニ音響ヲ發スルモノ及ヒ鞘當リヲナスモノハ其旨ヲ申出置キ後日引換ノ參考ニ供スヘシ

●警察官吏武器使用規程

大正十四年三月十七日
内務省訓令第九號

- 第一條 武器ハ左ノ場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ
 - 一 人ノ生命身體若ハ財産ヲ防衛スルニ當リ狀況急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ手段ナキ場合
 - 二 職務上警護スル人場所又ハ物件ヲ支持スルニ當リ暴行ヲ受ケ又ハ受ケムトシテ情況急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ之ヲ排除スルノ手段ナキ場合
 - 三 多衆々會シテ暴行ヲ爲シ又ハ爲サムトシ其ノ情況急迫ニシテ武器ヲ使用スルノ外他ニ之ヲ鎮壓スルノ手段ナキ場合
 - 四 職務ノ執行ニ當リ暴行ヲ受ケ又ハ受ケムトシ其ノ情況急迫ニシテ自

〔山梨警〕

衛上武器ヲ使用スルノ外他ニ手段ナキ場合

- 第二條 武器ノ使用ハ防衛上必要ノ範圍ヲ除ユベカラザルハ勿論其ノ使用ヲ始メタル後ト雖四圍ノ情況之ヲ必要トセザルニ至リタルトキハ直ニ之ヲ停止スベシ
- 第三條 武器ノ使用ニ際シテハ關係ナキモノニ危害ヲ及ボシ又ハ損害ヲ與ヘザル様十分ニ注意スベシ
- 第四條 武器ヲ使用シ又ハ使用セシメタルトキハ傷害ヲ與ヘタルト否トニ拘ラズ遲滞ナク其ノ狀況ヲ所屬警察官署ニ報告スベシ

警察官署長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ廳府縣長官ニ報告シ廳府縣長官ハ之ヲ内務大臣ニ報告スベシ

附則
明治十五年内務省達乙第七十一號及明治十七年内務省達乙第三號ハ之ヲ廢止ス

●警部警部補短刀佩用ノ件

大正十三年五月二十九日
山梨縣訓令甲第十三號

途上警備ノ際オートバイ乗車勤務ノ警部警部補ニ短刀ヲ佩用スルコトヲ得

警察操典

昭和九年十月五日
內務省訓令第十五號

警察講習所 廳府縣(東京府ヲ除ク)

警察操典左ノ通改正ス

警察操典

第一章 總則

第一條 教練ノ目的ハ警察官吏ヲ訓練シテ諸制式ニ習熟セシムルト共ニ鞏固ナル警察精神ヲ涵養シ體力氣力ヲ鍛ヒ同時ニ紀律嚴正ナル警察力ヲ養成シ其ノ團體行動ヲ敏活適正ナラシメ以テ警察諸般ノ要求ニ適應セシムルニ在リ

第二條 警察署長及警察官吏ノ職務ヲ掌ル官衙又ハ部署ノ長ハ操典ヲ遵守シテ能ク部下及生徒ヲ教育シ教練ノ目的ヲ達スベキ責任ヲ有ス

第三條 教練ハ順序ヲ逐ヒテ之ヲ行ヒ其ノ經過ヲ急遽ナラシムベカラズ之ヲ實施スルニ方リテハ常ニ熱心懇切事ニ從ヒ且些末ノ事項ト雖モ苟モ紀律ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スベカラズ

第四條 教練ヲ行フニ際シテハ部下ニ其ノ目的及精神ヲ説明シ其ノ心得ベキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ

第五條 教練ノ要旨ハ巧妙ニ在ラズシテ熱練ニ在リ熱練ハ教育ノ懇切ナルヲ復習ヲ厭ハザルトニ依リテ得ラルルモノナリ故ニ教練ハ絶エズ之ヲ行フヲ必要トス

第六條 指揮官其ノ他ノ幹部ハ常ニ指揮能力ヲ練成ニ努メ特ニ其ノ態度及服裝ヲ正シクシ活潑嚴正ナル動作ヲ模範ヲ示スコトニ努ムベシ

第七條 指揮官ノ意圖ハ號令若ハ命令ニ依リ告達ス

號令及命令ハ確乎タル決意、嚴正ナル態度ヲ以テ下スベシ

號令ハ明快ナル音調ヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ナルヲ要ス

號令ヲ豫令及動令ニ分ツベキ場合ニ於テハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其ノ間ニ適當ナル時間ヲ存スベシ

第八條 指揮官部隊ヲ指揮スルニ方リテハ拔刀セザルモノトス

第九條 指揮官及小隊長以上ノ幹部ハ部下ノ注意ヲ喚起スル爲特ニ必要ナル場合ニ於テハ警笛又ハ左ノ信號ヲ用フルコトヲ得

前進 右手ヲ高く舉ゲテ之ヲ其ノ進ムベキ方向ニ伸ス
停止 右手ヲ高く舉ゲテ直ニ下ス
駈歩 前進ノ記號ヲ迅速ニ數回連續ス

第二章 各個教練

要則

第十條 各個教練ノ目的ハ警察官吏ヲ訓練シテ諸制式ニ習熟セシムルト同時ニ警察精神ヲ鍛ヒ紀律ヲ練リ部隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作ルニ在リ

第十一條 各個教練ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難ク各個教練ノ不完全ハ部隊教練ニ於テ之ヲ補フコト亦難シ故ニ各個教練ハ綿密嚴格ニ之ヲ行ヒ必要ナル場合ニ於テハ其ノ動作ヲ分チテ丁寧懇切ニ説明シ反覆練習スルコトヲ要ス

第十二條 不動ノ姿勢ハ教練ニ於ケル基本ノ姿勢ナリ警察精神内ニ充溢シ外嚴肅端正ナラザルベカラズ

第十三條 不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
氣ヲ著ケ

豫令ニテ左手ヲ以テ刀柄ヲ握ル
動令ニテ左股ヲ少シク上ケ脚ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五度ノ所ニ脚ヲ伸シツツ踏ミ著ケ同時ニ概本圖ヲ伸シ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス左足ヲ踏ミ著ケルト同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就キテ示セシ如ク右脚ヲ前ニ出シテ踏ミ著ケ行進ヲ續ケ頭ヲ眞直ニ保チ右臂ヲ自然ニ振ル

シク前ニ傾ケ兩肩ヲ稍々後ニ引キ一様ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ右掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸シテ之ヲ並ニ中指ヲ概本圖ノ縫目ニ當テ左掌ハ指ヲ輕ク伸シテ之ヲ並ニ刀柄ヲ左脇下前ニ出シテ刀柄ヲ押ヘ頭及頭ヲ眞直ニ保チ口ヲ閉テ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前ノ方ヲ直視ス

第十四條 休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
休メ

先ヅ左足ヲ出シ爾後片足ヲ舊ノ所ニ置キ其ノ場ニ立チテ休憩ス休憩中ト雖モ許可ナクシテ談話スルコトヲ得ズ

第十五條 右(左)向、半右(左)向及後向
右(左)向或ハ半右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
或ハ
右(左)向ケ——右(左)

第十六條 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
廻レ——右
右足ヲ其ノ方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ケ兩踵ニテ後ニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ケ

第十七條 行進ハ勇往邁進ノ氣概アルヲ要ス

第十八條 速歩ノ一步ノ長サハ踵ヨリ踵マテ七十五釐ヲ、其ノ速度ハ一分時間ニ百十四歩ヲ基準トス

速步行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
前へ——進メ

第一編 警務 第十二章 服裝禮式及信號徽章

第二十三條 速步行進間行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
步調止メ

第二十二條 行進間後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
廻レ右前へ——進メ
斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

第二十一條 行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
斜ニ右(左)へ——進メ
左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ半右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

第十九條 止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
分隊——止レ
後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ左手ヲ下ス

第二十條 行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)向ケ前へ——進メ
左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニ依リ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス
再ビ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
歩調取レ

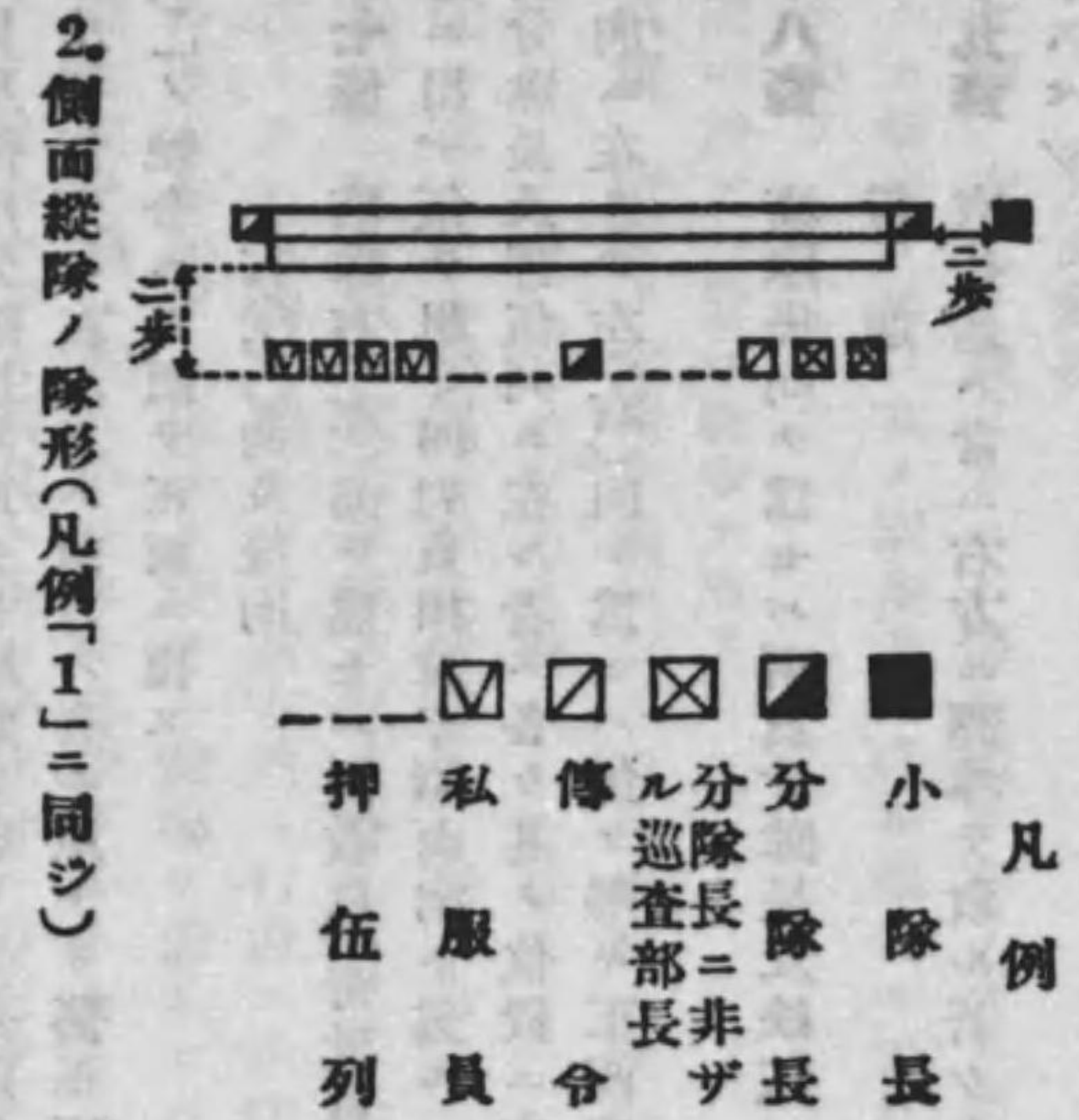
第二十四條 足踏ミヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
足踏ミ——進メ
後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ其ノ場ニ於テ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ踏ミ著ケテ調子ヲ取ル
更ニ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
前——進メ

左足ヨリ踏ミ出シ續キテ行進ス
第二十五條 駈歩ハ一步ノ長サヲ短クシテ約八十五種トシ其ノ速度ハ一分時間ニ約百七十歩トス
駈歩行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
駈歩——進メ
號令ニテ左手ヲ以テ刀柄ヲ握ルト同時ニ右手ヲ握リ腰ノ高サニ上テ肘ヲ從ニス

動令ニテ左腕ヲ前ニ出ス其ノ法兩足ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上テ右足ヨリ約八十五種ノ所ニ踏ミ著ケテ左腕ト同法ヲ以テ右腕ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミヲ踏ミ著ケタル足ニ移シ右肘ヲ自然ニ振り續キテ行進ス
「分隊——止レ」ノ號令ニテ二歩前進シタル後後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ兩手ヲ下ス
駈歩行進ヨリ速歩行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
速歩——進メ
二歩前進シタル後速歩ニ移リ右手ヲ下シ續キテ行進ス

分隊ノ人員ハ概テ十名トス但シ人員ノ都合ニ依リ増減スルコトヲ得
小隊ノ兩翼ニ各々其ノ翼ノ分隊長ヲ置ク其ノ他ノ分隊長ハ分隊ノ概テ中央ノ奇數伍ニ重ナリ後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス之ヲ押伍ト謂フ

第三十三條 小隊ノ隊形ハ橫隊及側面縱隊トシ其ノ隊形第一圖ノ如シ
第一圖 1. 橫隊ノ隊形



2. 側面縱隊ノ隊形(凡例「1」ニ同シ)

分隊長ニ非ザル巡查部長及傳令ハ押伍列右翼、私服員ハ押伍列左翼ニ在

第二十六條 駈歩行進間ノ諸動作ハ速歩行進間ニ於ケル要領ニ準ジテ行フ但シ速歩ニ於ケルヨリモ二歩多ク前進シタル後動作スルモノトス

第三章 部隊教練

第二十七條 部隊教練ハ部隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ部隊長ノ意圖ニ從ヒ衆心一致能ク警務精神ヲ發揚シ團結ヲ保持シテ部隊行動ヲ爲シ得ル如ク練成スルヲ以テ主眼トス

第二十八條 部隊教練ハ之ヲ分チテ小隊教練、中隊教練及大隊教練トス
第二十九條 大(中)隊教練ニ在リテハ中(小)隊長ハ其ノ中(小)隊ノ爲スベキ動作ヲ小聲ニテ諭告スルモ妨ナシ又整頓、隊形變換等ニ在リテハ中(小)隊ノ動作ヲ監視スルモノトス

第三十條 部隊教練ヲ準備スル爲メ部隊教練ノ規定ニ從ヒ分隊ヲ以テ教練ヲ行フベシ

第三十一條 本章ニ掲グル諸運動ハ専ラ正面ニ付規定ス背面向ニ於ケル運動ハ之ニ準ジテ行ヒ其ノ要領ヲ會得セシムルヲ以テ足レリトス

第一節 小隊教練

第三十二條 小隊ハ概テ身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ排列シテ橫隊ヲ作ル其ノ前後ニ立チタル二人ヲ伍ト謂フ人員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ後列員ハ前列員ノ背ヨリ胸マアニ八十五種ノ距離ヲ取リテ正シク前列員ニ重ナリ同方向ニ位置ス各列員ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リタルトキ輕ク左隣員ノ右肘ニ觸ルルヲ度トス

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面トス
小隊ハ概テ之ヲ三分隊ニ分チ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス

リテ奇數伍ニ重ナル如ク位置ス
橫隊ハ主トシテ集合及短距離ノ運動ニ、側面縱隊ハ主トシテ運動ニ用フ

整頓

第三十四條 整頓完全ナルトキ各列員ハ整頓線上ニ正シキ姿勢ヲ取リ頭ヲ右(左)ニ廻ストキ右(左)ノ眼ヲ以テ其ノ右(左)隣員ヲ視他ノ眼ヲ以テ全線ヲ視通スコトヲ得ルモノトス
列員整頓線ニ就クトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正確ナル姿勢ヲ以テスルヲ必要トス

第三十五條 小隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
標準(何)歩前へ
右(左)へ——準へ
直レ

兩翼分隊長ハ前進シ小隊長ハ其ノ位置ヲ正シタル後左ノ號令ヲ下ス

「準へ」ノ動令ニテ小隊ハ前進シ最後ノ一步ヲ縮メ少シク整頓線ノ後方ニ止リ次ニ頭ヲ右(左)ニ廻シ小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就ク但シ右翼分隊長及前後列員ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張り後列及押伍列ニ在ル者ハ先ヅ正シク前方ノ列員ニ重ナリテ距離ヲ取り次ニ右(左)ノ方ニ整頓ス整頓翼ノ分隊長ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲メ反對翼ノ分隊長ヲ目標トシ先ヅ己ニ近キ二三列員ノ位置ヲ正シ逐次ニ整頓ヲ正ス反對翼ノ分隊長ハ必要アル場合ニ於テハ己ニ近キ二三列員ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス

「直レ」ノ號令ニテ小隊ハ頭ヲ正面ニ復シ右翼分隊長及前後列員ハ左手ヲ下ス
其ノ位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右(左)へ——準へ、直レ」ノ號令ヲ下ス

第三十六條 側面縱隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「準へ」ノ號令ニテ小隊ノ先頭分隊長ハ動クコトナク小隊舊正面ノ方ニ在ル列員及後尾分隊長ハ正シク距離ヲ取りテ先頭分隊長ニ重ナリ其ノ他ノ列員及押伍列ニ在ル者ハ前方ノ者ニ重ナリ舊正面ノ方ニ整頓ス
「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

右(左)向及後向

第三十七條 橫隊右(左)向ヲ爲セバ偶數員(奇數員)ハ奇數員(偶數員)ノ右(左)ニ出テ伍ヲ組ミ四列員相並ビ側面向ト爲ル

兩翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ各々其ノ位置ニ在リテ右(左)向ヲ爲ス側面向ニ在リテ左(右)向ヲ爲セバ伍ヲ解キ正面向ト爲リ右(左)ノ方ニ整頓ス

第三十八條 橫隊後向ヲ爲セバ兩翼分隊長及後伍ハ前列ニ就ク

行進

第三十九條 直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若シ左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示スベシ

小隊長ハ號令ヲ下スニ先ダチ通常行進目標ヲ右(左)翼分隊長ニ示スモノトス

小隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準ヒテ行進シ嚮導ハ列員ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ與ヘラレタル目標ニ向ヒ若ハ正面向ト直角ニ行進ス

行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルトキハ「嚮導左(右)」ノ號令ヲ下スベシ

第四十條 行進間列員ノ守ルべき要件左ノ如シ

各列員ハ常ニ斜行スル方ニ整頓ス

直行進ニ復シタルトキハ必要アル場合ニ於テハ嚮導ヲ示スベシ

第四十五條 「步調止メ」ノ號令アルトキ野外ニ在リテハ必ズシモ歩ヲ揃フルヲ要セズ

第四十六條 小隊ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

小隊——止レ

小隊ハ停止シ横隊ニ在リテハ各自嚮導ノ方ニ整頓シ側面縱隊ニ在リテハ動クコトナシ

方向變換

第四十七條 方向ヲ換フルニハ停止間ニ在リテハ速歩ヲ用ヒ必要アル場合ニ於テハ駈歩ヲ用フ其ノ駈歩ヲ用フル場合ニ於テハ號令ノ次ニ「駈歩」ノ號令ヲ加フ

第四十八條 橫隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ——進メ

停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル分隊長ハ右(左)向ヲ爲シ其ノ他ハ半右(左)向ヲ爲シ捷路ヲ經テ逐次新線ニ到リ停止シ其ノ右(左)隣員ニ整頓ス行進間ニ在リテハ方向ヲ換ヘツツ新方向ニ行進ス小隊長ハ方向ヲ換ヘ終ラントスルトキ必要アル場合ニ於テハ嚮導ヲ示スベシ

行進間方向ヲ換ヘ直ニ停止スル必要アルトキハ「右(左)ニ方向ヲ換ヘ——止レ」ノ號令ヲ下ス軸翼ニ在ル分隊長ハ停止シテ方向ヲ換ヘ列員ハ新線ニ至リテ停止シ其ノ右(左)隣員ニ整頓ス

第四十九條 側面縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

伍々左(右)へ——進メ

先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ停止間ニ在リテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ

歩長及速度ノ齊一ト間隔及距離ノ保持ニ注意スルコト

列員ハ常ニ頭ヲ正シク保チ嚮導ノ方ニ整頓スル爲頭ヲ廻スコトナク整頓スベキ方ニ在ル隣員竝ニ前方ノ列員ニ注意スルコト

整頓翼ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フルコト

整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ恢復スルコト

障礙物等ニ遭遇シ行進シ能ハザルトキハ直ニ左右ニ之ヲ避クルコトナク足踏ヲ爲シ隣員等ニ妨ナキニ至リ速ニ舊位置ニ復歸スベシ

若シ歩ノ連ヒタルトキハ踏替ヲ爲シ速ニ整頓翼ノ方ナル隣員ノ歩ニ準フベシ踏替ヲ爲スニハ後ノ足ヲ前ノ足ニ引キ著ケ前ノ足ヨリ行進ス駈歩ニ在リテハ片足ニテ二歩行進ス足踏間ニ在リテハ駈歩間ノ方法ニ準ズ

第四十一條 行進間ノ右(左)向ハ第三十七條ニ從ヒ後向ハ第三十八條ニ從フ側面向ヨリ正面向ニ移リ續キテ行進スルトキ必要アル場合ニ於テハ嚮導ヲ示スベシ

第四十二條 側面向ノ行進ニ在リテハ各列員ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓シ嚮導ノ後方ニ在ル列員ハ其ノ進ミタル線ヲ踏ミテ行進シ其ノ他ノ列員ハ前方ノ列員ニ重ナリテ行進ス

第四十三條 側面縱隊ニテ行進シツツアル小隊ヲ止メ直ニ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)向ケ——止レ

小隊ハ停止シ第三十七條第三項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ正面向トナル

第四十四條 斜行進ニ在リテ各列員ノ位置正シキトキハ其ノ肩概ネ互ニ平行シ右(左)斜行進ニ在リテハ各列員ノ右(左)肩ハ概ネ其ノ右(左)隣員ノ左(右)肩ノ後ニ在ルモノトス

動作ヲ爲シ旋回軸ニ在ル列員ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル列員ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左(右)ニ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス各伍ハ其ノ前ノ伍ト同所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

第五十條 少シク方向ヲ換ヘシムルニハ環メ新目標(方向)ヲ示スベシ

隊形變換

第五十一條 隊形ヲ換フルニハ既ニ掲グル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外後二條ノ要領ニ從フベシ而シテ第五十二條ヲ實施スル場合ニ於テハ第四十七條ヲ適用ス

第五十二條 側面縱隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)へ竝ビ——進メ

先頭ニ在ル分隊長ハ動カザルカ或ハ續キテ行進シ各列員ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ横隊ヲ作ル

側面行進間同方向ニ横隊ヲ作り直ニ停止スル必要アルトキハ「左(右)へ竝ビ——止レ」ノ號令ヲ下ス先頭分隊長ハ直ニ停止シ各列員ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ横隊ヲ作ル

第五十三條 行進中ノ横隊ヲ同方向ニ側面縱隊ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向ケ伍々左(右)へ——進メ

小隊ハ右(左)向ヲ爲シ第四十九條ニ依リ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス

第五十四條 途歩ハ長距離ノ行進又ハ不齊地等ノ行進ノ際側面縱隊ノ隊形ニ於テ之ヲ行フモノトス

途歩 途歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

途歩

途歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

途歩

途歩

途歩

列員ハ正視ノ歩調ヲ取り及刀柄ヲ握ルヲ要セズ且談話ヲ爲スコトヲ妨グ

速歩行進間押伍列員ハ列中ニ入ル
速歩行進間速歩(駈歩)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

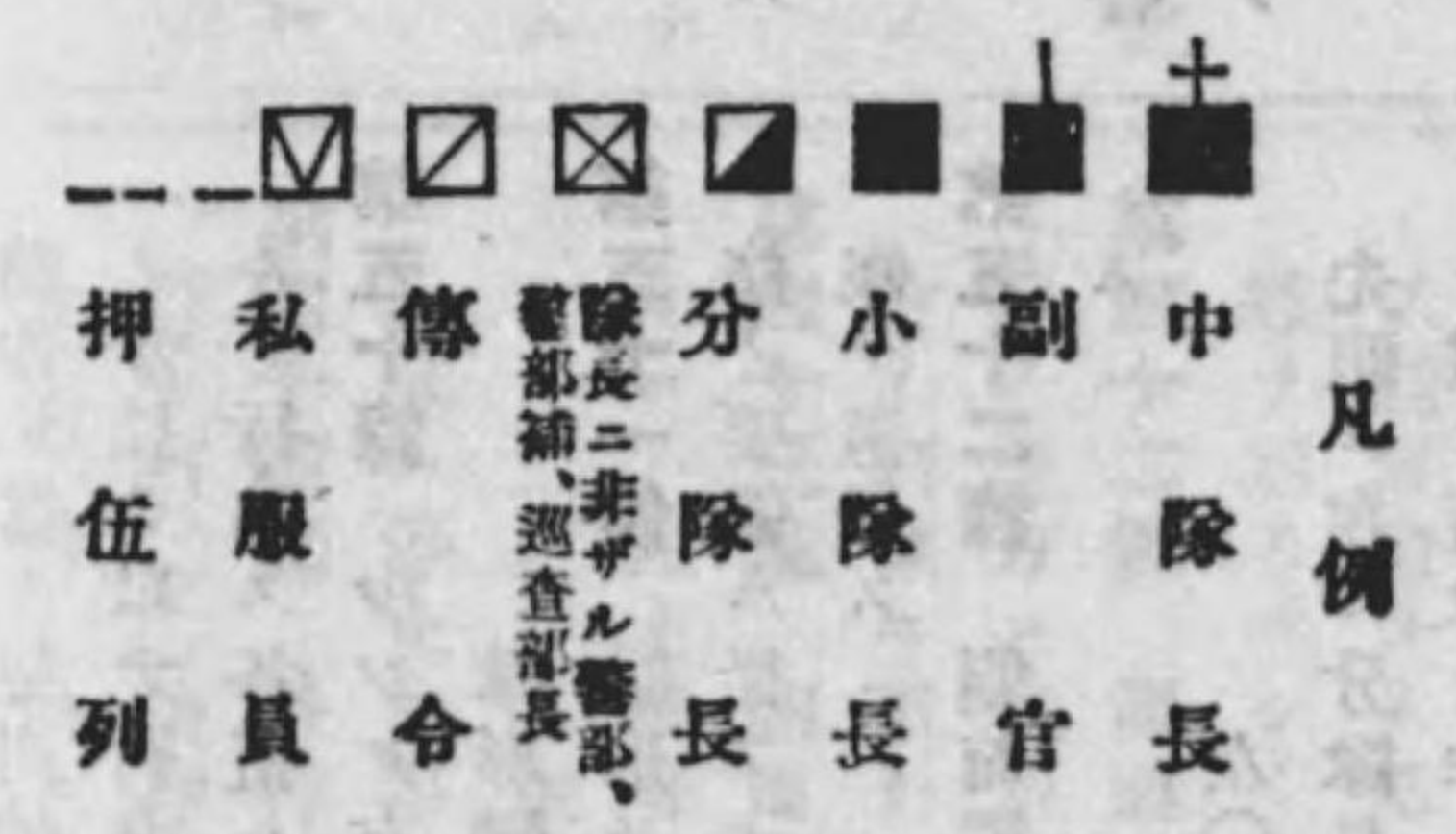
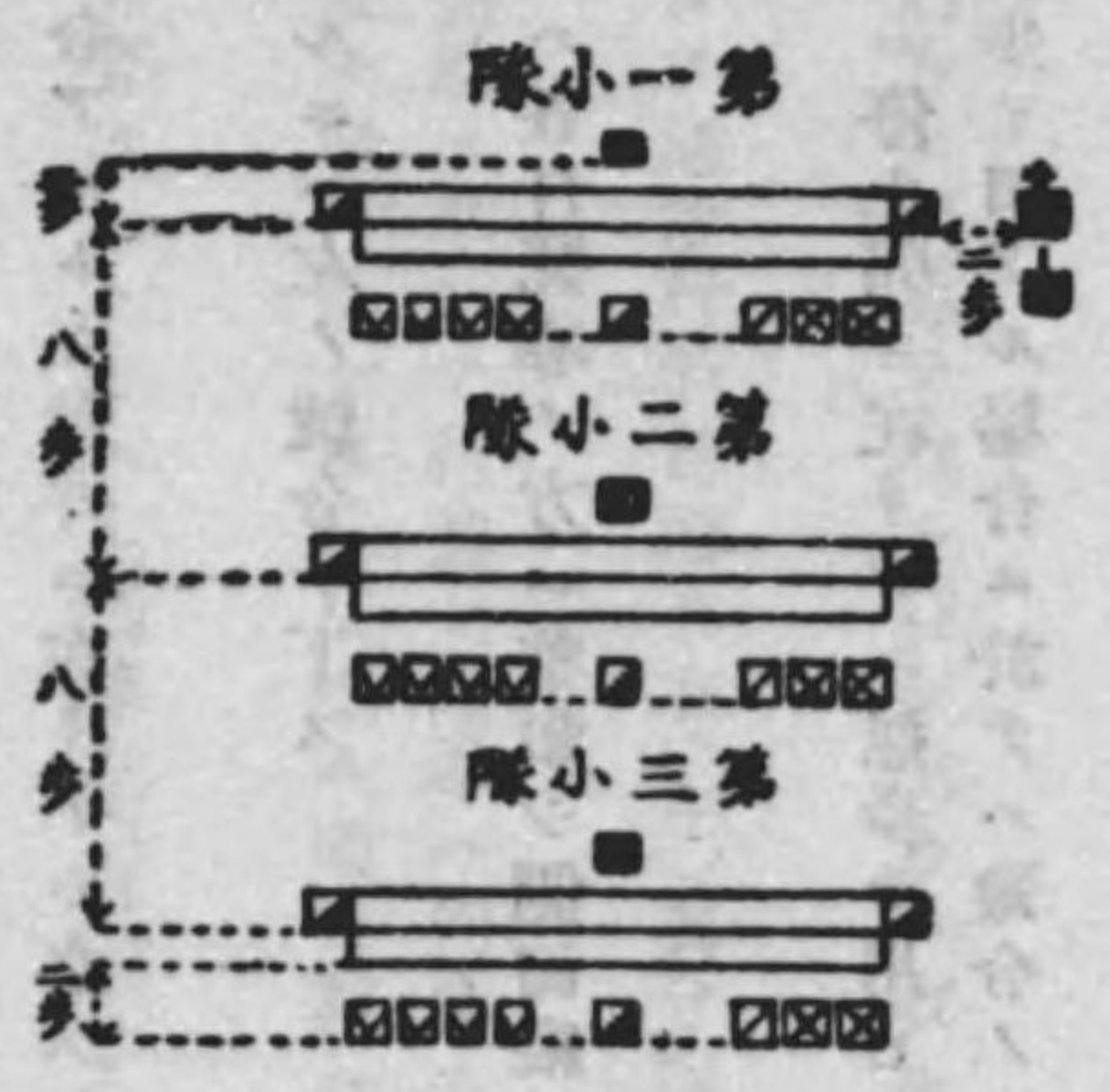
速歩(駈歩)——進メ

第五十五條 解散及集合
小隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第五十六條 小隊ヲ集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右翼分隊長ハ速ニ小隊長ノ前ニ來リ橫隊ノ定位ニ就キ各列員ハ其ノ左ノ

第五十八條 中隊縱隊ノ隊形



方ニ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリ整頓ス

第二節 中隊教練

第五十七條 中隊ハ概ネ之ヲ三小隊ニ分チ第一乃至第三ノ番號ヲ附ス
中隊内ニ於ケル小隊ノ人員ハ概ネ三十名トス但シ人員ノ都合ニ依リ増減スルコトヲ得

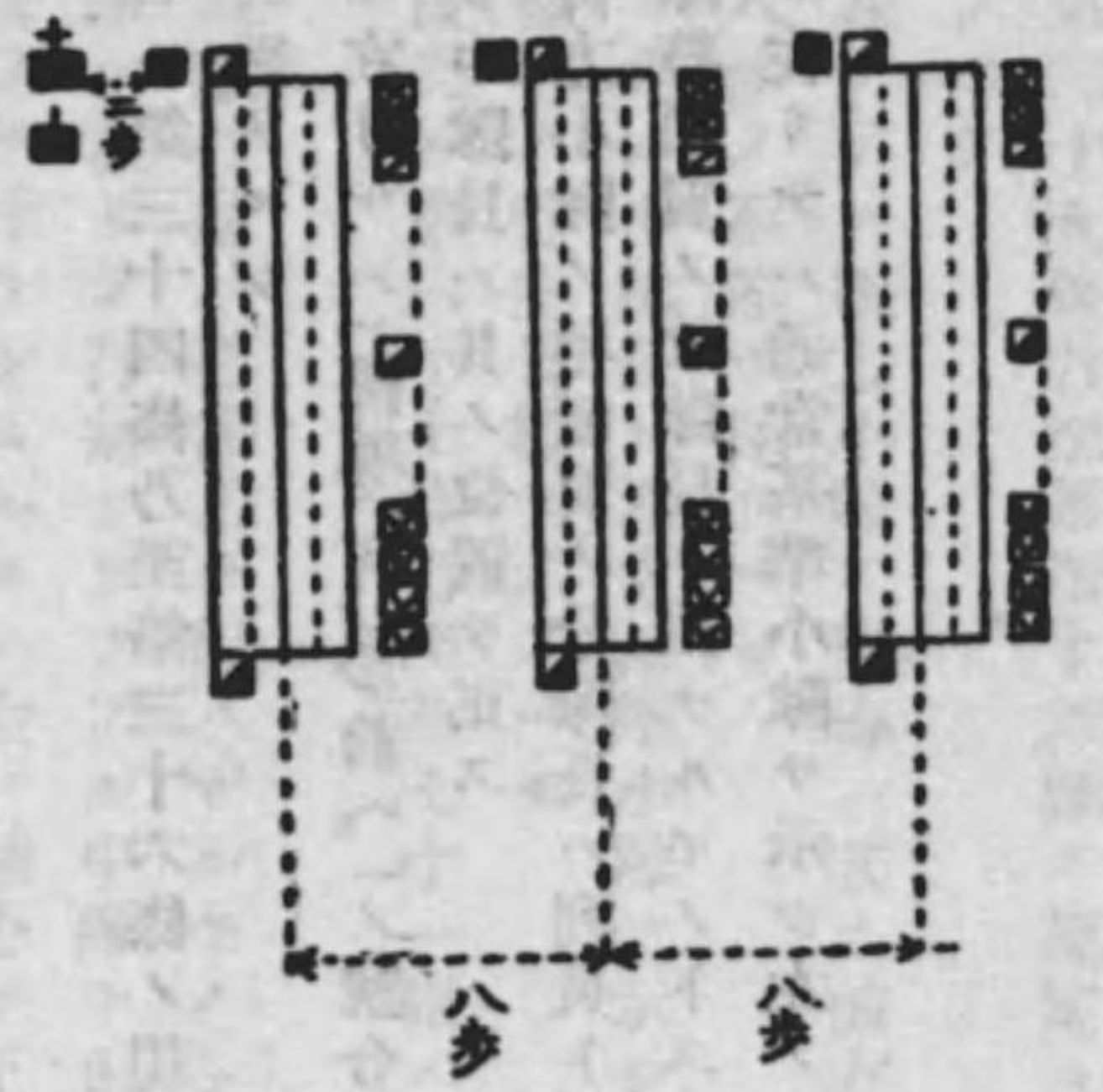
中隊内ニ於ケル編成要領ハ第三十二條ノ規定ニ從フ

第五十八條 中隊ノ隊形ハ中隊縱隊、併立縱隊、側面縱隊及中隊橫隊トス

第五十九條 中隊縱隊ノ隊形第二圖ノ如シ

小隊間ノ距離ハ時宜ニ依リ之ヲ伸縮シ又小隊ハ其ノ順序ニ拘ラズ重疊スルコトヲ得

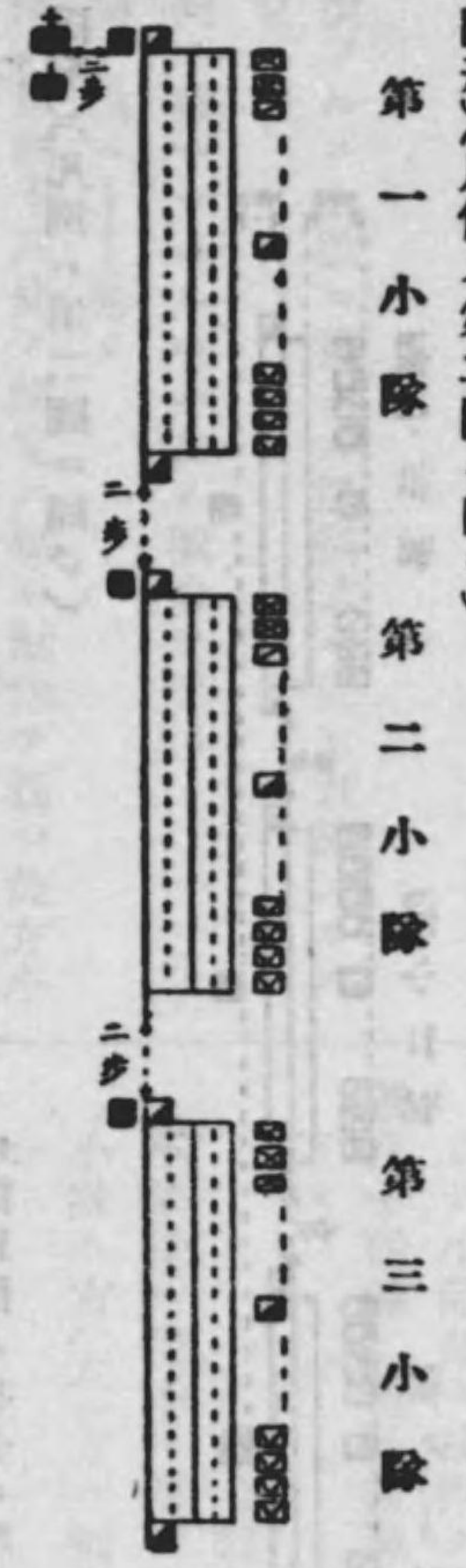
第三圖(併立縱隊ノ隊形)(凡例ハ第二圖ニ同シ)



第六十條 併立縱隊ハ中隊縱隊ヲ側面ニ向ケタルモノニシテ其ノ隊形第三圖ノ如シ

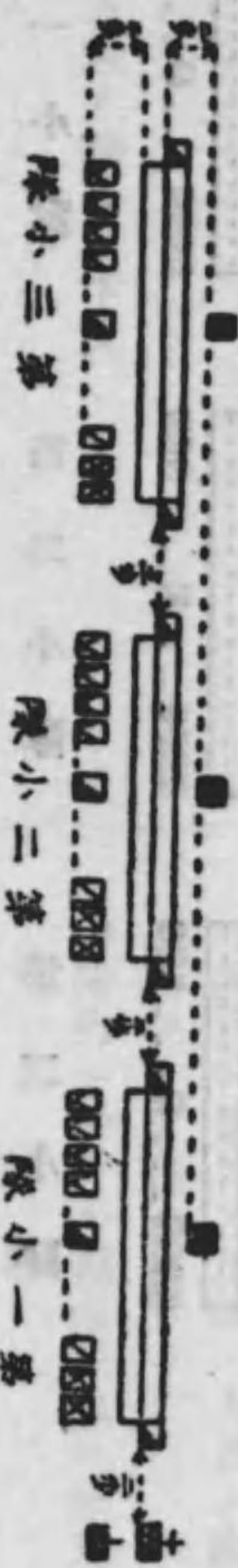
側面縱隊ハ側面ニ向キタル小隊ヲ重疊シタルモノニシテ通常四列トシ其一ノ隊形第四圖ノ如シ

第四圖(側面縱隊ノ隊形)(凡例ハ第二圖ニ同シ)



兩隊形ニ於ケル押伍列ニ在ル者ハ各其ノ伍ニ列ビ小隊長ハ其ノ先頭分隊長ノ外側ニ接シテ位置ス

第五圖(中隊橫隊ノ隊形)(凡例ハ第二圖ニ同シ)



第六十一條 中隊橫隊ハ小隊ヲ横ニ聯繫シタルモノニシテ各小隊ノ隊形ハ中隊縱隊ノ場合ニ準ズ其ノ隊形第五圖ノ如シ

第六十二條 中隊長ハ時宜ニ依リ前三條ニ定ムル小(分)隊長及押伍列員ノ位置ヲ變更スルコトヲ得

整頓

第六十三條 中隊ヲ整頓セシムルニハ第三十四條乃至第三十六條ノ規定ニ從ヒ實施スルノ外後三條ノ要領ニ從フベシ

第六十四條 中隊縱隊ニ在ル中隊長ハ其ノ位置ヲ正ス

先頭小隊ノ兩翼分隊長ノミ前進シ中隊長ハ其ノ位置ヲ正ス

「右(左)へ」ノ號令ニテ後方小隊ノ整頓翼ノ分隊長ハ列員ト共ニ前進シ正シク距離ヲ取り前方小隊整頓翼ノ分隊長ニ重ナルモノトス

第六十五條 併立縱隊ニ在ル中隊長ニ在リテハ通常基準小隊ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

準へ

「準へ」ノ號令ニテ基準小隊ハ第三十六條ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ其ノ他ノ小隊ハ基準小隊ノ方ニ整頓ス

直レ

「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

隊ハ第三十八條ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ小隊長ハ其ノ位置ニ在リテ後向ヲ爲ス

行進

第七十二條 中隊ノ行進ニ付テハ第三十九條乃至第四十六條ノ規定ニ從ヒ實施スルノ外後五條ノ要領ニ從フベシ

第七十三條 中隊縱隊ノ直行進ニ在リテハ後方小隊ノ嚮導ハ其ノ前方小隊ノ嚮導ノ進ミタル線ヲ踏ミ常ニ八歩ノ距離ヲ保ツベシ

第七十四條 併立縱隊ノ行進ニ在リテハ中隊長ハ通常基準小隊ヲ示シ且必要アル場合ニ於テハ其ノ小隊ノ嚮導ノ行進目標ヲ示スベシ

第七十五條 行進間ノ右(左)向及後向ハ第六十七條乃至第七十一條ノ規定ニ從ヒ實施スベシ

第七十六條 中隊橫隊ニ於ケル長距離行進ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

第七十七條 併立縱隊又ハ側面縱隊ニ在リテ行進シツツアル中隊ヲ止メ直ニ側面ニ向ヒ中隊縱隊又ハ中隊橫隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)向ケ—止レ

中隊ハ停止シ第六十八條又ハ第七十條ノ規定ニ從ヒ中隊縱隊又ハ中隊橫隊トナリ行進セシ方ニ整頓ス

方向變換

第七十八條 中隊ノ方向ヲ換フルニハ既ニ掲グル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外後三條ノ要領ニ從フベシ

第七十九條 中隊縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ—進メ

停止間ニ在リテハ先頭小隊ハ第四十八條ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ後方小隊ハ各自ノ占ムベキ位置ニ到リ右(左)ノ方ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ先頭小隊ノ方向變換ヲ爲シタルト同所ニ到リ號令ヲ下

併立縱隊作レ—進メ

併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ併立縱隊作レ—進メ

併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

併立縱隊作レ—進メ

併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

併立縱隊作レ—進メ

併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

併立縱隊作レ—進メ

併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

併立縱隊作レ—進メ

併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

併立縱隊作レ—進メ

併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動カザルカ或ハ續キテ行進シ後方小隊ハ右(左)方ニ制規ノ間隔ヲ取ル如ク進出シ軸翼小隊ト齊頭面ニ到ル

第八十五條 中隊縱隊ヨリ同方向ニ中隊橫隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊橫隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ其ノ位置ヲ動カズ中央(後尾)小隊ハ半右(左)向ヲ爲シ捷路ヲ經テ先頭小隊ノ右(左)方制規ノ位置ニ至リテ停止シ中央小隊ニ整頓ス

一側ニ中隊橫隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)へ中隊橫隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ其ノ位置ヲ動カズ後方小隊ハ半左(右)向ヲナシ捷路ヲ經テ順次先頭小隊ノ左(右)方制規ノ位置ニ致リテ停止シ右(左)ノ方ニ整頓ス

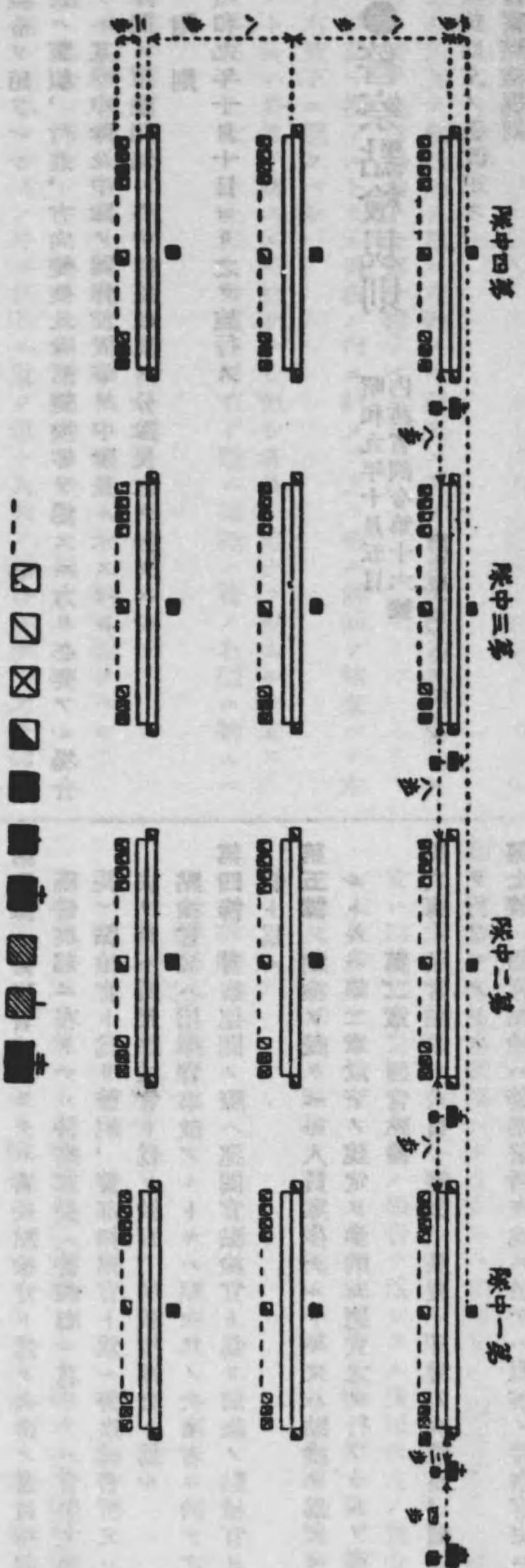
行進間ニ於テハ本運動ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

第八十六條 中隊橫隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊縱隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ中央小隊ハ其ノ位置ヲ動カズ右(左)小隊ハ中央小隊ノ後方自己ノ占ムベキ位置ニ到リテ停止シ右(左)ノ方ニ整頓ス

第六圖(縱隊橫隊ノ隊形)



大隊縱隊ハ中隊縱隊ヲ縱ニ重疊シタルモノニシテ主トシテ分列行進ニ用ヒ其ノ隊形第七圖ノ如ク

第七圖(大隊縱隊ノ隊形)(凡例第六圖ニ同シ)

一側ヨリ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ中隊縱隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ右(左)小隊ハ其ノ位置ヲ動カズ其ノ他ノ小隊ハ右(左)小隊ノ後方各自自己ノ占ムベキ位置ニ到リテ停止シ右(左)ノ方ニ整頓ス

行進間ニ於テハ本運動ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

進歩

第八十七條 中隊ノ進歩ハ側面縱隊ノ隊形ニ於テ之ヲ行ヒ第五十四條ノ規定ヲ適用ス

解散及集合

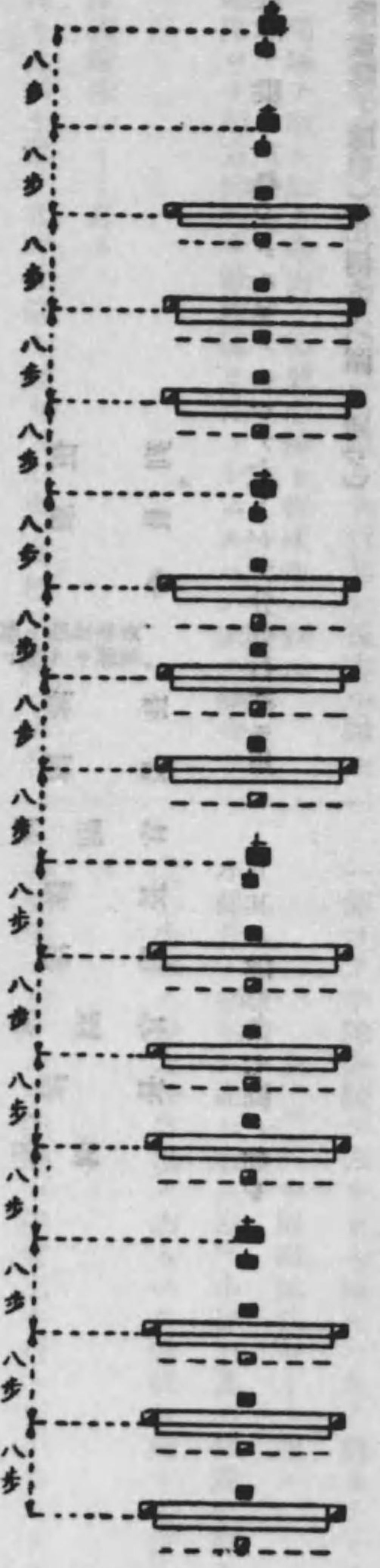
第八十八條 中隊ノ解散及集合ニハ第五十五條及第五十六條ノ規定ヲ適用ス

中隊ノ集合隊形ハ通常中隊縱隊トス

第三節 大隊教練

第八十九條 大隊ノ隊形ハ縱隊橫隊及大隊縱隊トス但シ大隊長ハ時宜ニ依リ別ニ隊形ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 縱隊橫隊ハ中隊縱隊ヲ横ニ併列シタルモノニシテ主トシテ點檢ニ用ヒ其ノ隊形第六圖ノ如シ



第九十一條 大隊教練ヲ行フニハ既ニ揚グル諸制式ニ從ヒ實施スベシ
 大隊長ハ各中隊ヲシテ同時ニ同一ノ動作ヲ爲サシムルヲ要スル場合ニ於テハ號令ヲ用フベシ
 大隊長ハ整頓、行進、方向變換及隊形變換等ヲ爲スニ方リ必要アル場合ニ於テハ基準中隊及中隊ノ關係位置等ヲ中隊長ニ示スベシ
 各中隊間ノ距離間隔ハ各中隊整頓ノ分隊長之ヲ保ツベシ

附則
 本令ハ昭和九年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

●警察點檢規則

昭和九年十月五日
 內務省訓令第十六號
 廳府廳(東京府ヲ除ク)

警察點檢規則左ノ通改正ス

第一章 總則

第一條 點檢ハ警察官吏ノ人員、姿勢、服裝、禮式、教練、給與品及貨與

〔山梨警〕

品ヲ檢査スルモノトス
 第二條 點檢ヲ分チテ通常點檢及物品點檢トス
 第三條 警察署ニ在リテハ署長點檢官ト爲リ次席ノ署員指揮官ト爲ル廳府縣警察部ニ在リテハ警察部長(警視廳ニ在リテハ官房主事又ハ各部ノ部長)點檢官ト爲リ警視、警部指揮官ト爲ル警察練習所又ハ巡查教習所ニ在リテハ所長點檢官ト爲リ教習、助教指揮官ト爲ル
 第四條 警察巡閱ノ際ハ巡閱官點檢官ト爲リ前條ノ點檢官タルベキ者指揮官ト爲ル
 第五條 點檢ヲ受クベキ人員寡少ナルトキ又ハ點檢ヲ爲スベキ場所狹隘ナルトキハ第二章以下ノ規定ヲ參酌シ適宜之ヲ行フコトヲ得
 第六條 通常點檢ハ人員、姿勢、服裝、日常ノ携帶品、禮式及教練ノ檢査ヲ行フモノトス
 第七條 通常點檢ハ警察署所在地ニ於テハ服務ノ警察官吏ニ對シ毎日之ヲ施行スベシ
 前項ノ場合ニ於テ點檢全部ヲ行フ能ハザルトキハ次回ノ點檢ニ於テ其ノ

第二章 通常點檢

八號ノ操作及第十四條第一項第一號、第二號ノ禮式點檢ハ之ヲ行ハズ但シ禮式點檢ノ全部ヲ行ハザルコトヲ得
 第十三條 點檢官臨場シタルトキハ指揮官ハ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ點檢官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ各隊長及隊員ハ點檢官ニ對シ注目スベシ次ニ指揮官ハ點檢官ニ對シテ人員ノ報告ヲ爲シタル後順次左ノ號令ヲ下スベシ但シ人員多數ナル場合ニ於テハ第五號、第七號、第十號、第十二號、第十三號及第十五號ノ點檢ヲ行フ間他ノ一部ニ對シ休憩ヲ爲サシムルコトヲ得
 一 番號
 二 標準(何)步前へ
 三 右(左)へ——準へ
 四 直レ
 五 前列五步前へ——押伍列二步後へ——進メ(押伍列後へノ號令ハ押伍列アルトキニ限リ附加スルモノトス後退ノ一步ノ長サハ概ネ四十糎トス)點檢官ハ第一列ノ右翼前面ヨリ左翼ヲ通過シ背後ニ回ハリ第二列及押伍列ニ及ボシ服裝姿勢ヲ檢査シ終リテ定位ニ就クベシ但シ指揮官ハ點檢官ニ隨行スルモノトス
 六 偶數員三步前へ——進メ
 兩翼標準及偶數員ハ三步前進ス若シ終番員偶數員ナルトキハ左翼標準ハ橫步ヲ以テ一步(概ネ四十糎)左ニ開ク
 七 抜ケ——刀
 (一) 「抜ケ」ノ號令ニテ左手ヲ以テ鞘ノ第一銀上部(短刀ナレバ鞘)ヲ握リ右手ヲ以テ刀柄ヲ握リ鯉口概ネ三糎ヲ緩ム
 (二) 「刀」ノ號令ニテ刀ヲ抜き右足尖ノ方向ニ伸シ拳ヲ肩ノ高サニシ(短刀ニ非ザルトキハ直ニ拇指ヲ刀柄ニ添ヘテ伸シ鐔ヲ懸スル如ク

須帶ヲ行フベシ
 禮式ノ點檢ハ三回以内ニ分割シテ之ヲ行ヒ刀身及教練ノ點檢ハ一月三回迄ニ止ムルコトヲ得
 巡查駐在所其ノ他遠隔ノ地ニ在動スル巡查ニ對シテハ訓授ノ爲召集シタル場合ニ於テ通常點檢ノ全部ヲ行フベシ
 第八條 外套ヲ携フルトキハ兩履ハ内ニ納メテ之ヲ捲キ兩端ヲ結束シテ左肩ヨリ右腋下ニ懸ケベシ
 兩雪ノトキハ外套ヲ著スルモ妨ゲナシ但シ各員一定ナラシムルヲ要ス
 第九條 手帖ハ上衣ノ左上腰ニ警笛ハ同右下腰ニ捕繩ハ袴ノ右腰ニ納ムベシ
 外套ヲ著スルトキハ手帖、警笛及捕繩ハ其ノ右腰ニ納ムベシ
 第十條 名刺ハ常ニ五枚以上ヲ携帶シ手帖ノ名刺入レニ納メ置クベシ
 第十一條 點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮官ハ部隊ヲ編成スベシ
 巡查部長ハ標準ナル者ノ外押伍列ニ就ク但シ人員ノ都合ニ依リ之ヲ列員ニ加フルコトヲ得
 標準ニ充ツベキ警部補又ハ巡查部長在ラザルトキハ上席巡查ヲ以テ之ニ充ツ
 部隊ニ加ハラザル警部、警部補アルトキハ列外ニ位置ス
 前各項ノ準備終レバ指揮官ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ點檢官ノ臨場ヲ待ツベシ(第一圖參照)
 第十二條 中隊及大隊ニ在リテハ通常點檢ノ一部ヲ行ハザルコトヲ得
 警部補ニシテ部隊ニ加ハリタル者アルトキハ第十三條第一項第七號、第八號、第十號乃至第十七號ノ操作ハ之ヲ行ハズ禮式點檢ニ際シテハ列外ニ位置ス
 私服員ニシテ部隊ニ加ハリタル者アルトキハ第十三條第一項第七號、第

シ) 刃ヲ右斜下ニシ刀先ヲ眼ノ高サニシ同時ニ頭ヲ向ケ兩眼ヲ切先ニ注グ

(三) 刀柄ヲ右手ノ拇指ト示指ト中指ノ間ニ把持シ他ノ二指ヲ刀柄ノ後ニ當テツツ之ヲ下ノ右腕骨ノ稍々下方ニ接著シ肘ヲ成ルベク後ニ引キ刀身ヲ真直ニシ刀背ヲ肩ノ縫目ニ接スルト(短刀ナルトキハ内肘ヲ輕ク脇ニ著ケ鈎ヲ頭ノ前方概ネ十釐ノ所ニ持來リ刃ヲ左方ニ向ケ刀身ヲ真直ニスルコト) 同時ニ頭ヲ正面ニ復シ左手ヲ垂下ス

拔刀動作終レバ點檢官ハ第一列右翼ヨリ左翼ヲ通過シ第二列左翼ヨリ右翼ニ至リ順次他ノ列ニ及ボシ刀ノ把持法竝ニ刀身ヲ檢査シ終リテ定位ニ就クベシ但シ指揮官ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

八 納メ—刀

(一) 「納メ」ノ豫令ニテ左手ヲ以テ鞘ノ第一釐上部(短刀ナレバ鞘)ヲ握ル

(二) 「刀」ノ勅令ニテ拇指ヲ刀柄ニ添ヘテ伸シ右手ノ環指ト小指ヲ他ノ二指ニ併セ刀柄ヲ握リツツ内肘ヲ輕ク脇ニ著ケ鈎ヲ頭ノ前方概ネ十釐ノ所ニ持來リ刃ヲ左方ニ向ケ刀身ヲ真直ニス(短刀ノトキハ「刀」ノ勅令ニテ直ニ次號ノ動作ヲ爲ス)

(三) 刀身ヲ左方ニ倒シ右臂ヲ高ク上ノ同時ニ眼ヲ鋸口ニ注ギ刀身ヲ靜ニ納メ頭ヲ正面ニ復スルト共ニ兩手ヲ垂下ス

九 奇數員三步前へ—進メ

奇數員ハ三步前進ス若シ左翼嚮導ト終番員トノ間ニ間隔ヲ取レルトキハ嚮導ハ橫歩ヲ以テ舊位ニ復ス

十 手帖

右手ヲ以テ隱ヨリ手帖ヲ出シ右肩ノ前ニ持來リ肘ヲ脇ニ著ケ前臂ヲ水平ニシ體ト直角ニ出シ左手ヲ添ヘテ印章名刺ノ部ヲ開キ名刺五枚以上

ナ上ニ置キ點檢官ニ面セシメ右掌上ニ置キ拇指ヲ以テ之ヲ押ヘ左手ハ垂下ス

十一 收メ

左手ヲ添ヘテ手帖ヲ閉テ右手ヲ以テ速ニ隱ニ之ヲ納メ兩手ヲ垂下ス

十二 捕繩

右手ヲ以テ隱ヨリ捕繩ヲ出シ肘ヲ脇ニ著ケ前臂ヲ水平ニシ體ト直角ニ出シ之ヲ掌上ニ載セ解キ口ヲ前方上部ニ向ケ拇指ヲ上ニシ之ヲ持ツ

十三 解繩

左手ヲ添ヘ一齊迅速ニ解繩シ之ヲ前方ニ伸シ其ノ一端鋸口ノ部ヲ概ネ十釐上ニ出シテ之ヲ握リ直ニ左手ヲ垂下ス但シ此ノ號令ハ時宜ニ依リ省略スルコトヲ得

十四 收メ

解繩シタルトキハ左手ニ移シ右手ヲ以テ假ニ操リ繩メテ之ヲ納メ解繩セザルトキハ速ニ之ヲ納ム

十五 警笛

右手ヲ以テ隱ヨリ警笛ヲ出シ肘ヲ脇ニ著ケ前臂ヲ水平ニシ體ト直角ニ出シ橫穴下ニ向ケ拇指ヲ上ニシテ之ヲ持ツ

十六 發聲

右肘ヲ上ノ膊部ヲ肩ト略水平ニシ前臂ヲ適當ニ曲ゲ前列ノ右翼ヨリ順次吹笛ス但シ此ノ號令ハ時宜ニ依リ省略スルコトヲ得

十七 納メ

速ニ之ヲ納ム

十八 後列五歩押伍列九歩前へ—進メ(押伍列前へノ號令ハ押伍列アルトキニ限リ附加スルモノトス)

後列ハ五歩押伍列ハ九歩前進シ二列橫隊ト爲ル

點檢官列員ノ物品ヲ取リテ檢査スルトキハ之ヲ受クル迄右手ヲ垂下ス

第十四條 點檢ヲ行フ禮式左ノ如シ

一 天皇ニ行フ室外ノ敬禮

二 室外ノ敬禮

三 天皇ニ行フ室内ノ敬禮

四 室内ノ敬禮

五 辭合書物品等授受ノ敬禮

水上警察ノ禮式ニシテ點檢ヲ行ヒ難キトキハ應同テ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十五條 前條第一項第一號ノ禮式點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮官ハ列員ヲ一列ト爲シ成ルベク廣ク間隔ヲ取ラシムル爲ニ「何番基準何歩間隔一列橫隊作レ—進メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「休メ」ノ號令ヲ下ス

點檢官ハ右翼ヨリ列ノ前面ヲ通過シ點檢ヲ行フベシ但シ指揮官ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

列員ハ點檢官ノ通過ニ對シ規定ニ從ヒ不動ノ姿勢ヲ取リ點檢官ニ對シテ敬禮ヲ行フベシ

前條第一項第二號ノ禮式點檢ヲ行ハントスルトキハ列ノ右翼ニ出發點ヲ定メ點檢官及指揮官ハ適當ノ地點ニ位置シ指揮官ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス列員ハ右翼嚮導ヨリ順次左翼嚮導ニ至リ後列、押伍列ニ及ビ前進シ點檢官ニ對シテ禮式ヲ行ヒ元ノ左翼嚮導ノ位置ニ相對シテ停止ス(第二圖參照)

列員ハ出發點ニ至リタルトキハ不動ノ姿勢ヲ取リ前者ノ禮式終レバ指揮官ノ指示ヲ待タズシテ出發スベシ本禮式點檢ノ際ハ受檢者ハ速歩(步調

止メ)ニ於テ行フモノトス

前條第一項第三號乃至第五號ノ禮式點檢ヲ行ハントスルトキハ列ノ中央前ニ出發點ヲ定メ點檢官及指揮官ハ適當ノ場所ニ位置シ指揮官ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス列員ハ右翼嚮導ヨリ順次左翼嚮導ニ至リ後列、押伍列ニ及ビ前進シ順次點檢官ニ對シテ禮式ヲ行ヒ終リテ元ノ位置ニ復ス(第三圖參照)出發及行進ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第十六條 教練ノ點檢ハ點檢官其ノ種目ヲ指定シテ之ヲ行フ

第十七條 點檢終リテ點檢官退場スルトキハ指揮官ハ點檢官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ各隊長及隊員ハ點檢官ニ對シ注目スベシ

第三章 物品點檢

第十八條 物品點檢ハ毎年二回以上之ヲ行フモノトス

第十九條 物品點檢ハ帽、衣、袴、外套、肌著、長短靴、肩章、提燈等ノ使用保存ノ當否及代料渡品ノ適否、破綻ノ手入レ、如キノ他徽章ノ正否ヲ檢査スルモノトス其ノ不都合ト認ムルモノハ期間ヲ定メテ修繕セシムベシ

第二十條 物品配置ノ場所ハ豫メ一定シ置キ一見檢査ニ差支ナキ樣配列シ受檢者ハ其ノ後ニ整列スベシ

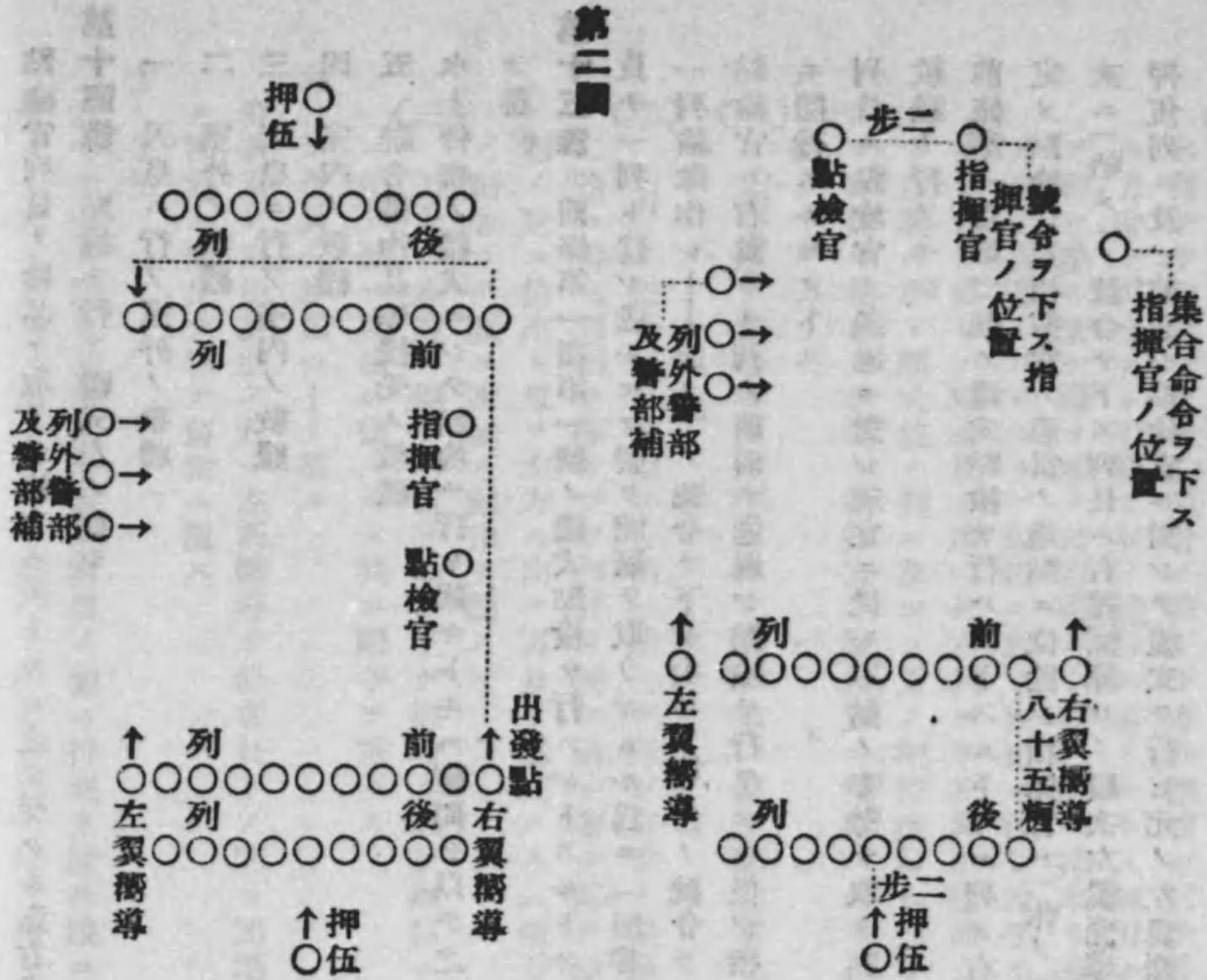
第二十一條 物品ノ配列終レバ點檢官ハ指揮官ヲ從ヘ列ノ右翼ヨリ檢査ヲ爲シ終テ指揮官ハ物品ヲ收メシム

第二十二條 駐在所其ノ他遠隔ノ地ニ在勤スル巡査ニ對シテハ第三條及前二條ノ例ニ依ラズ監督巡視ノ際ニ於テ警部、警部補又ハ巡査部長ヲシテ代リテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

本令ハ昭和九年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

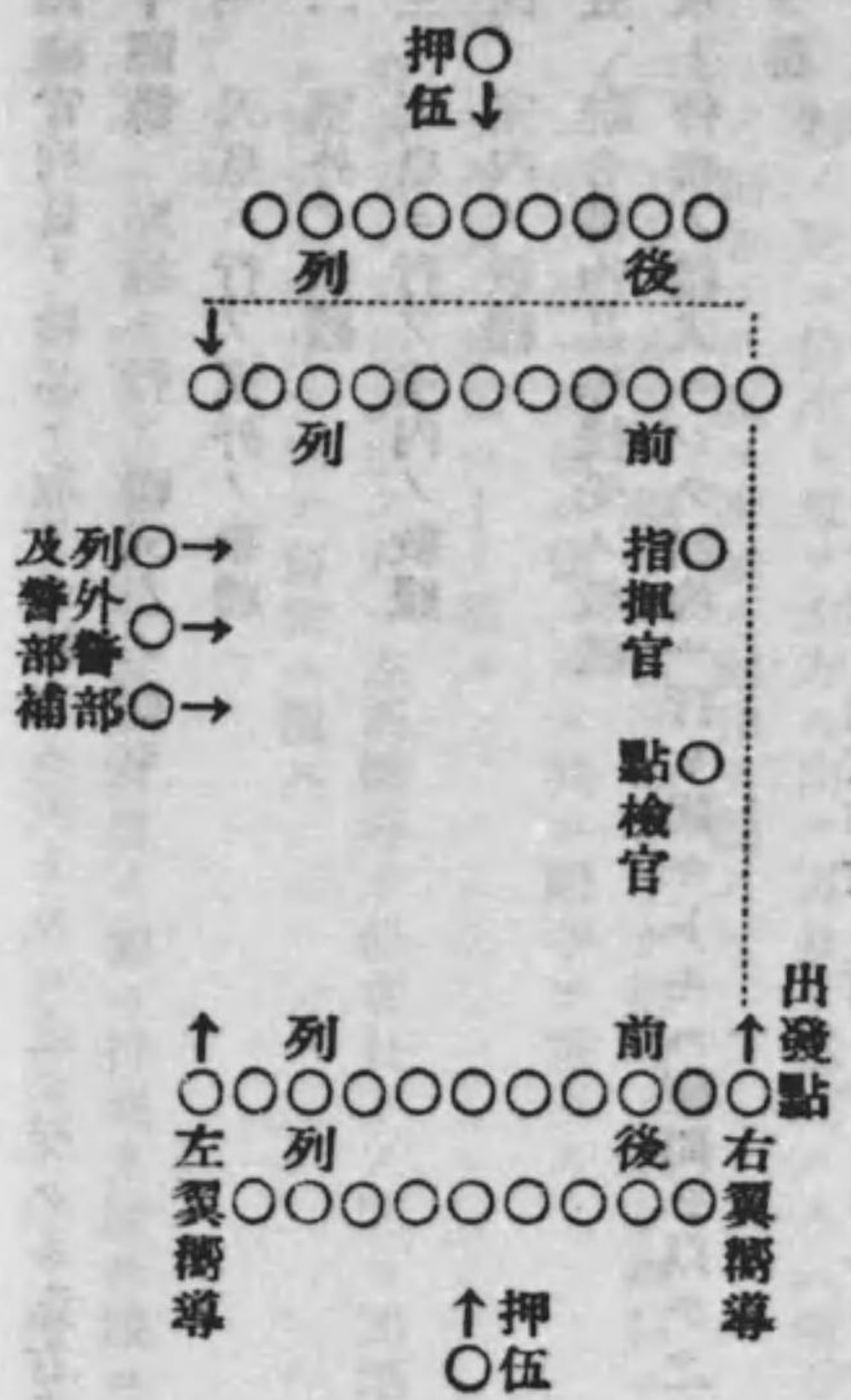
附圖

第一圖(中隊及大隊ノ點檢隊形圖ハ之ヲ略ス)



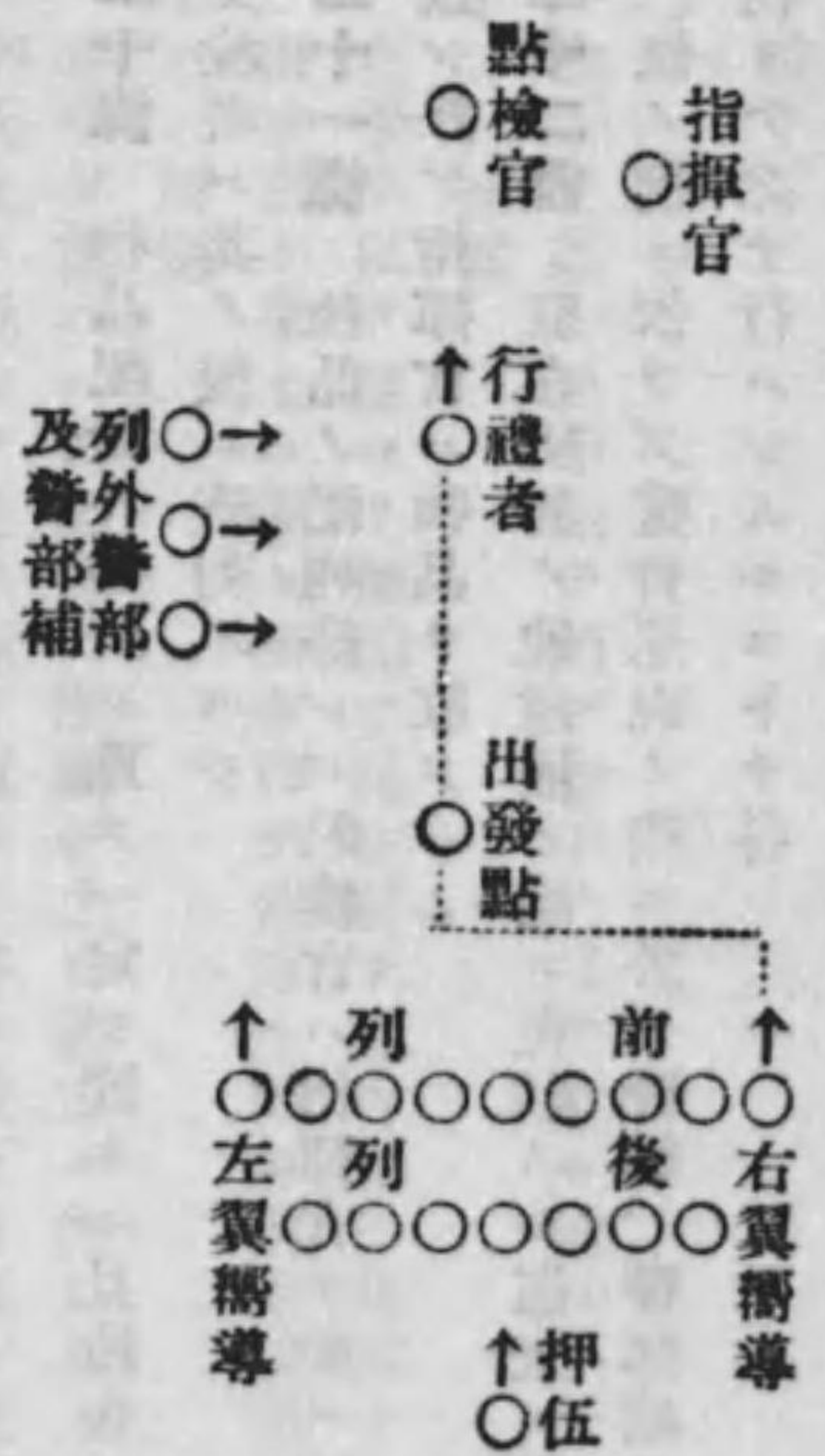
〔山梨警〕

第二圖



〔山梨警〕

第三圖



警察禮式

明治四十三年七月二十六日
内務省訓令第十號

改正 大正元年一月内務省訓令第二號、二年八月第一九號、四年八月第七號、一二年七月第一七號、一四年七月第一三號、昭和二年一月第一號

廳府縣(東京府)

警察禮式左ノ通改正ス

警察禮式

第一章 總則

第一條 警察官吏(消防官吏ヲ含ム)制規ノ服裝ヲ爲シタルトキハ本式ニ依リ敬禮ヲ行フモノトス

第二條 本禮式中上官ト稱スルハ指揮監督ノ職權ヲ有スル官吏ヲ謂フ

第三條 職務執行ノ爲止ムヲ得サル場合ノ外上官ニ對シテハ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同班者ハ互ニ敬禮ヲ交換スヘシ但シ上官ノ答禮ハ時宜ニ

依リ注目ニ止ムルコトヲ得

第四條 敬禮ヲ受ケタルトキハ何人ニ對シテモ之ニ答禮スヘシ

第五條 「君ケ代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ直ニ姿勢ヲ正スヘシ

第六條 皇族、正式勅使ニ對シテハ特別ノ式アル場合ノ外 天皇ニ準スル

敬禮ヲ行フヘシ但シ皇族軍職ヲ奉シ部隊ヲ統率スルトキハ此ノ限ニ在ラ

第七條 外國ノ君主、攝政、大統領又ハ皇族ニ對スル敬禮ハ公式ノ場合ニ限り前

項ニ準ス

第八條 內閣總理大臣、各省大臣、大臣ノ禮遇ヲ受ケル者又ハ外國使節ニ

對スル敬禮ノ上官ニ準ス外國ノ君主、攝政、大統領又ハ皇族ニ對シ公式

ノ場合ニ非ラサルトキ亦同シ

第九條 軍旗ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ但シ上覆ヲ附シタルトキハ此ノ限

ニ在ラス

第十條 儀式祭典ニ參與シ又ハ整列スルトキハ其ノ式典ノ爲ニスル敬禮ノ

外式ノ執行中敬禮若ハ答禮ヲ爲ササルモノトス

第十一條 途上警備ニ從事スルトキハ敬禮ヲ行ハサルモノトス消防、囚人及

刑事被告人ノ押送其ノ他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事スルトキ亦同

第十二條 職務上他人ニ隨從スルトキハ其ノ人ニ於テ敬禮スル場合ノ外敬禮スルコ

トナシ

第十三條 操練及點檢中ハ敬禮ヲ行ハサルヲ例トス

第十四條 敬禮ヲ別テ室内ノ敬禮、室外ノ敬禮トス

第十五條 居室、事務室、應接所並裁判所公廷等ハ室内トシ廊下、階段、庖廚、汽

車電車内、甲板並船内等ハ室外トス但シ裁判所公廷ニ於テ職務ヲ行フ場

合ハ室外ノ敬禮ヲ行ヒ、官中行在所等ノ廊下、賢所正門内、神前及祭場

ハ室内ニ準ス

ヘシ上班者二名以上ナルトキハ先ツ其ノ最高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一
同ニ敬禮スヘシ其ノ居室ヲ去ルトキ亦同シ但在室者ニ主客ノ別アルトキ
ハ先ツ主ナル者ニ敬禮ヲ行フヘシ

第十六條 官記、位記、勳記、辭令書ノ類ヲ受ケルトキハ授與者ノ席ヲ離
ルルコト約三步ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒタル後適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ扶
ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ收メ之ヲ左手ニ帽ヲ右手
ニ移シ原位置ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第十七條 上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上官ニ呈スルトキハ
前條ノ法ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スヘシ若シ返簡又ハ領證
等ヲ受ケヘキトキハ原位置ニ復シテ之ヲ持ツヘシ

第十八條 上官ヨリ命令、諭告等ヲ承ケ或ハ上官ニ陳述ヲ爲ストキハ第十
五條ニ據リ敬禮ヲ行ヒタル後適宜ニ前進シ之ヲ承ケ或ハ陳述シ其ノ場合
退去スルニ應ミ原位置ニ復シ再ヒ敬禮ヲ行フモノトス

第十九條 上官居室ニ來ルトキハ起立シ敬禮ヲ行フヘシ敬禮後ハ其ノ關係
アル者ヲ除クノ外著席シテ各其ノ事ニ服シ上官居室ヲ去ルトキ復テ敬禮
ヲ行フヘシ

第二十條 同班又ハ下班ノ者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同班ナレハ起立
シテ敬禮シ下班ナレハ其ノ儀答禮スヘシ

第二十一條 室内ニ於テ公事ヲ談スルトキハ下班ノ者ハ起立シ姿勢ヲ正ス
ヘシ但シ上官許可スレハ著席スルモ妨ケナシ

第二十二條 上官下班ノ者ノ居室ニ入り其ノ敬禮ヲ受ケタルトキハ唯之ニ
注目シ答禮ノ意ヲ表スヘシ

第三章 室外ノ敬禮

〔山梨警〕

歩ニ移シ敬禮ヲ行フヘシ若シ後方ヨリ進ミ行拔ケムト欲スルトキハ其ノ
旨ヲ告ケ然レ後馳歩若ハ速歩ニ復スヘシ但シ至急ノ公務ヲ帶ヒタルトキ
ハ其ノ由ヲ告ケ常歩ニ移ササルモ妨ケナシ

第三十二條 乗車ニテ上官ニ過フトキハ乗車ノ儀姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フヘ
シ若シ後方ヨリ進ミ行拔ケムト欲スルトキハ其ノ旨ヲ告ケ然レ後通過ス
ヘシ但シ自轉車ニ乗ルトキハ舉手注目ヲ單ニ注目ニ換フルコトヲ得

第三十三條 上官ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スルトキハ第十
七條ニ準シ上官ヨリ命令、諭告等ヲ承ケ或ハ上官ニ陳述ヲ爲ストキハ第
十八條ニ準シ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

第三十四條 乘馬ノ際ハ前條ノ場合ニ於テ上官乘馬シアラサルトキハ敬禮
ヲ行フノ後下馬スルヲ禮トス但シ上官許可スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 上官ト同行スルトキハ其ノ左側或ハ兩側若ハ後方ニ就クヲ禮
トス但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 狹隘ノ通路、橋梁又ハ廊下、階段等ニ於テ上官ニ出會シタル
トキハ立止リテ其ノ通過ヲ待ツヘシ若シ既ニ進行中ナルトキハ便宜立戻
リ上官ヲシテ己レノ通過ヲ待タシメサルヲ禮トス

第三十七條 二人以上共ニ船舶ニ乗シ又ハ舷梯ヲ昇ラムトスルトキハ上官
ヲ先モシ舷梯ヲ降り又ハ端舟若ハ小蒸汽船ニ乗組ムトキニ限り下官ヨリ
先ニスルヲ禮トス

第三十八條 數人隊伍ヲ成セル場合ニ於テハ「氣ヲ付ク」ノ令ニテ一同受禮
者ニ注目シ引率者ノ相當ノ敬禮ヲ行フヘシ

行進中ニ在テハ「頭右(左)」ノ令ニテ列員ノ頭ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ
其ノ引率者ノ相當ノ敬禮ヲ行ヒ終リタルトキハ「直レ」ノ令ニテ列員ノ
頭ヲ復シシムヘシ

第一編 警務 第十二章 服裝禮式及信號徽章

第二十四條 室外ノ敬禮ハ舉手注目トス

停止間ニ於テ行フ敬禮ハ受禮者又ハ敬スヘキ物ニ面シテ姿勢ヲ正シ右手
ヲ舉ケ諸指ヲ接シテ伸シ食指ト中指ヲ帽ノ前底ノ右端ニ當テ掌ヲ稍外面
ニ向ケ肘ハ之ヲ前ニ斜ノ方向ニ其ノ高サヲ肩ニ齊シクシ受禮者ノ眼又ハ
敬スヘキ物ニ注目シ佩刀ノ取扱ハ第十三條ニ準ス(佩刀ノ制ナキ者ハ左
手ハ之ヲ垂下ス)若シ物品ヲ兩手ニ携フルトキハ其ノ儀姿勢ヲ正シ一手
ニ携フルトキハ右手ヲ舉グヘシ

行進間ニ於テ行フ敬禮ハ前項ノ方法ニ準ス但シ佩刀ノ取扱ニ付テハ左手
ヲ以テ刀柄ヲ握ルモノトス

第二十五條 駐立ノ際上官其ノ許ニ到リ又ハ上官其ノ傍ヲ通過スルトキハ
之ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ

第二十六條 駐立シタル上官ノ許ニ到リタルトキハ停止シテ敬禮ヲ行ヒ其
ノ傍ヲ通過シ又ハ之ニ行過ヒタルトキハ之ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ

第二十七條 行幸ニ過フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ一旦停止シ更
ニ正面ノ方向ヲ取り車駕約六歩前ニ近ツクトキ目迎シテ敬禮ヲ行ヒ六步
過去ル迄此ノ姿勢ヲ保持且目送スヘシ

前項ノ場合ニ於テ馬上ニ在ルトキハ其ノ馬ヲ駐メ正面シ道路狹隘ニシテ
之ヲ爲シ得ヘカラサルトキハ概テ馬首ヲ舉テ乘車ナルトキハ下車
スヘシ

第二十八條 隊伍ヲ成セル警察官吏ニ對シテハ引率者ニ敬禮ヲ行フヘシ
隊伍ノ敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ引率者ニ答禮スヘシ

〔山梨警〕

第二十九條 葬列ニ對スル敬禮ハ概ニ向ヒテ行フヘシ

第三十條 上官ノ後方ヨリ進ミ行拔ント欲スルトキハ其ノ旨ヲ告ケ然レ後
通過スヘシ

第三十一條 乘馬ニテ馳歩若ハ速歩ヲ以テ行進中上官ニ過フトキハ先ツ常
第三十九條 水上警察ノ船舶ニ於テ敬禮ヲ要スル人ヲ望見シ又ハ其ノ乘船
ニ行進ヒ若ハ之ヲ送迎スルトキハ第一章及第三章ノ規定ニ依ルノ外尙本
章ノ規定ニ依リ禮式ヲ行フヘシ

第四十條 天皇ニ對スル敬禮ハ端舟ニ在テハ機手一齊ニ機ヲ立テ小蒸汽船
ニ在テハ進行ヲ止メ船員ハ甲板上適宜ノ場所ニ整列シ帆走中ノ船ハ總帆
ヲ下シ機舟ハ進行ヲ止メ總員起立シテ敬禮ヲ行フヘシ但シ一人ニシテ二
挺ノ機ヲ操ルトキハ敬禮ヲ受クル人ニ面セサル方ノ機ヲ收テ他方ノ機ヲ
立テ起立シテ敬禮ヲ行フモノトス

「クラツチ」ヲ具備シタル端舟ニ在テハ機ヲ上ケ機手ノ外總員起立シテ敬
禮ヲ行フモノトス

第四十一條 前條ノ外敬禮ハ端舟ニ在テハ機手機ヲ上ケ小蒸汽船ニ在テハ
進行ヲ緩メ帆走中ノ船ニ在テハ總帆ヲ下スニ及ハス單ニ「シート」ヲ伸ハ
シ機舟ニ在テハ進行ヲ止メ指揮者ノ起立シテ敬禮ヲ行フヲ例トス但シ
一人ニシテ二挺ノ機ヲ操ルトキハ敬禮ヲ受クル人ニ面セサル方ノ機ヲ收
メ他方ノ機ヲ上ケ敬禮ヲ行フモノトス

第四十二條 乘御ノ舟艇ニ過フトキハ其ノ舟艇ヲ距ル約三十米突ノ所ニ於
テ敬禮ヲ始メ約十米突過去ル迄其ノ姿勢ヲ保持其ノ他ノ場合ニ於テハ受
禮者ノ乘リタル舟艇ヲ距ル約十五米突ノ所ニ於テ之ヲ始メ過去ル迄其ノ
姿勢ヲ保持スヘシ

第四十三條 水上警察禮式ハ特ニ命令アル場合ノ外夜間ハ之ヲ行ハサルコ
トヲ得

第四十四條 至急ノ用務ヲ帶ヒタルトキ又ハ風雨ノ際其ノ他敬禮ヲ行フコ
ト能ハサルノ狀況ニ在ルトキ並荷物ヲ積載シタル船又ハ他船ニ曳カレタ
ル船ニ乗込メルトキニ於テ敬禮ヲ行ヒ得サル者ハ之ヲ略スルコトヲ得

第四十五條 上官ノ乘組ミタル船ヲ乘越ヘ又ハ其ノ前ヲ横過スルノ必要ア
ル場合ニ於テハ「直レ」ノ令ニテ列員ノ頭ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ

- ルトキハ相當ノ敬禮ヲ行ヒ通過スヘシ
- 第四十六條 同班ノ乗組ミタル船ニ對シテハ第四十一條ニ依ラス指揮者ノミ互ニ起立シテ敬禮ヲ行フヘシ
- 第四十七條 端舟ニ在テ第四十條ノ敬禮ヲ行フトキハ其ノ指揮者ハ左ノ號令ヲ用ウヘシ但シ「クラツチ」ヲ具備シタル端舟ニ在テハ第四十八條ノ號令ヲ用ウルモノトス
- 一 禮立テ方用意
- 二 立テ一(禮ノ平面ヲ左右ニ向ケ) 兩手ヲ以テ之ヲ把持ス
- 三 下セ一
- 一人ニシテ二挺ノ禮ヲ操ルトキハ前項第一ノ號令ノ前ニ左ノ號令ヲ加フヘシ第四十八條ノ場合ニ於テモ亦同シ
- 左(右)被收メ一(敬禮ヲ受クル人ニ面セサル) 方ヲ收メシムルモノトス
- 第四十八條 端舟ニ在テ敬禮ヲ行フトキハ其ノ指揮者ハ左ノ號令ヲ用ウヘシ
- 一 禮上ケ方用意
- 二 上ケ一(禮ヲ船ト平線ニ) 保ツモノトス
- 三 下セ一
- 第四十九條 帆走中ノ船ニ在テ第四十條ノ敬禮ヲ行フトキハ左ノ號令ヲ用ウヘシ
- 一 帆下シ方用意
- 二 下セ一
- 三 上ケ一
- 第五十條 帆走中ノ船ニ在テ敬禮ヲ行フトキハ左ノ號令ヲ用ウヘシ
- 一 「シート」ト伸ハシ方用意

〔山梨警〕

- 二 放セ一
 - 三 元ヘ一
 - 第五十一條 號令ハ端舟ニ左テハ舵ヲ掌ル者其ノ他ニ在テハ指揮者之ヲ爲スヘシ
- 附則
- 明治二十四年内務省訓令第十五號及明治三十三年内務省訓令第十四號ハ之ヲ廢止ス

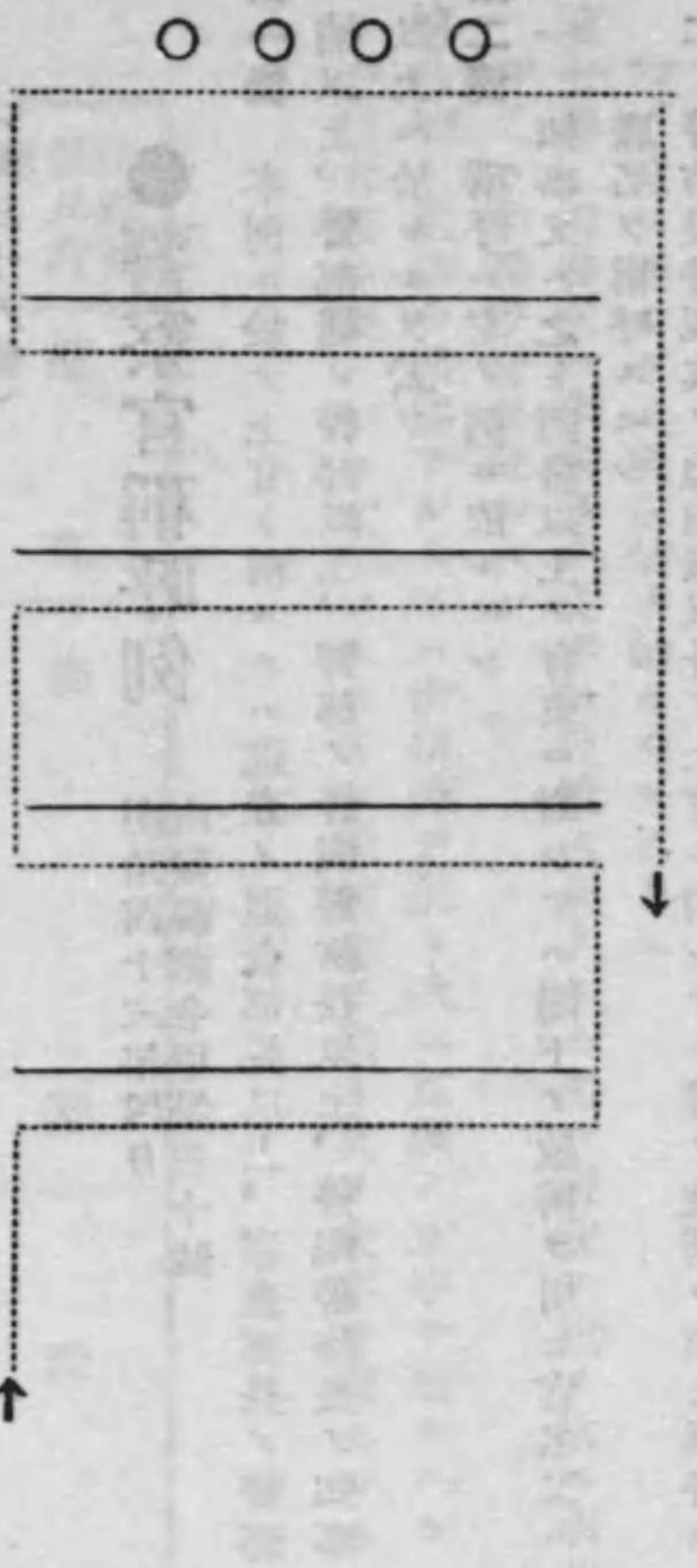
●點檢禮式ニ關スル件

大正十三年三月 警訓第一一號

- 警察點檢及禮式ハ警察官ノ容儀進退ニ節度アラジメ以テ警察ノ威信紀律秩序ヲ維持スル上ニ於テ極メテ重要ナルモノナリ故ニ常ニ之カ訓練ヲ怠ラス整正確實ニ爲スヲ要ス而シテ點檢及禮式ニ關スル規定中明文ニ於テ其ノ方法明瞭ナラサルモノアル爲之カ實行方法各署區々ニ互リ統一ヲ缺クノ嫌アリ爾今其ノ不明瞭ナル點ニ就テハ左記ノ如ク實行セラルヘシ
- 記
- 第一 點檢規則
 - 一 隊員ノ集合シタルトキハ指揮官ハ直ニ其ノ橫隊線ヲ底線トスル等邊三角形ノ頂點ニ退キ隊員全部ノ動靜ヲ監視號令スヘキモノトス(第十八條)
 - 二 右翼整頓ノ場合指揮官ハ嚮導ヲ前進セシメ其ノ嚮導約六歩ノ正面ニ距歩若クハ歩度ヲ伸シテ至リ正面ヨリ嚮導ノ方向姿勢ヲ矯正シテ其ノ右側ニ歩ノ點ニ至リ先ツ右翼嚮導ノ姿勢特ニ踵ノ出入肩ノ線ヲ

〔山梨警〕

- 正シ左嚮導ヲ見透シテ之ヲ右翼嚮導ノ線上ニ整頓セシム此場合命令ヲ受ケタルトキハ左翼嚮導ハ必ス頭ヲ右ニシ右翼嚮導ニ準スヘシ
- 「右(準)」ニテ隊員整頓線ニ就クトキハ隊員指歩ノ音響一時衰ルヲ待チ機ヲ逸セス「直レ」ノ號令ヲ下ス直レノ號令ヲ下シタル後指揮官ハ右嚮導ノ右側面ニ至リ前列及後列ノ整頓ヲ緻密ニ點檢矯正スルモノトス(第十九條)
- 三 刀身點檢準備ノ際列員ト嚮導トノ間隔ナキトキノ開キ方ハ横歩ノ方法ニ依ラシムルコト
- 四 刀ノ把持法手入ノ點檢ハ第一列右翼ヨリ始メ第二列ハ左翼ヨリシ以下左圖ノ如ク行フヘシ(第二十二條)



- 押 伍 第四列 第三列 第二列 第一列
- 五 捕繩ノ卷キ方ハ一本巻トス其ノ方法ハ別ニ指示ス(第二十四條)
- 六 警笛ノ發聲ハ胸部ヲ張り顔ヲ稍仰向ニシ明快ナル一聲トス(第二十四條)
- 七 禮式方法ヲ指示シ「始メ」ノ號令ニ依リ行禮者(受禮者)ハ直チニ前進

- シ他ノ列員ハ一齊ニ休憩ノ姿勢ヲ取り逐次横歩(轉回セサルコト)ヲ以テ出發點ニ至リ出發ニ際シテハ必ス姿勢ヲ正シ然レ後ニ發足スルコト
 - 出發ハ通常指揮官ノ指示ヲ待ツコトナシ前者行禮ヲ終レハ次員ハ直チニ出發ス而シテ末尾奇數ナルトキハ指揮官受禮者トナル
 - 一列ノ行禮ヲ終リ他ノ一列ニ移ラントスルトキハ其ノ順席ヲ示スヲ要ス又場所ノ都合ニ依リテハ兩列ヲ數歩前進セシメ動作ニ支障ナカラシムルヲ要ス(第二十八條)
- 第二 警察禮式
- 一 軍旗ニ對シテハ行進中ト雖モ停止スルコトナク敬禮ヲ行フヘシ(第八條)
 - 二 上官ノ居室入口戸ヲ鎖サ、ルトキハ室外ヨリ差支ナキヤ間ヒ許諾ヲ得タル後入ルモノトス(第十五條)
 - 三 敬スヘキ人ニ「面シテ」トハ之ヲ正面スルノ主旨ナリ上體ヲ前ニ傾クルノ度合十五度ハ胸部ニ於テス往々見ル所ノ弊害ハ此度合多キ爲注目ヲ爲スコト能ハス注目セントシ腮ヲ突キ出ス缺點アリ又行禮ヲ終リ上體ヲ起ス際ハ少シク胸ヲ張り且ツ元氣ヨク行フヘキモノトス(第十三條)
 - 四 天皇拜謁ノ禮ニ於テ御室ノ外ニ於テ行フ敬禮ハ室内ノ敬禮トス(第十四條)
 - 五 上官ヨリ官記其ノ他ノ辭令又ハ物品ヲ受クルトキ又ハ呈スルトキハ授與者ノ前約三步ノ處ニ於テ敬禮ヲ行ヒ二歩前進シ拜受シ三步後退シ(後退ハ小歩ニテ元位置トス)
 - 六 敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ捧呈ノ場合亦同シ(第十六條第十七條)
 - 上官居室ニ來ルトキ「氣ヲ付ケ」ノ注意ヲ明文ヨリ削除セラレタト雖モ己ハ就務ノ場合ヲ考慮セラレタル結果ト認メラル、ヲ以テ式場教場

- 等ニ於テ其ノ整理ニ任スルモノ「氣ヲ付ケノ注意」ヲ與ヘテ後一齊ナラシムル爲メ「敬禮」ノ命ヲ以テ一齊ニ行禮セシムヘシ(第十九條)
- 七 上官ト行禮シタル際ハ適當ニ歩度ヲ緩メ行禮スヘク又敬禮ヲ止メ手ヲ下ロスヘキ地點ハ上官自己ノ線ヲ去ル迄ト知ルヘシ(第二十六條)
- 八 數人隊伍ヲ爲セル場合ノ敬禮ハ引率者ヨリ上級ノモノタルニ限ル(第三十八條)

警察官稱呼例

明治四十三年四月 山梨縣訓令甲第三十號

- 第一條 本例ニ於テ上官ト稱スルハ巡查ノ巡查部長以上、巡查部長ノ警部補以上、警部補ノ警部以上、警部ノ警視警務長以上、警視警務長ノ知事以上ニ於ケルヲ云フ
- 第二條 稱呼ハ左ノ例ニ依ルベシ
 - 一 知事又ハ之ト同格以上ノ官吏ニ對シテハ閣下ノ敬稱ヲ用ヒ官名又ハ職名ヲ稱呼スベシ
 - 二 警務長警視其ノ他前項以外ノ上官ニ對シテハ殿ノ敬稱ヲ用ヒ稱呼スベシ但警務部長長高等警察保主任巡查教習所長警察署長同分署長及巡查部長ニ對シテハ職名ヲ稱呼スベシ
 - 三 同班又ハ下班ニ對シテハ官名又ハ職名ヲ稱呼スベシ

警察官吏監獄官吏相互禮式ノ件

明治三十七年六月 警發第一七四號

- 警察官吏監獄官吏相互禮式ノ件別項ノ通依命通牒候也
- 一 警察官吏ト監獄官吏トノ間ニ於ケル行禮ニ付テハ從來一定セサリシモ

今回協議ヲ遂ケ巡查看守ハ勿論其上官ニ至ルマテ相互規定ノ禮式ヲ行フヘキコトニ相定メラレ候間右ノ旨趣遺憾ナク貫徹スル様御取計相成度候

警察官吏憲兵相互禮式ノ件

明治四十一年十一月 訓示第六一號

- 今同甲府憲兵分隊事務開始相成候ニ付テハ同隊員ノ交互行禮ハ左記標準ニ依リ必ス之ヲ行フヘシ
- 左記
 - 一 上等兵ニ對シテハ巡查ニ對スルト同様ノ事
 - 一 下士以上ニ對シテハ警部以上ニ對スルト同様ノ事但行進中ノ行禮ハ停止スルニ及ハス

警察信號通信法



明治四十三年七月二十六日 內務省訓令第十二號

廳府廳(東京府)

- 警察信號通信法左ノ通之ヲ定ム
- 第一條 警察信號通信ハ手旗信號ニ依リ之ヲ行フコトヲ得
- 第二條 手旗信號ハ赤、白ノ二旗ヲ用ヒ右手ニ赤旗ヲ左手ニ白旗ヲ持チ其

- ノ兩旗ノ位置ニ依リ文字ヲ組立通信スルモノトス
- 旗ヲ有セザルトキハ帽子、手巾等ヲ代用シ又ハ徒手ニテ之ヲ行フコトヲ得
- 第三條 旗ヲ携ヘ不動ノ姿勢ニ在ルトキハ其ノ柄ヲ握リ之ヲ袴ノ縫目ニ沿ハシムヘシ
- 第四條 文字ノ組立ニ當リ原畫ヨリ原畫ニ移ルニハ一旦不動ノ姿勢ニ復スルヲ例トス
- 第五條 各文字ノ間ニ於テハ一旦不動ノ姿勢ニ移リシ後旗ヲ交又シ次ノ文字ヲ始ムルニハ交又ノ位置ヨリ直ニ原畫ニ移ルヘシ
- 第六條 送信セムトスルトキハ先ツ起信符ヲ送り受信者ノ受信符ヲ以テ承諾ノ意ヲ表シタル後送信ヲ始ムルモノトス
- 第七條 濁音又ハ半濁音ノ文字ヲ送信スルトキハ先ツ清音ヲ送り次ニ濁音符又ハ半濁音符ヲ送ルヘシ
- 第八條 送信中誤認アルトキハ消信符ヲ送り次ニ正誤ノ文字ヲ送ルヘシ受信者若シ疑ハシキ文字アルトキハ消信符ヲ送り其ノ文字ヲ復セシム

- 前二項ノ場合ニ於テ止信符ノ後ニ消信符ヲ送ルトキハ更ニ全體ヲ復送スルモノトス
- 第九條 通信ノ終ニ於テ送信符ハ止信者ヲ送り受信者ハ應信符ヲ以テ承諾ノ意ヲ表スヘシ
- 第十條 略符ヲ送ル場合ニハ送信者ハ先ツ略信符ヲ送り次ニ略符ヲ送りタル後受信者承諾ノ意ヲ表スル迄略信符ヲ連送スヘシ
- 受信者承諾ノ意ヲ表スルニハ送信者ノ略信符ヲ連送スル間略符ニ應スル動作ヲ爲スカ又ハ略符ノ種類ニ依リテハ可成速ニ略信符ヲ送ルモノトス
- 第十一條 句切ノ必要アル場合ニ於テハ送信者ハ句切符ヲ送り受信者其ノ意味ヲ了解シタルカ爲句切符ヲ送り來リタルトキハ送信者ハ次ノ文句ニ移ルコトヲ得
- 送信者句切符ヲ送りタルトキ受信者其ノ文句ヲ解セサルカ爲句切消信符ヲ送り來リタルトキハ送信者亦句切符ヲ送り更ニ其ノ句ヲ復送スルモノトス
- 第十二條 手旗信號ニ用フル符號及原畫左ノ如シ

原畫符號	原畫	姿勢	說明
一			兩手ヲ水平ニ伸ハス